

財政学		秋	週2回	4単位
担当者：古市 将人				
講義の目標及び概要 <p>〈内容〉 日本財政を理解するのに必要な制度・理論・歴史から現状の財政問題に至るまで幅広いテーマを本講義では扱う。国や地方自治体が建設・整備する道路・公園・保育園・小中学校・介護施設を私たちは日々利用している。また、政府は警察・教育・保健・福祉サービスを私たちに提供している。これらの政府活動の財源として、税金や社会保険料という形態で、私たちは自らの財産の一部を国と地方自治体に納めているのである。財政学とは、以上のような貨幣の強制的な徴収と分配の実態を明らかにし、分析する学問である。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 財政学は、社会科学の諸領域—社会学・政治学・行政学・歴史学—と密接に関連している。そのため、経済・政治・社会問題への幅広い問題関心を持つ学生にとっては、財政学を学ぶことは非常に有益である。また、公務員志望者にとっても重要な科目である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 私たちが国家のなかで生活するかぎり、財政の行く末は私たちの生活に大きな影響を与え続けていく。本講義の目標は、歴史と国際比較という二つの観点から、今日の財政問題に対して受講生に一定の理解をもってもらうことである。</p>				
評価方法 テスト（30%）、期末試験（70%）により評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

埼玉地域政策研究		秋集中	2単位
担当者：大塚 健司			
講義の目標及び概要 <p>本講座では、国の制度や施策と地方分権（地域主権）と言われながらも、地方自治体としての埼玉県が、その狭間で各分野において、どのように政策決定してきたか、また、ますます厳しさ増す財政状況のなかでどう政策展開を図るべきなのか、具体的なケース事例等を通して、実践的な視点から埼玉県を研究対象にし、問題解決の糸口を探すことを狙いとしている。</p> <p>なを、本講座では、県及び市町村等から講師を招くオムニバス方式で実施する。</p>			
評価方法 毎回の講義内容等について、原則、次回レポート提出。			
教科書 プリントを配布する			

産業経営論A		春	週1回	2単位
担当者：西川 太一郎				
講義の目標及び概要 1、内容 (1) 日本経済の現状を観察し、経済の実態を理論的に解明する。 (2) その中心に J. M. ケインズの有効需要の理論、J. A. シュンペーターのイノベーションの理論及び P. F. ドラッカーのイノベーションの理論を学ぶ。 (3) 経済産業省が提案する産業振興政策を学ぶ。 2、カリキュラム上の位置づけ 日本の産業に対する興味・関心を養うとともに、経済、経営に対する基礎的な理解を身につけるための導入科目である。 3、学びの意義と目標 日本の産業についての理解を深めると共に、ビジネスに役立つ経済学、経営学を習得することにより、将来の進路に役立てる。産業、経済に関する基礎的な概念（コンセプト）を理解する。				
評価方法 出席状況40%、授業態度60%によって算出する。 なお、上記の配分割合において、評価しがたい時はレポート提出を求める。その際の配分割合は、出席状況40%、授業態度30%、レポート30%によって算出する。				
教科書 プリントを配布する				

産業経営論B		秋	週1回	2単位
担当者：西川 太一郎				
講義の目標及び概要 1、内容 (1) 日本経済の現状を観察し、経済の実態を理論的に解明する。 (2) その中心に J. M. ケインズの有効需要の理論、J. A. シュンペーターのイノベーションの理論及び P. F. ドラッカーのイノベーションの理論を学ぶ。 (3) 経済産業省が提案する産業振興政策を学ぶ。 2、カリキュラム上の位置づけ 日本の産業に対する興味・関心を養うとともに、経済、経営に対する基礎的な理解を身につけるための導入科目である。 3、学びの意義と目標 日本の産業についての理解を深めると共に、ビジネスに役立つ経済学、経営学を習得することにより、将来の進路に役立てる。産業、経済に関する基礎的な概念（コンセプト）を理解する。				
評価方法 出席状況40%、授業態度60%によって算出する。 なお、上記の配分割合において評価しがたいときは、レポート提出を求める。その際の配分割合は、出席状況40%、授業態度30%、レポート30%によって算出する。				
教科書 プリントを配布する				

算数	春	秋	週1回	2単位
担当者：佐藤 逸子				
講義の目標及び概要 (授業目標) 小学校算数は、その後の数学教育への重要な導入部分となる。従って数や量の概念などに特に留意し、正確かつわかりやすさを指導目標とする。また図形概念については、具体物を通してかなり早期に身につける必要があるので慎重に指導することを目標とする。 (授業の概要) 小学校の算数学習指導要領に準拠した内容を、項目別に教える。理解を深めるために、発展的な内容を随時取り入れる。意欲・関心を深めるために実験や体験学習も導入する。				
評価方法 出席状況・期末試験・レポート・授業中の小テストを総合して評価する。				
教科書 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館				

算数科教育法	春	秋	週1回	2単位
担当者：小関 照純				
講義の目標及び概要 すぐれた算数の授業の追究をテーマとする。授業目標は、小学校算数科の目標、指導内容、指導方法についての理解を深め、算数教育の実践力を育成する。				
評価方法 出席を大変重視する。期末試験、レポートの他、出席、授業中の小テスト、授業中の意見発表も評価の対象になる。				
教科書 『新編 算数科教育研究』学芸図書 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館				

ジェンダー論(男性学)	春	週1回	2単位
担当者：田中 俊之			
講義の目標及び概要 ジェンダー研究は女らしさだけではなく、男らしさもまた社会的に形成されたものであることを明らかにした。各種の調査データや映像資料などを参照しながら、いかにして男らしさがつくられていくのかを検討していく。単に学術的な議論に終始するのではなく、仕事や恋愛といった身近な問題を取り上げることで、受講者ひとりひとりが自分に引きつけて男性学を考えられるようにしていきたい。			
評価方法 出席点20%、授業時の小レポート40%、学期末テスト40%			
教科書 田中俊之『男性学の新展開』青弓社			

視覚文化	秋	週2回	4単位
担当者：佐藤 啓介			
講義の目標及び概要 1) 内容 私たちのまわりには「目に見えるもの」があふれています。絵、ポスター、マンガ、景観、製品デザイン、ファッション、ゲーム、デジタルコンテンツなど。これらは、文字で書かれた文化以上に、私たちの行動や生活に大きな影響を与えています。これらを「視覚文化」と呼び、それが作られた意図や歴史、背景、その社会的・政治的・経済的な影響などを「批判的に読み解く方法」を学ぶのが本講義です。視覚文化は「誰でも見れば分かる」という誤解を捨て、様々な分析や解釈が可能であることを学んでいきます。 2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の「文化」分野専門科目の選択科目です。「西洋美術史」「映像文化」など隣接する科目をあわせて学ぶことで、より深い理解が得られます。 3) 学びの意義と目標 近年、目に見えるものを批判的に読み解く力はヴィジュアル・リテラシーと呼ばれ、教育分野において重視されつつあります。この力を高め、自分ひとりでも様々な対象を批判的な目で分析・解釈できるようになることが目標です。			
評価方法 中間レポート (30%)、期末レポートもしくは期末試験 (30%)、出席点 (10%)、平常点 (30%) なお、平常点には、受講態度、数回の小課題の提出状況と内容を含む			
教科書 プリントを配布する			

試験対策英語(英検2級)	秋	週2回	2単位
担当者：印田 佐知子			
講義の目標及び概要 1. 内容 英検は、周知のように、英語の「読む、書く、聞く、話す」能力を判定する資格試験である。最近では、大学や企業での評価資料とされることも多くなった。中でも英検2級は、資格として履歴書に記載することが可能な点から、最もポピュラーな級となっている。その2級に合格することを目指して、一次試験（筆記・リスニング）および二次試験（面接）の試験対策を行う。また、e-learningを通じて2級レベルのTOEIC問題にも取り組む。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科「外国語」専門科目群の選択科目である。 3. 学びの意義と目標 2級を合格するということは、基本的な文法、語彙・慣用句等を知っており、円滑なコミュニケーションに必要な最低限のリスニング&スピーキング能力を持っているということ。試験合格だけを目標とせず、本当の意味での語学力を時間をかけて積み上げていく。			
評価方法 積極的な授業参加（出席回数、宿題への取り組みを含む）（20％）、e-learningへの取り組み（20％）、3回の模擬試験（30％）、2回の模擬面接試験（20％）、語彙テスト（10％）によって算出する。			
教科書 ECC外語学院『ECC英検2級ニュー・ステップ』南雲堂			

試験対策英語(英検準2級)	春	週2回	2単位
担当者：印田 佐知子			
講義の目標及び概要 1. 内容 英検は、周知のように、英語の「読む、書く、聞く、話す」能力を判定する資格試験である。最近では、大学では入学や単位認定、企業では就職や昇進の評価資料とされることも多くなった。まずは「高校中級程度」の英語力といわれる準2級合格を目指し、この授業では一次試験（筆記・リスニング）および二次試験（面接）の試験対策を行う。また、e-learningを通じて準2級レベルのTOEIC問題にも取り組む。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科「外国語」専門科目群の選択科目である。 3. 学びの意義と目標 準2級に合格するということは、その審査基準である「日常生活に必要な英語を理解し、また使用することができる」能力があるということ。試験合格だけを目標とせず、本当の意味での語学力を積み上げていくことで、日常的な英語コミュニケーション能力を培う。			
評価方法 積極的な授業参加（出席回数、宿題への取り組みを含む）（20％）、e-learningへの取り組み（20％）、3回の模擬試験（30％）、2回の模擬面接試験（20％）、語彙テスト（10％）によって算出する。			
教科書 ECC外語学院『ECC英検準2級ニュー・ステップ』南雲堂			

時事問題演習	春	週1回	1単位
担当者：平 修久			
講義の目標及び概要 本演習では、新聞やテレビなどで報道されるニュースを読み解くための時事力を、ニュース時事能力検定(ニュース検定)の公式テキスト、問題集を解く形式で身につけていく。 時事力とは、「(社会的な) 様々なテーマを自身の問題としてとらえる習慣が身につくことにより備わっていく能力」とされている。言い換えるなら、時事的な問題を理解するために必要とされるキーワードや、社会の仕組みなどについての知識を身につけることである。したがって、コミュニティ政策学科における専門的な講義を理解するために必要とされる基礎的な知識である。 ニュース検定は、政治、経済、暮らし、国際問題、社会・環境という5つのテーマから出題され、時事力を5段階で認定するものである。本演習では、ニュース検定3級を目標とする。			
評価方法 (1) 課題 (80%) (2) 総合課題 (20%)			
教科書 授業の中で指示する 日本ニュース時事能力検定協会(監)『2011ニュース検定「時事力」発展編』毎日教育総合研究所 日本ニュース時事能力検定協会(監)『2011ニュース検定公式問題集 1・2・3級』毎日教育総合研究所			

死生学	秋	週1回	2単位
担当者：横澤 義夫			
講義の目標及び概要 (1) 内容：死生学はまだ歴史の浅い領域ですが、ターミナル・ケアの問題などから必然的に生まれた現代的課題そのものです。現代日本人は社会機構や日常生活のパターンに至るまでヨーロッパ化された環境の中で生きていますし、医療技術の発展とともに旧来の生命観や死の観念では対処できない状況に立たされています。そこでこの講義では、ヨーロッパの伝統的な生命観から生と死の問題に入ってゆきます。そこから現代日本人の死生観の混迷に少しでも明かりをあててみます。 (2) カリキュラム上の位置づけ：死と生という問いは医療と生命科学にも当然関係してきますから、生命倫理学とも共通する課題です。共通基本科目のひとつとして、信仰を含めた人間福祉の対象である生命の意味の理解を目標にします。 (3) 学びの意義と目標：現代では戦国の侘茶はもう成り立たないといわれます。明日は知れぬ一期一会の中で生死を決しなければならなかった人たちの、その死生学そのものが侘茶でした。しかし現代でもわたしたちは突然に脳死状態の家族をもったり、自身が死への告知を受けたりします。これに対処すべく、わたしたち自身の生と死の意味を打ち建て、生死を自身で自身のために決定できる死生観を探ってみたいのです。			
評価方法 1回のレポート(80%)および出席率(20%)をあわせて総合評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

自然地理学概説	春	週1回	2単位
担当者：秋山 秀一			
講義の目標及び概要 (内容) 世界の各地では色々な人々がその土地に根ざして工夫しながら暮らしています。この授業では世界の各地、特に日本、アメリカ、スイスを中心としたヨーロッパ諸国における自然を、具体的に引き上げ、学びます。 (カリキュラム上の位置づけ) 自然地理学の知識を身につけると、国際理解度を高めることに大きく寄与します。地理歴史の教職科目としても重要です。 (学びの意義と目標) 卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を深めることは意義があり、重要なことです。実際に海外でのフィールドワークを通して得た自然地理の映像、資料、それに、書籍、雑誌、テレビ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。			
評価方法 日頃の授業への貢献度 (30%)、出席状況 (30%)、小レポート、それにまとめとしてのレポート (40%) 等から総合的に評価します。			
教科書 秋山秀一『スイス道紀行』芦書房			

児童英語教育(カリキュラム・デザイン)	春	週1回	2単位
担当者：東 仁美			
講義の目標及び概要 1. 内容 新学習指導要領では、5・6年生で年間35時間の外国語活動が必修化されることになった。学校英語教育が大きな転換期を迎えている中で小学校で英語を教える指導者が益々求められている。この授業では、公立小学校での英語活動の基礎知識を身につけ、カリキュラム作りに必要な学習目標、学習内容、指導方法などを研究していく。「英語ノート」の教材研究を通して、実際に単元計画と1時間の指導案を作成することを課題とする。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の2年生以上対象の専門科目である。インターンシップⅡ履修希望の学生はこの科目を履修することを推奨する。 3. 学びの意義と目標 公立小学校での外国語活動必修化への動きに対して、最新の動向を把握しつつ、指導者として今何をすべきかを検証していく。			
評価方法 授業への出席、参加 30% レポート 30% 学期末課題 40%			
教科書 樋口 忠彦『小学校英語教育の展望 よりよい英語活動への提言』研究社 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社 文部科学省『英語ノート1』教育出版 文部科学省『英語ノート2』教育出版			

児童英語教育(インターンシップⅠ)	春集中	秋集中	2単位
担当者：東 仁美			
講義の目標及び概要 1. 内容 児童英語教育の観察実習をする。公立小学校での英語活動及び放課後居場所事業「おもしろ英語クラブ」での英語活動を見学し、必要に応じてアシスタントとして授業に参加する。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童英語科目2科目以上履修済みであることが履修条件である。「児童英語教育(理論)」「児童英語教育(ワークショップA・B)」「インターンシップⅠ」を履修する事により、小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)より、小学校英語指導者認定資格が授与される。 3. 学びの意義と目標 児童対象に実際に行われている英語の授業を見学することにより、指導者としての自覚を促す。			
評価方法 評価は、各学生の実習態度・成果に、提出された報告書の内容を加味した上で行う。			
教科書 プリントを配布する			

児童英語教育(インターンシップⅡ)	秋集中	2単位
担当者：東 仁美		
講義の目標及び概要 1. 内容 児童英語教育の授業実習をする。さいたま市立小学校での英語活動及び放課後居場所事業「おもしろ英語クラブ」での授業を担当する。週1回の授業実習のほか、指導案作成、教材作り、模擬授業など週2～3回の事前指導がある。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童英語教育(インターンシップⅠ)のステップアップ科目である。 3. 学びの意義と目標 児童英語教育科目の集大成として、英語のみで1時間の授業を指導する力をつけていく。		
評価方法 評価は、各学生の実習態度・成果等を指導担当者と検討し、提出された報告書の内容を加味した上で行う。		
教科書 プリントを配布する		

児童英語教育(教材研究)	秋	週1回	2単位
担当者：A. クラウス			
講義の目標及び概要 <p>Students will learn to evaluate textbooks used in private and public schools. They will compare them and learn how to make their own evaluations. They will do class simulations using these textbooks, as well as books used in Sogo classes. We will talk about educational materials that you can buy and how to evaluate them. This will include audio-visual materials, videos, picture books, and realia. We will find out which are most efficient in English activities in elementary school. Each class we will introduce an English song and read and listen to an English picture book that goes along with it. We will also learn about making your own materials, with a theme in mind. Students will make presentations of materials they produce which will be useful in an activity. By presenting to each other in the class, you'll be able to share and understand different ideas about how to use and make materials.</p>			
評価方法 出席及びクラスの参加 50% アクティビティーのプレゼンテーション 50%			
教科書 Aleda Krause 『SuperKids 1』 Longman 東後 『Junior Columbus 21 Book 2』 光村図書 『英語ノート 2』 教育			

児童英語教育(理論)	秋集中	2単位
担当者：横田 玲子		
講義の目標及び概要 1. 内容 小学校英語活動やそれ以外の児童英語教育についての概要や背景となる理論を学ぶ。また実施に関わる様々な要素や教育環境についても理解を深める。授業は講義のほか、経験的に学んでいくグループワークを実施する。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童英語教育科目の中の入門的な講座である。 3. 学びの意義と目標 児童英語の概要と共に、英語運用力、および正しい発音についても学ぶ。幼い子供たちを教えるという観点から、「自分の学び」とともに「教える」という視点と責任感が求められる。時間にルーズだったり、適当にことを済まそうとする人には向かない。		
評価方法 出席 50% ExitCard 30% プレゼンテーションとポートフォリオ 20% テストはしない代わりに、出席点と授業参加への記録により自己評価を行う。		
教科書 文部科学省『小学校外国語活動研修ガイドブック』旺文社 文部科学省『英語ノート1』教育出版 文部科学省『英語ノート2』教育出版 文部科学省『小学校指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社		

児童英語教育(ワークショップA)	秋	週2回	4単位
担当者：A. クラウス			
講義の目標及び概要 <p>Teaching English to children is different from teaching English to older learners. Teachers need techniques and methods specifically for children. In this class, you will learn about these methods and the theories behind them. You will also have a chance to polish your classroom language and your teaching skills by preparing activities, songs, and picture books to present to classmates. Halloween and Christmas activities will also be included.</p>			
評価方法 出席及びクラスの参加 40% アクティビティーのプレゼンテーション 40% Other Assignments 10% Quizzes 10%			
教科書 松香洋子『諸学生は英語が大好きー72 Activities』松香フォニックス研究所 奈良橋陽子『英語で遊ぶ25のゲームと15のダイアログ集』Longman			

児童英語教育(ワークショップB)	春集中	4単位
担当者：阿部フォード恵子		
講義の目標及び概要 内容：コミュニケーションの手段として、「外国語としての英語(EFL)」又は「世界語としての英語(WE)」をどのように児童に指導したらよいか？長年にわたって研究されているこの分野は、下降することなくつねに実践され開発が続けている。英語を母国語としない国々では的確な能力と知識と指導力を備えた教師を求める要望がさらに増大している。これは主体的に英語を使える人間の育成が緊急の課題となっているからである。この講義ではこれらを加味し、児童英語指導の原点からスタートし児童英語教育の基本をさまざまな角度から具体的に捉え、言語教育からみた人間教育のあり方までに言及していく。 カリキュラム上の位置づけ：欧米文化学科専門科目群の言語科目である。また、J-SHINE(小学校英語指導者認定資格)取得のための必修科目である。 学びの意義と目標：児童英語教育における最も重要な項目は理論に裏付けされた実践訓練である。特にどのように英語活動指導をしていくのかを教材教具を使いながら習得していく。この活動には児童英語教育の指導に求められている実践的知識、アイデア、アクティビティ、ゲーム、うた、チャンツ、指導案などが含まれる。		
評価方法 平常点 (75%) レポート (25%) 短期集中講義のため、全日全期間出席を義務とする。 欠席時間数により講義放棄と見なす。		
教科書 阿部フォード恵子『AJ's Picture Dictionary』アプリコット 阿部フォード恵子『児童英語教授法』CALA 阿部フォード恵子『教室ふれあい英語表現集』桐原書店		

児童英語教材研究		春	週1回	2単位
担当者：東 仁美				
講義の目標及び概要 1. 内容 学習指導要領の改訂に伴い、5・6年生で年間35時間の外国語活動が必修化されることになった。この授業では、学級担任として英語活動を指導するために必要な小学校英語の基礎知識を身に付ける。また、教材研究を通して、1時間の指導案を組み立てる力をつけていく。学期末課題として、単元計画・指導案を作成し、模擬授業を行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科の選択必修科目であるが、小学校教員免許取得希望者は是非履修してほしい。 3. 学びの意義と目標 公立小学校で行われている英語活動の目標、内容を十分に理解し、学級担任として英語活動の指導ができるようにする。				
評価方法 授業への出席、参加 20% レポート 30% 学期末課題 30% プレゼンテーション 20%				
教科書 文部科学省『小学校外国語活動研修ガイドブック』旺文社 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社 文部科学省『英語ノート1』教育出版 文部科学省『英語ノート2』教育出版				

児童英語教材研究		秋	週1回	2単位
担当者：小川 隆夫				
講義の目標及び概要 1. 内容 小学校英語活動が本格的に始動した現場を踏まえ、小学校英語活動及び児童英語の概要や理論と実践を学び、コミュニケーション能力の素地、国際理解教育と英語活動の関係などを明らかにしていく。また、数多くの実践例を参考にしながら、次世代を担う児童のための英語活動のありかたを考え、LESSンプランを作成し模擬指導をするマイクロティーチングの実践も取り入れる。ここではフィードバック手法などについても学び、教師同士が高めあえる授業についても考える。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童英語教育科目の基礎的講座である。 3. 学びと意義と目標 英語活動の意義、目標を十分に理解し、知識、情報、指導技術を生かし、現場で率先して実践できるようにする。				
評価方法 出席 20% ポートフォリオ 30% マイクロティーチング 25% プレゼンテーション 25%				
教科書 文部科学省『小学校外国語活動研修ガイドブック』旺文社 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語編』東洋館出版社 文部科学省『英語ノート1』教育出版 文部科学省『英語ノート2』教育出版 小川 隆夫『高学年のための小学校英語 -先生、英語やろうよ! 2』mpi				

児童学海外研修		春集中	4単位
担当者：村山 順吉			
講義の目標及び概要 国際化の進展に伴い、子どもの問題も海外諸事情を勘案し、それらとの連環における学習が不可避とされているが、この場合の学習は、海外情報の収集および実地体験に分けて考えることが出来る。前者は、関連する学科目の講義・演習において行われるが、本学科目は受講者に実地体験の機会を提供するものである。 本年度の児童学海外研修は、オーストラリア、アデレードのフリンダース大学で行われ、児童学科の教員が同行する予定である。なお本研修は、国際センターの協力を得て、同センターとの連携のもとに行われる。			
評価方法 研修中に提出されるレポートおよび研修態度。			
教科書 授業の中で指示する			

児童学概論		春	週1回	2単位
担当者：田澤 薫				
講義の目標及び概要 1. 内容 子どもに学問的なまなざしを向け、子どもを研究の対象として捉えるとはどういうことか。その具体的な視点と方法について、多様な角度から学ぶ。子どもをめぐる様々な場面での子どもと大人の関わりを考える。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科に入り、子どもという存在や保育・教育のことを学び始める入り口に立って、子どもに学問的な視点を向けるきっかけとなる授業である。 3. 学びの意義と目標 子どもを対象として見つめる視座を理解する。併せて、子どもについて学ぶにはいろいろな方法論があることを知り、今後の様々な領域での児童学の学びにつながる関心と意欲が得られることをねらいとする。				
評価方法 出席した上での積極的な授業参加（毎回の小課題への取り組み） 50% 期末試験 50%				
教科書 プリントを配布する				

児童学研究	秋	週2回	4単位
担当者：田澤 薫			
講義の目標及び概要 〈講義目標〉 児童学研究では、児童を研究する意味や目的を根本から問い、福祉的な視座に立った児童研究の基礎を学ぶ。 福祉学の諸分野の中でも児童福祉は、子ども一人ひとりのしあわせを願い、そのために私たちに出来ることを模索する学問領域である。生まれたときから、あるいは育つ過程でいろいろな困難に出会っても、どの子の育ちもしあわせであってほしいと願う視座に立って研究を進めるためには、まず、子どものしあわせって何だろう、と考えることから始めたい。さらには、そもそも「子ども」という存在の特性をどれだけ客観的に捉えているか、自問する必要があるだろう。 そこで本講義では、児童学の視座にたって子どもを研究する際の基本的な観点について学んだあとで、子どもの育ちを援助する保育や教育の実践記録を分析し、子どもの姿や保育・教育・援助の実践から子どもを研究する方法を身につける。			
評価方法 出席した上ででの積極的な参加（発言）30%、課題報告30%、レポート40%により総合評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

児童教育学(教養)	秋	週2回	4単位
担当者：永井 理恵子			
講義の目標及び概要 内容：本講義では、児童学を専門としない学生に対して、児童教育の基礎を学ぶ機会を提供する講義である。全30回という限られた時間数のなかで、児童教育の基礎的概念と知識を、偏り無く習得することを目的とする。具体的には、児童教育の場、児童教育の思想、児童教育の歴史、児童教育の専門機関の色々、児童の発育・発達の特徴、教師の役割、親の役割、教育行政の実際、児童を取り巻く文化一般など、児童を取り巻く様々な要素を学習する。学びの目標：あえて言えば、児童学領域で学習する様々な講義のエッセンスに幅広く触れる講義である。児童教育については一億総教育論者とまで言われる現代日本であるが、本講義を受講することにより、児童教育の正しい理解を習得し、将来の良き後進育成者となることを目指す講義である。なお、担当教員の専門分野から、児童のなかでもとりわけ幼児期に焦点が置かれがちになることを了解したうえで、履修を検討してほしい。カリキュラム上の位置づけ：教養科目として設定されている。興味関心のある学生の履修を希望する。			
評価方法 出席点を重視。講義を聴くこと自体に重い価値がある。しかし、これに加えて平常点も重視する。出ているだけで講義に参加する姿勢がなければ意味が無い。その他、平常講義において小テストをおこなうので、その結果も参考とする。			
教科書 上野恭裕編著『現代保育原理』三晃書房			

児童教育学(C用)	春	秋	週1回	2単位
担当者：永井 理恵子				
講義の目標及び概要 本講義は児童学科1年生のために開講する、児童教育学の基礎講義である。児童教育学と一言で言っても非常に幅が広いが、将来、福祉、教育、保育と多方面の学修を深めていく第一歩として、児童教育学の全体を大まかに把握することを目的とする。各講義内容ごとには深く入り込むよりも、様々な側面からアプローチする視点の基礎力を培うことを目指す。 カリキュラム上の位置づけは、児童学科の卒業必修科目であると同時に、保育士資格必修科目でもある。 学びの意義と目標：児童教育学に関する基礎的知識を習得し、様々な講義に入っていく導入としての視点の獲得を目指す。				
評価方法 出席率60%、授業内の小テスト（2回程度を予定）20%、期末のレポート20%。その他、授業態度や、授業中に見せる視聴覚教材の感想文レポートなども評価対象となる。				
教科書 上野恭裕編著『新現代保育原理』三晃書房				

児童教育学特論	春	週2回	4単位
担当者：永井 理恵子			
講義の目標及び概要 この特論では、児童教育について、歴史的観点から再考することを目的とする。履修者が教育学を専門としない者も多いことが想定されるので、児童教育の基礎的概念を改めて確認した後、各自の研究主題に対応した教育の具体的事実を、歴史のなかから探究し、各自の研究に多少なりとも生かすことができるようにすることを目指す。 講義の運営は、途中で適宜、担当者からの指導や講義も挟むが、基本的には各自で教育の歴史に関する課題を選び、それを個人的に考察を進めて行く。各自の考察を一人あたり最低1回は授業内で広告してもらい、それを皆で討議する。 児童教育学を専門としない学生は、過去において担当教員の講義「児童教育学」を優れた成績で履修し、卒業研究ないし卒論にて児童に関するテーマを選択している学生の履修を推薦する。児童教育について全く知識をもたない学生の履修は遠慮いただきたい。			
評価方法 出席率40%、各自の課題への取り組みの姿勢（報告書を含む）50%、講義への参加姿勢10%			
教科書 小澤周三ほか共著『教育思想史』有斐閣			

児童サービス論	秋	週1回	2単位
担当者：黒沢 克朗			
講義の目標及び概要 1. 内容 児童サービス論は、子どものための図書館サービスについて学ぶ科目である。図書館における児童サービスの意義や課題、図書館における児童サービスの具体的な方法などについて学んでいく。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童サービスについての基礎的な科目である。 3. 学びの意義と目標 児童サービスの意義と課題について理解することができるようになること。また、児童サービスの方法にはどのようなものがあるかについての認識をもち、図書館員の専門性について理解を深める。			
評価方法 出席点40% 授業中の発表20% 試験40%			
教科書 堀川照代『児童サービス論 新訂版』日本図書館協会			

児童資料論	春	週1回	2単位
担当者：黒沢 克朗			
講義の目標及び概要 1. 内容 児童資料論は、児童資料について学ぶ科目である。児童書の種類やその特色に触れ、選書や資料収集の意義や方法について学んでいく。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童資料についての基礎的な科目である。 3. 学びの意義と目標 児童資料の種類と特色について把握すること、また、児童資料の選書について実際に絵本を手にとり絵本を選定し、具体的に理解できるようになること。			
評価方法 出席点40% 授業中の発表20% 試験40%			
教科書 堀川照代『児童サービス論 新訂版』日本図書館協会			

児童福祉	春	秋	週1回	2単位
担当者：田澤 薫				
講義の目標及び概要 1. 内容 現代社会の子どもの育ちや子育てをめぐる状況と、それに対する日本の児童福祉の制度や仕組みについて学ぶ。児童福祉を形づくっている法制度を知り、児童福祉の機関や施設の現場での運用を理解する。 2. カリキュラム上の位置づけ 保育士資格取得のための必修科目であり、児童福祉の関連科目を学ぶうえで必要な知識を取得する基礎科目である。 3. 学びの意義と目標 児童福祉の骨組みを学んでいく中で、児童を取りまく諸問題について社会の動きに関心を持ち、保育者として求められる児童福祉の考え方を身につけることをねらいとする。				
評価方法 授業内の課題 30% 期末試験 70%				
教科書 松本園子ほか著『児童福祉を学ぶ』ななみ書房				

児童福祉特論	春集中	4単位
担当者：中谷 茂一		
講義の目標及び概要 児童福祉分野のうち、主に子ども虐待、児童養護、子育て支援、権利擁護、家族、スクールソーシャルワークに関連するテーマを扱い、各受講者の研究に寄与する知見の解説や議論を行う。また、児童福祉のサービスに関して法的根拠やシステムのみでなく、実際の現場に即した具体的な援助方法の参考となる調査結果やヒアリング結果も紹介しながら、科目担当者の権利擁護活動から得られた知見もフィードバックしていく。その中で受講者がそれぞれの立場で活用、実践につながれば幸いである。なお、下記から受講者の研究テーマに関連する事項をなるべく多く扱いながらすすめる。 1. 子ども家庭福祉の基礎概念 2. 子ども家庭福祉を取り巻く状況 3. 子どもの権利保障 4. 子ども家庭福祉の展開 5. 子ども家庭福祉行政のしくみと機関・施設 6. 在宅児童を対象とした子ども家庭福祉サービスの実践 7. 子ども家庭福祉に関連する地域活動 8. 子ども家庭福祉サービスを支える人 9. 子ども虐待・「子ども虐待」をとりまく神話・「見える虐待」と「見えない虐待」、「優しい虐待」・子ども虐待に関する人々の意識とまなざし・その社会的対応と限界・子ども家庭福祉におけるジェンダー問題 10. スクールソーシャルワークの実践		
評価方法 出席率20%、ディスカッション参加状況40%、レポート40%の総合評価。		
教科書 授業の中で指示する		

児童福祉論(L用)	春 週2回 4単位
担当者：櫻井 邦夫	
講義の目標及び概要 近年、子ども家庭をめぐる諸問題が多様化・複雑化・深刻化して、大きな社会課題となり、これらに対応するために、関連法制度の充実強化をめざしての改正が相次いでいます。こうした子ども家庭福祉の動向を踏まえながら、子ども家庭福祉の理念や子ども家庭福祉の関係行政機関・団体・施設・住民組織等の役割と支援についての理解を深めるとともに、子どもの社会的養護体制、障害児の特別支援教育、次世代育成支援等の学習をすすめます。	
評価方法 試験レポート、ミニレポート、出席状況等を総合的に評価します	
教科書 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座15「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」(第2版)』中央法規	

児童福祉論(W用)	春 週2回 4単位
担当者：池 弘子	
講義の目標及び概要 ・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ(子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)の実態を含む。)について理解する。 ・児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。 ・児童の権利について理解する。 ・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。	
評価方法 3分の2以上を出席の必要条件とし、試験の成績のみで評価する。	
教科書 授業の中で指示する 社会福祉士養成講座編集委員会『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第2版』中央法規出版	

児童文学(C用)	春 秋 週1回 2単位
担当者：松本 祐子/小室 陽子	
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉この授業では、国語の三つの領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に焦点を合わせ、テーマを意識して物語を読む、的確な表現で形式の整ったエッセーを書く、日本の神話や昔話を聞いて簡潔に要約する、グループごとに工夫を凝らした魅力的なブックトークを行うなど、基本的な国語力を身につける。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉この授業は小免の必修、保育士・幼免の選択科目である。小免希望の学生は、国語科教育法を履修する前に、必ずこの科目を取っておくこと。 (3)〈学びの意義と目標〉児童文学、神話、昔話など、様々な物語を材料として、読解力を養い、正しい言葉遣いで文章を書く力を身につける。さらに、保育者・教員として、子どもたちに読ませたい物語を自分で選び、魅力的なプレゼンテーションで紹介する能力を身につけることを目標とする。	
評価方法 授業時の発表(ブックトーク)30%、発表後レポート10%、期末試験50%、出席10%によって算出する。	
教科書 プリントを配布する	

児童文学(J用)	春 週2回 4単位
担当者：藤田 のぼる	
講義の目標及び概要 ●一口に「児童文学」といっても、童話、小説、詩、絵本、ノンフィクションといったジャンルがあり、これを数ヶ月間の講義でこなすのは難題です。が、あえて欲張ってそれをやってみたいと思っています。ですからこの講義はかなり駆け足の進行になります。 ●全体は大きく三部に分かれ、第一部(児童文学に描かれた子ども)では、さまざまな角度から作品の中の子どもの像を中心に、児童文学作品を紹介していきます。第二部(不思議の形、テーマを深める)では、テーマ、方法、思想などの角度から作品を紹介します。これらを通して、児童文学がなにを、どのように描いているのかをみてもらいます。児童文学は第一義には子どもの読者に向けて書かれたものですが、今子ども時代と完全に訣別しようとしている時期に児童文学に改めて触れることは、格別の意義があると思います。 ●第三部のテーマは、「(児童)文学を読むということは、読者にとってどのような行為なのか」ということについて考えるということです。特に児童文学の場合、それを読むことが子どもにとって無条件に「良いこと」とされ、場合によっては強制されたりもするわけですが、本とは、物語とはどのようなものなのかを、皆さんの子ども時代体験なども合わせながら考えていきたいと思っています。	
評価方法 基本的には、学期末に提出のレポートによる。	
教科書 藤田のぼる『児童文学への3つの質問』てらいんく	

児童文化論A	春	秋	週1回	2単位
担当者：田澤 薫				
講義の目標及び概要 1 内容 子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。 2 カリキュラム上の位置づけ 児童学科の1年生を対象とする基礎的な科目である。また卒業必修科目である。 3 学びの意義と目標 子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。				
評価方法 授業期間中の課題・ミニテスト 50% 期末試験 50%				
教科書 皆川美恵子ほか編著『児童文化—子どものしあわせを考える学びの森』ななみ書房				

児童文化論B	春	秋	週1回	2単位
担当者：寺崎 恵子				
講義の目標及び概要 1 内容 子どもが子どもとしてしあわせに生きるとはどういうことなのか。子どもの生活に文化はどのようにかわりうるのか。そして、育てる者としてわたしたちにできることは何だろうか。これらのことについて、伝承遊びに着目して、協同で考察を深める。 2 カリキュラム上の位置づけ 「児童学科で学びたい」と強く望んでいる人のための入門として位置づける。 3 学びの意義と目標 子ども期を過ごした経験をもつ人が今を生きる子どもと関わりあうとき、〈子ども〉はどのように現れてくるのだろうか。受講生自身の〈子ども〉を確認しながら、今を生きる〈子ども〉を理解するときの観点を、この学習を通じてできるだけ多くもつようにしたい。 なお、この授業は協同学習の形式をとる。学習する過程で自分自身の視野が広がっていくことを感じ取る経験を大切にしたい。				
評価方法 各回提出のレポート(5点×13回＝65点)、中間まとめ(10点)、研究成果発表(10点)、期末まとめ(15点)とを合わせて評価する。各レポートの書式はこちらで指定する。その詳細については、初回に説明する。				
教科書 小川清実『子どもに伝えたい伝承あそび』萌文書林				

児童臨床心理学	春	週2回	4単位
担当者：山田 麻有美			
講義の目標及び概要 (1) 〈内容〉 『心の復元力resilience』が備わっているの、子どもは悩みや苦しみとは無縁と思えるほど元気に生きている。しかし『心の復元力』にも限界があり、心の問題を持つ子どもも少なくない。児童臨床心理学は、そのような子どもが困難に立ち向かう力を身につけたり、その能力を十分に発揮したりするために必要なことについて考える学問である。本講義では、子どもの心の問題とそれが生じる要因、その解決(心理療法の考え方)などに触れていく。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 児童学科の専門科目の中では、各論的な位置づけである。心理学や発達心理学、教育心理学を十分理解した上で履修することが望ましい。 (3) 〈学びの意義と目標〉 子どもが心の元気を失う要因やその過程、および子どもが心の元気を取り戻すための必要な周囲の人々のかかわり方などについて、受講生が理解を深めることを目標としている。この学びを通して、次世代の子どもたちを育ていく大人としての自覚を持ち、子どもに関わることの大切さを学んでいただきたい。			
評価方法 出席状況による評価(10%)と、授業に出される質問への応答や課題に対する取り組みなどの参加度による評価(30%)、最終回に行う理解度の確認による評価(60%)の合計を、全体の評価とする。			
教科書 プリントを配布する			

社会	春	秋	週1回	2単位
担当者：深澤 悠紀雄				
講義の目標及び概要 この授業は小学校教員免許を得るために必要な「小学校社会科」の目標や内容をを中心にとりあげます。 「社会科」は、戦後の新教育を担う花形として昭和22年に新しく生まれた教科であるが、半世紀以上を経て教育内容・方法をめぐって様々な論争や実践が積み上げられて今日に至っています。 授業では、まず、社会科の歩みを概観するとともに、社会化の全体構造や目標、学年ごとの指導内容等について取り上げます。 近年の傾向では、高等学校等で「地理」に関する教科を履修しないできた学生が多いので「地理的分野」の基礎的事項を中心に「学習課題」も取り入れて進めることにします。 なお、毎時間「新聞を読んで」のコーナーを設け、関連する事項についてレポートに基づき協議を行います。				
評価方法 新聞に関するレポート、学習課題、テスト結果、出席状況、取り組み姿勢等に基づき総合的に判断します。				
教科書 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会科編』東洋館出版				

社会学	秋	週2回	4単位
担当者：横山 寿世理			
講義の目標及び概要 1. 内容 教科書、雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、社会学を広く概観する。講義内容を板書でまとめる形で講義を展開する。また、講義内容の定着を図るため、3～4回の小論文を講義内で課す。 2. カリキュラム上の位置づけ この授業は1年次に配当される政治経済学科の専門基礎科目（必修）であり、上位の社会学系専門科目を履修するにはこの科目を修得しておく必要がある。また、コミュニティ政策学科の学生にとっては共通専門科目、他学部の学生にとっては教養科目となる。 3. 学びの意義と目標 この講義は、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を個人的な問題ではなく、「社会問題」として認識する能力である。良い／悪いといった判断から離れて、常識を疑うという姿勢を身につければ、普段意識されない「社会」を受講者自身が実感できるようになるだろう。			
評価方法 出席（30%）、講義内で課す小論文（30%）、学期末試験（40%）で評価する。詳細は第1回目の授業で確認して欲しい。			
教科書 宇都宮京子『よくわかる社会学（第2版）』ミネルヴァ書房			

社会学	春	週2回	4単位
担当者：横山 寿世理			
講義の目標及び概要 1. 内容 教科書、雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、社会学を広く概観する。講義内容を板書でまとめる形で講義を展開する。また、講義内容の定着を図るため、3～4回の小論文を講義内で課す。 2. カリキュラム上の位置づけ この授業は1年次に配当される政治経済学科の専門基礎科目（必修）であり、上位の社会学系専門科目を履修するにはこの科目を修得しておく必要がある。また、コミュニティ政策学科の学生にとっては共通専門科目、他学部の学生にとっては教養科目となる。 3. 学びの意義と目標 この講義は、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を個人的な問題ではなく、「社会問題」として認識する能力である。良い／悪いといった判断から離れて、常識を疑うという姿勢を身につければ、普段意識されない「社会」を受講者自身が実感できるようになるだろう。			
評価方法 出席（30%）、講義内で課す小論文（30%）、学期末試験（40%）で評価する。詳細は第1回目の授業で確認して欲しい。			
教科書 宇都宮京子『よくわかる社会学（第2版）』ミネルヴァ書房			

社会学	春	週2回	4単位
担当者：田中 俊之			
講義の目標及び概要 社会学は常識を疑う学問だとされている。われわれが日々の生活において自明視しているさまざまな出来事を、その成立の仕組みから分析してみせるからである。社会学のこうした性格は、この学問がもつ批判性をよくあらわしているといえるだろう。本講義の目的は社会学の理論および諸概念を学習することによって、社会を批判的に読み解くまなざしを手に入れることである。 社会学的な視座を身につけるためには、単に新しい用語を覚えるだけではなく、具体的な事例の分析から実際に現実のどのような側面が明らかにできるのかを理解しておかなければならない。そのため、テレビドラマや映画あるいは雑誌記事といった身近な資料を使いながら、社会学と現実の接点を常に意識した講義を展開する。			
評価方法 出席点20%、授業時の小レポート40%、学期末テスト40%			
教科書 張江洋直・大谷栄一『ソシオロジカル・スタディーズ』世界思想社			

社会学	秋	週2回	4単位
担当者：阿部 英之助			
講義の目標及び概要 1. 講義内容 この講義では、「社会学」という視点を通して私達が生活している世界やそこでの疑問や問題について考えていきたいと思います。普段、私達が何気なく行っている事に対して少し視点や発想を変えて「見る」ことで、今まで「当たり前」であったことが「当たり前でない」ものとして、見えるかもしれません。私達は家庭・近隣・学校・会社・市町村・国など様々な組織に属し、多様な場面で生活をしています。そこでは、無意識のうちに刻み込まれている事がたくさんあるのではないのでしょうか。そのような「日常性」を問いながら、私達が生活している生活世界について具体的な事例を通して、「社会学」を考えていきたいと思います。 2. カリキュラム上の位置づけ 「社会学」の入門として、具体的な事例を通じて社会を見るための視点や方法を学びます。 3. 学びの意義と目標 新聞・雑誌や調査データなどを取り上げながら、現代社会の姿について見て行き、社会を見る様々な視点が身につくことを本講義の目標にしたいと思います。			
評価方法 評価は、出席（30点）、授業内小レポート及びコメントシート、学期末試験（50点）の合計100点で評価します。他の受講生に迷惑をかける私語は厳禁とし、場合によって退席と評価対象外とします。			
教科書 友枝敏雄『Do! ソシオロジー』有斐閣アルマ 那須 寿『クロニクル社会学』有斐閣アルマ			

社会学	春	週2回	4単位
担当者：鄭 鎬碩			
講義の目標及び概要 1. 内容 社会学の魅力は、あらゆる社会現象を、新鮮で驚きに満ちたものとして見せてくれる点にある。本講義では、ある現象がそのようである理由、その仕組み、人間関係についての問いを重ね、物事を「見かけ通りのもの」として受け入れない批判的思考の方法を学ぶ。新聞記事、ドキュメンタリー映像、映画などから、コーヒー、電車時刻表、犯罪ニュースなど身近な物事や、性別、職業の選択、貧困などのプライベートな悩み事がなぜ「社会学的問題」であるのかについて考える。これら日常の物事をとらえる社会学の基礎概念を学習することで、社会学的思考の幅と奥行きにたいする基本的な感覚を備えることを目指す。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目の選択に先立つ知探索の機会として、社会学の関心領域とアプローチ上の特徴を学習するための講義である。 3. 学びの意義と目標 1) 学問としての社会学の特徴を理解し、社会学の基礎概念を習得する。 2) 現代社会の多様な側面を批判的に考察するための基本的な視座を手に入れる。			
評価方法 本講義では出席が重視される。成績は、出席点50%、期末レポート50%によって算出する。			
教科書 プリントを配布する			

社会学	春	週2回	4単位
担当者：渡會 知子			
講義の目標及び概要 【内容】 「働くとはどういうことか?」「私らしさとは何か?」「正しさとは何か?」——こうしたあまりにストレートな疑問を、今の日本でわざわざ口に出して語る人は少数です。しかし、将来が見通しにくい今だからこそ、一度足を止めて、じっくり考える価値のあるテーマだと思います。 「社会学」は、こうしたテーマについて体系的に「考える」ための学問です。道徳、規範、制度、国籍、人間関係。本講義では、政治学や経済学におさまらない身の回りの諸問題を取り上げ、社会学的に考えるための力を身につけます。 【カリキュラム上の位置づけ】 専門科目の選択に先立つ入門的講義です。 【学びの意義と目標】 複雑な社会を生きていくうえで必要な二つの道具——現代社会の「見取り図」と、常識やステレオタイプに頼らず自分の頭で考えるための「方法＝コンパス」——を手に入れることを目指します。			
評価方法 出席20%、講義中に課すレポート20%、期末テスト50%、講義中の態度10%とし、総合的に評価します。			
教科書 友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵『社会学のエッセンス』有斐閣アルマ			

社会学	春	週2回	4単位
担当者：阿部 英之助			
講義の目標及び概要 ・ 社会理論による現代社会の捉え方を理解する。 ・ 生活について理解する。 ・ 人と社会の関係について理解する。 ・ 社会問題について理解する。			
評価方法 評価は、出席(20点)、授業内レポート及びコメントシート(30点)、学期末試験(50点)の合計100点によって、総合的な評価をします。また、他の受講生の迷惑となるような私語は、厳禁とし、場合によっては退席と評価対象外とします。			
教科書 授業の中で指示する 社会福祉士養成講座編集委員会『社会理論と社会システム 社会学』中央法規出版			

社会科公民的分野教育法	秋	週1回	2単位
担当者：石井 昇			
講義の目標及び概要 (1) 〈内容〉 戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を得て今日に至っている。中学校社会科においては、地理・歴史・公民の三分野となり、高等学校は地歴科、公民科に分離・独立した。本講義は中学校社会科教育における公民的分野を中心に、高等学校の公民科も視野に入れ、中学校における『公民』教育の内容について実践的な研究を行う。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中・高の社会科の教育免許習得しようとする学生のために開設した。 (3) 〈学びの目標〉 1. 社会科の狙いである「公民的資質」の意味を理解する。 2. 中学校の公民的分野内容と学習方法を理解する。 3. 1、2をふまえて、公民的分野の学習指導案を作成することができる。			
評価方法 ・ 評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・ 出席状況を重視する(配点の35%)。			
教科書 文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文教出版 平成23年度版『新編「新しい社会」公民』東京書籍			

社会科授業研究Ⅰ	春	週1回	2単位
担当者：石井 昇			
講義の目標及び概要 (1) 〈内容〉 中学校三分野の社会科教育法の発展として、本講義を位置づける。本講義は小学校社会科、高等学校地歴科・公民科との関連を考察する。さらに地理的分野・歴史的分野・公民的分野で「地域」に着目し、その事例について理解するとともに学習指導案を作成する。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中・高の社会科教育免許習得しようとする学生のために開設した。 (3) 〈学びの目標〉 1. 小・中・高の社会科の関連の意味を理解する。 2. 地理的分野・歴史的分野・公民的分野の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。			
評価方法 ・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する（配点の35％）。			
教科書 文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文教出版 平成23年度版『新編「新しい社会科」地理・歴史・公民』東京書籍 郷土埼玉編集委員会編『われらの郷土埼玉県』中央社			

社会科授業研究Ⅱ	秋	週1回	2単位
担当者：石井 昇			
講義の目標及び概要 (1) 〈内容〉 中学校三分野の教育法の発展として、更に社会科授業研究Ⅰをふまえて本講義を位置づける。本講義は資料の収集・活用や作業的・体験的な学習について理解するとともに、これらをふまえて学習指導案を作成する。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中・高の社会科教育免許習得しようとする学生のために開設した。 (3) 〈学びの目標〉 1. 教材研究の方法について理解する。 2. 社会科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。			
評価方法 ・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する（配点の35％）。			
教科書 文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文教出版 平成23年度版『新編「新しい社会科」地理・歴史・公民』東京書籍 平成23年度版『中学校社会科地図』帝国書院			

社会科地理・歴史的分野教育法	春	週1回	2単位
担当者：石井 昇			
講義の目標及び概要 (1) 〈内容〉 戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を得て今日に至っている。中学校社会科においては、地理・歴史・公民の三分野に分化し、高等学校は地歴科、公民科に分離・独立した。本講義は中学校社会科教育における地理的分野と歴史的分野を中心に高等学校地歴科も視野に入れ、地理的分野・歴史的分野の内容について実践的な研究を行う。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中・高の社会科の教育免許習得しようとする学生のために開設した。 (3) 〈学びの目標〉 (1) 社会科の狙いである「公民的資質」の意味を理解する。 (2) 中学校の歴史的分野の内容と学習方法、地理的分野の内容と学習方法を理解する。 (3) (1)(2)をふまえて、地理的分野・歴史的分野の学習指導案を作成することができる。			
評価方法 ・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する。（配点の35％）			
教科書 文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文教出版 平成23年度版『新編「新しい社会科」地理・歴史』東京書籍 平成23年度版『「中学校社会科地図」』帝国書院			

社会教育課題研究A	春	週1回	2単位
担当者：小川 誠子			
講義の目標及び概要 (1) 内容 この授業では、人びとの生涯学習を支援するための社会教育施設として、おもに生涯学習センターと公民館を取り上げ、その役割について考察を加える。その際、民間のカルチャーセンターとの比較を通して、「官」と「民」が果たす役割についても追究していく。なお、この授業では、社会教育施設に対する具体的な理解を深めるために、履修者それぞれが施設を見学し検討していくことが求められている。施設見学の内容に関しては、初回の授業で説明する。 (2) カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための選択必修科目として位置づけている（資格取得を目的としない学生の受講も大歓迎である）。 (3) 学びの意義と目標 実際に施設に行き、自分の目と耳で確かめることによって、社会教育施設が果たす役割に対して課題意識を高めていくことを目指している。また、このような経験を通して、人々の生涯学習を支援していくことができる力を身につけてほしい。			
評価方法 プレゼンテーション（50％）、ミニレポート（20％）、出席状況やディスカッションなどでの授業への貢献度（30％）にもとづいて評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

社会教育課題研究B	秋	週1回	2単位
担当者：小川 誠子			
講義の目標及び概要 (1) 内容 この授業では、人びとの生涯学習を支援するための社会教育施設として、おもに青少年教育施設・図書館・女性教育施設（男女共同参画センターを含む）を取り上げその役割について考察を加える。その際、社会教育施設ボランティアの自己形成にも注目することによって、社会教育施設の意味・役割について考察を深めていく。なお、この授業では、社会教育施設に対する具体的な理解を深めるために、興味・関心のある施設・テーマをそれぞれの問題意識にもとづいて考察していくことが求められている。 (2) カリキュラム上の位置 社会教育主事の資格取得のための選択必修科目として位置づいている（資格取得を目的としない学生の受講も大歓迎である）。 (3) 学びの意義と目標 実際に施設に行き、自分の目と耳で確かめることによって、社会教育施設が果たす役割に対して課題意識を高めていくことを目指している。また、このような経験を通して、人々の生涯学習を支援していくことができる力を身につけてほしい。			
評価方法 プレゼンテーションやレポート（50%）、ミニレポート（20%）、出席状況やディスカッションなどでの授業への貢献度（30%）にもとづいて評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

社会教育計画A	春	週1回	2単位
担当者：小川 誠子			
講義の目標及び概要 (1) 内容 この授業では、生涯学習との関連で社会教育を理解した上で、社会教育計画の原理や主体・態様について論じる。また、幅広い観点から計画立案に取り組めるように、専修学校・企業内教育・ボランティア活動などといった多様な学習機会を取り上げる。ボランティア活動に関しては、カナダ社会におけるボランティア活動に着目することによって、比較的観点から日本社会におけるボランティア活動について理解を深める。 (2) カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための必修科目として位置づいている（資格取得を目的としない学生の受講も大歓迎である）。 (3) 学びの意義と目標 この授業では、生涯学習と社会教育の関係を理解し、幅広い観点から計画立案に取り組むことができるように、様々な場面で提供されている多様な学習機会に目を向けていくことを目指している。人々の生涯にわたる学びを支援していくことができる力を身につけてほしい。			
評価方法 試験（50%）、ミニレポート（30%）、出席状況（20% リアクション・ペーパーへの記入状況を含む）にもとづいて評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

社会教育計画B	秋	週1回	2単位
担当者：小川 誠子			
講義の目標及び概要 (1) 内容 この授業では、社会教育計画Aを踏まえて、社会教育において取り組むことが求められている具体的な学習課題として、「高齢社会」と「少子社会」における諸問題を取り上げ、社会教育が果たしていく役割について深く検討する。また、調査、学習の形態・方法、学習支援者、評価など計画策定や学習プログラム作成において必要とされる手法についても講述する。 (2) カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための必修科目として位置づいている（資格取得を目的としない学生の受講も大歓迎である）。 (3) 学びの意義と目標 「高齢社会」と「少子社会」における諸問題に注目し、受講者一人ひとりが課題意識を持って、社会教育が果たしていく役割を検討していくことを目指している。また、計画策定や学習プログラム作成において必要とされる専門的知識の習得を通して、社会教育主事に求められている資質・能力を身につけてほしい。			
評価方法 期末レポート（50%）、ミニレポート（30%）、出席状況（20% リアクション・ペーパーへの記入状況を含む）にもとづいて評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

社会教育施設論A	春集中	2単位
担当者：石川 昇		
講義の目標及び概要 1 内容 生涯教育、社会教育、社会教育施設についての基本的概念を把握した上で、社会教育施設ごとに、設置目的、歴史、現状、課題等について、事例をもとに理解を図る。その際、施設は幅広くとらえ、多くの施設について具体的に検討する。 2 カリキュラム上の位置づけ 講義は豊富な事例を検討しながら、生涯学習、社会教育とは何かを意識し、フィードバックする。本科目は生涯学習概論、社会教育論などの基礎的科目を補強し、社会教育課題研究、社会教育演習などの応用的、発展的内容の科目に多くのヒントを与える。 3 学びの意義と目標 社会教育施設についての基本的な知識の獲得とともに、社会教育施設を活用する実践的な知識の獲得をめざす。		
評価方法 講義の出席を重視し、試験は講義のなかから出題する。		
教科書 プリントを配布する		

社会教育施設論B	秋集中	2単位
担当者：石川 昇		
講義の目標及び概要 1 内容 生涯教育、社会教育、社会教育施設についての基本的概念を把握した上で、社会教育施設をめぐるさまざまな問題について具体的な事例を用いながら、幅広く検討し、その課題を認識する。 2 カリキュラム上の位置づけ 講義は事例を検討しながら、常に生涯教育、社会教育とは何かを意識し、フィードバックしながら進める。本科目は生涯学習概論、社会教育論などの基礎的科目を補強し、社会教育課題研究、社会教育演習などの応用的、発展的内容の科目に多くのヒントを与える。 3 学びの目標 社会教育施設をめぐるさまざまな問題を認識し、生涯教育、社会教育について幅広い視野、多様な視線を獲得する。		
評価方法 講義の出席を重視する。試験は講義の中から出題する。		
教科書 プリントを配布する		

社会教育実習	通年	週1回	2単位
担当者：小池 茂子			
講義の目標及び概要 社会教育行政機関や社会教育施設、社会福祉施設など生涯学習と関連のある機関・施設において、それら機関・施設の専門職員の直接的な指導もとで、機関・施設の管理、運営、事業の実施などについて参加体験を行い、それらの経験を通して社会教育主事に求められる資質と能力の基礎を培うことを目的としています。本実習の単位は、社会教育関係施設・機関において、原則として1～2週間の実習を行い、かつ、大学での授業（講義、施設見学）を受講し、所定の要件を満たした者に与えられます。授業の内容は1. ガイダンス（1回）2. 事前指導（4回—社会教育施設運営・職員論を中心とした講義）3. 現場実習（1～2週間）4. 事後指導（1回）5. 報告会からなっています。			
評価方法 事前指導と事後指導、実習報告会への参加状況及び実習体験、実習レポート（『社会教育実習履修の記録』）の提出にもとづき総合的に行います。			
教科書 授業の中で指示する			

社会教育論A	春	週1回	2単位
担当者：小池 茂子			
講義の目標及び概要 1. 内容 本講義では、まず社会教育とは何かを考える。学校が出現する以前の社会集団における人間の教育、また社会の持っている教育的感化力など人の教育が家庭や学校だけにとどまるものではないことに視野を開き、社会の中に存在してきたそして今日も存在している教育力とは何かを考える。 また戦後の社会教育法に見る社会教育の定義、及び生涯教育の理念が提出された後の、社会教育の現代的意義について考えていく。そのために今日公的社会教育行政がその重点的施策として着手している学校と社会教育の連携、子育て支援、青少年の居場所づくりなどを取り上げそれらについての意義と課題を検討する。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科の専門科目として位置づけられている。 3. 学びの意義と目標 今日、人間を育てる場が家庭、学校教育だけではないことを知り、社会の中で展開されている教育活動の実際とそれらの意義について理解する。			
評価方法 出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

社会教育論B	秋	週1回	2単位
担当者：小池 茂子			
講義の目標及び概要 1. 内容 人間が学校や幼稚園を作る前から、人間よって人間を育て教育する営みは形作られてきた。それを社会の中にある教育という意味で社会のもつ教育力教育といえるのかもしれない。本講義では、社会の中で営まれてきたことも或いは青少年を対象として行なわれてきた教育活動を日本およびイギリスの社会教育の歴史を紹介しその意義について考察することとしたい。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学部児童学科の専門科目として位置づけられている。			
評価方法 出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。			
教科書 プリントを配布する 稲生勁吾『社会教育・生涯学習概論』樹村房			

社会心理学	春	週2回	4単位
担当者：水島 友昭			
講義の目標及び概要 1、内容 社会の中にリスクや不安は様々な形で存在する。例えば、事故・災害のリスク、環境リスク、将来のリスク等がある。本講義では実際に社会で起きている事象を取り上げ、リスクや不安が社会、および人間にどのように位置付けられ、対応されているかに対して議論を行う。また評価するためには、多変量解析法の手法を取り上げ、評価方法の基本、利用方法、利用の際の問題点とその限界を事例を用いて講義を行う。 2、カリキュラム上の位置づけ 社会心理学の基礎的な領域を取扱う。また、本講義では数学を使うが、数学は本質ではない。数学の知識は特に必要としない。 3、学びの意義と目標 本講義では社会に存在する事象に対する考え方、その対応方法を心理学的に理解すること目標にしている。また、講義で用いた手法は他の領域でも利用が可能である。他の領域でも利用できるように様々な方向から見た場合の利用方法について理解することを目標にする。			
評価方法 出席（75点）、レポート（25点）で評価を行う。レポートはオンライン呈で提出。特に試験はしない。出席は2/3以上、かつレポート提出は必須。出欠に関しては講義ごとに行う。また、レポートは2000字以上を基本とする。			
教科書 プリントを配布する			

社会政策	春	週2回	4単位
担当者：金子 良事			
講義の目標及び概要 (1) 内容：社会政策は治安政策という性格からスタートし、徐々に福祉政策という性格を加えていきました。治安政策とは社会を安定的に維持させるという意味です。福祉とは「しあわせ」という意味で、福祉政策は多くの人の幸せを実現するための手伝いをするという意味がありました。この講義では、歴史的な社会政策の展開を学びながら、受講者の皆さんに「福祉」の意味を自分のこととして考えてもらいます。 (2) カリキュラム上の位置づけ：秋学期の「労使関係論」と関連しますが、特に履修する義務はありません。 (3) 学びの意義と目標：歴史というのは古いことを知るだけでなく、現在を知る手段です。本講義ではいろいろな考える材料やその方法を提供しますので、そういうものを少しでも自分のものにして、考える習慣を身につけることを目標とします。			
評価方法 期末試験によって行います。ただし、講義への取組等の平常点を加えることがあります。			
教科書 プリントを配布する			

社会調査の基礎	秋	週1回	2単位
担当者：鷹野 吉章			
講義の目標及び概要 <ul style="list-style-type: none"> 社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。 統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。 量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。 			
評価方法 レポート30%、筆記試験50%、出席点20%によって算出する。			
教科書 授業の中で指示する			

社会調査の実際	秋	週1回	2単位
担当者：古谷野 亘			
講義の目標及び概要 調査は、人間の意識や行動、社会現象に内在する法則性を発見するために用いられる社会・行動科学の研究手法である。この講義では、高齢者に対する調査研究の実例を用いながら、社会調査を行うにあたって必要な技術の説明と、社会科学研究方法としての調査の意義と限界について論じる。			
評価方法 筆記試験（50%）とレポート（50%）。レポートはオンライン・レポート提出システムにより送信しなければならない。			
教科書 古谷野 亘・長田久雄『実証研究の手引き：調査と実験の進め方・まとめ方』ワールドプランニング			

社会調査論	春 週2回 4単位
担当者：新津 尚子	
講義の目標及び概要 1. 内容 今日、学術的な社会調査の他、世論調査や市場調査など様々な種類の社会調査が行われている。本講義では社会調査について、前半は調査データの読み方や歴史・理論を主に学ぶ。後半は社会調査を行うための基礎的なスキルの習得を目指す。具体的には、実際にアンケート調査票を作成し、小規模の模擬的な調査を実施、結果を集計・分析することで、実践的な知識を習得する。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目は政治経済学科社会学系の専門科目であり、政治経済学科の学生がこの科目を履修するには、専門基礎科目の「社会学」を修得しておかなければならない（他学科の学生も、社会学を修得しておくことが望ましい）。 3. 学びの意義と目標 新聞などに発表される社会調査データを読むことは、現代社会で生活する上で必要なスキルの一つである。本講義ではデータを正しく読むスキルと共に、卒業研究などで必要な場合に調査を行うことができる基本的スキルの習得を目指す。	
評価方法 小テスト（小レポート）30%、期末レポート40%、出席30%で評価する。	
教科書 プリントを配布する	

社会福祉	春 秋 週1回 2単位
担当者：大塚 健司	
講義の目標及び概要 講義の概要及び目標 1. 目的 社会福祉は、現代社会において国民一人ひとりが「豊かな生活」を実現していくために欠くことができない生活保障の制度である。障がい者や認知症高齢者、養護児童などを単に「社会的弱者」としてとらえるのではなく、生活の主体者である国民が直面している「生活問題」として認識することが重要である。 2. カリキュラム上の位置づけ 保育士資格に連動する科目である。将来保育所等の児童福祉施設に従事する保育者として必要な基礎的知識と専門的技術の習得の重要性について理解させる。 3. 学びの意義と目標 現代社会における生活問題、これらの問題を出現させている現代社会の状況、多様化した社会福祉ニーズ、それに対応することがせまられている社会福祉の法律・制度・サービスを正しく理解することと今日の社会福祉の果たす役割とその重要性について理解する。	
評価方法 『楢山節考』深沢七郎読書感想レポート30%、学期末試験（レポート等）70%、原則15回出席すること。	
教科書 プリントを配布する	

社会福祉運営管理論	春集中 2単位
担当者：早坂 聡久	
講義の目標及び概要 ・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。 ・福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論について理解する。 ・福祉サービスの運営と管理運営について理解する。	
評価方法 論述を中心とした筆記試験及び講義中のミニレポート（60%）、出席状況（40%）を総合して評価する。出席及び受講態度を重視する（欠席減点法）。	
教科書 授業の中で指示する 久門道利・西岡 修 編『福祉サービスの組織と経営』弘文堂	

社会福祉援助技術演習	通年 週1回 2単位
担当者：笹路 悟	
講義の目標及び概要 〈内容〉本講義は、社会福祉援助技術の原理・原則を、現場を中心とした福祉実践例を数多く採り上げて（全部で150事例以上）、グループによる演習形式で学んでいけるように配慮しながら、将来保育や養護現場でも活用したり、応用したりできるようにとのねらいがある。また、各グループでの討議結果は、「事例解決発表」という形でみんなの前で発表する。発表後、事例問題の一つ一つに、私がコメントをする形を採っている。 〈カリキュラム上の位置づけ〉すでに養護原理や養護内容等を履修していることが望ましい。児童学科生にとっての社会福祉援助技術は、かつての教養的な段階から、日常業務に不可欠な専門技術の習得へと変わってきていることを強調しておきたい。 〈学びの意義〉この講義では、「利用児者や現場から学ぶ」という一貫した姿勢を持って進めていく。他の仲間たちの意見にも耳を傾けて「自分と意見の異なる人」からも学べる態度を身につけ、その上で、様々な援助技術を知り、それらを現場で応用できるような能力を磨いていきたい。	
評価方法 通年の演習なので、春期第15講時、秋期第30講時に定期試験を実施する（80%）。出席回数、レポート課題提出、出席票への意見、感想、疑問等の記入などを「授業への参加度」として評価する（20%）。	
教科書 プリントを配布する	

社会福祉援助技術演習 A	秋	週1回	1単位
担当者：野口 祐子/中谷 茂一			
講義の目標及び概要 社会福祉援助技術演習 A では、自己覚知・他者理解、基本的なコミュニケーション技術の習得、基本的な面接技術の習得に関する実技指導を行う。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] (1) 自己や他者を客観的に理解し、社会福祉援助技術現場実習で活用することができる。 (2) 基本的コミュニケーション技術を習得し、人間関係を円滑に形成することができる。 (3) 基本的な面接技術を習得し、社会福祉援助技術現場実習で援助関係を円滑に形成することができる。			
評価方法 演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。			
教科書 プリントを配布する			

社会福祉援助技術演習 A (107・108W生用)	春	週1回	1単位
担当者：田村 綾子			
講義の目標及び概要 社会福祉援助技術演習は、具体的な事例や援助場面を想定したロールプレイングを中心とする演習形式により、社会福祉援助技術論や各福祉論の講義、現場実習と関連させながら社会福祉援助技術を習得する科目である。社会福祉援助技術の特性として、講義を聞いただけでの習得は不可能であり、学生自身が主体的に取り組まなければならない。 社会福祉援助技術演習 A では、具体的にバリアフリーや地域への関わりを通して、地域に貢献できる福祉人になることを目的とする演習を行う。			
評価方法 演習での学習状況、発言、レポート課題の総合評価。これ以外でも福祉人として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。			
教科書 プリントを配布する			

社会福祉援助技術演習 B	春	週1回	1単位
担当者：野口 祐子/山口 圭			
講義の目標及び概要 社会福祉援助技術演習 B では、第一に、具体的な課題別の相談援助事例（集団に対する相談援助事例を含む）を活用し、総合的・包括的な援助について実践的に習得するための演習を行う。第二に、地域福祉の基盤整備と開発に関わる事例を活用した実技指導を行う。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] (1) 個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、エコシステムの視座に基づき、ミクロ、メゾ、マクロの関係から捉えることができる。 (2) 個別具体的な相談事例や地域福祉の基盤整備・開発に関わる事例について、適切な支援方法を選択し、実施することができる。			
評価方法 演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。			
教科書 プリントを配布する			

社会福祉援助技術演習 C	春	週1回	1単位
担当者：山口 圭			
講義の目標及び概要 社会福祉援助技術演習 C では、相談援助事例を題材として、相談援助の過程や相談援助場面を想定した実技指導を行う。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 相談援助の過程に基づいた援助方法を理解し、社会福祉援助技術現場実習において効果的に実践することができる。			
評価方法 演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。			
教科書 プリントを配布する			

社会福祉援助技術演習 D		秋	週1回	1単位
担当者：田村 綾子/山口 圭				
講義の目標及び概要 社会福祉援助技術演習Dでは、社会福祉援助技術現場実習で得た事例を検討することにより、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術を習得するため、集団指導・個別指導による実技指導を行う。				
授業修了時の達成課題 個別具体的な相談事例について、事例検討を通して、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てることができる。				
評価方法 演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。				
教科書 授業の中で指示する				

社会福祉援助技術現場実習		秋集中	6単位
担当者：山口 圭/池 弘子/野口 祐子			
講義の目標及び概要 社会福祉援助技術現場実習の目的は、次のとおりである。 (1)社会福祉援助技術現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 (2)社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 (3)関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 授業全体の内容の概要 社会福祉実践現場において、実習指導者の指導のもと、合計180時間以上に及ぶ実習教育を行う。 授業修了時の達成課題（到達目標） (1)社会福祉実践現場の体験を通して、社会福祉士としての使命と倫理を自覚できる。 (2)社会福祉士として必要な価値・知識・技術を獲得することによって、今後の現場実践で効果的に活用できる。			
評価方法 実習指導者と担当教員による総合評価。実習時間の合計が180時間以上なければ単位を認定しない。また、規定時間数の実習を終了していても評価水準に達していなかったり、社会福祉士としての資質に欠けていたりする場合も単位を認定しない。			
教科書 授業の中で指示する			

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ		春	週1回	1単位
担当者：山口 圭/野口 祐子/増田 公香/中谷 茂一				
講義の目標及び概要 授業全体の内容の概要 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰでは、現場実習の目的や意義を理解することによって実習への動機づけを行うとともに、プライバシー保護と守秘義務、専門援助技術に関する知識と技術の再確認、関連業務に関する基本的理解、実習記録ノートの作成方法に関する事前学習を行う。				
授業修了時の達成課題（到達目標） (1)現場実習の目的や意義、プライバシー保護と守秘義務、介護や保育などの関連業務、実習記録ノートの作成方法について理解し、現場実習において活用することができる。 (2)これまで学んだ専門援助技術を再確認し、現場実習において活用することができる。				
評価方法 レポート、受講態度、および授業への出席状況から総合的に評価する。 社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。				
教科書 白澤政和・米本秀仁『社会福祉士相談援助実習』中央法規 ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2011〔平成23年版〕』ミネルヴァ書房				

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ		通年	週1回	2単位
担当者：山口 圭/池 弘子/野口 祐子				
講義の目標及び概要 春学期は、配属実習先の施設・機関等の理解、利用者理解、実習計画の作成に関する事前学習を行う。秋学期は、現場実習前に、実習中の諸注意を徹底するとともに、現場実習中に、学内における指導及び自己学習を行う。また、現場実習後に、各自の実習体験を振り返り、実習課題の整理、実習報告書の作成に関する事後学習を進めるとともに、現場実習の総括としての実習報告会を開催する。 授業修了時の達成課題 【春学期】(1)配属実習先の施設・機関や利用者の全体的特徴・動向等について理解し、現場実習において活用することができる。(2)現場実習を計画的に行い、事後評価を適切なものにするため、各自の配属実習先に応じた実習計画を作成することができる。【秋学期】個別具体的な実践体験を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。				
評価方法 レポート、受講態度、および授業への出席状況から総合的に評価する。社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。				
教科書 白澤政和・米本秀仁『社会福祉士相談援助実習』中央法規 ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2010〔平成22年版〕』ミネルヴァ書房 厚生統計協会『国民の福祉の動向 2010/2011』厚生統計協会				

社会福祉援助技術論 A		春	週2回	4単位
担当者：田村 綾子				
講義の目標及び概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。 ・ 相談援助の対象について理解する。 ・ 相談援助の過程とそれに係るジェネリック・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。 				
評価方法 定期試験(80%)・小テスト(10%)・課題レポート(10%)を総合的に評価する。出欠席および遅刻早退については、『社会福祉士養成施設等指導要領』に則り、単位認定を行う。				
教科書 『社会福祉学習双書』編集委員会 編『新版・社会福祉学習双書10 社会福祉援助技術論Ⅱ 相談援助の理論と方法』全国社会福祉協議会出版部				

社会福祉援助技術論 B		秋	週2回	4単位
担当者：鷹野 吉章				
講義の目標及び概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談援助に係るクリニカル・ソーシャルワークの知識と技術について理解する。 ・ 相談援助にかかわる様々な実践モデルについて理解する。 ・ 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 ・ 相談援助の実践（権利擁護活動を含む）について理解する。 				
評価方法 中間試験40%、期末試験40%、出席点20%によって算出する。				
教科書 プリントを配布する				

社会福祉学特講		春	週1回	2単位
担当者：田村 綾子/山口 圭				
講義の目標及び概要 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に向けた総括的な講義である。 社会福祉士・精神保健福祉士は、地域を基盤とするソーシャルワーカーとして、一人ひとりの利用者の多様なニーズを解決・緩和するための総合的な支援を行うことが求められている。「人間・環境の交互作用」を基盤として、ソーシャルワークの「価値」、「知識」、「技術」を体系的におさえておかなければ、ソーシャルワーカーとしての総合的な支援を行うことは難しい。 そこで、本講義では、「国家試験出題基準」を拠り所とし、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる「価値」、「知識」、「技術」について体系的に理解することを目標とする。 講義の性質上、受講可能者は、「社会福祉援助技術現場実習」、もしくは、「精神保健福祉援助実習」の単位を習得した者に限定する。				
評価方法 小テスト(50%)と定期試験(50%)によって評価を行う。本科目は、実習関連科目の一つであるので、原則として欠席や遅刻が認められない。そのほか受講態度において、福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。				
教科書 日本社会福祉士養成校協会編『社会福祉士国家試験 過去問一問一答＋α 2011 (共通科目編・専門科目編)』中央法規 ユーキャン社会福祉士研究会『2011年版 U-CANの社会福祉士 速習レッスン (共通科目)』自由国民社 ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2011 [平成23年版]』ミネルヴァ書房				

社会福祉行政論		秋	週2回	4単位
担当者：榊 伴夫				
講義の目標及び概要 〈内容〉児童虐待、DV、高齢者虐待の背景は何か。家庭機能の減退、晩婚化、単身世帯の増加、雇用形態の多様化などを要因として社会保障制度は転換を迫られている。保育・教育・介護などの機能を社会が担うことはどこまで可能か。社会福祉を取り巻く環境が大きく変わりつつある。福祉における行政と民間の役割は。福祉にたずさわる人材の育成をどのように進めていくか。法律や制度は社会の進展につれてどのように発展してきたのか。「介護の社会化」「措置から契約へ」「自立・自助・自己責任」「格差社会」などの意味するところを学ぶ。 〈カリキュラムの位置づけ〉社会福祉関係の基本的法制度を社会の進展とともに学ぶ。、児童・障害者・高齢者・母子・生活保護行政などの施策を学び、今日の課題をコミュニティとの関連で学ぶ。 〈学びの意義と目標〉社会福祉・医療・年金など生活に大きく関わる分野を、行政や民間活動などと関連させてさせて体系的に学び論理的思考を培う。				
評価方法 期末テストは、レポート(教科書、参考図書、ノートなど持込可)作成。800字程度。テーマは当日指示します。出席状況・態度(コミュニケーション能力を高める質問・発言・意見交換など)を7割の評価とします。				
教科書 岩田正美、武川正吾、永岡正己、平岡公一編『社会福祉の原理と思想』有斐閣				

社会福祉原論	秋	週2回	4単位
担当者：牛津 信忠			
講義の目標及び概要 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について考察するとともに、特に次の諸点について力点を置き、理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 ・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 ・福祉政策の課題について理解する。 ・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。 ・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。 ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 			
評価方法 出席率、授業の終わりに行う小テスト、および学期末の論文形式の試験によって、総合的に評価する。授業態度をも、評価に加えることを認識しておくこと。			
教科書 プリントを配布する			

社会保障論	秋集中	4単位
担当者：宮寺 良光		
講義の目標及び概要 ・現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。 ・社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。 ・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 ・社会保障制度の体系と概要について理解する。 ・年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。 ・諸外国における社会保障制度の概要について理解する。		
評価方法 平常点（出席＋小課題：60点）＋ 期末試験（140点）＝ 総合得点（200点）		
教科書 授業の中で指示する		

社会老年学	秋	週1回	2単位
担当者：古谷野 亘			
講義の目標及び概要 子どもが心身の発達と並行して社会生活の変化を経験していくのと同様に、人生の後半においても、人は心身の変化と社会生活の変化を経験する。この講義では、人生の後半で経験される心身および社会生活の変化を取り上げ、人が“高齢者”となっていく過程を検討する。そして、個人の高齢化の理解を前提として、高齢者の割合が高い社会（高齢社会）への移行に際して問題となる事象、また特に高齢社会への移行が急速であった場合に深刻になる事象を明らかにして、近未来の日本の高齢者がどのような人々であり、彼（女）らのためにどのような施策が求められているかを考える。			
評価方法 レポート（50％）と筆記試験（50％）。学期中に複数回のレポート提出を求める。レポートはオンライン・レポート提出システムにより送信しなければならない。			
教科書 古谷野亘・安藤孝敏『改訂 新社会老年学：シニアライフのゆくえ』ワールドプランニング			

宗教学	春	週2回	4単位
担当者：柴田 史子			
講義の目標及び概要 ◆内容および学びの意義 宗教をより良く生きようとする「普通の人々」の営みと捉え、宗教にまつわる文化現象、社会現象について学んでいく。諸宗教についての一般的な知識を習得した上で、価値中立的な視点から宗教を理解し、研究する方法について学ぶ。 なじみのない宗教について学ぶことは、異文化理解の第一歩となるであろう。また、日本の宗教について学ぶことは、これまで特に意識することのなかった自分自身の内にある宗教的な感性について考える機会となるであろう。 さらに、哲学・思想研究を志すものにとっては、入門的な意味合いを持つ科目である。 ◆カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目の「文化・芸術」科目の中に位置づけられている選択科目で、隔年に開講される。			
評価方法 中間テスト（30％）、期末テスト（70％）			
教科書 プリントを配布する			

就労支援サービス	春集中	1単位
担当者：野口 勝則		
講義の目標及び概要 <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。 ・就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。 ・就労支援分野との連携について理解する。 		
評価方法 出席状況と各日の終わりに行うテスト（合計2回）の結果等により評価します。配点は、原則として出席点50%、テスト50%とします。		
教科書 授業の中で指示する 朝日雅也・布川日佐史編著『MINERVA社会福祉士養成テキストブック就労支援』ミネルヴァ書房		

出版・編集論	秋	週2回	4単位
担当者：山本 俊明			
講義の目標及び概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 〈内容〉 わたしたちが読んでいる出版物（書籍や雑誌）を造りだしている「出版編集者」は、実際にどのような仕事をしているのか。本講座では、出版編集者が担当する「立て」（単行本と雑誌の企画）、「取り」（「原稿取得」「取材・原稿作成」と「編集」）、「造る」（「ブックデザイン」と「製本」）といわれる出版過程を実際に体験しながら、出版の理論と方法を学ぶ。 2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 関連科目に位置づけられているが、将来の職業選択の参考となるようにキャリアガイダンスになることを目指している。 3) 〈学びの意義と目標〉 本講義の内容は、実際にコミュニケーション・メディアとしての出版物の出版過程を学ぶことであるが、学んだことを通して、読み書くというコミュニケーションの基礎能力を伸ばすこととメディアに対する批判力を身に付けることがこの授業の目標である。 			
評価方法 授業評価は、「企画書」「雑誌原稿」（インタビュー原稿）「出版と差別問題」「自分の本」の4つの原稿・レポートに与えられる平常点と出席回数8割以上の出席点によって評価される。			
教科書 プリントを配布する			

生涯学習概論	春	週1回	2単位
担当者：小池 茂子			
講義の目標及び概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容 2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。 また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を 目指そうとしているのか、講義を通じて共に考えていきたいと考えている。 2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事・図書館司書の資格取得必修科目と位置づけられている。（資格取得を考えていない学生の受講も歓迎する。） 3. 学びの意義と目標 生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革とそこに於ける課題など、広くテーマを設定し、社会教育主事の専門性につながる事項の理解を目指す。 			
評価方法 出席（20%）と試験（80%）を一応の目安としつつ、総合的に評価する。			
教科書 授業の中で指示する 国立教育政策研究所社会教育教育実践センター『改訂生涯学習ハンドブック』国立教育政策研究所社会教育教育実践センター			

生涯学習概論 A	春	週1回	2単位
担当者：小池 茂子			
講義の目標及び概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 内容 2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。 また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を 目指そうとしているのか、講義を通じて共に考えていきたいと考えている。 2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事・図書館司書の資格取得必修科目と位置づけられている。（資格取得を考えていない学生の受講も歓迎する。） 3. 学びの意義と目標 生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革とそこに於ける課題など、広くテーマを設定し、社会教育主事の専門性につながる事項の理解を目指す。 			
評価方法 出席（20%）と試験（80%）を一応の目安としつつ、総合的に評価する。			
教科書 授業の中で指示する 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『改訂生涯学習ハンドブック』国立教育政策研究所社会教育実践研究センター			

生涯学習概論B	秋	週1回	2単位
担当者：小池 茂子			
講義の目標及び概要 1. 内容 本講義では第1に、我が国の戦前・戦後の社会教育の理念について学ぶ。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年以降の教育答申等の内容を通して捉える。第3に、戦後間もなく社会教育施設として全国に設置された代表的社会教育施設である公民館の成り立ちと機能について取り上げ、さらに生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズ、及び現代的な地域課題に対応すべく21世紀に求められる公民館の機能と課題について展望する。 2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられている。(勿論、資格取得を目指す学生の受講も歓迎する。) 3. 学びの意義と目標 戦前・戦後の教育政策の流れの中で、社会教育政策がどのような教育政策を展開してきたのかを理解する。また、生涯学習の時代の中で公民館に求められる現代的教育機能課題について理解を深める。			
評価方法 出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。			
教科書 授業の中で指示する 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『改訂生涯学習ハンドブック』国立教育政策研究所社会教育実践研究センター			

障害児教育	秋	週1回	2単位
担当者：石川 由美子			
講義の目標及び概要 〈内容〉 本講義では、通常クラス(幼稚園、小学校など)において特別な配慮(特別支援教育)が必要となる軽度の発達障害をもつ子どもあるいは、気になる子どもにも焦点をあてる。特別な配慮が必要な子どもをクラス集団の中で発見し、評価し、具体的な支援を提供するプロセスを概説していく。また、事例を通して、グループ学習を行い、実際に援助の方法や個別教育プログラムを考え、模擬授業を実演してみることで、具体的な援助方法を学ぶ。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 障害児保育で障害に関する基盤知識を身につけた後の中級的な水準となる。障害児への具体的な援助技法を学ぶ。 〈学びの意義と目標〉 教育・保育の現場で専門的な援助の方法を実践できるための基盤を養うことができる。			
評価方法 講義への出席や参加の程度などの平常点(最大40点)、課題レポートおよびIEPの作成と模擬授業の発表(最大60点)			
教科書 授業の中で指示する			

障害児保育	春	秋	週1回	1単位
担当者：石川 由美子				
講義の目標及び概要 〈内容〉 本講義は、はじめに絵本などの媒体に描かれる『障害』を通して障害ということばを構成している複雑な意味世界を履修者自身が主体的に理解するための足場を提供する。また、障害理解のための模擬授業を実演することで、具体的な障害特徴に関する学習、および障害児保育に関する基礎力(関係性の援助、遊びなど)を身につける。各障害特徴に関する学習については、事前にGW課題(主な障害の定義、病因、発達特徴など)を課し、共同した仲間学習によって学習の促進を促す。知識や体験の共有を通してながら、障害児保育のための基礎的な能力と援助方法を身につける。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 障害児保育のための基礎知識、援助方法を学ぶ。 〈学びの意義と目標〉 障害とは何かを考えることで、人間が生きることの意味を考察できる。インクルーシブ社会の実現を目指す専門職として、障害児と健常児・者のかかわりの重要性を理解できるようになる。				
評価方法 グループ学習への参加の程度やプレゼンテーション、出席を含む参加態度などの平常点(最大40点)、知識確認のためのミニテスト(20点)および課題レポート(最大40点)。グループ学習の進度に応じて授業構成に若干の変更が生じる場合もあります。				
教科書 授業の中で指示する 本郷一夫編『シードブック障害児保育』建帛社				

障害者福祉論	春集中	4単位
担当者：増田 公香		
講義の目標及び概要 ・障害の概念や障害者福祉に関わる理念について理解する。 ・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。 ・障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズについて理解する。 ・障害者福祉制度の発展過程について理解する。 ・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度及び障害者の支援の実際について理解する。		
評価方法 1) 中間テスト40%、2) 定期テスト50%、3) 平常点10%、で評価を行います。 尚、出席は受験資格についての判断に用い、評価の対象にはは限りません。		
教科書 授業の中で指示する 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規		

生涯スポーツ実習A(トータルフィットネス) 春 週1回 1単位
担当者：梅津 迪子
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要【トータルフィットネス】 (内容)「フィットネスA・B」の授業を併用して履修することをお勧めしたい。毎回、体脂肪測定や摂取食品を記録し、前半はストレッチ運動、有酸素運動(音楽に合わせて)を行う。後半はアングル、バランスボールを使用した運動のほか、ウォーキング、ミニテニス、バドミントン、テーブルテニス等のスポーツ活動を行う。 (カリキュラム上の位置づけ)基礎体力の維持と生活の中で運動する習慣を身につける。摂取食品の知識や運動方法を学び、自分の健康管理ができる能力を養う。 (学びの意義と目標)動くことの楽しさや爽快感を味わい、実践を通して体の変化を体感してほしい。現実の自己の身体状況を把握し健康的な生活ができる能力を身につける。
評価方法 出席率重視 60点(欠席は授業数の1/4まで) 授業に臨む態度・意欲(準備、後片付けの協力) 20点 フィットネスノートの提出 20点 総合的に評価
教科書 プリントを配布する

生涯スポーツ実習A(テニス) 春 週1回 1単位
担当者：太田 涼
講義の目標及び概要 【テニス】 ※中・上級者、テニス受講者が望ましい。スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ(生涯スポーツ)は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢(気持ち)と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力(体力・技術)が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果(健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など)、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。 また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。
評価方法 授業での積極性、協調性、個人技能の向上、ルール理解度等の実習点50点と出席点50点(1回の授業につき欠席-6点、遅刻・早退-2点)の総合評価。
教科書 授業の中で指示する

生涯スポーツ実習A(エアロビックダンス) 春 週1回 1単位
担当者：鈴木 由美
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉 配布資料を基に「健康」について学習しながら、エアロビックダンス・筋力コンディショニング運動(自重を使ったトレーニング、バランスボール、パワーヨガなど)・ストレッチングなどのいつでもどこでもできる身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるよう複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉 豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。 (3)〈学びの意義と目標〉 生活全般(食事・運動・睡眠)にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力が向上すること。
評価方法 出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。 出席(60%)、授業への意欲・関心度(10%)、実技課題の達成度(10%)、学習ノート・レポート(20%)
教科書 プリントを配布する

生涯スポーツ実習A(バドミントン) 春 週1回 1単位
担当者：関 一誠
講義の目標及び概要 【バドミントン】 〈内容〉 日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称は、イギリスのグロスダージャ州バドミントンハウスに由来する。競技バドミントンのシャトルの動きは、スピーディーに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速が大きくラリーを程よく続けることができる。互いのやりとりのおもしろさは、プレイに熱中せずにはいられないだろう。 本授業では、バドミントンの特性を十分に生かしながら技術や知識を個人の教養として身につけてもらうとともに、健康スポーツとして日常の運動習慣の確立、体力の維持・増進、ストレスからの開放等、生涯スポーツとして位置づけることを目的としている。
評価方法 出席点(欠席は1/4まで 50%) 平常点(授業に臨む態度等 20%) 実技テスト、ペーパーテスト(30%) 以上を総合的に判断する
教科書 授業の中で指示する

生涯スポーツ実習 A (サッカー)		春	週1回	1単位
担当者：安部 久貴				
講義の目標及び概要				
1) 内容 サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。				
2) カリキュラムの位置づけ 全学科対象（1年生～可）。				
3) 学びの意義と目標 サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。				
評価方法				
出席状況（60%） 授業態度（40%） ＊授業態度は技術の上手い下手だけではなく、授業への積極性、服装、注意事項を守っているかなどで評価する。				
教科書				
授業の中で指示する				

生涯スポーツ実習 A (バレーボール)		春	週1回	1単位
担当者：鈴木 由美				
講義の目標及び概要				
(1) 〈内容〉 バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。				
(2) 〈カリキュラムの位置づけ〉 生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力の向上。				
(3) 〈学びの意義と目標〉 履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、バレーボールはレクリエーション的な場で行われることも多く、生涯スポーツとしてもその活動機会の多い種目なので、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。				
評価方法				
出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。 出席（60%）、授業への意欲・関心度（10%）、実技課題の達成度（10%）、学習ノート・レポート（20%）				
教科書				
プリントを配布する				

生涯スポーツ実習 A (バスケットボール)		春	週1回	1単位
担当者：安部 久貴				
講義の目標及び概要				
1) 内容 バスケットボールとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パス、シュートといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がバスケットボールをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。				
2) カリキュラムの位置づけ 全学科対象（1年生～可）。				
3) 学びの意義と目標 バスケットボールの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。				
評価方法				
出席状況（60%） 授業態度（40%） ＊授業態度は技術の上手い下手ではなく、授業への積極性、服装、注意事項を守っているかなどで評価する。				
教科書				
授業の中で指示する				

生涯スポーツ実習 B (トータルフィットネス)		秋	週1回	1単位
担当者：梅津 迪子				
講義の目標及び概要				
講義の目標及び概要【トータルフィットネス】 (内容)「フィットネス A・B」の履修と併用して履修することをお勧めしたい。毎時間、各自の体脂肪を測定し、摂取食品を記録し自分の健康状態を把握する。前半はストレッチ、有酸素運動(音楽に合わせて)を行う。後半は器具を使用した運動、ウォーキング実践のほか、ミニテニス、バドミントン、卓球等のスポーツ活動を行う。				
(カリキュラム上の位置づけ) 基礎体力の維持と生活の中に運動習慣を身につける。実践活動を通して体の変化を体感し、摂取食品のバランスを考慮した食生活と健康管理ができる能力を身につける。				
(学びの意義と目標) 動くことの楽しさや爽快感を味わい、実践することで体の変化を体感してほしい。同時に食生活のあり方と運動方法を学び、健康的な生活を維持する能力を養う。				
評価方法				
出席率重視 60点 (欠席は授業数の1/4まで) 授業に望む態度・意欲 20点 (準備・後片付け含む) フィットネスノートの提出 20点 総合的に評価				
教科書				
プリントを配布する				

生涯スポーツ実習B(テニス)		秋	週1回	1単位
担当者：太田 涼				
講義の目標及び概要 【テニス】 ※中・上級者が望ましい。スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ(生涯スポーツ)は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しむこと、遊べる事が重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢(気持ち)と、スポーツで楽しめる、遊べることでできる能力(体力・技術)が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切にし、テニスを通じて、スポーツの効果(健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など)、面白さを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。 また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。				
評価方法 授業での積極性、協調性、個人技能の向上、ルール理解度等の実習点50点と出席点50点(1回の授業につき欠席-6点、遅刻・早退-2点)の総合評価。				
教科書 授業の中で指示する				

生涯スポーツ実習B(エアロビックダンス)		秋	週1回	1単位
担当者：鈴木 由美				
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉 配布資料を基に「健康」について学習しながら、エアロビックダンス・筋力コンディショニング運動(自重を使ったトレーニング、バランスボール、パワーヨガなど)・ストレッチングなどのいつでもどこでもできる身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、思わず身体が動きだるような音楽に合わせて運動する楽しさや爽快感を体感でき、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるような複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉 豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。 (3)〈学びの意義と目標〉 生活全般(食事・運動・睡眠)にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力が向上すること。				
評価方法 出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。出席(60%)、授業への意欲・関心度(10%)、実技課題の達成度(10%)、学習ノート・レポート(20%)				
教科書 プリントを配布する				

生涯スポーツ実習B(バドミントン)		秋	週1回	1単位
担当者：関 一誠				
講義の目標及び概要 【バドミントン】 〈内容〉 日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものの打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称は、イギリスのグロスダーシャ州バドミントンハウスに由来する。競技バドミンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速が大きくラリーを程よく続けることができる。互いのやりとりのおもしろさは、プレイに熱中せずにはいられないだろう。 本授業では、バドミンの特性を充分に生かしながら技術や知識を個人の教養として身につけてもらうとともに、健康スポーツとして日常の運動習慣の確立、体力の維持・増進、ストレスからの開放等、生涯スポーツとして位置づけることを目的としている。				
評価方法 出席点(欠席は1/4まで 50%) 平常点(授業に臨む態度等 20%) 実技テスト、ペーパーテスト(30%) 以上を総合的に判断する				
教科書 授業の中で指示する				

生涯スポーツ実習B(サッカー)		秋	週1回	1単位
担当者：安部 久貴				
講義の目標及び概要 1)内容 サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。 2)カリキュラムの位置づけ 全学科対象(1年生～可)。 3)学びの意義と目標 サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。				
評価方法 出席状況(60%) 授業態度(40%) *授業態度は技術の上手い下手だけではなく、授業への積極性、服装、注意事項を守っているかなどで評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

生涯スポーツ実習B (バスケットボール) 秋 週1回 1単位
担当者：安部 久貴
講義の目標及び概要 1) 内容 バスケットボールとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パス、シュートといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がバスケットボールをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。 2) カリキュラムの位置づけ 全学科対象（1年生～可）。 3) 学びの意義と目標 バスケットボールの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しむで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。
評価方法 出席状況（60%） 授業態度（40%） ＊授業態度は技術の上手い下手ではなく、授業への積極性、服装、注意事項を守っているかなどで評価する。
教科書 授業の中で指示する

生涯スポーツ実習B (バレーボール) 秋 週1回 1単位
担当者：鈴木 由美
講義の目標及び概要 (1) 〈内容〉 バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。 (2) 〈カリキュラムの位置づけ〉 生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力の向上。 (3) 〈学びの意義と目標〉 履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、バレーボールはレクリエーションな場で行われることも多く、生涯スポーツとしてもその活動機会の多い種目なので、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。
評価方法 出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。 出席（60%）、授業への意欲・関心度（10%）、実技課題の達成度（10%）、学習ノート・レポート（20%）
教科書 プリントを配布する

小学校教育実習 秋 週1回 5単位
担当者：深澤 悠紀雄/船田 信昭
講義の目標及び概要 近年学校教育は、社会の変化に直面し様々な問題を抱え、教育改革の論議が活発に行われている。しかし、教育の要は、なんと言っても教育の担い手である教師の肩にかかっていると言っても過言ではない。 教師として、人間として、教育に情熱を傾け、社会の要請に答えることができる教員としての資質を向上させることが期待されているのである。そうした中で、教員養成課程において教育実習の果たす役割は重要な位置を占めている。 教育実習では、大学での理論研究を教育現場で総合的に実証するとともに、児童生徒への教育愛を体得し、教師としての教育実践について足がかりをなす体験をするのである。 本講座では、教育実習を意義あるものにするために、実習に際しての心構えを新たにするとともに、実習の内容、方法等について取り上げるものである。
評価方法 実習校からの報告・評価を中心に、事前児童・事後指導における取り組みを加味して総合的に評価する。
教科書 授業の中で指示する 教育実習を考える会『新編 教育実習の常識』倉丘書林

商業経営論 春 週1回 2単位
担当者：市原 実
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 1. 目的 世の中の 商業活動の実態と経営の方法について実務面にも配慮し 将来役立つことを想定して進めます。 2. カリキュラム上の位置づけ まず 商業を業界全体で捉え 次に 分野別に詳しく研究し その後に 経営内容にふれることにします。 3. 学びの意義と目標 商業の経営を実務的に理解できることを目指します。
評価方法 次の点で判断します。 ○ 出席の状況・40% ○ 数回のミニレポート・20% ○ 課題（私の考える商売）のレポート・40%
教科書 プリントを配布する

小児栄養	春集中 秋集中 2単位
担当者：大月 典子	
講義の目標及び概要	
1. 内容 食生活の「質」については様々な情報と価値観が生まれ、あらたな食生活の意義が問われつつある現代、基礎的な栄養の知識は不可欠である。活発な発育段階にある小児期は、栄養摂取の重要性が最も優先される時期である。小児期の食の重要性について理論と実践を通して学ぶとともに、小児のみならず生涯を通じての食生活の意義について考察する。	
2. カリキュラム上の位置づけ 小児に特化した実習を行う基礎的な栄養学入門である	
3. 学びの意義と目標 栄養素とその代謝に関する科学的な知識を得、小児の発育段階に応じた栄養素の重要性について理解するとともに、実習により体験する。また指導者として食と関わる可能性を各自で具体的に考察および提案し、最終的に自身の食生活についても配慮できる生活習慣を構築する。	
評価方法	
出席70% 実習レポート10% 最終レポート(必須) 20%	
教科書	
飯塚美和子 他『最新子どもの食と栄養 (第7版)』学建書院	

小児保健Ⅰ	春 週1回 2単位
担当者：平田 美佳/小林 京子	
講義の目標及び概要	
1. 内容： 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を知り、子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達と生活の中での発育・発達支援、子どもの病気や事故の特徴とその予防方法等の基礎を理解する。	
2. カリキュラム上の位置づけ： 保育士資格を取得するための必修科目である。小児保健に関する基礎的な科目として、「小児保健Ⅱ」を履修する前提となり、「小児保健実習」と連動する。	
3. 学びの意義と目標： 保育における子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。子どもの心身の健康問題の原因が、養育環境や養育方法にあることを認識し、それらの問題に適切に対処し、保健活動を通して子どもやその家族を支援できるようにする基礎を習得する。また、子どもの病気や事故の特徴についての基礎を理解する。	
評価方法	
【小林担当分】試験80％、授業参加度（20％）により評価する。 【平田担当分】試験（80％）、授業への参加態度（出席率・積極的な発言や質問:20％）により総合的に評価する。	
教科書	
竹内義博、大矢紀昭編『よくわかる小児保健（やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ）』（ミネルヴァ書房）母子保健事業団『母子健康手帳』（母子保健事業団）加藤忠明、岩田力著『図表で学ぶ子どもの保健<1>』（健帛社）	

小児保健Ⅱ	秋 週1回 2単位
担当者：平田 美佳/小林 京子	
講義の目標及び概要	
1. 内容： 「小児保健Ⅰ」で学修した内容を踏まえ、保育における衛生管理・安全管理等、保健活動について知り、施設等における子どもの心身の健康および安全を守るための支援体制について理解する。また、病気や障がいを持った子どもの保育について学ぶ。	
2. カリキュラム上の位置づけ： 保育士資格を取得するための必修科目である。小児保健に関する応用的な科目として、「小児保健Ⅰ」の学修内容との連続性を持ち、「小児保健実習」と連動する。	
3. 学びの意義と目標： 子どもの健康状態を、家庭生活と施設における集団の保育生活等のレベルで理解する。子どもがかかりやすい病気や起こりやすい事故、子どもに多い症状や子ども特有の心身の変調の表現について理解する。また、それらの予防および早期発見、病気や事故への対応を理解し、保育現場で応急処置ができるような基礎知識を習得する。さらに、子どもの心身の健康が、家庭や地域と密接な関係があることを認識し、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性を理解する。病気や障がいを持った子どもについて、子どもの権利を守った生活の保障と支援、医療と保育の連携の重要性を理解し、その具体的な方法を知る。	
評価方法	
【小林担当分】試験（80％）、授業参加度（20％）により評価する。 【平田担当分】試験（80％）、授業への参加態度（出席率・積極的な発言や質問:20％）により総合的に評価する。	
教科書	
竹内義博、大矢紀昭編『よくわかる小児保健（やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ）』（ミネルヴァ書房）母子保健事業団『母子健康手帳』（母子保健事業団）加藤忠明、岩田力著『図表で学ぶ子どもの保健<1>』（健帛社）	

小児保健実習	春 秋 週1回 1単位
担当者：福田 里美	
講義の目標及び概要	
〈内容〉 子どもの健康保持・増進のために必要な疾病予防、疾病罹患時などの援助技術を学ぶ。また、保健指導に必要な教材づくりや実践方法を学ぶ。	
〈カリキュラム上の位置づけ〉 「小児保健」で学んだ理論をふまえて実践できる応用的能力と技術を習得する保育士資格取得のため必修の実習科目である。	
〈意義と目標〉 多様な保育サービスが求められている現代社会では、小児の健康な時の援助だけではなく、疾病罹患時などの子どもの姿を理解し、それぞれに対応できる援助内容を実践できることの意義はおおきい。このことを踏まえ、集団あるいは一人ひとりの子どもへの保健行動が実践できるスキルを身につけることを目標とする。	
評価方法	
(1)出席20% (2)実習態度、レポート20% (3)定期試験（筆記、実技）60%	
教科書	
榊原 洋一『よくわかる小児保健実習ノート』診断と治療社	

商法B(会社法)	春	週2回	4単位
担当者：佐藤 文彦			
講義の目標及び概要 <p>〈内容〉世界の経済においてその中心的な担い手は、株式会社企業である。そして、この株式会社企業組織を主要な規整の対象とするのが、本講義で扱う「会社法」である。</p> <p>本講義では、会社法のうち、この株式会社企業に関する諸制度を中心に解説する。ここでは、なぜ株式会社企業が世の起業家に、そして世界経済に受け入れられているのかという疑問から出発して、株式会社企業が抱える法的諸問題を会社法がどのように規整しているのかという問題へと発展的に突き詰めていくこととする。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉(株式)会社企業組織を法的観点から理解することは政治・経済を学ぶ者にとっても有益である。会社企業一般の組織を規律する法としての会社法を商法Bとし、専門科目群コミュニティ経営系統の選択科目として開講する。</p> <p>〈学びの意義と目標〉将来起業しようとする者や企業に就職しようとする者にとって必要な、株式会社企業組織に関わる法実践的な素養を身につけることを目標とする。</p>			
評価方法 学期末試験の結果をもって評価する。			
教科書 落合誠一ほか『商法2会社 第8版』有斐閣 2010年 2100円			

情報科教育法Ⅰ	春	週1回	2単位
担当者：石部 公男			
講義の目標及び概要 1. 目的 本授業は高等学校の「情報」の教員免許を取得し、将来情報科の科目を担当使用と志す学生のための授業である。したがって教員免許取得を目指す学生に対する授業として、授業で担当する各科目の指導目標や、教科の特徴、および関連する教育活動についての法的根拠などについてもあわせて学習することを目的とする。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の学生が履修する科目であるが、学科の専門科目とは別枠の位置づけであり、必要卒業単位の枠外となる。 3. 学びの意義と目標 普通教科「情報」のみならず、専門教科「情報」の担当者としてふさわしい生徒指導ができるための基本的な事柄の理解と態度を養うことを学びの目的とする。			
評価方法 平常点60%（小テスト等の結果を含む）と出席点40%			
教科書 文部科学省(17)『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂出版株式会社			

情報科教育法Ⅱ	秋	週1回	2単位
担当者：石部 公男			
講義の目標及び概要 1. 目的 情報科教育法Ⅰに引き続き、同様の下記授業目的で本授業を行う。 授業は高等学校の「情報」の教員免許を取得し、将来情報科の科目を担当使用と志す学生のための授業である。したがって教員免許取得を目指す学生に対する授業として、授業で担当する各科目の指導目標や、教科の特徴、および関連する教育活動についての法的根拠などについてもあわせて学習することを目的とする。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の学生が履修する科目であるが、学科の専門科目とは別枠の位置づけであり、必要卒業単位の枠外となる。 3. 学びの意義と目標 普通教科「情報」のみならず、専門教科「情報」の担当者としてふさわしい生徒指導ができるための基本的な事柄の理解と態度を養うことを学びの目的とする。			
評価方法 概ね以下の配分で評価をする。平常点30%、出席点30%、試験40%			
教科書 文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編(17)』開隆堂出版株式会社			

情報機器論	春	週1回	2単位
担当者：田村 貴紀			
講義の目標及び概要 【1. 内容】情報機器は図書館の利便性を向上させた。館内、館外からのOPACによる情報サービス面だけではなく、図書館の資料・情報の保存という観点からも「電子化」が進み、増え続ける電子情報の保存・閲覧という点からも、種々の「情報機器」からなるシステムが必要になってくる。さらに、単なる利便性の向上にとどまらず、情報機器は図書館の概念をも拡張するものになっている。「図書館」学が「図書館・情報」学へとシフトした経緯にも、情報機器が大きく関与しているといえるだろう。本講では、この情報機器に関する理解を深め、活用できる技術を習得する。授業においては、できるだけNetCommons等のe-learning systemを活用して、相互的であると同時にコンピューター・リテラシーも向上する講義を目指す。 【2. カリキュラム上の位置づけ】司書として必要な情報機器の知識・技術の習得 【3. 学びの意義と目標】新しい図書館における多彩な情報メディアについて、その社会的意義を確認し、それをふまえて意義と目的を理解する。また、情報検索の指導に必要な各種概念・知識を身につける。			
評価方法 平常点40% 期末試験またはレポート60%。しかし、履修人数によっては、授業内の発表および演習で採点し期末試験などを課さない場合もある。 パソコンを使って実習するので、出席することが必要である。			
教科書 原田 智子 岸田 和明 小山 憲司『情報検索の基礎知識 新版』情報科学技術協会			

情報基礎	春	週1回	2単位
担当者：国分 道雄			
講義の目標及び概要 (内容) 現代の高度情報化社会において、教育現場でも情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。 (カリキュラム上の位置づけ) 2011年度入学の教職課程履修者(コミュニティ政策学科を除く)向けの科目である。 基礎科目であり、2011年度入学生は「情報基礎」または「情報リテラシー」のいずれかを修得することが卒業要件である。 (学びの意義と目標) コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフト/表計算ソフト/プレゼンテーションソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、教育を行ううえでも重要である。 この授業では、教職課程履修者が、パソコンの基本知識・技術を修得し、大学生活および卒業後に必要な文書作成や正しい情報の取扱いができるようにする。			
評価方法 実習が多いため、出席を重視する。 毎時間の提出課題の内容(50%)と、学期末の筆記試験(50%)により評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

情報検索演習	春	秋	週1回	1単位
担当者：坂内 悟				
講義の目標及び概要 1. 内容 一次資料と二次資料をはじめとする情報検索の基礎知識を身に付け、データベースの情報検索における役割を理解する。また、データベースの基礎、歴史、作成プロセスなどを概観し、検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。 2. カリキュラム上の位置づけ 本科目は、図書館情報学課程の必修科目である。 3. 学びの意義と目標 情報検索サービスを理解する。 インターネット上のサービスについて自由に操作できるスキルを習得する。 図書館司書として仕事をするための各種の情報サービスについて理解する。				
評価方法 試験85点 出席点と平常点を合わせて15点				
教科書 緑川信之『新訂 情報検索演習』東京書籍				

情報サービス概説	春	秋	週1回	2単位
担当者：気谷 陽子				
講義の目標及び概要 今日、情報社会が深化し、誰でもが一定の情報活用能力を持つことが求められるようになってきた。情報サービスとは利用者と情報資源を結びつけるために図書館職員が行なう図書館サービスである。司書が情報サービスを効果的に行なうには、利用者、情報資源、図書館サービスに関する幅広い知識が不可欠である。授業では、こうした知識にもとづき、司書としての高い見識がもてるよう、情報サービスの基礎的な知識について解説する。				
評価方法 定期試験の成績(70%) 出席点、平常点(各15%)・・・出席点とは授業への出席そのものに与えられる得点であり、平常点とは授業内の学習活動に対して与えられる得点である。				
教科書 渋谷嘉彦『情報サービス概説』樹村房				

情報システム論	秋	週2回	4単位
担当者：国分 道雄			
講義の目標及び概要 (内容) 本講義は情報化社会にあつて各種問題を学生が解決するため、その解決方法としてコンピュータを使用して効率的に問題を処理できる能力を養うためのものである。 社会で現実に存在する代表的な情報システムの特徴を理解し、設計・開発・運用・保守の技術についても修得する。 (カリキュラム上の位置づけ) コミュニケーション系統の専門科目であり、情報教職の必修科目である。 (学びの意義と目標) 自ら情報システムを構築・管理できるようになるための技術・知識の基礎として、主に実習を通してプログラミングを習得することを目的とする。 講義の最後には各自がオリジナルのプログラムを作成する。			
評価方法 実習が多いため、出席を重視する。 毎時間の提出課題の内容(50%)と、学期末の筆記試験(50%)により評価する。			
教科書 プリントを配布する			

情報処理	春	週2回	4単位
担当者：国分 道雄			
講義の目標及び概要 〈内容〉 本講義は情報化社会にあつて情報を科学的に理解するため、情報処理の基礎理論およびコンピュータの構造を学ぶためのものである。 コンピュータにおける情報の表し方・情報処理の特徴等の仕組みや働きを学び、内部の概念モデルを把握する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 コミュニケーション系統の専門科目であり、情報教職の必修科目である。 〈学びの意義と目標〉 アプリケーションシステムを利用する場合にも、表面的な操作を覚えるのではなく、内部での動作を科学的に理解することが重要である。自分の操作に統制感を持ち、問題解決のために主体的に利用できる態度と能力を身につける。			
評価方法 実習が多いため、出席を重視する。 毎時間の提出課題の内容(50%)と、学期末の筆記試験(50%)により評価する。			
教科書 プリントを配布する			

情報通信ネットワーク	春	週2回	4単位
担当者：竹井 潔			
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 現代社会は情報通信ネットワークによるデータ通信に基礎をおく高度情報通信社会となっている。講義ではこのことを踏まえ、情報通信ネットワークの基本的仕組みの理解とともに具体的なネットワークの構築及び設計ができるようにするためその技術と知識について学ぶ。ネットワークの伝送技術及びLAN、インターネットの仕組みや携帯電話、衛星通信などの問題についても取り扱う。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2年～4年対象。コミュニティ情報系の選択必須科目であり、情報教職を履修している人は必ず履修してほしい。 ◆学びの意義◆ 情報社会では、生活においてもビジネス社会においてもネットワークは不可欠なものとなっている。情報伝達の手段としてのネットワークの基本的な構造や特徴を理解することは、これから情報社会に生きる者にとって必須の基礎知識となる。これらを学ぶことによりネットワーク社会におけるコミュニケーションのあり方について考えてもらいたい。			
評価方法 出席(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)			
教科書 プリントを配布する			

情報と職業	秋	週2回	4単位
担当者：渡辺 英人			
講義の目標及び概要 「情報と職業」高等学校普通教科「情報」教員免許取得を目的とする学生の必修科目である。現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。			
評価方法 1. 授業への参加と理解度(50%) 2. 発表およびレポート提出(50%)			
教科書 授業の中で指示する			

情報メディアの活用	春	週1回	2単位
担当者：河島 茂生			
講義の目標及び概要 〈内容〉 学校におけるメディアは多様化の一途を辿っており、なかでもインターネット技術の登場によって、情報検索や情報発信の有り様に変化してきている。授業では、学校図書館が取り扱うメディアの全体像を見据えながらも、インターネット技術の利活用を集中的に論じることにはしたい。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 学校図書館司書教諭課程 資格科目、児童学科 専門科目 〈学びの意義と目標〉 本講義では、司書教諭が身につけるべき／伝えるべき情報メディアの利活用を説明する。司書教諭は、メディアの専門職であり、児童や生徒にたいするメディア利用教育だけでなく、ほかの教員にたいしてもメディア利用の支援をしていくことが求められている。本講義では、その基礎的な内容の体得を目指す。			
評価方法 出席状況と授業態度およびレポートを総合して評価する。			
教科書 プリントを配布する			

情報リスク論	秋	週1回	2単位
担当者：鈴木 省吾			
講義の目標及び概要 (1) インターネット社会における情報伝達に関わる脅威とその実情や対策を学ぶ。その上出参加者各自がトピックを取り上げどのような対策が有効か提案を行う。 (2) 情報社会に参画する態度を育てる上で、重要なトピックの一つとなる情報リスクについて学ぶ。 (3) 個人の倫理観のみならず、法規制や技術的対策により情報社会が支えられていることを、自ら調べることを通して理解する。			
評価方法 10回以上の出席が評価の前提となる 評価は発表(40%)、小テスト(30%)、レポート(30%)を対象とする。			
教科書 佐々木良一、会田和弘『情報セキュリティ入門—情報倫理を学ぶ人のために』共立出版			

情報リテラシー	春集中	秋集中	2単位
担当者：国分 道雄			
講義の目標及び概要 〈内容〉 現代の高度情報化社会において情報を取り扱う基本的な知識と技術は不可欠なものとなっている。大学の学びにおいても、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 基礎科目であり、2009年度・2010年度入学生の必修科目である。また、2011年度入学生を選択必修科目である。(コミュニティ政策学科以外の2011年度入学生で、教職課程履修者は「情報基礎」を履修すること。) 〈学びの意義と目標〉 コンピュータやネットワークに関する基本的な知識や情報モラル等を理解し、ワープロソフトや表計算ソフトの基本的な操作スキルを身につけることは、社会に出てからも重要である。 この授業では、パソコン検定4級以上に合格できる知識・技術を身につけることを目標として、大学生活で必要なレポート作成や正しい情報の取扱いができるようにする。			
評価方法 試験の可否によって、評価を行う。			
教科書 パソコン検定協会事務局『P検オフィシャル教材『CS-ONE』パソコン検定協会事務局			

情報倫理	秋	週2回	4単位
担当者：竹井 潔			
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 「社会における情報」をキーワードに、その「社会性」や「責任」といった問題に関し、でも対応できる人材を養成することを目的とする。講義においては、広い意味での「情報」を扱い、現代社会と情報、情報倫理などを解説する。とくに情報倫理については「時代とともに変化する『情報』」の観点から、学生自身身が情報倫理の変容をどう受け取るべきか、ディスカッション形式で提案させるよう、授業を展開する。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 1～4年対象。コミュニティ情報系の選択必須科目であり、情報教職を履修している人や専門演習「情報倫理」を希望する人は必ず履修してほしい。 ◆学びの意義と目標◆ 情報倫理は、情報社会の新しい分野である。これからの情報社会を生きていくためには情報倫理は必要条件である。そこで、授業を通して、情報倫理とは何か、その必要性を一緒に考えてみたい。			
評価方法 出席30%、中間試験30%、期末試験40%			
教科書 授業の中で指示する			

女性学	春	週2回	4単位
担当者：藤田 和美			
講義の目標及び概要 1. 内容 女性学とは、既存の知や文化を、ジェンダー(性別)の視点から読み直し、読みかえるものである。近代以降の女性解放運動から現代の女性学研究、更には男性学研究までの学問の成立の歴史的過程をたどりながら、その成果を学び、性・結婚・労働・メディア・教育など、現代の私達を取り巻く諸問題について考える。 2. カリキュラム上の位置づけ 女性学は研究のための研究ではなく、性差別からの解放を訴えた社会運動と、多分野の学問研究の知見が連動して形成された実践的、かつ学際的な学問研究である。歴史学、文化人類学、心理学、文学、芸術批評、経済学、法学、社会学、教育学、自然科学等各研究分野における理論的枠組みや方法論などを参考にして、女性であれ、男性であれ、性別にかかわらず私達一人一人が〈自分らしさ〉を大切にして主体的に考え、行動することができるような性と生のあり方を探っていききたい。授業は講義を中心に進めるが、グループ学習もおこなう。ビデオなどの視聴覚教材も利用する。毎回授業時に感想を提出してもらう。 3. 学びの意義と目標 ジェンダー問題への認識を深め、問題解決能力を養う。			
評価方法 レポート(50%)と授業時に毎回提出する感想文(50%)で評価する。試験は実施しない。			
教科書 プリントを配布する			

書道(初級)	春 秋 週2回 2単位
担当者：小室 陽子	
講義の目標及び概要 書は文字を素材にした創造芸術である。先人の残してくれた素晴らしい文化遺産、中国や日本の古典を教材に、正しく美しい文字を書くための場としたい。毛筆を主とし、筆順、書技、理論等、漢字、仮名、硬筆を含め文字そのものについても考えていきたい。又、各書体の特徴をより正確に理解するためにその書体での作品を制作する。 ◆カリキュラムの位置づけ◆ 書写の指導が必要な中・高等学校の教職を志す学生自身が毛筆で書くことへの抵抗感をなくし、楽しく筆で紙とむきあえるようにし、教壇に立った時によりよい生徒指導ができるようにしたい。 ◆学びの意義と目標◆ 文字を素材にしての実技講座である。文字に対して一点の意義、一線の位置づけ等を意識的に見直すことを通して文字を書くことの意義を考えていきたい。 又、漢詩（七言絶句）を作成することでより文字への興味を持たせていきたい。	
評価方法 毎時間の実技課題を提出してもらい、その評価と授業態度（私語、居眠り等）及び用具の準備を加味。但し、出席状況が3分の2に満たない場合、課題の提出がなく評価点数が不足した場合は不合格とする。	
教科書 プリントを配布する	

書道(中級)	春 週2回 2単位
担当者：小室 陽子	
講義の目標及び概要 正しく美しい文字を書くことに加えて、中級では楷書を主として行書・草書・隸書・仮名の各書体をより確実な筆づかいで書けるようにし、意に沿った筆づかいを身につけるようにしたい。 そのために、初級では臨書の中で形臨を主体に行ってきたが、中級では、意臨をも含めた臨書ができるようにすることを目標とする。 さらに、一つの古典を少し長く臨書することによって、より確実な筆づかいを身につけるとともに、書くことに対する集中力を養い、細部まで見られる観察眼を身につけていきたい。又、漢詩を理解することによって古典的な作品の理解が進むこととなるので、漢詩を作詩し新たな面からの鑑賞眼を養うようにしたい。 ◆カリキュラムの位置づけ◆ この授業は書道初級を履修した学生が受講するものとする。 ◆学びの意義と目標◆ より高度な技術を身につけ、各書体で作品を制作することによって確実にその書体を理解することを目標とする。	
評価方法 毎時間の実技課題、書体毎のまとめ作品を提出、評価。但し、出席状況が3分の2に達しない場合、および、課題の提出がなく評価点数が不足した場合は不合格とする。	
教科書 プリントを配布する	

初等国語科教育法	春 秋 週1回 2単位
担当者：根本 正義	
講義の目標及び概要 国語科教育の教師として、児童のものの見方や考え方について、受講生が自分自身の問題として考察することのできる姿勢を身につける。 国語教育の今日的課題、教材研究のあり方、マンガも読書、等について講義する。教授項目参照のこと。 なお、教科書として指定している『増補 資料中心 国語科教育法』に収められている学習指導要領を用いて講義を行う。教科書は、非売品のためプリントを配布する。	
評価方法 評価はレポートによっておこなう。受講者自身の意見・判断等が確かに論じられている内容のレポートを高く評価する。	
教科書 プリントを配布する 谷光忠彦・山本昌一・根本正義共編『増補 資料中心 国語科教育法』高文堂出版社版別冊 赤い鳥文庫	

初等社会科教育法	春 秋 週1回 2単位
担当者：深澤 悠紀雄	
講義の目標及び概要 「社会」で学んだ社会科の目標や内容を再確認するとともに、社会科の指導について事例研究を行う。 次に、自分たちが選んだ「単元」について実際に指導計画を立て、それに基づき各自が模擬授業を行う。その際互いに模擬授業を見合って授業記録を作成し、指導のあり方を話しあうことにより授業のあり方を模索する。	
評価方法 出席を重視し、取り組む姿勢、指導計画の作成、模擬授業の結果等を加え、総合的に評価する。	
教科書 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会科編』東洋館出版社	

資料組織演習(分類)	春	秋	週1回	1単位
担当者：河島 茂生				
講義の目標及び概要 (内容) 本演習では、資料組織概説(分類)で学んだ知見をもとにして、具体的な分類作業の演習を行うこととする。日本の代表的図書分類ツールである『日本十進分類法(NDC)』新訂9版および『基本件名標目表(BSH)』第4版を使用し、数多くの演習例題や演習問題をととして分類作業を学ぶ。 (カリキュラム上の位置づけ) 司書課程 資格科目 (学びの意義と目標) 資料の組織化とは、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することによって、図書館資料を利用者が有効活用できるようにすることである。本演習では、多くの演習を通じて、利用者の要求に資する資料組織法の体得を目指す。				
評価方法 出席状況と授業態度およびテスト結果を総合して評価するが、演習科目であるので特に出席状況を重視する。				
教科書 プリントを配布する				

資料組織演習(目録)	春	秋	週1回	1単位
担当者：榎本 裕希子				
講義の目標及び概要 1. 内容 「資料組織概説(目録)」で得た知識を基に、『日本目録規則(NCR)1987年版改訂3版』を用いた図書館資料の目録作成を行う。対象資料は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成への理解を深める。 2. カリキュラム上の位置づけ 「資料組織概説(目録)」と共に、司書資格取得のための必須科目である。 3. 学びの意義 目録は図書館の蔵書管理や資料検索を行うために必要不可欠なツールである。この目録の機能を正常に保つために、どのような情報が記載されるのか等を学ぶことは、正確な目録作成のためだけでなく、資料管理や運用においても重要である。				
評価方法 授業に出席することは基本条件のため、成績評価は筆記試験を中心とし(80%)、それに加えて出席状況(10%)、授業態度等(10%)を合わせて評価を行う。演習科目であるため、無欠席であっても試験の結果によっては不可と評価する場合もある。				
教科書 吉田憲一編著『資料組織演習』日本図書館協会				

資料組織概説(分類)	春	秋	週1回	2単位
担当者：河島 茂生				
講義の目標及び概要 (内容) 図書館における分類作業とは、資料の内容にもとづいてその資料を区分し分けることである。本授業では、分類作業の意義、方法、歴史、そして業務の実際などについて講義する。また、『日本十進分類法(NDC)』新訂9版や『基本件名標目表(BSH)』第4版、著者記号表を使って、分類作業のごく基礎的な訓練も行いたい。 (カリキュラム上の位置づけ) 司書課程 資格科目 (学びの意義と目標) 資料の組織化とは、図書館資料を利用者が有効に利用できるように、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することである。この作業は、大別すると目録作業と分類作業の2つに分けられるが、この授業では後者の分類作業を集中的に学ぶこととする。分類作業は図書館の運営にとって必要不可欠な業務であり、分類作業を行うことによってはじめて利用者が資料の主題を手がかりとしながら資料を探ることができるようになる。				
評価方法 出席状況と授業態度およびレポートを総合して評価する。				
教科書 プリントを配布する				

資料組織概説(目録)	春	秋	週1回	2単位
担当者：榎本 裕希子				
講義の目標及び概要 1. 内容 利用者が必要とする情報資料を迅速かつ的確に提供することが、図書館の基本使命である。この使命を果たすために必要な図書館業務の1つに資料組織法がある。本講義は、資料組織法における記述目録法を中心に解説する。国際標準規則である『パリ原則』や『国際標準書誌記述(ISBD)』や我が国の標準的ツールである『日本目録規則(NCR)』において定められている規則を解説し、図書館における目録法の意義や機能について学習する。 2. カリキュラム上の位置づけ 「資料組織演習(目録)」と共に、司書資格取得のための必須科目である。 3. 学びの意義 目録法の意義や機能について学ぶことは、図書館に収集されている膨大な資料群を効率よく運用する仕組みへの理解を促し、正確な目録作成へとつなげるためにも重要である。				
評価方法 授業に出席することは基本条件のため、成績評価は筆記試験を中心とし(70%)、それに加えて出席状況(20%)、授業態度等(10%)を合わせて評価を行う。				
教科書 田窪直規(ほか)著『資料組織概説』樹村房				

人体の構造と機能及び疾病	秋 週1回 2単位
担当者：齋 今	
講義の目標及び概要 <ul style="list-style-type: none"> ・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 ・リハビリテーションの概要について理解する。 ・社会福祉実践の根拠となる人体の構造や機能及び福祉サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。 	
評価方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員による講義のみではなく、ディスカッションや学生によるプレゼンテーションを組んだワークショップも実施する。 2. 通常講義出席、WS出席&レポート60% 3. 期末レポート40% 	
教科書 福祉士養成講座編集委員会『新版 社会福祉士養成講座〈13〉医学一般 第4版』中央法規出版	

身体表現	秋集中 2単位
担当者：森 さゆ里	
講義の目標及び概要 <ol style="list-style-type: none"> 1、内容：なぜ現代社会では他者とコミュニケーションを図ることが苦手な若者が多いのか。演劇創造の過程で行うシアターゲームを通して、心身の解放を試みるとともに、言葉と身体表現を学び、人と人との関わりを考えていきます。 2、カリキュラム上での位置づけ：応用科目群の科目。体験を重視します。演劇だけでなく、他者とのコミュニケーションについて興味のある全ての学年の学生に推奨します。 3、学びの意義と目標：言葉を他者へ伝えることや他者から受け取れることを体感しながら、コミュニケーションとは何かを考えることを目的とします。 【補足】 <ol style="list-style-type: none"> 1、受講者数に応じて授業の内容が変更になる場合、また、それにとまない詩や戯曲などの一部をテキストとして使用する場合があります。その際には講義が開始されてから順次配布します。 2、事前講習、観劇会、フォローアップ講習以外の実習授業の際には全てジャージなどの動きやすい服装（ジーンズ、スカートは不可）、上履き、汗ふきタオルが必要です。 	
評価方法 毎授業の出席と授業に対する意欲（60%）、レポート（20%）、発表（20%）によって総合的に評価します。	
教科書 授業の中で指示する	

人文地理学概説	春 週1回 2単位
担当者：飯島 康夫	
講義の目標及び概要 <p>人文地理学の基本的な考え方を紹介し幅広い分析の視角を提供する。一般に地理学は総合的な科目といわれる。ある地域のことを理解するためにはその地域の自然地形、気候・風土とそれらから派生する生活様式、また政治や経済の制度、歴史や文化という知識を総動員させなければその実態が理解できない。</p> <p>この講義は地理学に関係する隣接科学の諸分野（経済や政治、歴史など）をバランスよく配分することに配慮したが、特に世界経済の進展のなかで諸地域がいかなる空間の形成を伴って発展するのかという問題に関心を置いた。本講義は人文地理学の発展過程とそれに伴って生じた諸問題を紹介したうえで制度や歴史、文化的背景の違いのなかで生じる諸都市・地域の発展形態の違いに焦点をあてる。本講義の参加者が諸都市・地域の現象面に埋没することなくその背後にひそむ、より本質的な空間形成の仕組みと地域ごとの差異について理解するよう工夫した。</p>	
評価方法 授業への貢献度、レポートや試験により総合的に評価する。レポート70%、出席率20%、その他10%	
教科書 ピーター・ディッケンほか『立地と空間 上』古今書院	

心理学	秋 週2回 4単位
担当者：小山 義徳	
講義の目標及び概要 <ul style="list-style-type: none"> ・人の理解とその技法の基礎について理解する。 ・人の成長・発達と心理との関係について理解する。 ・日常生活と心の健康との関係について理解する。 ・心理的支援の方法について理解する。 	
評価方法 数回的小テストまたはレポートと、期末試験により評価する。	
教科書 プリントを配布する	

心理学概論	春	週2回	4単位
担当者：吉田 沙蘭			
講義の目標及び概要 1. 内容 心理学とは、人のこころの動き、すなわち人間の感情や意識、行動について科学的に研究する学問であり、物理学や化学同様、実証的な科学として成立してきた。心理学の研究対象は、知覚、記憶、学習、発達、性格、対人関係、異常行動などというように多様な領域に分かれており、この授業では、それぞれの領域での研究成果について学んでいく。 2. カリキュラム上の位置づけ 「心理学概論」という科目名が示すように、心理学全体を概観し、なるべく多くの領域を対象として、それぞれの領域での基本的な考え方を紹介することにある。 3. 学びの意義と目標 心理学の初歩とも言えるべき授業であり、この授業を受講することで、受講生には、心理学の基本的な考え方、知識を身につけてもらいたい。また、心理学を通じた自己理解・他者理解の機会にしてもらいたいと考えている。なお、心理学を初めて学ぶという人たちにも理解しやすいよう、なるべく身近で具体性に富むエピソード等を紹介しながら授業を進めるつもりである。			
評価方法 平常点（授業への参加、授業時に出された課題の提出）50%、および期末レポート（もしくはテスト）50%によって評価する。			
教科書 プリントを配布する			

心理学研究法	秋	週2回	4単位
担当者：小山 義徳			
講義の目標及び概要 この講義は大きく分けて2つのパートに分かれています。前半部（1～14回）の記述統計学の部分では、データの特徴の記述の仕方を学びます。後半部（15～30回）の推測統計学の部分では、統計的仮説の検定の仕方や実験計画法について学びます。心理統計は講義を聴いているだけでは理解が進まず、自分で手を動かして計算してみてもはじめて分かるという部分がありますので、講義と実習（コンピュータ室でのEXCELの操作と電卓）を織り交ぜた授業内容を予定しています。心理学実験演習A,Bを受講することを考えている学生は、事前にこの授業を履修しておくことと実験演習の内容をより深く理解できます。			
評価方法 小テストと期末テスト、複数回の実習課題の提出及び出席点で評価します。			
教科書 山田剛・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルバ書房			

心理学実験実習A	春	週2回	2単位
担当者：長谷川 恵美子/小山 義徳			
講義の目標及び概要 1. 内容 少人数のグループに分かれ心理学各領域（知覚、学習、記憶、欲求、態度など）の研究実践の基礎を、実習をとおして学ぶことを目的としている。実験実施とともに各実験が終わるごとにレポートの提出が求められる。他のグループメンバーに負担がかからないよう欠席・遅刻・レポート期限などは厳しくチェックされる授業である。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学科、心理系、基礎～応用科目である。卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、春学期の「心理学実験実習B」とあわせて本授業を履修すること。可能なら実験実習A,Bの順に履修することが望ましい。尚、レポートを書く際に、心理統計の知識が必要となるため、心理学研究法を並行履修することが望ましい。 3. 学びの意義と目標 基礎的な心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、統計的処理などを学び、心理学の実験的な研究方法を習得する。			
評価方法 成績は出席状況・実験態度・レポートの内容等によって総合的に評価される。欠席・遅刻・レポート期限後提出・レポート未提出などは厳しくチェックされ、減点の対象になるので注意すること。			
教科書 プリントを配布する			

心理学実験実習B	秋	週2回	2単位
担当者：長谷川 恵美子/牟田 隆郎			
講義の目標及び概要 1. 内容 研究を遂行していくうえで留意しなければならない倫理の問題をはじめ、仮説設定、実験デザインの設定などの作業を取り上げながら、心理学各領域（認知心理、社会心理、臨床心理、生理心理など）の研究実践の基礎を実習をとおして学ぶことを目的としている。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学科、心理系、「応用科目」であり、できる限り、心理学実験実習Aを履修後に受講することが望ましい。特に心理系で卒業研究を行う学生は受講することが望ましい。卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、秋学期の「心理学実験実習A」とあわせて本授業を履修すること。 3. 学びの意義と目標 少人数のグループに分かれ、心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。			
評価方法 成績は出席状況・実験態度・レポートの内容等によって総合的に評価される。欠席・遅刻・レポート期限後提出・レポート未提出などは厳しくチェックされ減点の対象になるので注意すること。実験によっては動きやすい服装を持参すること。			
教科書 授業の中で指示する			

心理言語学	春	週2回	4単位
担当者：川手 恩			
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 本講義では、言語使用や言語行為、コミュニケーションを言語学と心理学の両方向から分析し、より理解を深めることを試みる。この目的を達成するため、「心理言語学へのアプローチ」「動物のコミュニケーション」「言語と思考」「母語の習得」「音声と単語の認知」「文と文章の理解」「言語と脳」「言語とジェスチャー」そして「第二言語学習」という九つの心理言語学の研究分野のテーマに焦点をあて授業を展開していく。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2～4年生での受講を推奨。 ◆学びの意義と目標◆ 本講義では、コミュニケーションを心理言語学的視点より分析し、様々な状況や場面におけるコミュニケーションの成り立ちを理解する。そしてその大切さやすばらしさを見出す。			
評価方法 期末レポート 30%、復習クイズ 30%、プレゼンテーション 10%、クラス参加 30%			
教科書 重野純（編）『言語とこころ—心理言語学の世界を探検する—』新曜社			

図画工作	通年	週1回	2単位
担当者：喜田 敬/山領 直人			
講義の目標及び概要 1) 内容 授業では、小学校教育としての図画工作科が担うべき役割とその目指すところを示した「小学校学習指導要領」に準拠して、この教科の目標と内容などを学ぶ。また、創造表現活動の研究・製作を設けて、造形技法・表現技法の工夫などを実践的に学習する。 2) カリキュラム上の位置づけ 小学校教諭1種免許、幼稚園教諭1種免許、保育士資格のための必修科目である。1年生を対象としている。 3) 学びの意義と目標 上記資格取得を目指し、児童教育の現場での実践に役立つ知識と技術の修得を目標としている。			
評価方法 授業中の活動性、出席状況50% 提出作品50%			
教科書 プリントを配布する			

図画工作A	春	週1回	1単位
担当者：喜田 敬			
講義の目標及び概要 日常の暮らしの中での出来事や、何気ない風景や季節の移り変わりなど、身近な素材からの発見や、色彩と造形で自由に遊び、表現する。図画工作Aは、こうした空間を、豊かに創り出す能力と感性を、自分の内に発見し、楽しむためのスタート地点です。			
評価方法 授業への参加貢献度を40%、作品及びレポートを60%で評価を行う。			
教科書 プリントを配布する			

図画工作B	秋	週1回	1単位
担当者：喜田 敬			
講義の目標及び概要 日常の暮らしの中での出来事や、身近なものからの発見や、色彩と造形で自由に遊び、表現する。図画工作Bは、こうした空間を豊かに創り出す能力と感性を土台とし、さらに知識と技術を深めながら、個々の表現を発展させていきます。画材は、透明水彩／アクリル系絵具／鉛筆に加え、粘土や針金を使用して行います。また、制作における対象の観察／工夫／展開といった過程とその結果は、プレゼンテーション及びディスカッション、制作に関するレポート提出を通じて思考経験として深め、積み重ねます。			
評価方法 授業への参加貢献度を40%、作品及びレポートを60%で評価を行う。			
教科書 プリントを配布する			

図画工作科教育法	春	秋	週1回	2単位
担当者：柴田 和豊				
講義の目標及び概要 子どもたちにとってなぜ造形的な表現活動が大切かを考えるとともに、具体的な授業の在り方を考える。 そのために、図画工作教育がどのような歴史を辿ってきたか、そして現代の学校と社会の中で何をなそうるか、実際の図画工作科の目標・内容・評価などの諸点を考えていく。 また、子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりが造形表現の楽しさを実感できるよう、概論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進める。				
評価方法 出席状況、レポート、課題製作への取り組み、試験などをもとに総合的に判断する。				
教科書 授業の中で指示する				

図表理解	秋	週1回	1単位
担当者：平 修久			
講義の目標及び概要 本教科では、図表を作るうえで必要とされる数式の練習を行うと同時に、様々な図表を用いて、その意味するところを解いていくという形式で行っていく。 現代社会では、パソコンを使つてのプレゼンテーションが一般的となり、情報の伝達における図表の有効性はゆるぎないものとなつてきている。その理由は、テキストでは理解がし難い事実関係や論理構成などを、図表では数値の大小、位置関係などでより明示的に表現できるためといわれている。このような図表理解は、大学における学びを進めていくためにも必要とされており、コミュニティ政策学科では初年時の教育として行うものである。 したがって、本教科の目標は、図表の意味するところを理解できるようにすることにある。			
評価方法 (1)ドリル問題 (60%) (2)中間ドリル (20%) (3)総合ドリル (20%)			
教科書 プリントを配布する			

スピリチュアルケア論	春	週1回	2単位
担当者：窪寺 俊之/平山 正実/藤掛 明			
講義の目標及び概要 スピリチュアルケアの必要性、定義、内容を具体的例を用いて説明する。 特に、ヒューマンサービスの領域でのスピリチュアルケアの必要性について触れ、スピリチュアルケアの基礎概念を理解し、自分の言葉で表現できるようになることを目標にする。			
評価方法 授業出席 (2/3以上が必須) 30% 提出物 70%			
教科書 窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』三輪書店 平山 正実『はじまりの死生学』春秋社 平山 正実『キリスト教と死生学』教文館			

スペイン語 I (初級A)	春	秋	週2回	2単位
担当者：越智 直子				
講義の目標及び概要 (1)内容 この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。 (2)カリキュラム上の位置づけ スペイン語を始めて学ぶ学生 (1~4年生) を対象とします。 (3)学びの意義と目標 現在、スペイン語は世界の国々で、4億以上の人々に話されていると言われてしています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。				
評価方法 出席日数、平常点 (25%) 単語テスト、提出物 (25%) 中間試験、期末試験 (50%)				
教科書 エウヘニオ・デル・プラド 斉藤華子 仲道慎治『Unas pince-ladas del espanol 「スペイン語でスケッチ」』第三書房				

スペイン語Ⅰ（初級A）	春	秋	週2回	2単位
担当者：宮内 ふじ乃				
講義の目標及び概要				
(1) 内容 この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。				
(2) カリキュラム上の位置づけ スペイン語を始めて学ぶ学生（1～4年生）を対象とします。				
(3) 学びの意義と目標 現在、スペイン語は世界の国々で、4億以上の人々に話されていると言われています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。				
評価方法				
出席日数、平常点（25%） 単語テスト、提出物（25%） 中間試験、期末試験（50%）				
教科書				
エウヘニオ・デル・プラド 斉藤華子 仲道慎治『Unas pinceladas del español 「スペイン語でスケッチ」』第三書房				

スペイン語Ⅱ（初級B）	春	秋	週2回	2単位
担当者：越智 直子				
講義の目標及び概要				
(1) 内容 「スペイン語Ⅰ」で学んだ基礎をベースに、さらに新しい表現を身に付け、初級文法の取得を目指します。また、映画などに出てくるいきいきとした表現を学び、スペイン語を使って自己表現ができるようにしていきます。また、希望があれば、スペイン語検定の練習問題も授業で取りあげる予定です。				
(2) カリキュラム上の位置づけ 「スペイン語Ⅰ」を履修した学生を対象とします。				
(3) 学びの意義と目標 様々な表現や初級文法を取得することにより、スペイン語の歌を訳してみたり、簡単な手紙などをスペイン語で書くという楽しみができると思います。				
評価方法				
出席日数、平常点（25%） 単語テスト、提出物（25%） 中間試験、期末試験（50%）				
教科書				
エウヘニオ・デル・プラド 斉藤華子 仲道慎治『Unas pinceladas del español 「スペイン語でスケッチ」』第三書房				

生活	春	秋	週1回	2単位
担当者：船田 信昭				
講義の目標及び概要				
1. 内容 生活科創設までの経緯や背景となる教育思想についてみていく。また、学習指導要領に示されている9の内容及び生活科特有の概念である「気付き」をはじめ、生活科の特質についてとらえる。おもちゃづくりの製作を体験する。				
2. カリキュラム上の位置付け 生活科の基本的な考え方や指導内容の習得を目指すことから入門期としての位置付けになる。				
3. 学びの意義と目標 平成元年（1989）に小学校低学年に新設された生活科の理念や原理を正しく理解するところに学ぶ意義がある。 「小学校学習指導要領解説 生活編」の教科書を活用し、教科目標、9の内容及び生活科の特質の概要について説明することができることを目標にする。				
評価方法				
出席を重視し、出席カード又は小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。				
教科書				
文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（日本文教出版）				

生活科教育法	春	週1回	2単位
担当者：船田 信昭			
講義の目標及び概要			
1. 内容 生活科の指導計画、本時案の作成を通して、子どもの学びと教師のかかわり方を学ぶことである。			
2. カリキュラム上の位置付け 先年度の生活科の内容理解を基に、本年度は指導案の作成という方法理解が中心になる。			
3. 学びの意義と目標 生活科における子どもの学び、教師の役割等について自分なりの考察ができるようになることが大切である。 生活科の目標や内容を理解するとともに、それを踏まえて本時案を自力で作成できる。また、本時のねらい、学習活動、評価を一体的にとらえるとともに、発問、板書、子どものみとり方を身に付けることができる。			
評価方法			
出席を重視し、出席カード又は小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。			
教科書			
文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編（平成20年8月）』（日本文教出版）			

政治学	春	週2回	4単位
担当者：谷口 隆一郎			
講義の目標及び概要 【学習の内容・目標・意義】 この科目では、現代政治学の主な領域の重要な知識を網羅的・体系的に学習します。将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくというテーマと内容が、この講義には含まれています。地方上級・警察・消防・国家Ⅱで出題される政治学の頻出テーマのほぼすべてをカバーします。 【カリキュラム上の位置づけ】 大学、特にコミュニティ政策学科というところで専門的に学ぶ内容（特に、その政治学的基础）とはどういうものかを知ることのできる数少ない基礎的科目の一つです。 【授業の進め方】 受講生は、(1)各授業に対応するテキストの箇所（章／節）を予習してきて、(2)講義を聴き、理解し、質問に答え、(3)公務員試験に対応した小テストに回答してもらいます。原則、テキストに沿って講義を進めていきます。各単元に対応した小テストを実施する予定です。			
評価方法 小テスト、中間試験、期末試験、授業貢献度（出席率、質問、応答、等）、講義をまとめたノートに対する評価で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。			
教科書 授業の中で指示する 中村昭雄『基礎からわかる政治学』芦書房 TAC公務員講座『70点で合格！ 厳選100問 政治学』TAC出版			

政治学	春	週2回	4単位
担当者：川添 美央子			
講義の目標及び概要 (1)内容 現代日本の政治の仕組み、および政策決定に至るまでの流れなどを概括的に講義する。国民の意思が可能な限り反映され、なおかつ多数者の暴走を抑制できるような国会や内閣や政党の仕組み、官邸と党の関係、選挙やメディアのあり方はどのようなものか、といった観点から考察する。 (2)カリキュラム上の位置づけ 今後専門科目を学んでゆくために、最低限必要な基礎的な知識を身に付けてもらうことを目的としている。よって、カリキュラムの中でも最も初歩的かつ基礎的な科目である。 (3)学びの意義と目標 皆さんが新聞やテレビのニュースに接したとき、「何故この決定がなされたのか」「この動きはどのような方向へ向かうものか」を、自分で判断できることを目指す講義をしたいと考えている。			
評価方法 平常点（毎回の小レポートや質問）4割、定期試験（中間試験と期末試験）6割の比率で評価			
教科書 プリントを配布する			

政治学	春	週2回	4単位
担当者：森 達也			
講義の目標及び概要 〈テーマ〉 政治の基礎知識／政治学の基礎 政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味します。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段であると言えます。本講義ではまず政治学の基本的な考え方を学び、次に現代政治の基礎知識を習得しながら、政治学内部の各テーマを順に考察していきます。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 政治学の専門的学習の前提となる入門講義です。また教養として政治学を学ぼうとする者にも適しています。 〈学びの意義と目標〉 政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。身近な問題を政治（学）的に捉え、それに意見を表明し、他者と議論することができるようになること。			
評価方法 最終試験 40% 授業内課題 30% 出席 30%			
教科書 加茂利男ほか著『現代政治学 第3版』有斐閣 『最新図説政経』浜島書店			

政治学	秋	週2回	4単位
担当者：小畑 俊太郎			
講義の目標及び概要 1. 内容 政治学の基礎的な理論や概念について学ぶ。具体的には、講義の前半では、国家や権力、市民社会、自由主義やデモクラシーといった主要な概念を検討し、複雑な政治現象を読み解くための分析的視点を培う。そのうえで後半では、現代政治の構造や実態について、日本政治の特質とも関連づけながら解説する予定である。 2. カリキュラム上の位置づけ 政治学の入門的かつ基礎的な講義である。 3. 学びの意義と目標 政治学の基礎的な理論や概念を理解することで、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、どのような態度をとれば良いのか、主体的に判断することの出来る市民的教養を身につけることを目標としている。			
評価方法 出席（40%）、中間試験（30%）、期末試験（30%）によって評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

政治学	春	週2回	4単位
担当者：森分 大輔			
講義の目標及び概要 1. 内容 本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念史的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。 2. カリキュラム上の位置づけ 政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。 3. 学びの意義と目標 転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。			
評価方法 学期末試験(40%)、および平常点(60%)とを総合して評価する。詳細は初回に説明する。			
教科書 授業の中で指示する			

政治学	春	週2回	4単位
担当者：浅井 亜希			
講義の目標及び概要 1. 内容 政治学の基礎的な概念、および政治制度を理解する授業です。講義の前半では、デモクラシーや権力、リベリズムといった政治学における主要な概念を解説します。様々な政治制度への理解を深めた上で、講義の後半では、現代政治の中心的なトピックを扱うことによって、政治学の方法を理解します。 2. カリキュラム上の位置づけ 今後、専門的な授業をより深く理解するための基礎知識を身につける授業です。大学における勉強方法を学ぶ授業でもあります。 3. 学びの意義と目標 政治学をどのように学んでいくのかを理解し、自ら学ぶ力を身につけることを目標とします。また、公務員試験などに対応した勉強を始めることができます。			
評価方法 出席を加味した平常点40%、中間試験またはレポート30%、期末試験30%			
教科書 川崎修・杉田敦 [編]『現代政治理論』有斐閣 加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦『現代政治学 第3版』有斐閣			

政治学	秋	週2回	4単位
担当者：張 殷珠			
講義の目標及び概要 【講義の内容・意義】履修者が将来、地方公務員試験や民間企業採用試験を受けることを念頭に、オーソドックスな政治学に関する基礎的な講義を行う。また、聖学院の理念に則り、履修者がプロテスタント・キリスト教の精神をもって国際化した時代と激動する社会、および地域の問題を体系的に見通す眼を養ってもらうようにしたい。具体的には、政治学における基本概念及び理論についての講義を通じて履修者が必要な知識を得るとともに、良い社会のための政治について自分自身の考えを持つことができるよう政治の現状やについて議論することにした。このため、講義では特に現代日本政治を対象とし、政治アクター間関係や対応様態を民主主義という観点から熟考することにした。 【カリキュラムの位置づけ】コミュニティ政策学科の専門科目を学ぶための基礎になる政治学の講義を目指す。したがって、カリキュラムの中で最も基礎的、基本的な科目にする。 【学びの目標】履修者全てが日常生活の中で起きている様々な社会問題に興味を持ち、そのような社会問題の原因から解決方法までの一連の流れを自分自身が理解しながら、キリスト教の精神という観点からより望ましい解決を探る姿勢を保つことを目標としたい。			
評価方法 定期試験(中間試験と期末試験)7割と平常点(出席、レポート、発表)3割			
教科書 プリントを配布する			

政治学	春	秋	週2回	4単位
担当者：松尾 秀哉				
講義の目標及び概要 1) 内容 主にヨーロッパ政治を題材に、政治学の基本的な概念を理解する授業です。 2) カリキュラム上の位置づけ 国際政治学などより専門的な授業の基礎的授業。社会人としての常識的知識を身につける授業でもある。 3) 学びの意義と目標 ・公務員試験の「政治学」の問題集にスムーズに入ることができる。 ・レポートなどを通じて自分の考えを他者に発信することができる。				
評価方法 出席を加味した平常点50%、期末試験30%、レポート、小テスト20%で総合的に評価します。				
教科書 阿部斉『概説 現代政治の理論』東大出版会 松尾秀哉『ベルギー分裂危機』明石書店				

政治経済学特論 A（共同体を考える）	秋	週1回	2単位
担当者：高橋 愛子			
講義の目標及び概要 〈内容〉2006年度以来「時代を考える」という共通テーマの下で開講してきた少人数ゼミ形式のクラスの一つである。今年は、「現代社会における共同体の機能」を切り口としながらその必要性、可能性および危険性をさまざまな角度から考察することを通して現在という時代が帯びている特徴を考え、議論する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉必修の専門基礎科目「政治学」「経済学」を修得済みの学生が、各科目における基礎的知識を土台にしつつ、リアルタイムな諸問題を考察し自らの見解を掘り下げ議論する力を養成する高度な専門科目として位置づけられる。 〈学びの意義と目標〉学問的な「専門性」と直面している現実の問題の考察という「現実性」とを架橋することを狙いとする少人数選抜式のゼミであるので、時事的な問題について議論しながら「時代認識」を鍛えることを狙いとする。受講者にはディスカッションへの強い意欲が求められる。			
評価方法 (1)出席 (30%)、(2)授業へのコミットメント及び最終回のプレゼン (30%)、(3)学期末レポート (40%)、以上三点からの総合的評価。			
教科書 授業の中で指示する			

政治経済学特論 A（自然を体験する A）	春	週1回	2単位
担当者：秋吉 祐子			
講義の目標及び概要 〈内容〉人間は実体験・体感により意識・認識を確実にすることができる。人工的環境の中で生活してきた若者が真に人間の生き方を模索することができる空間は自然・農業体験学習と認識される。実際には里山での野菜作りを行う。各授業後に作業レポート提出が必須。 各授業のメニューや課題等はNet Commons (担当者と履修生間の双方向通信に使用するウェブサイト)。履修生企画による野菜の販売も実験的に行う。適時に循環型野菜栽培・農法の事例見学を行う。天候条件が農作業に不適切な日は教科書およびVTRの活用によるクラスディスカッションを行う。 〈カリキュラム上の特徴〉政経学科が提供する多様なカリキュラム「政治経済学特論」の中に位置づけられる。 〈学びの意義と目標〉1. 自然・農業と人間との関わりを実感する。2. 栽培から発展してアグリビジネスの展開を試みる。3. 将来の食の在り方を考える。4. 将来の職業選択の参考にする。			
評価方法 体験学習への態度により評価する。(作業50%+レポート50%)			
教科書 赤峰 勝人『循環農法』なすなワールド 安部司『何を食べたらいいの?』新潮社			

政治経済学特論 A（自然を体験する B）	秋	週1回	2単位
担当者：秋吉 祐子			
講義の目標及び概要 〈内容〉人間は実体験・体感により認識を確実にすることができる。人工的環境の中で生活してきた若者が真に人間の生き方を模索することができる空間は自然・農業体験学習と認識される。実際には里山での野菜作りを行う。各授業後は作業レポートの提出が必須。アグリビジネス学習の意味から収穫野菜の販売方法を履修生主導で試験的に行う。天候状況が農作業に不適切な時間は教科書やVTRの活用によるクラスディスカッションを行う。 各授業のメニューや課題等は、NetCommons (担当者と履修生間の双方向通信に使用するウェブサイト) にても通知する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉政経学科が提供する多様なカリキュラムの一教科。 〈学びの意義と目標〉1. 自然・農業と人間との関わりを実感できる。2. 将来の食の在り方を考えることができる。3. 農業体験 (試験的販売を含む) により将来の職業の選択肢を広げることができる。			
評価方法 体験学習への態度 (作業50%+レポート50%) により評価する。			
教科書 赤峰 勝人『循環農法』なすなワールド 安部 司『何を食べたらいいの?』新潮社			

政治経済学特論 A（地方財政の探究）	春	週1回	4単位
担当者：谷 達彦			
講義の目標及び概要 〈内容〉少人数ゼミ形式のクラスの1つとして開講される。地方財政に関する文献の輪読を通じて、日本の地方財政が直面する課題及び問題点についての理解を深める。取り上げる文献は受講者と相談のうえ決定する。加えて、受講者が各自設定したテーマ (地方財政に関するもの) についてレポートを作成・報告する。報告の仕方やレポートの書き方については適宜指導する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉必修の専門基礎科目における内容を踏まえて、自分の見解を掘り下げ議論する力を養う専門科目である。専門科目「財政学」の発展科目として位置づけられると同時に、経済学、政治学、行政学、公共政策論、地域経済論等に対する関心にも応えられる科目である。 〈学びの意義と目標〉文献の輪読及びレポート作成を通じて、私たちの生活に密接に関っている地方財政に対して自分なりの問題意識を持てるようになることを目標とする。受講者には議論への積極的な参加やレポート作成における主体的な取り組みが求められる。			
評価方法 出席 (30%)、報告や議論への参加に基づく平常点 (30%)、学期末レポート (40%) により総合的に評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

政治経済学特論A(ナショナリズムを考える) 秋 週1回 2単位
担当者：森分 大輔
講義の目標及び概要 <p>〈内容〉2006年度以来「時代を考える」という共通テーマの下で開講してきた少人数ゼミ形式のクラスの一つとして開講される。テーマは、日本のナショナリズムについて様々な視点から考察する。授業は、受講者の要望に配慮するが、基本的には、週に一回の資料を基にした総合的なディスカッションスタイルを採用する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉必修の専門基礎科目「政治学」「経済学」を習得済みの学生が、各教科における基礎的知識を土台にしつつ、リアルタイムな諸問題を考察し自らの見解を掘り下げ議論する力を養成する高度な専門科目として位置づけられる。</p> <p>〈学びの意義と目標〉アカデミックな専門的知識のみならず、それらを現実の問題に適用する能力の獲得を目的とする少人数のゼミ形式授業であることから、時事問題を議論することで、「時代認識」を鍛えることをねらいとする。受講者にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極的に取り組む姿勢が求められる。</p>
評価方法 <p>(1)出席(30%)、(2)授業へのコミットメントおよび最終回のプレゼンテーション(30%)、(3)学期末レポート(40%)によって総合的に評価する。</p>
教科書 <p>授業の中で指示する</p>

政治経済学特論A(日本の裁判を考える) 春 週1回 2単位
担当者：石川 裕一郎
講義の目標及び概要 <p>法律学の基礎知識があることを前提に、裁判に関する様々な著作、あるいは判例を丁寧に読解・解釈してゆきます。法解釈の難しさと面白さを存分に味わってください。また、裁判傍聴等のイベント実施も考えています。</p> <p>取り上げる事件・判例は、担当教員の専門との関係上、憲法裁判が多くなります。しかし、「憲法裁判」といっても、元々は種々雑多な民事事件、刑事事件、行政事件です。丁寧に読んでゆけば、堅苦しい日本語で書かれている判決文に記されている事実、当事者の主張、裁判官の判断を通して、生き生きとした人間世界の営みが垣間見える...はずです。</p> <p>なお、本講義は少人数のゼミ形式をとることから定員制とし、希望者多数の場合は、希望者の過去の単位修得状況等を参考に選抜を行います。履修希望者は、必ず事前に担当教員に連絡を取るようになしてください。</p>
評価方法 <p>授業へのコミットメントおよび随時提出を求めるペーパーの記述状況(8割)、ならびに期末レポート(2割)で総合的に判断します。</p>
教科書 <p>授業の中で指示する</p>

政治経済学特論A(平和を考える) 秋 週1回 2単位
担当者：小松崎 利明
講義の目標及び概要 <p>〈内容〉2006年度以来「時代を考える」という共通テーマの下で開講してきた少人数ゼミ形式のクラスの一つとして開講される。今回の授業は、現代世界の「平和を考える」をテーマに、現代の平和をめぐる諸問題について様々な視点から考察する。授業は、毎回、テーマに関する課題文献をもとに議論するセミナー形式で行う。課題文献は、学生の興味・関心を考慮し、授業内で随時決定する。定員選抜式のクラス(一年生も可)なので、受講希望者は担当教員と事前にコンタクトを取るか、もしくは初回の授業に必ず出席すること。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉必修の専門基礎科目「政治学」「経済学」を習得済みの学生が、各教科における基礎的知識を土台にしつつ、リアルタイムな諸問題を考察し自らの見解を掘り下げ議論する力を養成する高度な専門科目として位置づけられる。</p> <p>〈学びの意義と目標〉この授業の意義は、現代世界が抱える平和をめぐる時事問題について、これまでの知的遺産を土台にして、深く考え議論することにある。そうした作業を通じて、われわれが生きる現代という時代を考える力を養うことを目標とする。</p>
評価方法 <p>1. 授業へのコミットメントおよびプレゼンテーション 60% 2. 学期末レポート 40% 以上を総合して、最終的評価を行う。</p>
教科書 <p>授業の中で指示する</p>

政治経済学特論A(20世紀の法文化) 春 週1回 2単位
担当者：石川 裕一郎
講義の目標及び概要 <p>「機銃掃射をも圧倒するかのようには咆哮する自動車は、サモトラケのニケよりも美しい」(F.T.マリネッティ) 「速度とは、語の最も完全な意味において、稼いだ時間に他ならない」(P. ヴィリリオ)</p> <p>「戦争の世紀」「ナショナリズムの世紀」「社会主義の世紀」「大衆の世紀」...20世紀を形容する呼称は様々ありますが、本講義では20世紀を「速度の世紀」と位置づけ、担当教員の他の法学系科目のような法解釈などを行わず、文学・映像・演劇・音楽等のサブカルチャー分析を通じ、それらと法・政治・経済システムの相互作用について受講者と共に考えてゆきます。</p> <p>なお、本講義は少人数のゼミ形式をとることから定員制とし、希望者多数の場合は、希望者の過去の単位修得状況等を参考に選抜を行います。履修希望者は、必ず事前に担当教員に連絡を取るようになしてください。</p>
評価方法 <p>授業へのコミットメントおよび随時提出を求めるペーパーの記述状況(8割)、ならびに期末レポート(2割)で総合的に判断します。</p>
教科書 <p>プリントを配布する</p>

政治経済学特論A(企業経営を考える)	秋集中	4単位
担当者：金子 毅		
講義の目標及び概要 <p>〈内容〉企業は人を基礎として始めて存立し得るものである。この企業の行方を考える上で不可欠なのが「企業倫理」という点であるが、その際、企業が現実これをどう具体的に経営に反映させてきたかその足跡を考察する必要がある。本講義では欧米における企業経営との差を「企業倫理」という観点から取上げ、その具体的実践のあり様を社史を素材とした「企業史」の文脈に照らして捉え直してゆく。そこからは今後の日本企業の経営を再考する新たなカギが見出されることとなる。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉基礎知識を必要とするために「政治学」「経済学」(必修専門基礎科目)を履修済みの学生を主な対象とする。本講義は「政治経済学特論B(経営学の可能性)」と連動し、机上の理論よりも実践力を養う問題解決型の科目として位置付けられる。</p> <p>〈学びの目標〉配布資料の「音読」を通し、「読み」「聞く」ことの反復を通して、「企業で」仕事をする自分をシュミレートし、就職という現実への備えとしてもらいたい。</p>		
評価方法 <p>レポートを基本にこれに基づき評価する予定ですが、受講者数に応じてはテストに替える場合もあります。なお成績評価の配分は(1)出席(30%)、(2)授業への参加姿勢(10%)、(3)課題レポート、またはテスト(60%)となります。</p>		
教科書 <p>プリントを配布する</p>		

政治経済学特論A(経営学の可能性)	春集中	4単位
担当者：金子 毅		
講義の目標及び概要 <p>〈内容〉平成不況の折、「人」を冠したビジネス書の氾濫が目につくが、現況からは、人間を中心とした経営がなされているとはいえない。講義では文化と場所との関連に焦点を当てることで、労働者が「なぜそこで」生きる意味の模索を通し、いかなる時代的閉塞状況も打開し得る現場に埋め込まれた生き抜きの知恵を経営原理として見出し、これを新たなビジネスチャンスとして考察を図ることにしたい。そこからは、時代の波を巧みに読み取り微妙な舵取りを行い得る人間中心の学としての経営学の新たな可能性が提起される。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉基礎知識を必要とするために「政治学」「経済学」(必修専門基礎科目)を履修済みの学生を対象とする。本講義は、「政治経済学特論B(企業経営を考える)」とも連動し、常に身近なコミュニティの現況を念頭におきながら、教員自身の調査成果を踏まえた事例分析を展開することで、机上の理論よりも実践力を養う問題解決を目的とする科目として位置付けられる。</p> <p>〈学びの目標〉講義形式が基本だが、一方通行的な授業に終始せず、常に受講生との「対話」を重視すると共に、授業時間などを活用し、大学最寄り駅のスーパーを中心に調査を行ない、経営と生活との連携を実感し、自身のキャリアデザインに役立ててもらいたい。</p>		
評価方法 <p>基本的にはレポートを予定しておりますが、受講者数に応じてはテストに替える場合もあります。なお成績評価の配分は(1)出席(30%)、(2)授業への参加姿勢(10%)、(3)課題レポート、またはテスト(60%)となります。</p>		
教科書 <p>プリントを配布する</p>		

政治経済学特講(国際政治論原典講読)	秋	週1回	2単位
担当者：秋吉 祐子			
講義の目標及び概要 <p>〈内容〉国際政治論および地域圏研究(アジアA)を受講し、また専門演習、卒業研究を受講した学生の中で、さらに上級の学習への意欲をもつ学生を対象とした内容の授業とする。(受講生の水準と要望に基づき具体的な原典や文献、学習方法等を設定する。)</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉学習能力と学習意欲の高い学生の実力をさらに高めるための「政治経済学特講」に位置づけられる科目である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉1. 語学文献(主に英語原典、中国語原典も可)の読解力を高める。2. プレゼンテーションによる発表能力を高める。3. 論文作成能力を高める。4. 大学院入学希望者の試験準備ともなる。</p>			
評価方法 <p>論文等書式発表能力60%、言語による発表能力40%。</p>			
教科書 <p>授業の中で指示する</p>			

政治経済学特講(消費社会論)	春	週1回	2単位
担当者：横山 寿世理			
講義の目標及び概要 <p>※ この講義を履修するには、事前に担当教員を訪ねて許可をとって下さい。</p> <p>1. 内容 卒業研究(アイデンティティの社会学)に続く講義として、リッツアの「マクドナルド化」や「お客様社会」をテーマに共通文献を決めて、ゼミ形式で講読する。したがって、受講者は自分が担当した箇所のテキストをレジュメにまとめて、報告、質問に対して応答を行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科の3年生以上対象の科目で、専門演習および卒業研究(アイデンティティの社会学)の修得者がこの演習のテーマをより深く学ぶための科目となる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 卒業研究から浮かび上がった各自のテーマを深めるための講読となるだけでなく、卒業論文や大学4年間の学びの総括を行うことを目標とする。</p>			
評価方法 <p>担当課題への取り組み(40%)と講義内での質疑応答(60%)によって評価する。</p>			
教科書 <p>授業の中で指示する</p>			

政治経済学特講(西洋政治思想講読A) 春 週1回 2単位
担当者：森分 大輔
講義の目標及び概要 (内容) 本講座では、西洋の政治思想に関する高度の専門性をもつ文献を講読する。受講者がそれぞれ分担の上、レジュメに基づくプレゼン及び議論を行ってゆく。卒論執筆指導を伴う。 (カリキュラム上の位置づけ) 3年次必修の「専門演習」「卒業研究」を修得済みである4年次生が、さらに自らの研究テーマを掘り下げて学ぼうとする際に高度の専門性を身につけるための場として提供される。 (学びの意義と目標) 西洋政治思想について掘り下げた理解を得、深い議論ができるようになること。また、文献の読解力および論文執筆に必要とされる基礎的な能力を養成することを狙いとする。 受講の条件：3年次に「専門演習」「卒業研究」を修得済みであること(講義担当者の「専門演習」「卒業研究」履修者には限らないが、講義担当者以外の演習履修者の場合には事前にコンタクトを取る。こと。
評価方法 出席(20%)、議論とプレゼンにおける参加意欲(30%)、学期末提出の小論文(50%)により評価する。
教科書 授業の中で指示する

政治経済学特講(西洋政治思想講読B) 秋 週1回 2単位
担当者：高橋 愛子
講義の目標及び概要 (内容) 本講座では、西洋の政治思想に関する高度の専門性をもつ文献を講読する。受講者がそれぞれ分担の上、レジュメに基づくプレゼン及び議論を行ってゆく。卒論執筆指導を伴う。 (カリキュラム上の位置づけ) 3年次必修の「専門演習」「卒業研究」を修得済みである4年次生が、さらに自らの研究テーマを掘り下げて学ぼうとする際に高度の専門性を身につけるための場として提供される。予め「西洋政治思想史」を履修していることが望ましい。 (学びの意義と目標) 西洋政治思想の諸概念についての掘り下げた理解を得、議論を通して自らの見解を鍛えること。特に、大学院進学希望者にとって不可欠な諸論文の読解力養成、及び、論文執筆に必要とされる基礎的な能力を養成することを狙いとする。 受講の条件：3年次に「専門演習」「卒業研究」を修得済みであること(講義担当者の「専門演習」「卒業研究」履修者には限らないが、講義担当者以外の演習履修者の場合には事前にコンタクトすること。
評価方法 出席(20%)、議論とプレゼンにおける参加意欲(30%)、学期末提出の小論文(50%)により評価する。
教科書 授業の中で指示する

政治経済学特講(比較政治学) 春 週1回 2単位
担当者：松尾 秀哉
講義の目標及び概要 (内容) 卒業演習(比較政治学)の履修者を主な対象者とした、より発展的な事例研究を行う授業。ゼミ形式とし、自身の研究の報告と参加者による討論を中心とする。 (カリキュラム上の位置づけ) 卒業論文の執筆を具体的目標とし、高度な専門的知識を自らの調査、他者との討論を通じて身につける。 (学びの意義と目標) 論理的思考力と文章の書き方を身につけると、またそれをプレゼンテーションする実践力を身につける。
評価方法 数回の報告(50%)。そのうえで出席と討論への積極的参加(50%)によって評価する。
教科書 授業の中で指示する

政治哲学 秋 週2回 4単位
担当者：森分 大輔
講義の目標及び概要 (内容) 政治学の専門単位として、現代政治を考察する際に手助けとなる、様々な政治哲学、政治理論について取り扱う。とりわけ、20世紀以降の政治理論家の議論を参照することで、現代に通ずる政治認識の一端を紹介することを目的とする。 (カリキュラム上の位置づけ) 必修の専門基礎科目「政治学」の知識を踏まえて、より専門的、抽象的な議論を学ぶことを目的とする。 (学びの意義と目標) 現実の問題を取り扱うことが政治学の重要な役割であるが、本講義ではそれを取り扱うための抽象的ツール、およびその思考様式に触れ、親しむことに意義を見出している。同時にそれらの思考を理解し、使いこなすことができるようになることがその目的となる。
評価方法 (1)出席を含む授業態度(60%)、(2)学期末テスト(40%)によって総合的に評価する。
教科書 授業の中で指示する

聖書と現代	秋	週1回	2単位
担当者：左近 豊			
講義の目標及び概要 現代において聖書を読むことの意義を問う。特に旧約聖書を題材に、アウシュヴィッツや広島・長崎後の現代社会において聖書は何を語りかけているのか、また現代は聖書に何を問うているかを考察する。今学期は特に旧約聖書「エレミヤ書」を取り上げる。			
評価方法 出席・授業参加 20% 礼拝出席レポート20% クラス発表 30% 期末レポート 30%			
教科書 授業の中で指示する			

聖書の世界A	春	週1回	2単位
担当者：左近 豊			
講義の目標及び概要 1. 内容 現代世界に多大な影響を与えているキリスト教、ユダヤ教、イスラム教は「聖書」をベースにした宗教です。「聖書」を初めて学ぶ人々を対象に、特にこれら3宗教が共有している「(旧約)聖書」を取り上げ、主たる内容を概観し、それぞれの文書にみられる思想的な特徴、歴史的な背景などにも触れながら理解を深めてゆきます。春学期は、旧約聖書の思想的核を形成する「モーセ五書(トーラー)」と呼ばれる部分に焦点をあてます。 2. カリキュラム上の位置づけ 聖書について初めて学ぶ人を対象とした、入門的なコースです。 3. 学びの意義と目標 「旧約聖書」の3つの区分と、それらに属する諸文書の内容について概略を記述することができる 旧約聖書の「モーセ五書」の思想的意義について記述できる 旧約聖書を成立させた古代イスラエルとそれを取り巻く古代近東世界について、その歴史的背景について説明できる			
評価方法 出席・授業参加 30% 礼拝出席レポート 20% 期末試験 50%			
教科書 『聖書』日本聖書協会			

聖書の世界B	秋	週1回	2単位
担当者：左近 豊			
講義の目標及び概要 1. 内容 「聖書の世界A」に引き続き、「聖書」を初めて学ぶ人々を対象に、「(旧約)聖書」を取り上げます。秋学期は、旧約聖書の「預言者」と「諸書」と呼ばれる部分に焦点をあてます。これらは古代イスラエルにとどまらず、現代社会にも多大な影響を与えている部分です。このコースでは現実にも身を沈めつつ、同時にそこに溺れない預言者の視点、聖書に蓄積された喜びと悲しみ、道理と不条理を語る詩人の言葉を学びます。 2. カリキュラム上の位置づけ 聖書を初めて学ぶ人を対象とした入門的なコースです。 3. 学びの意義と目標 「旧約聖書」の3つの区分と、それらに属する諸文書の内容について概略を記述することができる 旧約聖書の「預言者」「諸書」の思想的意義について記述できる 旧約聖書を成立させた古代イスラエルとそれを取り巻く古代近東世界について、その歴史的背景について説明できる			
評価方法 出席・授業参加 30% 礼拝出席レポート20% 期末テスト50%			
教科書 『聖書』日本聖書協会			

聖書の中の環境問題	春	週1回	2単位
担当者：村上 公久			
講義の目標及び概要 キーワード： 聖書、キリスト教、創造、文化、環境保全、農耕、遊牧、砂漠、森林 1. 内容： 最近は「環境問題ブーム」に乗って多くの本や講演があり、今では多くの大学で環境問題に関する各種科目を掲げているが、それらは「地球にやさしい」(?)と装いながらも、実は現在の環境問題そのものを引き起こした原因である「人間中心」のヒューマニズムに由来する環境問題意識に基づいたものである。 キリスト教の教典『聖書』は環境問題を考える際の知恵の宝庫である。最近になって、地球環境問題と取り組んでいる科学者たちが環境問題の原因を「ヒトと自然との関係の崩れ」に見始めているが、そのほとんど全てが既に『聖書』の中に記されている。森林科学を中心に地球環境問題の研究をライフ・ワークにしているクリスチャンの自然科学者が「聖書」の中に観た環境問題を取り上げ、21世紀を生きる学生たちと共に考えてみたい。 2. カリキュラム上の位置づけ： キリスト教関連科目。 3. 学びの意義と目標： 聖書の宗教が内包する環境問題の観方を理解する。			
評価方法 学期中複数回の試験、出席状況、討論によるクラスへの貢献、レポートを総合的に評価する。			
教科書 『聖書』			

精神医学	春	週2回	4単位
担当者：高野 覚			
講義の目標及び概要 精神医学は難解な学問ですが、これまでの臨床の経験を極力交えながらなるべく分かりやすい講義を心がけたいと思っています。 そのためあえて教科書に漫画を採用したり授業で映画などの映像を用いたりしますが、精神保健福祉士国家資格受験のための必須事項は網羅するつもりでいます。			
評価方法 授業内容の中から簡単な基礎事項確認のための正誤問題50題の期末試験にて評価いたします。 出席は基本的に規定回数を満たせば良いですが、期末試験の成績がぎりぎり不可の場合は出席を加味します。			
教科書 日本精神保健福祉士養成校協会『新・精神保健福祉士養成講座 〈1〉 精神医学』中央法規出版 ゆうき ゆう『マンガで分かる心療内科 1』ヤングキングコミックス ゆうき ゆう『マンガで分かる心療内科 2』ヤングキングコミックス 高野 良英『対人恐怖と不潔恐怖』金剛出版			

精神科リハビリテーション学	秋	週2回	4単位
担当者：田村 綾子			
講義の目標及び概要 1. 内容 本科目は、精神保健福祉士の視点から、精神科リハビリテーションについて必要な知識を学ぶ目的で開講するもので、講義を中心として進める。 (1)精神科リハビリテーションの概念の理解、(2)精神科リハビリテーションのプロセスと技術の理解、(3)精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割の理解、(4)リハビリテーションのプロセスと、連携の意義や方法の理解、を目指す。関連科目と合わせて履修し、理解を深めることが望ましい。 2. カリキュラム上の位置付け 精神保健福祉士国家支援受験資格取得のための必須科目である。			
評価方法 授業態度（出席日数・発言・リアクションペーパーへの記載）、提出レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。			
教科書 精神保健福祉士養成セミナー『改訂第3版増補版 「精神科リハビリテーション学」』へるす出版			

精神保健	春	週1回	2単位
担当者：上野 直子			
講義の目標及び概要 1. 内容 子どものこころとからだの健康な発達、子どもの保育に基本的で重要なことです。この授業では、特に子どものこころの健康について理解し、保育の中でどのように子どもとかわかっていくかを考えていきます。子どもの各時期でのこころの発達と、時期に応じた保育のあり方についても学びます。 最近の子どもを取り巻く環境は、虐待やいじめなど、穏やかで安定したものとはいえない状況にあります。現状を理解しながら、子どもたちが健やかに育つための様々な要因（家庭や地域など）についても学びます。子育て支援の実践についても学び、保育の果たす役割についても理解を深めていきましょう。 2. カリキュラム上の位置づけ 保育士資格取得のための必修科目です。 3. 学びの意義と目標 子どもが元気であるためには、保育者のこころも健康であることが大事です。自分自身のこころの健康についても考える機会をもちたいと思います。			
評価方法 授業（授業内でのディスカッション）への参加・講義内での課題（50%）、学期末試験あるいは期末レポート（50%）の結果を基に総合的に評価したいと思います。			
教科書 内山 源（編）『精神保健』同文書院			

精神保健学	秋	週2回	4単位
担当者：小林 政子			
講義の目標及び概要 1 精神保健についての基本知識について理解させる。 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。 4 地域精神保健と地域保健について理解させる。 5 諸外国における精神保健の概要について理解させる。 6 関連法規および施設について理解させる。			
評価方法 授業出席率 6割以上 各回授業中のレポート提出 学期末レポート提出			
教科書 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『増補版改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学』へるす出版			

精神保健福祉演習		秋	週1回	1単位
担当者：相川 章子				
講義の目標及び概要 精神保健福祉士を目指す学生を主な対象に、より実践的なソーシャルワークについて学び、深める。				
評価方法 出席、受講態度、グループへの参加等を総合して評価				
教科書 授業の中で指示する				

精神保健福祉援助演習		春	週1回	4単位
担当者：相川 章子				
講義の目標及び概要 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。				
評価方法 (1) 出席および授業態度（発言等含む） (2) レポート課題等の提出 (3) 期末試験 (1)～(3)の総合評価とする。				
教科書 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『増補 改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉援助演習』へるす出版 監修 精神保健福祉研究会『我が国の精神保健福祉 22年版』株式会社太陽美術				

精神保健福祉援助演習		秋	週1回	4単位
担当者：松原 玲子				
講義の目標及び概要 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。				
評価方法 (1) 出席および授業態度（発言等含む） (2) レポート課題等の提出 (3) 期末試験 (1)～(3)の総合評価とする。				
教科書 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『増補改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー 第7巻精神保健福祉援助演習』へるす出版 監修 精神保健福祉研究会『我が国の精神保健福祉 22年版』株式会社太陽美術				

精神保健福祉援助技術各論		秋	週2回	4単位
担当者：相川 章子				
講義の目標及び概要 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 3 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。 4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。				
評価方法 出欠席および授業態度 30% レポート 30% 試験 40%				
教科書 日本精神保健福祉士養成校協会編集『新・精神保健福祉士養成講座第6巻 精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版				

精神保健福祉援助実習	通年	週2回	9単位
担当者：相川 章子/田村 綾子/松原 玲子			
講義の目標及び概要 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。			
評価方法 事前学習における課題の明確化への取り組み、実習時の状況、実習先による実習評価、事後指導での実習報告書作成等を総合的に判断し評価			
教科書 精神保健福祉士養成校協会編集『新・精神保健福祉士養成講座第8巻 精神保健福祉援助実習』中央法規出版			

精神保健福祉論	春	週1回	6単位
担当者：相川 章子/大野 和男/行實 志都子			
講義の目標及び概要 1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。 2 精神障害者の人権について理解させる。 3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。 4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。 6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。 7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。			
評価方法 (1)出席および授業態度 (25%) (2)レポート課題等の提出 (25%) (3)期末試験 (50%)			
教科書 大熊由紀子／北野誠一／佐藤久夫／竹端 寛／山本深雪編著『精神保健福祉士養成テキストブック 第4巻 精神保健福祉論』ミネルヴァ書房			

生徒指導論(進路指導を含む。)(C用)	春	週1回	2単位
担当者：船田 信昭			
講義の目標及び概要 1. 内容 生徒指導は、子どもが自分自身を見つめ、よりよく成長していくことを援助する指導のことである。また、生徒指導は教科指導と並んで大切な教育活動である。 実際の学級で起きる様々な場面を想定し、学生同士の討論などを取り入れながら進める。 2. カリキュラム上の位置付け 教育課程の中で児童理解を伴う指導として大事な一歩である。人と関わりながら日々を過ごす学校生活を充実していく上で欠かせないものとして位置付けていく。 3. 学びの意義と目標 学校は集団生活の中で人と関わりながら歩んでいる。その中では、人間関係を保ちながら、困ったときも切り抜けていく力が要求される。こうした時に具体的な指針となるところに学びの意義がある。 基本的な考え方を身に付け、また、子ども集団を統率し、一人一人のよさを伸ばしていく上で様々な場面への説得力ある対応ができ、解決していく力が付くことを目標にする。			
評価方法 出席を重視し、出席カード又は小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。			
教科書 プリントを配布する			

生徒指導論(進路指導を含む。)	春	週1回	2単位
担当者：小川 洋			
講義の目標及び概要 1. 内容：「生徒指導」は「教科指導」と並んで学校における重要な教育活動の柱であり、近年、学校を取り巻く環境の変化などから、その重要性を増している。「生活指導」とも呼ばれる「生徒指導」をめぐって、幅広いテーマを取り上げながら、教師として必要な知識や考え方を取り上げる。さらに多くの場合「進学指導」や「就職指導」となっている「進路指導」の問題を扱う。 2. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」「教師論」の履修を終えて教育についての基礎的基本的な知識や考え方を理解したうえで、教科指導以外の面での生徒の指導のあり方について幅広く扱う。 3. 学びの意義と目標：生徒の指導のあり方について表面的な知識を理解するのではなく、指導の理念などについての理解を深め、これからの学校教育の中での生徒指導のあり方について、諸君が自分なりの考えを持てるようになることを目指したい。			
評価方法 授業出席状況 (30%)、レポート2本：授業のテーマから2つ（一つは進路指導）を選び作成 (20%)、期末テスト (50%)			
教科書 プリントを配布する			

税法概論	秋	週2回	4単位
担当者：山田 直夫			
講義の目標及び概要 1. 内容 国や地方公共団体は、道路の整備など様々な公共サービスを提供している。その費用は主に税金により調達されており、税金は我々の生活に深く関わっている。本講義では、税金に関する法律（税法）についてできるだけわかりやすく解説する。また、税制のあり方についても触れていく予定である。 2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な位置づけである。なお財政学、簿記などが本講義の内容と関連がある。ただし本講義ではそれらの知識を前提としない。 3. 学びの意義と目標 ・税法の概要を理解すること ・税制のあり方について考える視点を身につけること			
評価方法 出席（40%）、レポート（30%）、試験（30%）			
教科書 授業の中で指示する			

生命・栄養科学	秋	週2回	4単位
担当者：菊川 忠裕			
講義の目標及び概要 1. 【内容】 ヒトの生命活動の基本は、バランスのとれた食事を摂取して、適切な運動を行い、生活環境の衛生面に気配りをしなければならぬ。健康を維持するためには、食物という自然への畏敬の念を持ち、生命への尊厳が大切である。学問の発展は素晴らしいものがあるが、私たちは自然のなかで生きていることを再認識なくてはならない。 2. 【カリキュラム上の位置づけ】 ヒトが生きているということ何を食して、自己の健康を維持するかを理解できる。 3. 【学びの意義と目標】 ヒトの生きる力とは何なのかを理解するため、わかりやすい人体の構造と機能を中心に学び、栄養素と栄養の違いを学び、健康を維持するための栄養学を説明できる。さらに、自らの実生活に実践できることを理解できる。現代社会で起きている事象は、タイムリーに授業へ取り入れる。			
評価方法 授業参加度20%、貢献度70%、平常点10%とし、総合的に評価する。 記述試験（ノート、授業内で配布したプリントの持込み可）			
教科書 坂井堅太郎『基礎栄養学』化学同人 吉里勝利『最新図説生物』第一学習社			

生命の科学	春	週2回	4単位
担当者：近藤 雅雄			
講義の目標及び概要 【内容】地球および生命の誕生から人間の誕生、進化、生涯を通して、地球と宇宙の恵みに感謝し、自然の営みを大切にすること育て、人類の持続可能な発展をもたらす社会をつくるためにはどうしたらよいかを人間の健康を中心としてわかりやすく展望します。 【カリキュラム上の位置づけ】健全なところとからだの働きのメカニズムを学び、地球市民として人類の健康と平和および地球環境の保全に貢献できる教養を身につけます。 【学びの目標】生命の科学は、生命の誕生、そして生体を構成する多くの細胞、組織、臓器およびそのネットワーク（生命系）の特有な現象および様々な機能を科学的に究明し、人類の発展に貢献するという、自然科学から人間・総合科学（文理融合）とにまたがった広領域の分野です。今、地球環境問題、経済産業や社会保障の問題は、私たち人類の存続基盤にかかわる大きな問題となっています。人類が、いのちを大切に、平和で健康な生活を営む中で、豊かさを味わい、心の安らぎを感じられる新たな社会システムの構築が望まれます。そこで、これからの社会を担う学生として、生命のしくみ、健康・病気概念、こころの問題、生命倫理を理解し、平和で、健康的な生活を送るための方法及びそれに必要な生命科学の基本的知識を身につけます。			
評価方法 学習意欲・受講態度（20%）、小テスト（3回実施）（80%）によって評価する。			
教科書 プリントを配布する			

生命倫理学	春集中	2単位
担当者：香川 知晶		
講義の目標及び概要 1. 内容 本講義では生命倫理学の基本的な考え方や問題を理解することを目指す。そのために、生命倫理学で議論されてきた問題を背景にまでさかのぼって詳しく吟味し、さまざまな意見や立場を整理しながら、理解を深めることにする。 2. カリキュラム上の位置づけ 生命倫理学の入門的な概説であり、現代における医療と社会について考えるための基礎のひとつである。 3. 学びの意義と目標 さまざまな問題についてまず十分に理解することが目標となる。そうすることで、各自が自分自身の判断を下すための基礎が確保されるはずである。		
評価方法 レポート40%、リアクションペーパー30%、出席30%。		
教科書 香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー・トゥエンティワン		

西洋音楽A	春	週1回	2単位
担当者：稲垣 俊也			
講義の目標及び概要 1. 内容 私たち人間は本質的に「かかわる」存在です。それ故、人がなすことができるもっとも深い体験とは、他者との関係を築くことと云えましょう。古今東西、音楽はこの「かかわり」をより深く、広く実現するために用いられてきました。本講座では各時代の作曲家と音楽様式を学ぶと同時に、その様式を生み出すに至った文化的背景、歴史的背景を紐解いてゆきます。 2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な位置づけとします。 3. 学びの意義と目標 「音楽様式」とは、彼の時代に音楽を留め置くものではなく、「今」にその音楽を生かす術（すべ）と云えましょう。歴史の淘汰を生き抜き「新しい今」を創り出す音楽の生命力を味わっていただきます。			
評価方法 出席点 25% 平常点 25% 試験 50%			
教科書 授業の中で指示する			

西洋音楽B	秋	週1回	2単位
担当者：稲垣 俊也			
講義の目標及び概要 1. 内容 私たち人間は本質的に「かかわる」存在です。それ故、人がなすことができる最も深い体験とは、他者との関係を築くことと云えましょう。古今東西、音楽はこの「かかわり」をより深く、広く実現するために用いられてきました。本講座では各時代の作曲家と音楽様式を学ぶと同時に、その様式を生み出すに至った文化的背景、歴史的背景を紐解いてゆきます。 2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な位置づけとします。 3. 学びの意義と目標 「音楽様式」とは、彼の時代に音楽を留め置くものではなく、「今」にその音楽を生かす術（すべ）と云えましょう。歴史の淘汰を生き抜き「新しい今」を創り出す音楽の生命力を味わっていただきます。			
評価方法 出席点 25% 平常点 25% 試験 50%			
教科書 授業の中で指示する			

西洋芸術の源流	春	秋	週2回	4単位
担当者：四十九院 仁子				
講義の目標及び概要 1. 内容 本講義では、西洋文明形成に大きな影響を与えた古代ギリシア・ローマの美術を中心に、キリスト教文化を含めた古代地中海世界の芸術文化を概観する。取り上げる作例は彫刻や陶器画だけでなく、建築、モザイク、服飾品を含めた金属製品、石棺等を予定している。講義では主に視覚資料を用い、毎回具体的な作例を取り上げていく予定である。 2. カリキュラム上の位置づけ 地中海周辺地域の古代の美術についての入門である。 3. 学びの意義と目標 古代の文化遺産が現代にも受け継がれていることを理解する。作例の鑑賞を通じて古代の人々の造形表現活動に親しむ。				
評価方法 出席状況 60% 期末試験（受講者数により筆記試験にするかレポートにするかを決定） 40%				
教科書 授業の中で指示する				

西洋史	春	秋	週2回	4単位
担当者：田中 史高				
講義の目標及び概要 1. 内容 この科目では、古代から中世・近世、さらに近代・現代へ、年代を追ってヨーロッパ史上の重要な人物や事象を論じていきます。毎回、講義内容の概要と図版を掲載したプリントを配布します。また、可能なかぎり毎時、視覚教材（ビデオ）を用いる予定です。 2. カリキュラム上の位置づけ 西洋史の基本的な認識をつちかう序論的講義です。 3. 学びの意義と内容 全部で30回の講義は、毎回ことなるテーマを扱い、西洋史の基本的な流れがつかめるように配列してあります。				
評価方法 授業の出席点（25%）、毎回のまとめのレポート（25%）と、3回の小テスト（50%）を総合して評価します。				
教科書 成瀬治他『山川世界史総合図録』山川出版社				

西洋史	秋	週2回	4単位
担当者：山本 信太郎			
講義の目標及び概要 1. 内容 本講義では、西洋史の全体的な流れを概観し、大学で学ぶ西洋史学の基礎的な知識を講義する。しかしその中でも、なるべく最新の学問的成果を紹介することによって、西洋史学の楽しさを味わい、自分なりに興味の持てる「問題」を発見していただくの手助けとなることを目指す。講義は、古代から現代までの西洋史上の重要な諸問題を、時系列順に、なるべく1回につき一つのテーマを論じる形で進めていくことにしたい。 2. カリキュラム上の位置づけ 西洋史全体の流れを大づかみに把握することを目的とするため、大学で学ぶ西洋史学の入門としての位置づけとなる。 3. 学びの目標 西洋史全体の流れを把握するとともに、西洋史学上にどのような個々の問題が存在するのかを理解し、歴史学のものの見方や考え方に親しむことを目標としたい。			
評価方法 筆記試験としては、2回の小テスト（それぞれ20％）と期末試験（20％）を行う。また出席点（20％）の他、授業内の簡単な小レポート（20％）を課す。			
教科書 成瀬治他編『山川世界史総合図録』山川出版社			

西洋史	春	秋	週2回	4単位
担当者：森 齊丈				
講義の目標及び概要 1. 内容 本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。 また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。 2. カリキュラム上の位置づけ 西洋史は、西洋文化を学ぶ上で必要な基本的知識の宝庫であり、西洋文化がいかんして発展してきたかを知るために必須の分野であるとともに、社会に出たあと、現状を分析し必要な判断をするための基本的知識になるものである。 3. 学びの意義と目標 この事項を細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。				
評価方法 テスト（20％×3回）、授業内レポート（20％）、出席（20％）、を用いて総合的に評価する。				
教科書 成瀬治『世界史総合図録』山川出版社				

西洋史	春	週2回	4単位
担当者：小田原 琳			
講義の目標及び概要 (1) 内容 欧米文化を学ぶ上で必要不可欠な、西洋史概論です。西洋世界の変化を、事象相互の関連や現代とのつながりを意識しながら学んでいきます。 毎回の授業で提出していただくレスポンスシート（講義内容の要約、疑問点等をまとめていただきます）、トピックごとの小テストおよび期末のレポートが課題となります。 (2) カリキュラム上の位置づけ 欧米の歴史や文化についての学習・研究の基礎となる、入門的な授業です。 (3) 学びの意義と目標 現代社会に生きる私たちは、さまざまな点で西洋文化から多大な影響を受けています。西洋史を学ぶことによって現代社会についての理解を深めることができます。そのための歴史的な基礎知識を着実に身につけることが目標です。			
評価方法 平常点（受講態度およびレスポンスシート）20％、小テスト40％、期末レポート（オンライン）40％			
教科書 成瀬・佐藤・木村・岸本【監修】『山川世界史総合図録』山川出版社			

西洋史概説A	春	週1回	2単位
担当者：山本 信太郎			
講義の目標及び概要 1. 内容 本講義では、西洋史の中でも西洋古代・中世史を対象として、その中にあらわれる様々なトピックを時系列にとりあげ、個々の問題の概要だけでなく、ある程度専門的な議論を射程におさめた内容を紹介する。ただしトピックは時系列的な順序に従っているが、必ずしも網羅的ではない。そのため、西洋史の全体的な流れ、あるいは個々のトピックの位置づけを学ぶためには自分なりの学習が必須である。参考となる西洋史全体の概説書としては以下を挙げておく。 近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社、1999年 2. カリキュラム上の位置づけ 西洋古代・中世史上の重要な問題をトピックとしてあつかうため、入門としての側面を持つが、内容が専門的な議論におよぶこともあるため、入門よりやや踏み込んだ個別研究の側面も持つ。 3. 学びの目標 西洋中世・古代史上の諸問題をある程度掘り下げて理解するとともに、複眼的な歴史的視野を養うことを目標としたい。			
評価方法 学期末の試験で評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

西洋史概説B	秋	週1回	2単位
担当者：山本 信太郎			
講義の目標及び概要 1. 内容 本講義では、西洋史の中でも西洋近世史を対象として、その中にあられる様々なトピックを時系列にとりあげ、個々の問題の概要だけではなく、ある程度専門的な議論を射程におさめた内容を紹介する。ただしトピックは時系列的な順序に従っているが、必ずしも網羅的ではない。そのため、西洋史の全体的な流れ、あるいは個々のトピックの位置づけを学ぶためには自分なりの学習が必須である。参考となる西洋史全体の概説書としては以下を挙げておく。 近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社、1999年 2. カリキュラム上の位置づけ 西洋近世史上の重要な問題をトピックとしてあつかうため、入門としての側面を持つが、内容が専門的な議論におよぶこともあるため、入門よりやや踏み込んだ個別研究の側面も持つ。 3. 学びの目標 西洋近世史上の諸問題のある程度掘り下げて理解するとともに、複眼的な歴史学的視野を養うことを目標としたい。			
評価方法 学期末の試験で評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

西洋思想史	秋	週2回	4単位
担当者：原 一子			
講義の目標及び概要 (1) 〈内容〉 本講義では古代から現代に至るヨーロッパの重要な考え方を、時代背景を踏まえながら平易に解説する。原典資料により思想家たちの生の声にも触れながら、それぞれの時代の思想が現代の私たち自身の生き方とどんな関わりを持つものかも考えてゆく。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 欧米文化学科の専門科目「哲学・思想」に属する科目である。 (3) 〈学びの意義と目標〉 ヨーロッパ文化を学ぶ者にとっては、その根底にある思想の歴史を学ぶことはぜひとも必要なことである。各時代に何が問題となり、また何が次の時代への課題として引き継がれたか、思想がその時代の政治、経済、宗教、芸術などいかに関わっているかを理解することが本講義の目標である。そしてそれを常に現在の自分に引き付けて考えることは、自己の生き方を問う上でも有効である。			
評価方法 学期末試験を筆記試験にするかレポートにするかは受講者数によって決める。試験またはレポートの成績（50%）、授業中の発表・課題の習得度（20%）、出席率（30%）などから総合的に評価する。			
教科書 プリントを配布する			

西洋政治思想史	秋	週2回	4単位
担当者：高橋 愛子			
講義の目標及び概要 〈内容〉本講義は西洋における「政治」をめぐる思想的営為を歴史的に辿るものである。 〈カリキュラム上の位置づけ〉必修の専門基礎科目「政治学」を修得済みの学生が、「政治」の営みを理念的に考察する上で不可欠な諸概念および思考様式の生成過程を、具体的な歴史展開を視野におさめながら学ぶ専門科目である。 〈学びの意義と目標〉本科目の狙いは3点である。第一、思想・理念はその時代の社会的現実を背景に持ち、思想家の直接的な言及の有無にかかわらず時代的現実から規定されるものであるから、個々の政治思想の内実の探求とともにその社会的背景への理解をも得る。第二、今日の政治事象の理解に用いられる用語や思考枠組みの多くは西洋の政治思想的営為に根を持つ。そこで政治をめぐる基本的な概念が、どのような歴史を辿って形成されてきたかについての史的概観を得ることを目指す。 第三、主たる政治思想は、多くの場合、危機的な時代あるいは政治社会の変革期に出現し、時代に巻き込まれながらも時代を突き放しつつ新しい理念の探究を試みた姿勢において共通する。それらを学ぶことによって、時代の大きな変動期にある今日をより深く理解し、未来への政治的構想力を得ることを目指す。			
評価方法 第一に出席（20%）、第二に1学期中に何回か行う小テスト（40%）、第三に期末テスト（40%）、以上の三つを総合的に評価する。			
教科書 福田敏一『政治学史』東大出版会			

西洋美術史	春	週2回	4単位
担当者：瀧井 直子			
講義の目標及び概要 (1) 講義の内容 本講義では、古代ギリシアから20世紀までの西洋美術を時代にそってみていきます。対象とする地域はヨーロッパと北アメリカ、また取り上げる美術は絵画だけでなく、彫刻、建築、装飾美術など多岐にわたります。講義は具体的な作品に焦点をあてながら進め、美術の作り手と受け手、作品の形態、作品が作られた時代の社会や文化背景などの諸問題について考察します。 (2) カリキュラム上の位置づけ 1年生から対象としています。2年生から履修可能となる文化系の演習の準備ともなりうる科目です。本講義は資格用の科目ではありません。 (3) 学びの意義と目標 西洋美術の歴史を学ぶことを通して、今後各自の専門的関心を深めるための基礎を養うことができます。様々な美術作品に親しむと同時に、その背後に宿っているメッセージを読み解く力を身につけましょう。なお、教科書以外に高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社）も参考にしてください。			
評価方法 出席（出席状況と授業態度、講義中に課す小レポートの内容）40%、中間試験30%、期末試験30%			
教科書 泉谷淑夫『美との対話—鑑賞への誘い—』日本文教出版株式会社			

生理心理学—心と身体の科学—		秋	週2回	4単位
担当者：小川 時洋				
講義の目標及び概要				
1. 内容 本講義では、最初に様々な精神活動の基盤となっている神経の働きや脳の構造、生理心理学の基本的な概念について解説する。その後、ストレスや感情、さらにいわゆるウソ発見などを通して、心が身体に与える影響や、その応用例について学ぶ。その後、睡眠や食行動、知覚・記憶・学習のような、基本的な行動や心の働きについて学ぶ。				
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎総合科目であるため、生理心理学の中でも基本的な内容について紹介する。				
3. 学びの意義と目標 21世紀は「脳の世紀」とも呼ばれている。こころの働きの多くを担うと考えられている脳をめぐる研究の発展が社会に与える影響は、今後ますます増大すると考えられ、脳や神経のはたらきに関する知識・理解は、現代社会で生きてゆく上で必要不可欠な教養になるであろう。本科目では、その基礎となる知識を身に付けられるようにしたい。				
評価方法				
(1) 出席 (20%)、(2) 各回の講義内容のまとめと学術的な感想 (60%)、(3) 読書レポート (20%) の合計で評価します。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。				
教科書				
プリントを配布する				

世界の諸宗教の歴史と思想		春	週1回	2単位
担当者：相澤 一				
講義の目標及び概要				
(1) 内容 本講義は、世界の主要な宗教の歴史と思想を、主として社会や歴史、そしてその構成員たちの常識やものの考え方に対して与えている影響という視点から、共通点よりも違いを強調しつつ説明する。「人類みな兄弟」「話せば必ず分かりあえる」という女子高生のセンチメンタリズムの持ち主は、本講義を聞いてショックを受けること請け合いである。 (2) カリキュラム上の位置づけ この講義は社会学系の科目の一つであるが、日本に限らずイスラム文化圏やキリスト教文化圏に暮らす人々の常識やものの考え方について勉強してみたい方は、ぜひこの講義を履修してみたい。				
(3) 学びの意義と目標 本講義を履修した学生は、自分の持っている価値観や、当たり前前と思っていることが、他の人たちにとっては全然当たり前ではないこと、そしてその違いの根底には宗教があることを思い知らされ、改めて宗教の力——怖さに目が開かれるであろう。そして、それなしでは真の国際人たりえないことは言うまでもない。				
評価方法				
おおよその目安であるが、出席と授業態度 (50%) および期末レポート (50%) の総合評価。				
教科書				
プリントを配布する				

セラピー特論		春	週1回	2単位
担当者：山田 麻有美				
講義の目標及び概要				
(1) 〈内容〉 講義名にあるセラピー therapy は、精神療法または心理療法ことである。それは、悩みや心の問題を、薬や外科的な手法を用いず、心理学的な手法を用いて解決しようとする方法のことである。本講義では、集団心理療法の一つであるサイコドラマを取り上げ、理論や実施法の解説と並行してサイコドラマの実技を行う。その体験を通して、集団心理療法についての理解が深めることを目指している。 (2) カリキュラムにおける位置づけ 児童学科の専門科目の中では、各論的な位置づけである。発達心理学や教育心理学を十分理解した上で履修することが望ましい。 (3) 学びの意義と目標 人間関係が希薄になっている現代社会において、集団心理療法の技法は、よりよい人間関係の構築や修復に応用することができる。サイコドラマという集団心理療法を実際に体験的に学ぶことは、心理療法の理論や実施法を学ぶというだけでなく、心理的に成長しよりよい社会人となる一助となると考えている。				
評価方法				
授業への参加度45%及び小レポート15%、理解度40%により算出する				
教科書				
D. Zoran/山田麻有美『サイコドラマ』りん書房				

専門演習 (Pop Culture) I		秋	週1回	1単位
担当者：K. O. アンダスン				
講義の目標及び概要				
1、内容：このゼミでは、外国の映画を通してその国の文化を学ぶ。13本の短編映画（日本語字幕付き）を鑑賞する。フランス映画3本、イタリア映画1本、イギリス映画6本、カナダ映画2本、日本映画1本。エ以外について反す時に用いられる語彙を学びいくつかの短い映画評論を読む。映画の登場人物、映画撮影法、ストーリーが繰り広げられている場所や映画のテーマなどについて検証する。映画のストーリーと自分の経験などを重ね合わせ話し合う。 2、カリキュラム上の位置づけ：現代の外国文化を学ぶ。2011年度春学期には、Casablanca, The Third Man and Roman Holiday を教科書を用いて学ぶ。 3、学びの意義と目標：外国映画を通して、他国の文化を学ぶ。				
評価方法				
10% 出席 30% 小テスト結果 30% 宿題（レポート）提出結果 30% 期末試験結果				
教科書				
Hiromi Akimoto / Mayumi Hamada 『Casablanca: Cool and Unforgettable English』 Macmillan Language House Mayumi Hamada, Hiromi Akimoto 『Roman Holiday』 Macmillan Language House				

専門演習 (Pop Culture) II	春	週1回	1単位
担当者：K. O. アンダスン			
講義の目標及び概要 このゼミは2010年度秋学期、専門演習 (Pop Culture) I の継続授業である。			
評価方法 10% 出席 30% 小テスト結果 30% 宿題 (レポート) 提出結果 30% 期末試験結果			
教科書 プリントを配布する			

専門演習 (アイデンティティの社会学)	春	週2回	2単位
担当者：横山 寿世理			
講義の目標及び概要 1. 内容 自己アイデンティティについての社会的意識を中心に扱う。より具体的には、その社会的意識についての課題文をわかりやすくまとめ直して、他の学生の前で報告して、質問を受け、回答するというゼミ形式で進める。 2. カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科3年次春学期開講の演習科目であり、この演習を修得しないと秋学期の卒業研究 (アイデンティティの社会学) が履修できない。 3. 学びの意義と目標 この演習では、自己アイデンティティに関する社会的意識について社会学的に考察することを目標とする。アイデンティティという概念と、これらの概念が社会や人びとのどのような考え方から形成されるのかについて理解することは異なるので、後者が現代的アイデンティティが現代社会や社会意識を理解するための一つの指標となり得ることに気付いて欲しい。そして、その指標を検証するために、秋学期の卒業研究において社会調査を実施することにしたい。			
評価方法 演習で与えられた課題への取り組み (40%) と、演習内での態度 (課題の報告、他の学生による報告への貢献、演習の運営態度) (60%) によって評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習 (アメリカ文化) I	秋	週1回	1単位
担当者：柴田 史子			
講義の目標及び概要 ◆内容 アメリカ合衆国は“nation of joiners” (グループに加入する人々によって創られた国) であると言われる。本演習では、アメリカ社会の礎となった集団、運動、クラブについて学ぶことを通して、アメリカ社会・アメリカ文化、そして現代社会のあり方を多面的、立体的に捉えていく。 テキストは日本語と英語 (プリントを配付) を併用し、各回担当者を決めてテキストの要約、翻訳や発表を行なう。 ◆カリキュラム上の位置づけ 3年次秋学期の卒業研究まで続く必修の演習科目の最初の科目として、2年次秋学期に開講される科目である。 ◆学びの意義と目標 1年半の演習科目を通して、日本語・英語の文献を読む力、自分で問題を発見・設定する力、レポートを書く力、発表しディスカッションする力といった社会人に必要な基本的な力を身につけることを目指す。			
評価方法 出席 (60%)、ゼミ発表 (30%)、討論への貢献など (10%) で評価する。期末テストは実施しない。			
教科書 綾部恒雄『クラブが創った国アメリカ』山川出版社			

専門演習 (アメリカ文化) II	春	週1回	1単位
担当者：柴田 史子			
講義の目標及び概要 ◆内容 アメリカ合衆国は“nation of joiners” (グループに加入する人々によって創られた国) であると言われる。本演習では、アメリカ社会の礎となった集団、運動、クラブについて学ぶことを通して、アメリカ社会・アメリカ文化、そして現代社会のあり方を多面的、立体的に捉えていく。 テキストは日本語と英語 (プリントを配付) を併用し、各回担当者を決めてテキストの要約、翻訳や発表を行なう。 ◆カリキュラム上の位置づけ 専門演習 I で習得したことを発展させ、通常のレポートよりも長い研究レポートを作成する卒業研究の準備をする演習である。 ◆学びの意義と目標 1年半の演習科目を通して、日本語・英語の文献を読む力、自分で問題を発見・設定する力、レポートを書く力、発表しディスカッションする力といった社会人に必要な基本的な力を身につけることを目指す。			
評価方法 出席 (60%)、ゼミ発表 (30%)、討論への貢献など (10%) で評価する。期末テストは実施しない。			
教科書 綾部恒雄『クラブが創った国アメリカ』山川出版社			

専門演習(異文化間教育Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：佐藤 千瀬			
講義の目標及び概要 1. 内容 「異文化間教育」とは、「2つ以上の文化の狭間で生活する人を対象にして、その人間形成や発達について、他者との関係性を通して把握すること」であり、その教育を考えるものである。具体例として、日本に住む外国人の子ども、海外に住む日本人の子ども、国際結婚の子どもを対象とした研究が挙げられる。本演習では、異文化間教育に関する各自の関心のある基礎文献を講読し、発表とディスカッションを行う。また、世界の保育・教育や現状にも目を向け、多様な保育・教育方法や各国の課題を、体験や映像を含めて学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ 2年次の選択必修であり、2年間にわたる最初の基礎ゼミである。 3. 学びの意義と目標 ・基礎文献の講読方法及び文献の収集方法、発表方法、レポート作成方法を学ぶ。 ・日本や世界の現状を知ること、自分自身の枠組みに気づき、多角的に考える。			
評価方法 平常点 40% レポート 20% 発表 40%			
教科書 プリントを配布する			

専門演習(英語学Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：加曾利 実			
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 言語と人間との関係、及びその本質に係わる諸問題について、英語学を中心に考えていくことが、本演習の目的です。本講義の特色は、授業の最初に履修者の英語力を確認し、基礎力が不十分な場合には、英語基礎力確充特別授業を実施します。十分な場合には、英語学のテキストを輪読します。因みに、過去10年間は、特別基礎力確充授業を実施してきました。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 英語を基礎から身につけたいと思っている学生の履修を望みます。 ◆学びの意義と目標◆ 本ゼミでは、言語習得理論・インド・ヨーロッパ語族・チョムスキーの生成変形文法などについての、やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、様々な問題について議論を深化させていきたいと思っています。			
評価方法 1. 予習・復習の実行度 (10%) 2. レポートの成績 (20%) 3. 定期試験の成績 (70%) 出席については、学生要覧を参照のこと。			
教科書 Sheila Chevallier『First Steps to Linguistics』三修社			

専門演習(英語学Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：加曾利 実			
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 専門演習(英語学Ⅰ)を踏まえて、言語と人間との関係、及びその本質に係わる諸問題について考えていきます。テキストを輪読しながら、英語の読解力を養成します。専門演習(英語学Ⅰ)で、英語の基礎力を身につけた学生は、専門演習(英語学Ⅱ)で英文専門書が読めるようになっていきます。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 主として英語学に関心のある学生を望みます。例年、専門演習(英語学Ⅱ)では、「言語習得理論」の解明がテーマになっています。 ◆学びの意義と目標◆ やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、様々な問題について、議論を深化させていきたいと思っています。更に、希望者がいれば、英語学との関連から、比較文化論などについても扱います。			
評価方法 1. 予習・復習の実行度 (10%) 2. レポートの成績 (20%) 3. 定期試験の成績 (70%) 出席については、学生要覧を参照のこと			
教科書 Sheila Chevallier『First Steps to Linguistics』三修社			

専門演習(英米文学Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：氏家 理恵			
講義の目標及び概要 〈内容〉 C.S.ルイスのファンタジー『ナルニア国年代記』の第1作『ライオンと魔女』を読む。前半は訳読、後半は発表とディスカッション形式です。事前に決めた担当者に分担部分についてのまとめ・解説・情報・コメントなどを発表してもらい、その後は発表を受けてのディスカッションとなる。この作品の背景にあるイギリスの歴史・社会・文化について知も考察し、さらには、映画作品との比較を通して、文学と映像という芸術分野・メディアの違いも確認する予定である。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 この科目はこれから2年間にわたる(ゼミ)の最初のものである。 〈学びの意義と目標〉 作品の分析方法を学ぶと同時に、作品を題材とした発表の仕方・レジュメの書き方・レポートの書き方などを身につけることも目的とする。文学作品を原書で読む楽しさを知るとともに、物語の「読み方」を学んでほしい。また、ディスカッションを通して自分の意見を積極的に発言することに慣れてほしい。			
評価方法 1. 平常点 30% 2. 課題 20% 3. 発表(レジュメ作成含む) 30% 4. 期末レポート20% なお、レポートはオンライン提出とする。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習(英米文学)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：氏家 理恵			
講義の目標及び概要 〈内容〉 前半は「専門演習Ⅰ」で作成したレポートの合評会、後半は「専門演習Ⅰ」に引き続き『ライオンと魔女』を読む。後半は事前に決めた担当者による発表と、発表を受けてのディスカッションですすめる。担当者は内容のまとめ・調べてきたこと・分析・コメントをレジュメを作成した上で発表する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 この科目は2年間続くゼミの一環である。 〈学びの意義と目標〉 「専門演習Ⅰ」では、原文で作品を鑑賞しながらレジュメの作り方や発表の仕方を学んだが、Ⅱではさらに調べ物の仕方、引用の仕方、論理的な文章の書き方を学ぶ。特にレポートについては、専門演習Ⅰで作成したレポートを合評しあうことで、レポートを書くコツ・読むコツを知り、アウトラインの組み立てや説得力のある文章・表現に慣れるようにする。また、文学作品を通してイギリスの歴史・社会・文化についての知識を深めることも目標とする。			
評価方法 1. 平常点 30% 2. 課題 20% 3. 発表（レジュメ作成含む）30% 4. 期末レポート20%			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習(音楽創造論Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：村山 順吉			
講義の目標及び概要 ヒトとして生きようとする「いのち」に対し、それを支えるものとして、音楽はどのような役割を持ち得るのか。また、その視点から、今後音楽は、どうあるべきなのだろうか。 本演習は、このようなテーマを中心に、人間と音楽の結びつきにおける基本的な学びを、実践研究等も通しながら深めていくことを、最大のねらいとしている。			
評価方法 授業態度と出席状況及びレポート。			
教科書 プリントを配布する			

専門演習(音楽創造論Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：村山 順吉			
講義の目標及び概要 「専門演習(音楽創造論Ⅰ)」での学びを受けて、さらにそれを深め発展させることが、最大のねらいである。 特に「専門演習(音楽創造論Ⅰ)」で経験してきた様々な実践を踏まえたうえで、各自の卒業研究に繋がるものとしての研究テーマの検討、またそれに則した創造的音楽実践のプログラムの立案が中心となる。			
評価方法 授業態度と出席状況及びレポート。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習(外国語教授法Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：長崎 睦子			
講義の目標及び概要 1. 内容 外国語教育、第二言語習得研究の分野は1960年代後半から急速に発展してきたものであるが、現在その研究領域は多岐に渡る。第二言語を取り扱う性格上、複雑ではあるが、非常にダイナミックで勢いのある研究分野である。まずは、演習を通して基本的な文献を読み、外国語を身につけるとはどういうことなのかを考察していく。さらに、第二言語習得理論やこれまでの研究結果などから、各自が効果的な外国語学習法、指導方法を考えていく。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。 3. 学びの意義と目標 外国語教育、第二言語習得研究に関する文献を通して基礎的な知識を得る。さらに活発なディスカッションを通して、この分野の様々な研究領域の中で、自分の興味のある研究課題を見つけていく。プレゼンテーションやレジュメの書き方も学ぶ。			
評価方法 平常点(出席や授業への貢献度など)(30%)、プレゼンテーション(20%)、プレゼンテーションのレジュメ(10%)、レポート(20%)、輪読(20%)(※評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業で説明するので確認すること。			
教科書 白井恭弘『外国語学習に成功する人、しない人—第二言語習得論への招待』岩波書店 白井恭弘『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』岩波新書			

専門演習(外国語教授法)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：長崎 睦子			
講義の目標及び概要			
1. 内容 専門演習Ⅰに引き続き基本的な文献を読み、外国語教育、第二言語習得に関する知識・知見をさらに広げ深めていく。またこの分野の様々なテーマに関するディスカッションやプレゼンテーション、ブック・レビューを通して、主体的かつ積極的に学問に取り組む。			
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。			
3. 学びの意義と目標 外国語教育、第二言語習得に関する文献を通して基礎的な知識を得る。さらに活発なディスカッションを通して、この分野の様々な研究領域の中で、自分の興味のある研究課題を見つけ、卒業研究へとつなげる。			
評価方法			
平常点(出席や授業への取り組み)30%、プレゼンテーション35%(=レジュメ10%+発表25%)Book Review 35%(=発表10%+レポート25%) *評価内容は変更する場合がある。その場合は、授業にて説明をするので確認すること。			
教科書			
授業の中で指示する			

専門演習(カウンセリング論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：長谷川 恵美子			
講義の目標及び概要			
1. 内容 心理学など、「ひと」に関する研究テーマの中で、自ら問題意識を持って、この分野に関連するトピックを調べ、まとめて、発表するという研究方法の基礎を身につけることを目的としている。			
2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習Ⅰ⇒専門演習Ⅱ⇒卒業研究 の順に履修する必修科目である。)			
3. 学びの目標 心理学系の研究方法の基礎を身につけることを目的としている。なお、受講者と相談しながら、また受講者の人数に応じ、文献講読、基本的な心理療法の実習などを適宜行う予定である。			
評価方法			
発表内容、授業への貢献度、課題レポート			
教科書			
授業の中で指示する			

専門演習(カウンセリング論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：長谷川 恵美子			
講義の目標及び概要			
1. 内容 心理学など、「ひと」に関する研究テーマのでの卒業研究をひかえ、自ら問題意識を持って、この分野に関連するトピックを調べ、まとめて、発表するという研究方法を身につけることを目的としている。			
2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習Ⅰを履修後、専門演習Ⅱ⇒卒業研究 の順に履修する必修科目である。)			
3. 学びの目標 心理学系の研究方法の基礎を身につけることを目的としている。なお、受講者と相談しながら、また受講者の人数に応じ、文献講読、基本的な心理療法の実習などを適宜行う予定である。			
評価方法			
報告発表、学期末課題レポート			
教科書			
授業の中で指示する			

専門演習(学習・教育心理学)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：小山 義徳			
講義の目標及び概要			
【内容】 人間の学びや、人がスキルを獲得するプロセスについて研究を行います。例えば研究テーマとしては、英単語を覚えるのにどうすれば良く覚えられるのか、分かりやすい文章を書くにはどうすれば良いのかなどが考えられます。しかし、学びとは学校における勉強に限りません。スポーツにおけるトレーニング方法の開発(100mを速く走るにはどのようなトレーニングが有効か)や、バイト先における仕事への熟達化なども研究テーマになります。幅広く、「人の学び」を扱います。			
【カリキュラム上の位置づけ】 人間福祉学科専門科目の2年間のゼミの基礎段階にあたります。			
【学びの意義と目標】 最初は、何をテーマに研究を進めれば良いのか分からないと思います。しかし、自分の意見を他のゼミ生に話し、コメントをもらい、時にはぶつかり合うことで、自分ひとりでは思いつかないアイデアを得ることができます。他者とのコミュニケーションが重要になります。本、新聞、自分の日常に目を向けて、まずは、「人の学び」の中でも、自分が特に何に興味があるのかに気づくことが目標となります。			
評価方法			
出席、発表内容を総合して評価する。			
教科書			
授業の中で指示する			

専門演習(環境保全論)	春 週2回 2単位
担当者：村上 公久	
講義の目標及び概要 1. 内容 環境史概観 この演習ではまず、システム“人間—環境”系の考察を中心に環境史を概観して、環境問題をめぐる理念の変遷を資料により学び、古代から近代まで(地中海文明から近代合理主義まで)の環境論の変遷を辿る。 次に、人口の急増と共に急速に生命の環境が劣化した産業革命以降今日までの環境問題を考え、その解決に貢献した先駆者達の歩みを振り返り、特に事例研究のテーマに「北米の森林史における森林保護思想と実践」を選び、自然保護と環境保全という立場の違いの検討を手がかりに21世紀の人類の課題 Sustainable Development 保続的(持続的)開発(地球サミットUNCEDの決議『アジェンダ21』)の可能性を探る。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目「環境保全論」で学んだ内容を事例研究を中心に展開する演習科目。 3. 学びの意義と目標 環境問題の事例研究を通じて、解決への実際的な方途について学ぶ。	
評価方法 学期中複数回の試験、出席状況、討論によるクラスへの貢献、レポートを総合的に評価する。	
教科書 プリントを配布する	

専門演習(教育文化論Ⅰ)	秋 週1回 1単位
担当者：寺崎 恵子	
講義の目標及び概要 1 内容 ルソーの『エミール』を読み解くことを、この授業の内容とする。読み解くことは、言い換えれば、ルソーと私たちが対話することである。その対話を通じて、人間としての「生」のありようを考えて、自分自身のなかにある子ども観を確認したい。 2 カリキュラム上の位置づけ 児童学科2年生を対象に開講される専門演習である。 3 学びの意義と目標 ルソーは『エミール』のなかで「わたしたちは生とともに学び始める。わたしたちの教育は、わたしたちとともに始まる」と述べている。18世紀に執筆されたこの作品を読んで著者と対話することは、わたしたちが教育を通じて人間として生きていることを確認することである。この確認を、学びの仲間と共有する。	
評価方法 報告(5点×14回＝70点)と期末課題(30点)とを総合して評価する。	
教科書 ルソー(今野一雄 訳)『エミール(上)』岩波書店(文庫)	

専門演習(教育文化論Ⅱ)	春 週1回 1単位
担当者：寺崎 恵子	
講義の目標及び概要 1 内容 長谷川摂子について研究する。長谷川摂子の作品のおもしろさを考究するとともに、昔話のおもしろさの特徴をあわせて理解する。また、表現方法の相違によって、作品がどのように変化するかを確認する。 2 カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰに続いて開講される演習である。前演習の発展的研究として考えている。 3 学びの意義と目標 受講生が、基本的な研究方法を身につけて次の卒業研究に応用していけるようにする。また、報告の工夫についても学習する。	
評価方法 報告(5点×14回＝70点)と期末課題(30点)とを総合して評価する。	
教科書 プリントを配布する	

専門演習(キリスト教社会倫理)	春 週2回 2単位
担当者：相澤 一	
講義の目標及び概要 この演習は、「キリスト教社会倫理」となっているが、キリスト教に限らず、社会や文化の根底に宗教があり、そこに暮らす人々のものの考え方や価値観を根底で支えている——神学者パウル・ティリッヒの「文化は宗教の形式であり、宗教は文化の実体である」という言葉を引用するまでもなく、これは知識人の間では常識であると言っても過言ではない。 しかし、現代日本社会では宗教に対する偏見のせい、宗教は事件を起こしてニュースにならない限りは表には出て来ず、あたかも秘密結社か趣味の団体の如き様相を呈している。しかし日本人のものの考え方や意識は、あたかも意識に対して無意識が影響を与えているように、宗教によって深く動かされているのである。この演習は、日本社会に対して宗教が——もちろんキリスト教も例外ではない——与えている影響を、まずは代表的な著作を読むことを通して考察していく。 過去には、ラインホルド・ニーバー「光の子と闇の子」、リチャード・ニーバー「キリストと文化」などを購読した。	
評価方法 出席状況、授業態度、発表の内容や授業参加の積極性などで総合的に判断する。期末レポートは課さないで、毎回の真剣な参加を求める。	
教科書 授業の中で指示する	

専門演習(キリスト教文化)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：菊地 順			
講義の目標及び概要 (1)内容 この授業は、1950～60年代のM. L. キングを中心として展開された公民権運動を、アメリカにおけるキリスト教文化の一つの現れとして捉え、その歴史的展開と思想的背景を学びながら、キリスト教の精神やアメリカの歴史・文化、さらに人間の生き方そのものについて理解を深めることを目指している。 (2)カリキュラム上の位置づけ この演習では、一般の講義とは異なり、キングや公民権運動に関する文献を読むことに主眼が置かれ、人物や事件について〈直接的〉に触れることが目指されている。 (3)学びの意義と目標 キリスト教の愛や正義について学ぶと共に、20世紀後半のアメリカにおける人種問題やデモクラシーの理解を深め、また人間の生き方の考察を深めることができる。			
評価方法 出席状況とレポートを総合して評価します。割合はそれぞれ50%です。なお、出席というのは、授業に積極的に参加することを意味しています。授業のために課された課題などをしてこない場合は、減点になります。			
教科書 プリントを配布する			

専門演習(キリスト教文化)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：菊地 順			
講義の目標及び概要 (1)内容 この授業は、1950～60年代のM. L. キングを中心として展開された公民権運動を、アメリカにおけるキリスト教文化の一つの現れとして捉え、その歴史的展開と思想的背景の学びをとおして、キリスト教の精神やアメリカの歴史・文化、さらに人間の生き方そのものについての学びを深めることを目指している。 (2)カリキュラム上の位置づけ この演習では、一般の講義とは異なり、キングや公民権運動に関する文献を読むことに主眼が置かれ、人物や事件について〈直接的〉に触れることが目指されている。 (3)学びの意義と目標 演習Ⅰを踏まえ、マーティン・ルーサー・キングを中心として展開された公民権運動の具体的な取り組みと、そこに見られる思想を掘り下げる。またそれがアメリカや世界に与えた影響と、公民権法成立後の混乱について概観する。			
評価方法 出席状況とレポートを総合して評価します。割合はそれぞれ50%です。なお、出席というのは、授業に積極的に参加することを意味しています。授業のために課された課題などをしてこない場合は、減点になります。			
教科書 プリントを配布する			

専門演習(金融市場論)	春	週2回	2単位
担当者：柴田 武男			
講義の目標及び概要 専門演習(金融市場論)では、できるだけゼミ生の問題意識に沿って講義を行いたい。 まず、問題意識を明確化するために幅広く、現在の金融問題を新聞・雑誌などから浮かび上がらせ、自らの関心がどの問題に向かうかを確定していく作業を行う。具体的には、新聞・経済雑誌から関心のある記事コピーを用意して、その内容について教員・ゼミ生で議論していく。さらにそこから生ずる問題を担当者がレポートしていくという形式で行う。具体的に取り上げる経済雑誌として、『週刊エコノミスト』『週刊東洋経済』『週刊ダイヤモンド』がある。ちなみに、最近では、「郵政民営化の是非」「中日貿易の変遷」「中小企業と高齢化社会」「インターネット取引の手法」「電子マネーの現状と課題」などが中心的なテーマとして取り上げられた。また専門演習は卒業研究レポートに結びつくものであるからテーマに対する問題意識の涵養を目標とする。はじめに、教員がゼミの進め方を解説し、その後はそれに沿ってゼミ生が関心のあるトピックをレポートしていく。 ゼミ生は、各自問題意識に沿った題材を、新聞記事・雑誌記事・専門書等からコピーして持参し、それをもとにゼミ生全員で議論していく形式である。			
評価方法 評価は、出席点(単にゼミの時間に存在したと言うことではなく、議論に参加したという意味で50%)とまとめのレポート(50%)。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習(経営管理)	春	週2回	2単位
担当者：後藤 兼一			
講義の目標及び概要 講義の目標：マネージメント又は経営管理で学習した内容をさらに発展させることが本演習の目的です。マネージメント及び経営管理に関心のある人、将来親の会社を継ぐかも知れないと思っている人を対象とする。講義では自分の目で見、自分の頭で考え、自分の体で行動するという態度を大切にします。そして、マネージメント及び経営管理の必要性を実感することを演習の目標とします。 講義の概要：経営管理の現場をどのように分析・把握したらよいか、経営管理の問題・課題などをどのように整理したらよいか、そして経営管理の改革案・改善案をどのようにして立てればよいか、さらにどのように実施して行けばよいかなどについて、実例をもとにわかりやすく勉強する。演習の特徴は、経営管理で使われている、用語を比較する形で行われるところにある。			
評価方法 専門ゼミでは演習を進めると同時に、学生同士及び教員との親睦をはかることも大切にしている。学期末定期試験はない。従って評価は出席状況40%とレポート60%を総合して決める。			
教科書 プリントを配布する 松下 幸之助『道をひらく』PHP研究所			

専門演習(言語と社会)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：D. パーガー				
講義の目標及び概要 1. 内容：この演習では言語と社会に関するいくつかの研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語と社会」と並行するが、専門演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、Ⅱではこの調べを続けるので、各課題をより深く追求することができる。専門演習Ⅰでは、言語に関する作り話や思い違いに焦点が当てられる。「言語」と「社会」を人間の普遍的な現象として受け止め、また、特定の「言語」や「社会」を取り上げ、比較する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生は各課題について研究し、書面でも口頭でも発表する。学期末にその課題の中から1つ選び、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められている。 2. カリキュラム上の位置づけ：専門演習Ⅰは最初の演習で、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。 3. 学びの目標：この演習の目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、この演習は受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。演習の言語（日本語または英語）は受講生が決める。従って、英語に強い関心を持っている学生にとってこの演習は興味深いであろう。				
評価方法 15% 授業への出席；15% 授業での参加態度；20% 各課題についての要約、独自の研究レポート；10% その口頭発表；25% 専門演習Ⅰ最終研究レポート；15% その口頭発表				
教科書 プリントを配布する				

専門演習(言語と社会)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：D. パーガー				
講義の目標及び概要 1. 内容：この演習では言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語と社会」と並行するが、専門演習Ⅰと同様に、より深く追求することができる。専門演習Ⅱでは、方言となりという言語変種について研究する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生は各課題について研究し、書面でも口頭でも発表する。学期末にその課題の中から1つ選び、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められている。 2. カリキュラム上の位置づけ：専門演習Ⅱは専門演習Ⅰの続きで、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。 3. 学びの目標：この演習の目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、この演習は受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。				
評価方法 15% 授業への出席；15% 授業での参加態度；20% 各課題についての独自の研究レポート；10% その口頭発表；25% 専門演習Ⅰ最終研究レポート；15% その口頭発表				
教科書 プリントを配布する				

専門演習(現代ヨーロッパ事情)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：佐藤 啓介				
講義の目標及び概要 1) 内容 現代ヨーロッパの諸問題を学びつつ、その社会（政治、企業の理念など）や文化（製品デザイン、景観など）を形成している考え方や価値観について、日本語のテキスト講読を通して理解を深める演習です。各回担当者を決め、要約や発表をおこないます。取り上げるテキストは参加者の関心に応じて決めます。専門演習Ⅰでは主に、20世紀ヨーロッパの製品と都市のデザイン、およびその背後にある思想を扱います。 2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目の選択必修科目であり、2年間のゼミの基礎段階にあたります。 3) 学びの意義と目標 ゆっくりでよいので、専門的に書かれた日本語の文章を自分の言葉で平易に置きかえながら読めるようになることが目標です。また、そこで書かれたことに基づいて、自分なりの考えを他の人に分かるように発言し、相手の発言を受けて議論できるようになることも目標です。ゼミ2年間かけて、現代のヨーロッパの社会や文化の一端を理解・分析できるグローバルな職業人になることを目指し、この科目はその土台作りに相当します。				
評価方法 発表点（40%）、討論への参加度（20%）、学期末レポート（20%）、出席点（20%）				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(現代ヨーロッパ事情)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：佐藤 啓介				
講義の目標及び概要 1) 内容 専門演習Ⅰに続き、現代ヨーロッパの社会や文化を形成している考え方や価値観について、日本語のテキスト講読を通して理解を深める演習です。演習Ⅰでは美的価値が主題だったのに対し、演習Ⅱでは倫理的価値を主題とします。各回ごとに担当者を決め、翻訳や発表、参加者同士の議論をおこないます。取り上げるテキストは参加者の関心に応じて決めます。また、後半では、特定のテーマを選んで研究を行ない、その成果を発表してもらいます。 2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目としての選択必修科目であり、ゼミの基礎段階にあたります。 3) 学びの意義と目標 専門的な文章を自分の言葉で平易に置きかえながら読む力を磨き、それに基づいて、自分なりの考えを他の人に分かるように発言し、相手の発言を受けて議論できるようになることも目標です。ゼミ2年間かけて、現代のヨーロッパの社会や文化の一端を理解・分析できるグローバルな職業人になることを目指し、この科目はその土台作りに相当します。				
評価方法 発表点（60%）、討論への参加度（20%）、出席点（20%）				
教科書 プリントを配布する				

専門演習(高齢者福祉論)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：古谷野 亘				
講義の目標及び概要 高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。				
評価方法 ゼミへの貢献度				
教科書 古谷野亘・安藤孝敏『改訂 新社会老年学：シニアライフのゆくえ』ワールドプランニング				

専門演習(高齢者福祉論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：古谷野 亘				
講義の目標及び概要 高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。				
評価方法 ゼミへの貢献度				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(国際政治論)		春	週2回	2単位
担当者：秋吉 祐子				
講義の目標及び概要 〈内容〉：地球上の人間の存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観において共通な国際的課題を分析・考察する。授業メインメニューは1. 共通認識を持つための指定教科書の輪読と自主研究のプレゼンテーション（プレゼン）、それらに基づく質疑・応答、討論。2. 上記世界観に基づくディベート、3. レポート類作成（輪読レポート・自主研究論文、フロアー評価レポート等）である。適時に講義・VTR活用授業を行う。4. 体験学習の意義に鑑み、農業体験合宿：米作り・田植えを行う。体験学習には大学行事参加もあり得る。各授業のメニューや課題等の双方向通信はNet Commonsを用いる。 〈カリキュラム上の位置づけ〉国際政治学系の専門演習である。 〈学びの意義と目標〉1. 上記テーマへの学習により人間社会の在り方を模索する。2. 受講生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 実社会でも有効な様々な能力・スキルを育成する。（AO機器を活用した様々な形態の発表・発言能力と技術の育成を含む。）				
評価方法 評価項目 プレゼン・レジュメ・司会・質疑/応答・討論・ディベート・レポート等50%、体験学習30%および授業態度20% 但し担当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。				
教科書 授業の中で指示する 玉木 浩二『地球環境・農業・エネルギー』理工図書				

専門演習(子ども家庭論)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：中谷 茂一				
講義の目標及び概要 目標：演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をととして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかることを目標とする。 概要：履修者の興味関心に基づき、児童福祉に関連するテーマをいくつか自分で設定し、学生による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員による補足をする。テーマ設定は自由だが、家族社会学関連領域、子ども虐待・ネグレクトに関連する内容が望ましい。 個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。 ※講義科目の「家族社会学（中谷担当）」を履修済みまたは同時履修すること。				
評価方法 (1)発表内容 (2)ディスカッション参加状況 上記の総合評価による。				
教科書 岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む 家族（改訂版）』有斐閣 山縣文治・柏女霊峰 編『社会福祉用語辞典』ミネルヴァ書房				

専門演習(子ども家庭論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：中谷 茂一				
講義の目標及び概要 目標：専門演習Ⅰにおける発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に発表レジュメの質を高めることも目標とする。 概要：自己の興味関心に基づいて設定したテーマについて学生個人による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。 個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティアなどから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。 ※講義科目の「家族社会学(中谷担当)」を履修済みまたは同時履修すること。				
評価方法 (1)ディスカッション参加状況 (2)発表内容 (3)演習レポート内容 上記の総合評価による。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(コミュニティ政策)		春	週2回	2単位
担当者：大高 研道				
講義の目標及び概要 1. 内容 本演習では、コミュニティにかかわる諸政策や活動の実践的理論について学ぶ。まず、テキストをもとに、各自が関心のある課題について自由に報告・議論する。その上で、さらに深めたいと思った課題を選び、調査・報告する。また、問題関心の状況に応じてグループをつくり、現地調査等(資料収集や聞き取り)を行う。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の必修科目である。専門知識の基礎を学ぶと同時に、卒業研究レポートの準備段階として調査・報告・レポート執筆の方法・技術を習得する。 3. 学びの意義と目標 最終的には、コミュニティにかかわる諸政策・行政・市民活動等の方向性について、各自の問題関心のある領域で一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。				
評価方法 ・ゼミへの参加状況(報告内容、討論時の積極性:70%)およびレポート(30%)。 ・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は大幅な減点の対象となる。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(算数Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：佐藤 逸子				
講義の目標及び概要 (内容) 算数の数・量の指導を中心に、子どものつまずきの原因と解決方法を探る。立体図形については、見える力を補強する。数学では論理を正しく発展させる必要があるが、その技法も体験を通して学んでもらう。 (カリキュラムの位置づけ) 小学校の教員を目指す学生を対象とする。 (学びの意義と目標) 算数を教えるためには、算数にとどまらず、数学の知識と論理性が欠かせない。論理力をしっかり身につけることを目標とした。				
評価方法 研究発表・課題レポートの内容・討論の参加度を総合して評価する。毎回の出席が前提となる。				
教科書 プリントを配布する				

専門演習(算数Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：佐藤 逸子				
講義の目標及び概要 専門演習(算数Ⅰ)の内容をさらに発展させて、論理的思考を深めていく。折り紙その他の立体教材を用いて、立体感覚を養う。数学の基礎知識を増やし、発表を通して、論理的な展開の習熟を養う。				
評価方法 研究発表・レポート内容・討論の参加度を総合的に評価する。毎回の出席が前提となる。				
教科書 石橋康徳『算数学』日本評論社				

専門演習(児童英語教育)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：東 仁美				
講義の目標及び概要				
1. 内容 小学校での外国語活動必修化が決まり、早期英語教育に対する関心が高まっている。 専門演習Ⅰでは、入門書を読み合わせしながら、児童英語教育の理論と実践を学んでいく。 英語教育への興味を高めるために、小学校英語に限らず、幼稚園、民間の英語教室、中高の英語の授業の見学などのフィールドワークの課題を課す。 また、小グループで英語学習のテーマを決め、自らを学習者のサンプルとしてプロジェクトを遂行することを通して、効果的な英語学習法を考察していく。				
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。				
3. 学びの意義と目標 児童英語教育の基礎的な資料を読み、自分の興味分野への知的好奇心を高めていく。また、プレゼンテーションやグループディスカッションの力もつけていく。				
評価方法				
授業への出席、参加	20%			
プレゼンテーション	30%			
レポート	30%			
学期末課題	20%			
教科書				
Mary Slattery & Jane Willis 著 外山節子 監訳 『子ども英語指導ハンドブック』旺文社				

専門演習(児童英語教育)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：東 仁美				
講義の目標及び概要				
<p>文献の読み合わせをしながら、子どもが英語を学ぶことを理論と実践の両面から考えていく。</p> <p>授業は担当者による発表と活動の紹介の形で進める。発表者はレジメを準備し、事前に決められた分担部分についてのまとめ、解説を行なう。</p> <p>専門演習Ⅰに引き続き、小学校現場、幼稚園、民間の英語教室及び中高の英語科の授業を見学するフィールドワークも課題として行い、見学した授業の内容を授業の中でフィードバックしていく。</p> <p>学期中に各自興味のある文献を一冊読み、ブックレビューをまとめる。ブックレビュー集を作成することにより、英語教育の様々な分野の情報交換をし、卒業研究のテーマ決定の題材としていく。</p>				
評価方法				
授業への出席、参加	20%			
プレゼンテーション	30%			
レポート	30%			
学期末課題	20%			
教科書				
アレン玉井光江『小学校英語の教育法 理論と実践』大修館書店				

専門演習(児童学Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：田澤 薫				
講義の目標及び概要 1. 内容 子どもをめぐる様々な場面に目を向けながら、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。 2. 学びの意義と目標 子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究の入り口に立って、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。				
評価方法 出席した上での積極的な参加(発言) 20% 課題報告 30% レポート50%				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(児童学Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：田澤 薫				
講義の目標及び概要 1. 内容 専門演習(児童学Ⅰ)の学習内容と踏まえ、さらに受講者各々の問題意識に沿って子どもをめぐる様々な主題に取り組むことで、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。 2. 学びの意義と目標 子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。				
評価方法 出席した上での積極的な参加(発言) 20% 課題報告 30% レポート50%				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(児童教育学Ⅰ)

秋 週1回 1単位

担当者：永井 理恵子

講義の目標及び概要

児童教育をとりまく課題に、歴史的視点をもってアプローチしていくゼミナールの基礎ゼミである。3、4年と上級学年に上がっても、本ゼミナールを履修する学生は一貫して、歴史的接近法を用いることを基本とする。よって、歴史に興味関心のない学生には楽しいゼミとはならないことを承認しておくこと。3、4年になると、各自の問題関心に応じた主題を選択し、それに関する歴史的視点をもって考究していくようにする。対象とする時期と地域は主として近代の日本もしくは西洋であるが、背景として更に古い時代の思想史なども取り扱う。この「専門演習(児童教育学Ⅰ)」では、上記のような歴史研究に接近する基礎力を得るために、教師のほうから課題図書を定め、それを履修者全員で読むという地味な学習を行う。後半の教育学に関する文献購読では、担当箇所を決め、各自で読んでレジュメを作成してきて発表してもらう活動を通し、児童教育学に関する基礎知識を幅広く習得することを目指す。なお、講義の進行は、多少前後する場合があると見込まれる。

評価方法

討議への参加の姿勢を平素から採点すると共に、レジュメ内容や発表の在り方を見て総合的に判断する。

教科書

プリントを配布する
佐々木正美『子どもへのまなざし』福音館書店
上野恭裕他『新現代保育原理』三見書房

専門演習(児童教育学Ⅱ)

春 週1回 1単位

担当者：永井 理恵子

講義の目標及び概要

目標：児童教育学Ⅰで習得した乳幼児の育ちに関する基礎的学習に基づき、各自の乳幼児の育ち・育てに対する興味関心に応じて考究を始める。研究主題は、乳幼児に関する内容であれば何でも構わないが、課題意識を明確にして受講することが必要である。
概要：学生各自が、それぞれの課題を見つけ、その課題に対して考察を深めていく。担当者は、各自の考察が効果的に深められていくように援助指導する。学習の主体はあくまで学生自身である。

評価方法

各自の平素の学習態度および成果。

教科書

授業の中で指示する

専門演習(児童福祉実践論Ⅱ)

春 週1回 1単位

担当者：金谷 京子

講義の目標及び概要

児童福祉実践論での学習をさらに発展させ、自分でテーマを絞りこんで調査研究を深めていく。
研究は文献だけにとどまらず、実際に視察や継続観察、行事の企画、インタビュー、ボランティア体験など様々な実践研究の手法を使って自分のテーマに沿った情報収集をしていく。
カリキュラムの位置づけ：卒業必修科目である。

評価方法

レポート、平常点

教科書

授業の中で指示する

専門演習(児童福祉論)Ⅰ

秋 週1回 1単位

担当者：池 弘子

講義の目標及び概要

1. 内容
子どもを取り巻く環境や子どもの生活等について学び、関心をもったテーマについて、討論したり、わからない点について調べたり、レポートを書いたりすることによって、子どもや子どもにかかわる問題に関する理解を深める。具体的には、まず、子どもにかかわる問題について概観し、その後、関心をもったテーマについてグループで調べたり、討論したりしてまとめ、発表する。
2. カリキュラム上の位置づけ
児童福祉論、家族社会学、発達心理学Aなどで学んだことに基づいて、さらに子どもや子どもにかかわる問題に関する理解を深める。
3. 学びの意義と目標
子どもや子どもにかかわる問題の理解を深めるとともに、必要な情報の探し方、報告用資料の作り方、報告方法についても学習する。

評価方法

- (1)出席状況 40%
- (2)演習への参加度 30%
- (3)レポート 30%

教科書

授業の中で指示する

専門演習(児童福祉論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：池 弘子				
講義の目標及び概要 1. 内容 専門演習Ⅰで学んだ子どもや子どもにかかわる問題で関心をもったテーマについて、各自が資料や論文を探し、それらの概要について発表し、内容について討論したり、わからない点について調べて再度発表するという形で進めていく。これによって、自分が関心をもったことに関する知識を深めるとともに、専門演習Ⅰで学んだ必要な情報の探し方、報告用資料の作り方、報告方法について習熟する。 2. カリキュラム上の位置づけ 家族社会学、児童福祉論、発達心理学Aなどに加えて、専門演習Ⅰで学んだことをさらに深めて、卒業研究Ⅰ、Ⅱにつなげていく。 3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを書くための基礎をつくる。				
評価方法 (1)出席状況 40% (2)演習への参加度 30% (3)レポート 30%				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(児童文学Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：松本 祐子				
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉初回の授業で、各自「小中学生に勧めたい物語ベスト10」のリストを用意してくる。その中から特に1冊を選び、毎回、一人ずつ、自分の選んだ作品について分析、発表する。ディスカッションを可能にするため、受講者全員がその作品を読んでくると。発表とディスカッションを中心に、毎回、読書会のスタイルで授業を進める。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉卒業研究、卒業論文へと続く最初のゼミであり、最終的にきちんと研究論文を書くことができるようになるための基礎力を養う授業である。 (3)〈学びの意義と目標〉このゼミは、主に小学校教員を目指す学生たちの国語力向上を目的とする。様々な児童文学作品を通して、母国語である日本語についての理解を深めてゆきたい。				
評価方法 授業時の発表40%、学期末レポート40%、平常点20%によって算出する。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(児童文学Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：松本 祐子				
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉小学校教科書、文学作品、新聞、インターネットなど、様々なメディアから国語的課題を見つけ出し、分析・考察しながら、母国語である日本語の理解を深めてゆく。授業の後半は、教育実習準備のため、実際に模擬授業、ブックトークなど、実践的な発表力を身につける練習をする。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習Ⅰで身につけた基礎的国語力をさらに向上させ、卒業研究、卒業論文へとつなげていく授業である。 (3)〈学びの意義と目標〉社会人としての教養と日本語力を身につけること、また、幼稚園・小学校教諭を目指す学生たちの国語力を向上させることを目標とする。				
評価方法 毎回の宿題40%、模擬授業・ブックトークの発表40%、平常点20%で評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(児童臨床心理学Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：山田 麻有美				
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉児童臨床心理学は、心の元気を失い、悩みや心の問題を抱えている子どもの発達に必要な手助けを目指す心理学の一分野である。子どもの悩みや心の問題が生じる要因やメカニズムは多様で複雑であり、その理解は容易ではない。本演習では、児童臨床心理学の基礎となる心理学の基本的な考え方について、文献を通して学び、簡単な心理学的実験や実習を通して理解を深め、個々人の興味関心が問題意識に発展するようにしていく。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉児童学科専門科目で、卒業必修科目であり、専門演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱに続くものである。 (3)〈学びの意義と目標〉児童臨床心理的な諸問題を考える際の基礎となる心理学の基本的な考え方を学ぶことで、心理学的あるいは科学的なものの考え方を身につけることができる。その科学的態度で受講生が各々の問題意識を明確にしていけることを目標としている。				
評価方法 文献講読の準備と発表内容(60%)と、討論への参加度(30%)、及び出席(10%)を合計し評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(児童臨床心理学Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：山田 麻有美				
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉 専門演習Ⅰ(児童臨床心理学)で得た心理学の基本的な知識とその考え方をもとに、心理学的な問題に関する理解をさらに深め、各自の興味関心のある分野を発見することを目指す。具体的には、毎回、受講生は、各自の興味関心を持つテーマを取り上げ、そのテーマに沿った文献を収集し、読み解き、要点をまとめてレポートすることが求められる。またレポートされる内容について全員で討議し、心理学的に考える力を養う。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉 児童学科専門科目で、専門演習Ⅰを履修した者が受講する卒業必修科目である。卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱに続く。 (3)〈学びの意義と目標〉 心理学的な問題をより深く理解するため、各自の興味関心のある分野や課題に関する文献を収集し、読み解き、要点をまとめる過程を通して、現代を生きる社会人の資質として必須の、情報の収集とその整理法とを身につけることができる。また、レポートの内容の討議を通して、創造的な思考ができるようになることを期待される。				
評価方法 文献収集とレポートの準備(60%)と、討議への参加度(30%)、出席(10%)の合計により評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(社会科Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：深澤 悠紀雄				
講義の目標及び概要 専門演習(社会科Ⅰ)の継続で行います。選択課題に基づく協議(2以降)間に現地学習(校外学習)を、1回予定しています。課題の設定は社会科教育にかかわるものとし、協議により決定します。				
評価方法 授業参加状況、レポート内容等を参照して評定します。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(生涯学習Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：小池 茂子				
講義の目標及び概要 1. 内容 2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。本演習では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。 また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を 目指そうとしているのか、資料を収集し、それを読み、検討し合うことを通じて現代社会における人間の教育が子どもだけに留まらない生涯に亘って必要である意味とは何かについて考察する。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科の必修科目。 3. 学びの意義と目標 生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革とそこに於ける課題などを理解する。現代社会とそこにおける問題と教育改革の流れについて、受講者が自ら関心のあるテーマを選ん で掘り下げていく為、基礎知識と研究方法の習得を目指す。				
評価方法 出席(40%)と、平常点(60%)を踏まえ総合的に評価を行う。				
教科書 授業の中で指示する 鈴木眞理『学ぶこと・学ばないこと』学文社				

専門演習(生涯学習Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：小池 茂子				
講義の目標及び概要 1. 内容 専門演習(児童学Ⅰ)の学習内容と踏まえ、さらに受講者各々の問題意識に沿って現代社会と教育あるいは子どもをめぐる様々な主題に取り組むことで、様々な素材を研究の対象として捉えることの意味を考える。 2. 学びの意義と目標 社会の中に存在する教育の現象を調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。教育という現象を研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。社会のなかに多様に存在する教育活動に関する研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。				
評価方法 出席した上での積極的な参加(発言)20% 課題報告 30% レポート50%				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(障害児心理Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：石川 由美子			
講義の目標及び概要 ころという問題に興味があり、ころを解き明かしたいと思う人のために、「私がいてあなたがいる」と伝えておこう。そして、人が育つあるいは発達するという環境には、「大人がいて子どもがいる」と伝えておこう。ころは、時間と空間によって変化する。変化し続ける特性をもつ。大人が子どもに向けて注ぐまなざしは、人間としての文化を何一つもって生れてはこなかった子どもに、人間として〈私〉として生きる「私の文化」を教授—学習する場を提供することになる。障害のある子どもという対象を通して、一人の人間が私の文化を生きては？ということを学習(研究も含む)するために必要な知識と技術、そして彼らとともに生きるための心構えを学ぶ。 ゼミでは障害児支援に理解のある幼稚園、保育園などでの観察学習、大学での発達相談で個別援助にも取り組むことで学びを深めたいと思います。			
評価方法 ディスカッションと発表、レポートで評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習(障害児心理Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：石川 由美子			
講義の目標及び概要 専門演習Ⅰ(障害児心理Ⅰ)を終えた方々を対象とします。 子どものへの支援を土台にする実践研究の方法の基礎を学ぶ。観察法、調査法など、心理測定法の基礎を学びつつ、子どもの支援に結びつく心理的知識、記述、実践を学んでいくことを目的とします。 なお、ゼミでは障害児支援に理解のある幼稚園、保育園などでの観察学習、大学の発達相談で個別援助にも取り組むことでも学びを深めたいと思います。			
評価方法 文献講読、研究法および研究手法の学習と発表など、それぞれがまとめ発表する内容で評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習(声楽Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：藤田 明			
講義の目標及び概要 1) 内容 こどもの為に考えてあげなければならないものの一つに環境がある。そして、その環境の一部を教師や保育士自身が担っているのだということを認識していなければならない。この演習では、こどもを取り巻いている環境について学ぶことと、学生自身が音楽的な環境の一部になる為には何をすべきかを学ぶ。 2) カリキュラム上の位置づけ 声楽に関する専門的な知識とテクニックの力を学びながらその応用を研究する。 3) 学びの意義と目標 音楽によって育まれた感動する心と音楽表現のためのテクニックを付けることは、教育者としての幅を広げることとなる。このような柔軟な心と感性豊かな教師を目指す。			
評価方法 試験・発表50% 積極性30% 出席20%			
教科書 茂木健一郎『感動する脳』PHP研究所			

専門演習(声楽Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：藤田 明			
講義の目標及び概要 1) 内容 専門演習(声楽Ⅰ)に引き続き、発声法や歌唱表現について学びながら環境の一部を担う要素を更に研究するとともに感動ということとは何かを研究する。 2) カリキュラム上の位置づけ 音楽全般について学ぶことと歌唱表現や詩の朗読、語りについて研究する。 3) 学びの意義と目標 専門演習(声楽Ⅰ)で研究してきた事柄を更に進める。			
評価方法 試験・発表50% 積極性30% 出席20%			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習(政治過程論)		春	週2回	2単位
担当者：森分 大輔				
講義の目標及び概要 〈内容〉政治過程論の専門演習として、今回は特に洋の東西にまたがる近・現代の政治理論家のテキストを読み込むことを主眼とする。また、それに関連する議論をおこなうことで参加者の政治学的素養を深める。今回の主たるテーマはナショナリズムである。同時に各参加者独自の関心からテーマを選択し、それぞれの関心を深める作業を並行しておこなう。 〈カリキュラム上の位置づけ〉これまでに身に付けてきた、様々な社会科学的教養を前提として、三年生向けの専門演習として、政治過程論に興味、関心を持つ学生諸君の問題意識を深めることを手助けすることを目的としている。 〈学びの意義と目標〉アカデミックな専門的知識のみならず、それらを現実の問題に適用する能力の獲得を目的とする少人数のゼミ形式授業であることから、時事問題を議論することで、「時代認識」を鍛えることをねらいとする。受講者にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極的に取り組む姿勢が求められる。				
評価方法 第1に「出席」(20%)、第2に授業への「コミットメント」(発言頻度：毎回1回以上の発言を求める)(30%)、第3に学期終了時に提出する「学期末レポート」(50%)。以上3点を総合して評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(精神保健福祉論)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：相川 章子				
講義の目標及び概要 1. 内容 精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学ぶためにおこなう、わかりやすい基礎的な文献を指定し講読する。文献の読み方、文献から何を学び、疑問を持ち、自らの関心ごとや疑問をどのように広げ、またつなげていくかを学ぶ。また、ゼミ内での発表およびディスカッションを経験することによって自らの意見を表現していくことを学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ 精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学び、それをもとに自らの関心や疑問を表現し、自ら疑問について調べてみる段階。「研究」とはなにかをつかむ。 3. 学びの意義と目標 それぞれがもつ漠然とした関心や疑問を表現していくことが重要な作業となる。そのために広くさまざまな文献を読み、豊かな発想力を養い、それらを表現していくことに慣れていく。				
評価方法 (1)出席状況(30%) (2)ディスカッション等への参加や発表(30%) (3)レポート(40%)				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(精神保健福祉論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：相川 章子				
講義の目標及び概要 1. 内容 専門演習Ⅰで深めた学びをもとに、各受講者の関心あるテーマについて文献を収集し先行研究を吟味する。文献講読を通し研究のすめかた、仮説のたてかた、研究方法などについて学ぶ。また、研究レポートおよび研究活動のいずれかを選択し、各自関心のあるテーマについて取り組む。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰにおいて精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学び、それをもとに自らの関心や疑問を具体化させる段階であり、基礎から応用へと展開させる位置づけである。 3. 学びの意義と目標 自分自身の関心のあるテーマをみつけていくことが重要な作業となる。そのためにさまざまな文献を調べ、読み、知識を広げ、豊かな発想力を養う。				
評価方法 (1)出席状況(30%) (2)ディスカッション等への参加や発表(30%) (3)レポート(40%)				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(造形教育論Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：喜田 敬				
講義の目標及び概要 1) 内容 就学前好きであった造形活動が、小学校入学後嫌いになる例が、多く報告されている。その原因として、作品に対する教師の評価や、生徒の認知発達による、他者との比較などがあげられる。では、保育現場での造形活動には、全く問題はないのか。幼児期の造形体験・造形教育の望ましい在り方とは如何なるものか。本授業では、造形教育の歴史と現状を中心にこの点を考える。 2) カリキュラム上の位置づけ 児童学科2年生の必修科目。 3) 学びの意義と目標 作者である子どもの心を知る知性と感性を身につける。				
評価方法 出席状況、レポート80% ディスカッション20%				
教科書 プリントを配布する				

専門演習(造形教育論Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：喜田 敬				
講義の目標及び概要 1) 内容 保育者は、園児の描画活動を指導すべきではない、と考える幼稚園は日本では少なくない。「これまでの教育論が、知的な領域と情的な領域に人間の心を分化し、知的教育が推進されるために情的な育成が阻害されるという二元論に立つことが多かった」(『造形表現 理論・実践編』)ことも、その理由の一つであろう。だが、「造形的な活動は単に行為とか表出とか、経験、記録のみにとどまってしまって、芸術的な感動とか思いの表現に入らないで」よいのか。 専門演習Ⅱでは、内外の造形教育の研究と実践から、保育造形の望ましい在り方を探る。 2) カリキュラム上の位置づけ 児童学科3年の必修科目。 3) 学びの意義と目標 造形教育とは何か。知識の蓄積とともに、考える習慣をみにつける。				
評価方法 レポート60%、発表20%、制作20%。				
教科書 プリントを配布する				

専門演習(ソーシャルワーク論Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：助川 征雄				
講義の目標及び概要 1 内容 基本的な課題解決能力を高めるために、「フィンランドメソッド」の考えをベースに、身近なテーマで、考える力、表現する力、傾聴する力、集中する力などに関する演習を行います。具体的には、特定の書籍、新聞記事、小論文などをテキストとし、輪読、ディスカッションを行う。あわせて、学外の研究会参加、社会見学、ゼミ合宿等も積極的に行います。 2 カリキュラム上の位置づけ 一義的には、個別・小集団演習などを通じて、自分の強み(素質、能力、希望、身近な社会資源)を自覚し、社会福祉専門職に不可欠の常識や素養を身につけるための授業。 3 学びの意義と目標 各自の強み(ストレングス)発見し、深化させるとともに、次年度に向けた研究テーマや進路を探索します。				
評価方法 出席率、平常点、ゼミレポートなどにより総合的に評価します。				
教科書 プリントを配布する				

専門演習(ソーシャルワーク論Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：助川 征雄				
講義の目標及び概要 1 受講学生の個別研究テーマ別の個別指導による研究内容の深化 2 卒業論文またはゼミ論文(本文8,000字以上)の作成指導 3 研究成果の評価と共有				
評価方法 卒業論文またはゼミ論文の成果による。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(地域圏研究ロシア)		春	週2回	2単位
担当者：飯島 康夫				
講義の目標及び概要 巨大な隣国ロシア、そしてロシアやウクライナなどを育んだ悠久のユーラシアの大地と文化について考察する機会とする。詳細は、学生との相談による。				
評価方法 ゼミ論文(30%)と発表(20%)、出席(50%)による				
教科書 授業の中で指示する 司馬遼太郎『ロシアについて』文芸春秋				

専門演習(地域福祉論)Ⅰ

秋 週1回 1単位

担当者：牛津 信忠

講義の目標及び概要

地域の中における社会福祉として身近になった福祉を、毎日の生活の中に感じるとともに、それを地域に本当に根付かせるための方策、政策や技術を考えていく。

身近な問題から出発していき、その必要性、今後の展開をも理解しつつ、単なる現実の福祉状況としてのみではなく、その現代における意味をも深く理解することに努めたい。それを研究途上の発表として他のゼミ生に聞いてもらうことにより、自らの成長の糧とすることができるゼミ参加者であってほしい。

評価方法

発表の機会が多く与えられるので、その折のまじめな取り組みの姿勢、および学期末のレポートの完成度によって評価する。

教科書

授業の中で指示する

専門演習(地域福祉論)Ⅱ

春 週1回 1単位

担当者：牛津 信忠

講義の目標及び概要

〈内容〉演習受講者各自が演習(地域福祉論)Ⅰにおける研究テーマをいっそう深め、その研究の地域福祉論上の位置と役割を明確にしていくことを目指し演習を進める。

〈カリキュラム上の位置づけ〉専門研究の糸口を開く演習Ⅰに基礎付けられ、さらに学びを深め専門研究Ⅱとして、選び取った専門課題についての知識と思考力の高度化を図る演習である。

〈学びの意義と目標〉自らの研究が、地域福祉ネットワークの形成及びその質的向上のためにどのようなインパクトを与えることができるかを、それぞれ課題説明を通して具体的に問うてもらう。さらに、自らの研究テーマに関連する知識を書物、官公庁及び各種民間組織・団体の資料の収集と読破により広げ、自らの学びの独善性から離脱していく努力を着実に進めることを目指す。そうした努力と共に、自らの研究の価値論上の位置づけにも注意を向け、前提されている価値について学ぶことをも目標とする。

評価方法

各自のテーマに即した発表とその発表時における質疑応答、さらに学期末に提出を義務付けるレポートにより評価を行う。発表と質疑応答30%、最終レポートを70%として評価する。

教科書

牛津信忠他編著『地域福祉支援論』久美出版

専門演習(日本教育史Ⅱ)

春 週1回 1単位

担当者：石津 靖大

講義の目標及び概要

1. 内容
本演習は、日本教育史における教育者群像の研究を継続的課題とするが、本年度は公立小学校教員採用試験を受験してその合格を目指す志をもつ学生を対象にしたもので、それを前提にした教員採用試験対策的な演習となる。また前年度の専門演習(日本教育史Ⅰ)を履修生もろとも継承することになるので、取り組む内容の主たるものは、公立小学校教員採用試験の中の一次試験つまり教職教養と専門教養の傾向と対策の研究となる。

2. カリキュラム上の位置づけ
歴史と現在に平行して取り組むところの学科の専門科目としての演習である。

3. 学びの意義と目標
主たる目標は、小学校教諭に成るための基礎的な知識の傾向と対策を研究して、教師としての肝どころをおさえることにある。

評価方法

平常点(出席、発表ならびに討議、態度に基づき総合的に判断)にて評価する。

教科書

プリントを配布する

専門演習(日本政治思想史)

春 週2回 2単位

担当者：吉田 博司

講義の目標及び概要

1. 内容
近代日本の政治家及び思想家の研究を紹介しますが、後半は学生諸君にテーマを設定させ、報告・討論となります。

2. カリキュラム上の位置
専門演習は、すぐれて受講者の主体性を要求する科目です。

3. 学びの意義と目標
自分で調べ、報告するという活動をとおしてタフな人間性を確立してほしい。

評価方法

レポート報告と討論評価

教科書

授業の中で指示する

専門演習(人間関係論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：小山 義徳				
講義の目標及び概要 【内容】 自分が興味のあるトピックについて先行研究のレビューを行う。自分が興味があるトピックについて、これまでに何が行われてきたかを整理する。そして、そのトピックに関してまだ明らかになっていない点や、先行研究に欠けていたことを明確にする。 【カリキュラム上の位置づけ】 人間福祉学科の心理学系のゼミである。専門演習Ⅰを履修後に本演習を受講し、卒業研究を行うのに必要な知識とスキルを身につける科目である。 【学びの意義と目標】 これまで、何がどこまで明らかにされているのかについて知る。そして、どのようなことを検討すれば、自分の研究がオリジナリティーのあるものとなるのかを知る。また、先行研究を参考に、研究の手法について学ぶ。				
評価方法 出席、発表、レポートを総合して評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(比較憲法)		春	週2回	2単位
担当者：石川 裕一郎				
講義の目標及び概要 憲法に関連する話題の中から受講者各自がテーマを設定し、調査・発表・討論を重ねつつ、最終的に4,000字程度のレポートにまとめることを目標とします。テーマは、法律に関することならば基本的に受講者各自の自由ですが、受講者には以下のことが厳しく求められます。 ＊ 本をたくさん読む。若者に限らず、とにかく現代日本人は本を読まなさ過ぎ。そのため、知識量が圧倒的に少ない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、活字情報を活用することによって異質な他者を知る・追体験する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。 ＊ 現場を多く見る。若者に限らず、とにかく現代日本人は現場を知らなさ過ぎ。そのため、現実を知らない状態で議論をし、なんとなく自分の意見（らしきもの）を決めているのが現状です。人間には、直接その目と耳で触れることによって異質な他者を理解する・共感する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。				
評価方法 レポート報告・作成に加え、毎回の授業における討論への参加状況等を中心とした授業への貢献度を総合的に勘案して評価します。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(比較政治学)		春	週2回	2単位
担当者：松尾 秀哉				
講義の目標及び概要 内容 我々は物事を考えるとき、おおそ頭の中で「比較」をしている。比較政治学とは、単に各国を比べるのではなく、比較の分析枠組みを作る学問でもある。本演習では、受講者の関心のある事例を「比較政治学」的に考える訓練をする。まずは受講者による基本書の報告、議論、教員によるフォローで進む。 カリキュラム上の位置づけ 卒業研究（比較政治学）ではより高度な応用力が必要になる。その前提となるテキストを理解し「比較」の方法論を習得する。 学びの目標と意義 難解な文献を自力で読解する（調べながら読む）力を身につける。また、議論を通じて分析的に考える力を身につける。				
評価方法 出席と討論への参加（50%）、割り当てられた報告（50%）にて評価する。				
教科書 田村哲樹・堀江孝司『模索する政治』ナカニシヤ書店				

専門演習(比較文化)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：稲田 敦子				
講義の目標及び概要 【1. 内容】 異文化との出会いは、新しい認識の出発となる。 私たちがあたりまえであり、特に何の疑問を抱かなかったことが、他の文化圏の人々にとっては非常な驚きであることがある。異文化に触れるということは、自分がそれまで、当然であると思っていたことや価値観などを捉え直して行く機会があたえられるということである。この演習では基本的な文献（J. Saywell, “Beneath the Surface”）を中心に、主題の内容を検討し、テーマ別の発表も行う。 【2. カリキュラム上の位置づけ】 欧米文化学科の演習科目の選択必修科目である。 【3. 学びの意義と目標】 本演習の目標は、比較文化を学ぶ上での基礎的な資料を原文を通して読み解き、理解することを通して、専門性への足がかりとすることである。				
評価方法 1) 資料講読（25%）2) テーマ別発表（25%） 3) ゼミレポート（25%）4) 参加度（25%）これらの総合計100点で算出する。				
教科書 プリントを配布する				

専門演習(比較文化)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：稲田 敦子			
講義の目標及び概要 【1. 内容】 専門演習Ⅰ（比較文化）をふまえて、それぞれに異なった文化を背景とする個別の具体的事例をとりあげることにより、目に見える表層的なものだけではなく、その奥にある目に見えない深層の部分にも踏み込んで考えながら、視野を広げ、柔軟に考えていく一助になることを期待している。 【2. カリキュラム上の位置づけ】 欧米文化学科の演習科目の選択必修科目である。 【3. 学びの意義と目標】 本演習の目標は、比較文化を学ぶ上での基礎的な資料を原文を通して読み解き、理解することを通して、専門性への手がかりとすることである。			
評価方法 (1)資料購読 (25%) (2)テーマ別発表 (25%) (3)ゼミレポート (25%) (4)参加度 (25%) により算出します。			
教科書 プリントを配布する			

専門演習(福祉環境論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：野口 祐子			
講義の目標及び概要 1. 内容 障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。 専門演習Ⅰでは小グループでの研究を中心に行います。まずは問題意識を持って、研究テーマを定め、文献研究や調査などを行いながら理解を深め、レポート作成と発表を行います。 同時にそれらの研究に必要な情報収集、レポート作成、プレゼンテーション等の基礎的技術の学習も行います。 2. カリキュラム上の位置づけ 卒業研究は個人で研究を行ないますが、その前段階としてグループで研究を行います。ここでは研究の基礎的な方法を学びます。 3. 学びの意義と目標 グループで研究を行うことにより、ゼミの仲間との共同作業やディスカッションに慣れ、研究の進め方全般を理解し、研究の面白さを体験することを目標にします。			
評価方法 出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習(福祉環境論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：野口 祐子			
講義の目標及び概要 1. 内容 障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。小グループで研究テーマを定め、文献研究や資料収集、調査等を実践しながら課題を整理し、考察を行っていきます。また、相互に研究経過を報告し、ディスカッションをすることにより、理解を深めます。そして、研究の成果として、グループによる発表、個人によるレポート作成を行います。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰに引き続き、グループで研究を行ないます。専門演習Ⅰで残された課題を振り返りつつ、卒業研究に向けた準備として、研究の枠組みを理解し、より深く考察を行います。 3. 学びの意義と目標 個人が自立して研究テーマやその方法を考え、役割を分担し、それを確実に遂行しながら研究を進めていきます。そして、学生同士で主体的にディスカッションを行い、自分の言葉で成果をまとめていくことを目標にします。			
評価方法 出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習(福祉倫理)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：左近 豊			
講義の目標及び概要 1. 内容 ソーシャルワークに携わる中で、どのように判断し、決断し、行動し、生きるかが問われる局面に遭遇する。その時に生じる倫理的葛藤、そしてそこでなされる倫理的判断基準等について、文献、発表、討論、レポート作成を通して考察する。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習 3. 学びの意義と目標 先人の思想に学び、ゼミの仲間との議論を踏まえ、自己の視座を確認し再検討する。			
評価方法 毎回の演習への参加 25% 発表 35% レポート 40%			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習(福祉倫理)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：左近 豊			
講義の目標及び概要 1、内容 ソーシャルワークに携わる中で、どのように判断し、決断し、行動し、生きるかが問われる局面に遭遇する。その時に生じる倫理的葛藤、そしてそこでなされる倫理的判断基準等について、文献、発表、討論、レポート作成を通して考察する。 2、カリキュラム上の位置づけ 専門演習 3、学びの意義と目標 先人の思想に学び、ゼミの仲間との議論を踏まえ、自己の視座を確認し再検討する。			
評価方法 毎回の演習への参加 25% 発表 35% レポート 40%			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習(フランス文学)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：鹿瀬 颯枝			
講義の目標及び概要 この授業は、講義科目ではなく専門演習ですから、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思っています。 最初は、ゼミ生全員にフランス語基礎力とフランス文学の基礎知識を確かなものにするため、やさしいフランス語教材を使用しながら、フランス文学への関心を高めてもらいます。第二段階で個々の関心分野、研究したい分野を報告してもらい、共通文学テキストを決め、精読に入っていきます。この段階から各人の研究発表も順次行います。第三段階、仕上げる段階では、次の秋学期に同じく集中で始まる「卒業研究」に向けて、研究テーマについて全員で議論を重ね、参考文献などについてもアドバイスをしながら、まとめていく予定です。 テキストは、Jacques Prévert “Paroles” で導入、続いて永遠のベストセラーAntoine de Saint-Exupéry “Petit Prince” を精読していきたいと考えています。			
評価方法 授業への積極的な参加度50%、研究発表+研究レポート50%			
教科書 プリントを配布する			

専門演習(フランス文学)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：鹿瀬 颯枝			
講義の目標及び概要 この授業は、講義科目ではなく専門演習ですから、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思っています。 最初は、ゼミ生全員にフランス語基礎力とフランス文学の基礎知識を確かなものにするため、やさしいフランス語教材を使用しながら、フランス文学への関心を高めてもらいます。第二段階で個々の関心分野、研究したい分野を報告してもらい、共通文学テキストを決め、精読に入っていきます。この段階から各人の研究発表も順次行います。第三段階、仕上げる段階では、次の秋学期に同じく集中で始まる「卒業研究」に向けて、研究テーマについて全員で議論を重ね、参考文献などについてもアドバイスをしながら、まとめていく予定です。 テキストは、Jacques Prévert “Paroles” で導入、続いて永遠のベストセラーAntoine de Saint-Exupéry “Petit Prince” を精読していきたいと考えています。			
評価方法 授業への積極的参加度50%、研究発表+研究レポート50%			
教科書 プリントを配布する			

専門演習(保育実践論Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：相川 徳孝			
講義の目標及び概要 1. 目的 保育の基本は、小学校などの画一的な教育と違って、それぞれの幼稚園・保育所のおかれている地域や家庭の実態、乳幼児の特性などに応じて、保育を創造していくところにある。したがって、園が異なれば当然保育も異なるし、乳幼児の実態が異なれば保育も異なるといってよい。また各幼稚園、保育所ではいろいろな保育方法、保育形態で保育が実践され、その中で子どもたちは生活をしているのである。この演習ではさまざまな幼稚園・保育所で行われている保育について、多角的に見つめ、保育者として求められている役割や乳幼児に相応しい教材とはどのようなものかについて考えていく。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科必修科目である。 3. 学びの意義と目標 いろいろな保育形態、保育方法について、また教材を作成していくことを目標とする。			
評価方法 レポート (50%) と手作り教材の提出 (50%)			
教科書 プリントを配布する			

専門演習(保育実践論Ⅱ)

春 週1回 1単位

担当者：相川 徳孝

講義の目標及び概要

1. 目的

本演習は、「専門演習(保育実践論Ⅰ)」の延長線上にあり、前演習を受けて、それをさらに深化、発展させることをねらいとする。

2. カリキュラム上の位置づけ

卒業するために必修となる科目である。

3. 学びの意義と目標

ここでは遊びの意味や理解、子どもの行動の意味を考えること、さらには保育者の援助方法について保育事例を多く取り上げながら討論を重ね、各自の保育観を構築していくことを目標としている。

評価方法

事例レポート(80%)と討論に対する参加度(30%)

教科書

授業の中で指示する

専門演習(法思想史)

春 週2回 2単位

担当者：加藤 恵司

講義の目標及び概要

「法思想史」の講義を基礎として、その内容を更に深める。本年度の主たるテーマとして、法制度の源流に焦点をあて、そこから流れ出す法思想を学んでみたい。

津田市正『法の理念と法律の理想』及び加藤恵司『法・思想・歴史』(ジーオー企画出版、2008年)をテキストにして、法思想史の発展ないし革命に寄与した法制、人物、学説を検証する。特に、講義で十分に出来なかった箇所重点をおいてすすめていく。思想は、政治、経済、社会、文化、歴史などさまざまな角度から形成され、また、把握されなければならない。法思想史は、法制度に目を据えて考察しようとするが、法的規範を設けざるを得なかった理由とか、時代的制約なども整理していく。

評価方法

研究報告を基礎とし、出席を重視する。

教科書

授業の中で指示する

加藤恵司『法・思想・歴史』ジーオー企画出版
津田市正『法の理念と法律の理想』津田学院

専門演習(ヨーロッパ史)Ⅰ

秋 週1回 1単位

担当者：和田 光司

講義の目標及び概要

(内容) この授業では、「砂糖の世界史」をテキストにし、各学生がその中から関心がある部分を選択して発表する。このテキストは現在史学界で注目されている世界システム論の入門書としては最適であり、それにより現代の歴史学の発想方法に触れることができるであろう。また、細かい評価表により学生相互に批評を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。

(カリキュラム上の位置) 小グループ学習の入門である。

(目標) プレゼンテーション能力開発過程において基礎力を養成する。またヨーロッパ史の世界に親しんでもらう。

評価方法

出席・授業参加への積極性(50%)、発表内容(50%)

教科書

川北 稔『砂糖の世界史』岩波書店(ジュニア新書)

専門演習(ヨーロッパ史)Ⅱ

春 週1回 1単位

担当者：和田 光司

講義の目標及び概要

(内容) この授業では、専門演習Ⅰの延長線上にプレゼンテーション能力の一層の向上を図る。第二次世界大戦についてすでに通達した小テーマから各学生関心がある部分を選択して発表する。同じテーマを様々な角度より眺めることにより、歴史的視点の多様性、重層性を学んでいく。また、専門演習Ⅰと同様に、細かい評価表により学生相互に批評を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。

(カリキュラム上の位置) 専門演習Ⅰの一層の発展

(学びの意義と目標) プレゼンテーション能力の向上。複史的歴史理解力の養成。

評価方法

出席・授業参加への積極性(50%)、発表内容(50%)

教科書

授業の中で指示する

青柳正規『ローマ帝国』(岩波書店)

専門演習(ヨーロッパ思想)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：原 一子				
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉 2011年度は、「人間は考える葦である」と述べたフランスの哲学者、ブレーズ・パスカルの名著『パンセ』を輪読する。内容を理解するとともに、資料検索、レジュメ作成の仕方などを学ぶ。毎週、担当者に分担箇所についての発表をして貰い、履修者全員が討論をして、一層深い解釈を試みる。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉 「専門演習」は欧米文化学科の学生全員の選択必修科目である。 (3)〈学びの意義と目標〉 ヨーロッパ文化を学ぶ者にとっては、その根底にある思想を理解することはぜひとも必要なことである。先哲から生き方や考え方を学び価値観を確立することができれば、それは一生の財産となることであろう。深く考え、それを表現する力を培うことは、留学にも就職にも益すること大の筈である。				
評価方法 発表内容(30%)・レポート(20%)・討論への参加度(20%)・出席率(30%)などから総合的に判断する。演習の性格からして欠席は許されない。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(ヨーロッパ思想)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：原 一子				
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉 Paul McLean, Great Western Thinkers, Macmillan Languagehouse を講読する。「専門演習Ⅱ」では、ヘーゲル、ニーチェなど、テキストの後半部分の思想家について翻訳しつつ、その生涯や思想、時代背景などを学ぶ。併せて、レジュメの作り方、発表や質疑応答の仕方も学ぶ。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉 「専門演習」は欧米文化学科の学生全員の選択必修科目であり、外国語で資料を講読することによって基礎力を培うものである。 (3)〈学びの意義と目標〉 ヨーロッパ文化を学ぶ者にとっては、その根底にある思想を理解することはぜひとも必要なことである。その上で、先哲から考え方やあ生き方を学び価値観を確立することができれば、それは一生の財産となることであろう。思想や哲学の術語を英語で表現することが学べるので、留学の際にも益すること大である。				
評価方法 発表内容(30%)・レポート(20%)・討論への参加度(20%)・出席率(30%)などから総合的に判断する。演習という性格からして欠席は許されない。				
教科書 プリントを配布する				

専門演習(理論社会学)		春	週2回	2単位
担当者：土方 透				
講義の目標及び概要 本ゼミナールは、社会現象および社会そのものの相対的把握をめざす、諸アプローチを多角的・多面的に研究する。 1 社会の解明に際して用いられる諸意味体系 (主体、時間、宗教、世界、歴史等) 2 社会的コミュニケーションを可能とする諸メディア (正義、貨幣、愛、信仰、真理等) 3 思想ないし方法論そのものの検討 (M. フーコー、P. ブルデュー、N. ルーマン、ポランニー、ガダマー、J. ハーバーマス、あるいはポスト構造主義、ポスト・モダンと呼ばれる思想家等) 上記三視点を念頭に、ゼミ員との討議のなかで、テーマを絞っていく。				
評価方法 日々の準備、毎回の参加内容。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(レクリエーション論)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：梅津 迪子				
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 (内容) 「ものの見方」や「価値観」はその人の生き方によって、自由時間の過ごし方が異なっている。レク支援をするにも、豊かな教養と多彩な趣味をもっていることがのぞまれよう。自分自身の生活の質を向上するための在り方を学ぶ。その一つとして制作活動を実践する。 (カリキュラム上の位置づけ) 支援の前に「自分の生活を豊かに」するため、各自が興味・関心のあるテーマを選択し発表する。質疑応答をしながら研究方法を学ぶ。 (学びの意義と目標) 研究発表だけでなく、カルトナージュ・ガーデニング・切り絵等の制作活動も行い、自分の能力の再発見をする。				
評価方法 出席率の重視 50点 学習に臨む態度・意欲 20点 研究発表と積極的な意見交換 30点				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習(レクリエーション論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：梅津 迪子				
講義の目標及び概要				
講義の目標及び概要 (内容) 「専門演習Ⅰ」を踏まえ、自己実現や自己開発をする能力を養っていく。研究発表だけでなくコミュニケーション力も高め、個人の文化・教養の幅を豊かにする。とくに、書く・話す・聞く力と思考力・判断力・行動力を高めるための方法を学ぶ。 (カリキュラム上の位置づけ) 各自が生活文化(QOL)の向上をはかるため、制作活動や施設訪問、合宿等とおして具体的に立案・方法・評価も学ぶ。その成果を報告書や本(制作)にまとめる。 (学びの意義と目標) よりよく生きるための自己開発と自己教育力を獲得し、レク支援をする場合は人格を尊重した支援ができるようになってほしい。				
評価方法				
出席率の重視 50% 学習に臨む態度・意欲20% 課題発表と意見交換 30%				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習Ⅰ(管理学)		春	週1回	1単位
担当者：清澤 達夫				
講義の目標及び概要				
1. 目的 本演習の目的は、ドラッカーの思想と哲学をもとに管理に関わる領域を皆さんとグループワークを通じて、共に考えていくことにあります。 2. カリキュラム上の位置づけ 研究領域は、営利(つまり企業)である場合もあるし、非営利(病院やNPO)の場合もあると思いますが、人が組織をつくるところに必ず管理の問題が発生することを理解して欲しい。 3. 学びの意義と目標 経営管理についての基本知識を持っていないとの前提で、管理学の共通認識を育てるために文献を輪読しながら経営管理およびマーケティングに関わる基礎知識を養っていきます。後半は、P. F. ドラッカーの著書・論文を読んでいきたいと思っています。皆さんの進捗具合と相談しながら問題発見・解決の能力を習得するために合宿(日程は、皆さんの予定を考慮して決めましょう)やチャレンジショップへのかかわりを計画したいと思っています。				
評価方法				
配点は、演習出席:40%、演習での発表:40%、演習での討議参加度:20%とします。				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習Ⅰ(キリスト教社会倫理)		春	週1回	1単位
担当者：佐野 正子				
講義の目標及び概要				
内容：キリスト教を根源として生まれた「人権」思想の基礎を学び、「人権」というキーワードのもとに、コミュニティにおけるさまざまな倫理的問題から、各自が研究テーマを選び、研究をまとめ発表する。春学期は、生命倫理の問題(クローン人間、脳死、安楽死、自殺、エイズ、死刑制度など)を取り上げる。テーマについての調査方法や文献の検索の仕方、レジュメの作成や発表の仕方も学ぶ。 カリキュラム上の位置づけ：2年生必修科目 学びの意義と目標：各自が取り上げた具体的なテーマを通して、よりよいコミュニティを形成するためにどこに問題があり、どのように問題を解決していったらよいかを考察し、コミュニティのあり方を探求することを学びの目標とする。				
評価方法				
出席を重視し、各学生の発表の内容や、討論の参加度、学期末レポートなどを総合的に判定し評価する。				
教科書				
プリントを配布する				

専門演習Ⅰ(金融論)		春	週1回	1単位
担当者：鈴木 真実哉				
講義の目標及び概要				
「金融論」に関するテキストを選定し、発表担当者の報告とゼミ員全員による討論という形式をとる。テキストの性格にもよるが、なるべく毎回1~2のテーマに絞って議論をすすめる予定である。テキストの選定は、こちらがいくつかの候補を挙げ、ゼミのメンバーが決定した際に、その中から話し合いによって行う。				
評価方法				
春学期に「金融論」を受講していることを条件とする。担当報告の内容と質疑応答への対応によって評価する。小レポートを課すこともある。出席は重要な評価要素となる。				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習Ⅰ（経済学）		春	週1回	1単位
担当者：石部 公男				
講義の目標及び概要 1. 目的 経済学の演習であるので、各自が自主的に深く経済学について学びゼミ生との討論を通し、知識および自分の考えや意見を磨き応用力のある経済学的力を修得することを目的とする。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習であるので、1年次の経済学はもちろん、マクロ経済学など他の経済理論に関連する科目を履修していることを条件とする。 3. 学びの意義と目標 専門的知識を生きた形で応用できるように自らが調査研究および発表を通して身に着けることを目標とする。				
評価方法 出席率と毎回の発表および討論内容等で評価する。				
教科書 授業の中で指示する 石部、淵上、山田、原田、渡辺『経済学』ヴェリタス書房				

専門演習Ⅰ（言語①）		秋	週1回	1単位
担当者：小林 茂之				
講義の目標及び概要 〈内容〉 教科書は、日本語による詳しい注や解説がつけられた言語学の入門書である。言語学は音声学・音韻論、統語論、意味論を中心としてさまざまな分野から成り立っている。 各分野における基礎的な知識を身につけるとともに、専門書の講読のトレーニングを行いたい。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 本演習は、言語学の基礎を日英対照で学び、専門的な言語研究への導入を目的とします。 〈学びの意義と目標〉 教養レヴェルの言語学の知識を学び、言語系の専門科目を学ぶ基礎力を高める。就職・進学に備えて、言語研究の各分野に関する基礎的知識を養う。				
評価方法 出席、発表（担当箇所の報告）（40/100）、ゼミへの参加度（30/100）、期末レポート（30/100）				
教科書 影山太郎・他『First Steps in English Linguistics 2nd Edition』くろしお出版				

専門演習Ⅰ（言語②）		秋	週1回	1単位
担当者：川口 さち子				
講義の目標及び概要 〈内容〉本演習では、課題を言語にしぼり、教材を分析しながら、日本語の特徴を探っていく。そして言葉の研究に必要な基礎知識を身につけ、自分の身の周りの事象から日本語の問題点を見つけ出す力をつけてほしい。 講義前半では、主語の問題、代名詞の問題を中心に扱う。 後半では、「日本語の乱れ」を中心にテーマに沿った調査・発表の方法を身につけることを目標とする。 〈カリキュラム上の位置づけ〉課題にしたがってデータ検索や調査を行う方法を学ぶ第一歩である。 〈学びの目標〉身の周りの事象に疑問を持ち、問題点をみつけ出す力をつけること。				
評価方法 調査発表・レポートの内容（60%）、討論への参加度（20%）、出席状況（20%）を総合して判定する。				
教科書 プリントを配布する				

専門演習Ⅰ（公共哲学）		春	週1回	1単位
担当者：谷口 隆一郎				
講義の目標及び概要 【この演習の狙いと目的】は、(1)ロバート・N・ベラーの『善い社会—道徳的エコロジーの制度論』の精読を通じて、公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにあります。このテキストは、世界の大学の公共哲学の授業でテキストとして使われている良質な内容のものです。(2)論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。 【演習の進め方】(1)1年かけて、テキストの各章を精読・精解する。(2)テキストの指定の箇所（章／節）をレジメにまとめ報告・議論する。(3)卒業論文のテーマにつながるトピックを決める。 学問をしったり合宿に海や高原へ行ったり、と楽しくゼミをやっていきたいと考えています。				
評価方法 小論文1本（4000字以上）、レジメ、授業貢献度、出席率で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。合宿を何度か実施する。				
教科書 ロバート・N・ベラー『善い社会—道徳的エコロジーの制度論』みすず書房				

専門演習Ⅰ（コミュニティ・ビジネス論）		春	週1回	1単位
担当者：瀬名 浩一				
講義の目標及び概要 〈内容〉 日本経済は、かつて1980年代には国際競争力のある体質を作り上げたが、バブル経済を経、バブルの崩壊を経験した1990年代以後は、「失われた10年」、国際競争力の低下、デフレ体質に陥り、なかなか抜け出せない。まず「デフレの正体」を学ぶ。次に問題解決のために中心市街地活性化、構造改革特区、地域再生などさまざまな政策が実施されたが、効果は限られているのはなぜかを問う。最後にデフレから抜け出すために、現在提案されている「若者への所得移転」「女性の就労率向上」「外国人観光客の招致」などについてその可能性を探る。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 次に学ぶ専門演習Ⅱ「日本の地域力」を学ぶための準備段階（学びの意義と目標） 日本および日本を取りまくアジア圏の経済・社会の現状を把握する。				
評価方法 レジュメの作成 30%、プレゼンテーション 40%、小論文30%				
教科書 瀬谷浩一『デフレの正体―経済は人口の波で動く―』（株）角川グループパブリッシング				

専門演習Ⅰ（情報倫理）		春	週1回	1単位
担当者：竹井 潔				
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれてきた。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分の認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 「情報倫理」を平行履修することが望ましい。また、コミュニティ情報系の科目の履修をすることが望まれる。 ◆学びの意義◆ 情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく。				
評価方法 平常点（40%）、レポート（60%）				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅰ（政治学）		春	週1回	1単位
担当者：川添 美央子				
講義の目標及び概要 履修者の興味や関心を把握した上で、戦後日本の政治史、あるいは現代日本の政治に関連するテキストを選び、輪読する。過去にとりあげたテキストには以下のようなものがある。 ジョン・ダワー 『敗北を抱きしめて』 岩波書店 山口二郎 『戦後政治の崩壊』 岩波文庫 杉田敦 『デモクラシーの論じ方』 ちくま新書 など。				
評価方法 平常点（出席状況、質問や討論の積極性、発表の完成度等）と、学期末提出のレポートを1：1の比率で評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅰ（地域社会論）		春	週1回	1単位
担当者：大高 研道				
講義の目標及び概要 1. 内容 本演習では、コミュニティ活動の実践と文献講読・討論によって構成される。前者は、宮原駅コンコース緑化活動を実施する。後者は、地域社会を規定している「現代社会」そのものが抱える問題点（雇用やニート問題、子ども犯罪、いじめ、引きこもり、高齢化社会、女性の社会的地位、結婚・離婚問題など）について、テキストをもとに各自が興味のあるテーマを設定して報告・議論する。その上で、現代的課題を解決する舞台として期待されている「地域社会（コミュニティ）」の向かっていく方向について考えたい。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の必修科目である。専門知識の基礎を学ぶと同時に、次年度の卒業研究レポートの準備段階として調査・報告・レポート執筆の方法・技術を習得する。 3. 学びの意義と目標 最終的には、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや市民社会組織の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。				
評価方法 ・ゼミへの参加状況（報告内容、討論時の積極性：70%）およびレポート（30%）。 ・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は大幅な減点の対象となる。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅰ（地域福祉）		春	週1回	1単位
担当者：大塚 健司				
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 1、目的 介護保険の創設、社会福祉基礎構造改革（措置から契約へ）等、福祉の大きな流れの中で、社会福祉法に地域福祉の推進が位置づけられました。 この授業では、社会福祉法での「地域福祉」の位置づけや、地域住民が、障害の有無、老若男女を問わず、自然に交わり、支えあう「福祉のまちづくり」について考える。 2、カリキュラム上の位置づけ 演習科目である。福祉諸制度や、地域社会のことを自分で調べ発表し、論議し、地域福祉（市町村地域福祉計画）のあるべき姿を考える。 3、学びの意義と目標 「環境福祉」をテーマに、実際に障害者と畑でジャガイモなどを作り、地域社会の課題（農業、土地利用、環境、福祉等）を考えるとともに、地域福祉の実践のあり方を考える。住民、行政、当事者の立場に分かれて論議し、広い視野で考えられるようにする。				
評価方法 課題に対するレポート提出（指定期限厳守）40%、 学期末レポート40%、出席20%により評価する。				
教科書 プリントを配布する				

専門演習Ⅰ（日本経済論）		春	週1回	1単位
担当者：大森 達也				
講義の目標及び概要 本演習では、1990年代に入るまで順調な経済成長を持続してきた日本経済の特徴を、欧米経済先進国との制度的な比較から理解すると共に、90年代の「失われた10年」を経て、21世紀を迎えた今日においてもいまだ問題を抱える日本経済についての講義、ディスカッションを通して、各自考えることをする。 日本経済の抱える問題への意識を高めるため、日本的雇用制度、銀行系列や階層的な下請け制度など、これまでの制度についての基礎知識を、各自深めることからはじめ、90年代、そして21世紀に起きる世界経済の変化について学ぶこととする。 本演習では、卒業研究で取り扱う問題に対する意識を高めることを目的とする。				
評価方法 (1) 2,000字程度のレポート提出（50%） (2) 講義でのディスカッションへの参加（40%）				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅰ（比較文化①）		秋	週1回	1単位
担当者：渡辺 正人				
講義の目標及び概要 1、目的 専門演習Ⅰとして、テーマの決定の仕方、文献調査の方法、資料の作成法、発表の方法などの基本的な事項を学ぶ。扱うテーマは比較文化だが、比較をするためには、まず自分の属する文化についての理解が欠かせない。この段階ではあまり「比較」にこだわらず、ひとつの対象をきちんと学ぶ姿勢を身につけたい。 2、カリキュラム上の位置づけ 演習の基礎を学ぶものである。 3、学びの意義と目標 (1) 文化への眼差しを育てる。 (2) 調査方法に習熟する。 (3) 論文を読む力をつける。 (4) 方法論の基礎を身につける。 という4項目は、「学ぶ姿勢」の基本である。				
評価方法 評価は(1)発表（資料・レジュメ作成を含）40%、(2)最終レポート（オンライン提出）40%、(3)出席20%によって算出する。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅰ（比較文化③）		秋	週1回	1単位
担当者：濱田 寛				
講義の目標及び概要 〈内容〉 平安時代の源為憲撰『世俗諺文』の輪読形式の演習発表を行う。テキストは写本（観智院本）の影印を用いる。本書は中国古典の故事を分類し、その出典からの引用によって構成される。受講生は指定された箇所について訓読・語釈・現代語訳・出典調査を行い、資料を作成して発表を行う。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中国の古典テキストを扱う上での基本的なノウハウを学習し、卒業研究における各自の独自のテーマを考察するための基礎力の涵養を目指す。与えられた課題の中から「問い」を設定し、自ら解決するための一連の手続きを学ぶことは極めて重要である。 〈学びの意義と目標〉 研究においては、まず先行文献の正確な理解が前提となる。写本に施された鎌倉期の訓点の解釈を通して、現代の解釈との相違点を学び、複眼的な解釈の方法の会得を目指す。				
評価方法 出席点:30% 演習発表:50% レポート:20%				
教科書 プリントを配布する				

専門演習Ⅰ（文化③）

秋 週1回 1単位

担当者：清水 均

講義の目標及び概要

1. 内容

現代文化全般（文学・音楽・マンガ・映画・ドラマ・メディア・風俗・流行・スポーツ・お笑い・ファッション・食等々）を扱う。まずは興味、関心のあるテーマを発見し、発表・討議を通して「文化を研究すること」を実際に体験してもらう。

2. カリキュラム上の位置づけ

いわゆる「ゼミ形式」に授業による専門研究の最初の段階に位置づけられる。

3. 学びの意義と目標

この段階ではまだ自分の研究テーマを確定する必要はない。研究の方法とゼミ形式での授業を体得することが目標となる。次のステップである「専門演習Ⅱ」に向けてのよりよい準備となることが期待される。

評価方法

- (1)出席点:40%
- (2)発表とレポート:50%
- (3)授業、質疑への取組:10%

教科書

プリントを配布する

専門演習Ⅰ（文学②）

秋 週1回 1単位

担当者：渡辺 正人

講義の目標及び概要

古典文学を取り扱う。

本演習では、作品は『伊勢物語』とし、和歌を含めた古典文学作品の読解の基礎を学ぶ。

同時に、各自の選んだ作品も取り上げ、その文学史的・研究史的位の基礎的な知識を学びたい。

評価方法

出席40%、発表40%、授業時の質問等参加の姿勢20%で評価する。

教科書

プリントを配布する

専門演習Ⅰ（法学）

春 週1回 1単位

担当者：渡辺 英人

講義の目標及び概要

「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければならない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらう。2011年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。

評価方法

1. 授業への参加と理解度（50%）
2. 発表およびレポート提出（50%）

教科書

授業の中で指示する

専門演習Ⅰ（まちづくり学）

春 週1回 1単位

担当者：平 修久

講義の目標及び概要

1. 内容

自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。何気なく毎日を過ごしている身近なまちをもう一度見直し、埋もれている価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きも各地で見られる。あるいは、まちの問題を自ら市民が取り組む動きも起きている。

そこで、本演習では、具体的なまちの課題を取り上げ、実際のまちづくり活動を行う。授業の性格上、グループ作業があるとともに、学外で行うこともある。

2. カリキュラム上の位置づけ

共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。

3. 学びの意義と目標

身近な大学周辺のまちを題材に、まちの見方、問題などへの対応方法を学ぶとともに、実際のまちづくりを体験することにより、考える力と行動する力を身につけること。

評価方法

出席（30%）及び授業への参加度合い（発表、グループ作業など、40%）、期末レポート（30%）により評価する。

教科書

プリントを配布する
田村明『まちづくりの実践』岩波新書

専門演習Ⅰ（リスク対策論）		春	週1回	1単位
担当者：標 宣男				
講義の目標及び概要 1. 内容 リスクに対し興味を持ってもらうために、現在注目を集めている話題に関する文献を読む。まず、「専門演習Ⅰ」においては、リスクなる言葉のもつ意味を知的にも感覚的にも身につけることを目的とし、内容の理解と発表のしかたを学習する。 2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、コミュニティー政策学科の専門科目における、選択必修科目である。 3. 学びの意義と目標 自分で問題を考え、答えを探ることを学ぶ。				
評価方法 出席及び提出レポートの内容により評価する。				
教科書 橋元直樹『食品不安 安全と安心の境界』NHK出版				

専門演習Ⅰ（歴史・思想①）		秋	週1回	1単位
担当者：東島 誠				
講義の目標及び概要 ◆講義内容◆ 歴史・思想の文献から、比較的取り組みやすいものを選び、二人一組で調べ、発表してもらう。 ◆カリキュラム上の位置と目標◆ 日本語表現法を終えた2年生の秋学期は、いよいよ卒業研究へとつながる専門的な研究への端緒につくこととなる。とは言えまだ2年生。まずはレジュメを作成するなど、研究発表の練習をしよう。その際、辞書を引く労を惜しんではならない。専門性の高い辞書を引き、調べることの大切さを学ぶのが、この段階での最終的な目標となる。 ◆学びの意義◆ 文献を読んで初めて出会った言葉や考え方を丁寧に調べ、不明点や疑問点を率直に出してほしい。必ずやそこに、新しい、未解決の問題が立ち現れるはずである。そんな体験をしてほしいし、それが可能なゼミである。				
評価方法 出席、発表、議論への参加（以上50）、および学期末レポート（50）による。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅰ（歴史・思想②）		秋	週1回	1単位
担当者：川崎 司				
講義の目標及び概要 1. 内容 原則として「日本近現代の歴史・思想」を対象とするが、特に範囲は設けない。自由なテーマで伸び伸びと〈研究〉を楽しんでもらいたい。 2. カリキュラム上の位置づけ 考える力、読む力、書く力、聞く力、調べる力、発表する力を身につける場となり、こころ豊かな感性を研く場ともなれば幸いである。 3. 学びの意義と目標 研究発表を積み重ねていくうちに、ゼミ生同士の友情が芽生えていけば、これ以上の喜びはない。皆さんの、真実を見つめる目と、優しい手と、温かい心が永遠であることを祈る。				
評価方法 発表の内容と出席状況を重視します。				
教科書 プリントを配布する				

専門演習Ⅰ（歴史・思想③）		秋	週1回	1単位
担当者：清水 正之				
講義の目標及び概要 1. 内容 専門で日本の思想・歴史を学ぶ学生のために、必須の日本思想のテキストを読みます。 本年度は、内村鑑三の『代表的日本人』をテキストにして、原典を読むことの意味、ノート作成法、参考資料の調べ方等を、学びます。それとあわせて、各自の卒業研究に向けての取り組みの手がかりをえられるようにしたいと思います。 発表形式の授業です。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門の卒業演習への準備的演習です。 3. 学びの意義と目標 歴史・思想文献を読み解く態度をつくることです。				
評価方法 出席（50%）と発表の成果（50%）によって総合的に評価します。				
教科書 授業の中で指示する 内村鑑三『代表的日本人』岩波書店（岩波文庫版）				

専門演習Ⅰ（歴史・思想④）		秋	週1回	1単位
担当者：村松 晋				
講義の目標及び概要 （内容） 「歴史・思想（宗教も含む）」の分野から関心のあるテーマを自由に選び、研究発表・討論していく場所とする。「日本思想入門」「関連文化」「日本の思想(キリスト教)」に興味を持ってくれた人はもちろん、生きる上で直面する様々な「疑問」や「悩み」を解くためのヒントを手にした人への参加も歓迎する。 （カリキュラム上の位置づけ） 第一に、「テーマの決め方・見つけ方」「本の読み方・探し方」といった、研究の基礎的な作法を学んでもらいたい。第二に、自分の意見を人に理解してもらうには何が必要か、身をもって体験してほしい。 （学びの意義と目標） 本演習をつうじ、調べること、深めること、そして、自分の視界が開けていくことのよこびを体験してもらえれば幸いである。				
評価方法 発表内容と期末レポートの提出が全てである。なお全授業数の3分の1を超えて欠席したものには発表資格を与えない。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅰ（歴史・思想⑤）		秋	週1回	1単位
担当者：柳田 洋夫				
講義の目標及び概要 （内容） 担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそも日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、〈日本人の心の歴史〉に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。とりあえずは共通のテキストを決めて、それを一緒に読み進めながら、各自が探求すべきテーマを考えていきたい。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 専門のテーマに取り組むための準備。 〈学びの意義と目標〉 テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神をより深く理解することを目指す。				
評価方法 出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅱ（管理学）		秋	週1回	1単位
担当者：清澤 達夫				
講義の目標及び概要 1. 目的 本演習の目的は専門演習Ⅰの延長で、ドラッカー経営思想の「管理学」について深めることです。同時に、自ら関心のある管理に関わる領域でテーマを設定し、何人かでチームを組んで研究・調査して論文にまとめることにあります(もちろん、個人研究でも構いません)。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅱは卒業研究へ自ら関心のある課題を絞って、研究調査の下調べを行なうことを兼ねております。 3. 学びの意義と目標 調査し、分析し論理的にまとめ上げていく能力を、養ってもらいたい。				
評価方法 配点は、提出された論文（60%）と演習での参加発表（中間発表も含む）・討議への参加（40%）をもって、総合的に評価します。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅱ（キリスト教社会倫理）		秋	週1回	1単位
担当者：佐野 正子				
講義の目標及び概要 内容：「人権」というキーワードのもと、コミュニティにおけるさまざまな倫理的問題の中から、家族倫理（ドメスティックバイオレンス、児童虐待、結婚倫理、離婚問題、核家族化、家庭における男女の役割など）を取り上げる。各自がテーマを決め、研究をまとめて発表し、討論をおこなう。 カリキュラム上の位置づけ： 2年生必修科目 学びの意義と目標： よりよいコミュニティを形成するために、その基本要素である家族の倫理を取り上げ、家族のあり方について探求し、各自の考えを構築していくこと学びの目標とする。				
評価方法 出席を重視し、各学生の発表内容や、討論の参加度、学期末レポートなどを総合的に判定し評価する。				
教科書 プリントを配布する				

専門演習Ⅱ(近現代文学①)		春	週1回	1単位
担当者：黒木 章				
講義の目標及び概要 【内容】夏目漱石の後期三部作『彼岸過ぎ迄』『行人』『こころ』を読む。 作品を精読しながら主題や登場人物が抱える問題を周辺の状況(作家自身・社会問題・文学批評一般)に重ねながら考える。 【方法】できれば参加者をグループに分けて、それぞれの作品について次の3つの角度から報告・討議する。(1)作品論—同時代評・先行文献の把握と批評。(2)作家論—作品と漱石の周辺事情の連関確認。(3)我々の鑑賞—文学史的な把握を意識しながら我々の読みを提示する。 【カリキュラム上の位置付け】「演習Ⅰ」では、研究のための資料探しなど初歩的な取り組みをしたが、ここでは次に配置される「卒業研究」に向けて各参加者が目差す研究方法を取得して卒業論文作成の専門的な手続きと方法を身につける。 【学びの意義】作家夏目漱石が提示した問題は現代の我々が取組むべき問題でもある。日本文化学科の学生が漱石文学に触れることは必須の学びであり、大学院に進むとか中高の国語科教員、日本語教員を目差す人には特にそうだと言える。				
評価方法 普段の授業参加(発表や討議)態度を50%、学期末に課すレポートを50%とみる。				
教科書 夏目漱石『彼岸過ぎ迄』新潮文庫 夏目漱石『行人』新潮文庫 夏目漱石『こころ』新潮文庫				

専門演習Ⅱ(金融論)		秋	週1回	1単位
担当者：鈴木 真実哉				
講義の目標及び概要 専門演習Ⅰ(金融論)をうけて、テーマの設定のし方、資料の検索を調べ、調べたものをまとめる、発表する等の能力を向上させることに目標をおく。 毎回、必ず発表の機会がある。その発表についての質疑応答も発表のうちである。				
評価方法 発表そのものと、質疑応答の内容、および提出された資料等を総合的に判断して評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅱ(経済学)		秋	週1回	1単位
担当者：石部 公男				
講義の目標及び概要 専門演習Ⅰ(経済学)に同じ				
評価方法 専門演習1(経済学)に同じ				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅱ(言語①)		春	週1回	1単位
担当者：小林 茂之				
講義の目標及び概要 〈内容〉 演習の前半では、言語学の基礎として、英語音声学をやや専門的に学び日本語と英語の発音の違いを理解し、後半では、英詩の鑑賞と朗読を通じて、英語のスキルの向上とともに人文的教養を高める。英詩は、翻訳などを通じて、明治期以来日本に紹介されてきた。 また、初級者用の映画リスニングを通じて、楽しみながら音声学を活用したい。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 言語学系の専門演習のまとめと卒業演習に向けての準備をする。 〈学びの意義と目標〉 実際に生かせる言語学的知識と人文的教養を身につけることを目標として、人文系の大学生として専門的知識と教養を幅広く学ぶ。				
評価方法 出席(30/100)・平常点(30/100)・期末レポート(40/100)				
教科書 今井邦彦『ファンダメンタル音声学』ひつじ書房 Peter Milward『Seasonal Poems of England』NAN' UN-DO				

専門演習Ⅱ(言語②)		春	週1回	1単位
担当者：川口 さち子				
講義の目標及び概要 〈内容〉現代語の問題点を扱う。 ・インターネットを使ったり、参考文献に当たったりして、資料探索の方法を学ぶ。 ・受講生の関心あるテーマを取り上げて、参考文献を読み、ディスカッションを行う。 ・実際に身の回りの言語事象を取り上げ、用例などを集め分析してもらう。 〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習Ⅰでは、共通課題を扱い、資料探索の基礎的なところを扱った。専門演習Ⅱでは、実例を集め、分析できる力を養う。 〈学びの意義と目標〉自分の身の回りの事象から用例を集め分析できる力をつけること、自分のテーマをみつけて、研究していくという姿勢を身につけることが目標である。				
評価方法 調査発表・レポートの内容(60%)、討論への参加度(20%)、出席状況(20%)を総合して判定する。				
教科書 プリントを配布する				

専門演習Ⅱ(公共哲学)		秋	週1回	1単位
担当者：谷口 隆一郎				
講義の目標及び概要 【この演習の狙いと目的】は、(1)ロバート・N・ベラーの『善い社会―道徳的エコロジーの制度論』の精読を通じて、公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにあります。このテキストは、世界の大学の公共哲学の授業でテキストとして使われている良質な内容のものです。(2)論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。 【演習の進め方】(1)1年かけて、テキストの各章を精読・精解する。(2)テキストの指定の箇所(章／節)をレジメにまとめ報告・議論する。(3)卒業論文のテーマにつながるトピックを決める。 学問をしたり合宿に海や高原へ行ったり、と楽しくゼミをやっていたと考えています。				
評価方法 小論文1本(4000字以上)、レジメ、授業貢献度、出席率で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。合宿を何度か実施する。				
教科書 ロバート・N・ベラー『善い社会―道徳的エコロジーの制度論』みすず書房				

専門演習Ⅱ(古典文学②)		春	週1回	1単位
担当者：渡辺 正人				
講義の目標及び概要 本演習では、各自の取り扱う作品を定め、読解を進めることとする。 この演習では、研究史を重要視したい。まずはその作品がどのように読まれてきたのか、それは古典を研究する基礎的な知識である。それをしっかりと身につけたい。				
評価方法 出席40%、発表40%、質問等授業参加の姿勢20%で評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

専門演習Ⅱ(コミュニティ・ビジネス論)		秋	週1回	1単位
担当者：瀬名 浩一				
講義の目標及び概要 〈内容〉 社会的意義が大きいプロジェクトに共感・共鳴し、これに参加・協力したいと考え、自らの責任と負担で、市民が主体的に資金を提供する。このような資金提供を通じた新しい公共への参加形態が現れ始めている。寄付、貸付、債券購入、出資という形態で提供される「志ある資金」は、「市民ファイナンス」と呼ばれる。「市民ファイナンス」のリターンは、プロジェクトの実行を通じた「社会的価値」「公益」の実現である。こうした「市民ファイナンス」が提供されることで、社会的意義が大きい一方で収益性の低い事業における資金調達が円滑化・安定化することになる。市民ファイナンスの意義はこれにとどまらず、主体的な意思で資金を提供した市民は当該事業に対する当事者意識・参加意識を持つことになる。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 次に学ぶ卒業研究Ⅰ「コミュニティ・ビジネスの現場」を学ぶための準備段階。 〈学びの意義と目標〉 公民連携(P P P)によって社会資本整備や公共サービスの提供を行う仕組みを学ぶ。				
評価方法 レジメの作成 30%、プレゼンテーション 40%、小論文30%				
教科書 日本政策投資銀行地域企画チーム『市民資金が地域を築く』ぎょうせい				

専門演習Ⅱ(思想①)	春	週1回	1単位
担当者：清水 正之			
講義の目標及び概要 1. 内容 卒業演習にすすむ最後のしあげの演習です。各自の問題意識にそった発表形式です。日本の思想に関わることがテーマですが、生命倫理や、環境倫理を、思想からといていくこともこのゼミの内容に合致します。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門的に思想を学ぶための準備をととのえます。 3. 学びの意義と目標 思想をまなぶ方法と態度をしっかりとすることを目標としています。			
評価方法 出席(50%)と授業内での発表(50%)を重視します。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習Ⅱ(思想②)	春	週1回	1単位
担当者：村松 晋			
講義の目標及び概要 (内容) 近・現代日本の「歴史・思想(宗教を含む)」を対象とする。ただし私の講義「日本思想入門」「相關文化」「日本の思想(キリスト教)」にかかわる分野に関しては、「時代」を問わず責任を持って指導する。(将来の自分)とその〈生き方〉を、特定の人物およびその作品との〈対話〉をとおり、じっくり考えていきたい人の参加も歓迎する。 (カリキュラム上の位置づけ) 「専門演習Ⅰ」での学びをふまえ、テーマ設定の仕方、文献の探し方、さらにその〈読み解き方〉を身につけていくことを目標とする。 (学びの意義) 「すぐに役立つもの」は「すぐに役立たなくなる」。即席の「知識」があふれかえる時代だからこそ、状況の変化にかかわらず、常に私たちを励まし、導き、支えてくれる〈定点〉を手にする必要がある。このゼミでの学びと語り合いが、皆さんの模索のための、ささやかな場となりうれば幸いである。			
評価方法 発表と期末レポートが全てである。 全授業数の三分の一以上の欠席者には、発表資格を与えない。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習Ⅱ(情報倫理)	秋	週1回	1単位
担当者：竹井 潔			
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれてきた。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問にかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分を確認し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 「情報倫理」を平行履修することが望ましい。また、コミュニティ情報系の科目の履修をすることが望まれる。 ◆学びの意義◆ 情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく。			
評価方法 平常点40%、レポート60%			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習Ⅱ(政治学)	秋	週1回	1単位
担当者：川添 美央子			
講義の目標及び概要 履修者の興味や関心を把握した上で、戦後日本の政治史、あるいは現代日本の政治に関連するテキストを選び、輪読する。過去にとりあげたテキストには以下のようなものがある。 ジョン・ダワー 『敗北を抱きしめて』 岩波書店 山口二郎 『戦後政治の崩壊』 岩波文庫 杉田敦 『デモクラシーの論じ方』 ちくま新書 など。			
評価方法 平常点(出席状況、質問や討論の積極性、発表の完成度等)と、学期末提出のレポートを1:1の比率で評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習Ⅱ（地域社会論）	秋	週1回	1単位
担当者：大高 研道			
講義の目標及び概要 1. 内容 演習Ⅰのテキストおよび討論をもとに各自が興味を持った（さらに深めたいと思った）課題を選び、調査・報告する。また、問題関心の状況に応じてグループをつくり、現地調査等（資料収集や聞き取り）を行う。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の必修科目である。専門知識の基礎を学ぶと同時に、次年度の卒業研究レポートの準備段階として調査・報告・レポート執筆の方法・技術を習得する。 3. 学びの意義と目標 最終的には、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや市民社会組織の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。			
評価方法 ・ゼミへの参加状況（報告内容、討論時の積極性:70%）およびレポート(30%)。 ・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は大幅な減点の対象となる。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習Ⅱ（地域福祉）	秋	週1回	1単位
担当者：大塚 健司			
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 1. 目的 介護保険の創設、社会福祉基礎構造改革（措置から契約へ）等、福祉の大きな流れの中で、社会福祉法に地域福祉の推進が位置づけられました。 この授業では、社会福祉法での「地域福祉」の位置づけや、地域住民が、障害の有無、老若男女を問わず、自然に交わり、支えあう「福祉のまちづくり」について、その考え方や、具体的な方策について論議し、実践する。 2. カリキュラム上の位置づけ 演習科目である。市町村地域福祉計画を念頭に、地域の実情を調べ、専門演習Ⅰに引き続いて考える。 3. 学びの意義と目標 「環境福祉」をテーマに地域社会の課題を考え、地域福祉の実践のあり方を探る。また、自分が住んでいる市町村の「市町村地域福祉計画」などを調べ、レポートとしてまとめ、発表し、福祉制度や地域社会がどう関わりあっているか自分のものにする。			
評価方法 課題に対するレポート提出(期限厳守)40%、学期末レポート40%、出席20%により評価する。			
教科書 プリントを配布する			

専門演習Ⅱ（日本経済論）	秋	週1回	1単位
担当者：大森 達也			
講義の目標及び概要 本演習では、専門演習Ⅰで学んだ日本経済の抱える問題に関する基礎知識をもとに、各自、レポート課題を設定した上で、それぞれの課題に関する文献を読み、発表、そして発表に対するクラスディスカッションを行ないつつ、4000字程度のレポート（レジュメを含む）をまとめることを目的としている。			
評価方法 (1) 4,000字程度のレポート提出（40%） (2) 演習時間での発表（40%） (3) ディスカッションへの参加（20%）			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習Ⅱ（比較文化①）	春	週1回	1単位
担当者：渡辺 正人			
講義の目標及び概要 〈内容〉 アジアという地域は、昔から文化の流通・交流が盛んであった。その状況を、古代・現代などに限らず、広く探ってゆくことを目指したい。たとえば漢字はアジアの共有言語であったし、仏教などの宗教もアニミズムもそうである。また、現代ではアニメやマンガなど交流する文化も目立つ。本ゼミでは考古学・民俗学・文化学などさまざまな手法で迫ってみたい。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 専門のテーマを掘り下げる端緒である。 〈学びの意義と目標〉 (1) 文化への眼差しを育てる。 (2) 調査方法に習熟する。 (3) 論文を読む力をつける。 (4) 方法論の基礎を身につける。 の4項目は研究する態度の初歩を学ぶ。			
評価方法 評価は(1)発表（資料・レジュメ作成を含）40%、(2)最終レポート（オンライン提出）40%、(3)出席20%によって算出する。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習Ⅱ（比較文化②）	春	週1回	1単位
担当者：濱田 寛			
講義の目標及び概要 〈内容〉 中国の代表的な志怪小説、干宝撰『搜神記』の輪読形式の演習発表を行う。テキストは『学津討原』所収の版本『搜神記』の影印を用いる。受講生は指定された箇所について訓読・語釈・現代語訳・考察を行い、資料を作成して発表を行う。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中国の古典テキストを扱う上での基本的なノウハウを学習し、卒業研究における各自の独自のテーマを考察するための基礎力の涵養を目指す。与えられた課題の中から「問い」を設定し、自ら解決するための一連の手続きを学ぶことは極めて重要である。 〈学びの意義と目標〉 何らかの意見を述べるためには、事前の調査・分析・考察は必要不可欠な作業となる。この一連の手続きには様々な制約がある。この制約を守らなければ説得力を持ち得ない。各自の興味の対象は様々であろうとも、それを「研究」するためには、この基本的な制約をふまえる必要がある。受講生全員が同じ作品に向き合って、この手続きを学ぶことで、卒業研究に自信を持って進むことができよう。			
評価方法 出席点:30% 演習発表:50% レポート:20%			
教科書 プリントを配布する			

専門演習Ⅱ（法学）	秋	週1回	1単位
担当者：渡辺 英人			
講義の目標及び概要 「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2011年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。			
評価方法 1. 授業への参加と理解度（50%） 2. 発表およびレポート提出（50%）			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習Ⅱ（まちづくり学）	秋	週1回	1単位
担当者：平 修久			
講義の目標及び概要 1. 内容 自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。身近なまちを見直し、まちの価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きも各地で見られる。あるいは、まちの問題を市民が取り組む動きも起きている。 そこで、本演習では、まちが直面している問題・課題を学ぶとともに、まちづくりを進めるための現地調査の手法を修得することを目指す。授業の性格上、グループ作業を行うとともに、学外で行うこともある。 2. カリキュラム上の位置づけ 共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。 3. 学びの意義と目標 身近な大学周辺のまちを題材に、まちの見方、問題などへの対応方法を学ぶことにより、考える力を身につけること。			
評価方法 出席（30%）及び授業への参加度合い（発表、グループ作業など、40%）、レポート（30%）により評価する。			
教科書 田村 明『まちづくりと景観』岩波新書			

専門演習Ⅱ（リスク対策論）	秋	週1回	1単位
担当者：標 宣男			
講義の目標及び概要 1. 内容 「専門演習Ⅰ」と同様、リスクに対し興味を持ってもらうために、現在注目を集めている話題に関する文献を読み、リスクなる言葉のもつ意味を知的にも感覚的にも身につけることを目的とし、内容の理解と発表のしかたを学習する。 2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、コミュニティー政策学科の専門科目における、選択必修科目である。 3. 学びの意義と目標 自分で問題を考え、答えを探ることを学ぶ。			
評価方法 出席及び提出レポートの内容により評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

専門演習Ⅱ（歴史①）		春	週1回	1単位
担当者：東島 誠				
講義の目標及び概要				
◆講義内容◆ 古文書などの「史料」には、いまだ誰も論じていない未発見・未解明の事実が、それこそ無数に埋蔵されている。歴史上の事実を構成していくには、根拠、すなわち「史料」が必要であり、そこから説得力ある議論を導き出すにはどのような手続きが必要なのか、それを実践的に学ぶゼミである。				
◆カリキュラム上の位置と目標◆ 専門演習Ⅱでは、「史料」をもとに自分で歴史像を描き出す、初めての体験を試みよう。そのために必要な指導を、初めの第一歩から行なっていきたい。				
◆学びの意義◆ 先輩たちが証明してきたように、ゼミとは本来、日々新しい学説が生産される現場である。まずは『緑聖文化』第5・6・7号に公表されている、当ゼミの先輩たちの卒論を読んでみよう。そして、ぜひそれに続いてほしい。				
評価方法				
出席、発表、議論への参加（以上50）、および学期末レポート（50）による。なお、ゼミわけ時に説明のあったように、当ゼミ履修者は、必ず同時開講の「日本史特殊講義」を並行して履修すること。履修しない場合は専門演習Ⅱの単位を取得できない。				
教科書				
授業の中で指示する				

専門演習Ⅱ（歴史②）		春	週1回	1単位
担当者：川崎 司				
講義の目標及び概要				
1. 内容 「専門演習Ⅰ」の成果を発展させつつ、〈歴史〉から、この世に流れる普遍的な法則をつかみとり、視野の広いしなやかな歴史観を織り込み、新たな〈自分史〉を着実に刻んでいくことを願っている。範囲は原則として「日本近現代史」とするが、〈歴史〉という大きなフィールドの中からテーマを選び、伸び伸びと〈研究〉を楽しんでもらいたい。				
2. カリキュラム上の位置づけ ここでの鍛錬が「卒業研究Ⅰ」に生かされ、卒業論文作成の礎となることを祈る。				
評価方法				
発表の内容と出席状況を重視します。				
教科書				
プリントを配布する				

専門演習Ⅱ（近現代文化①）		春	週1回	1単位
担当者：清水 均				
講義の目標及び概要				
1. 内容 文学、アニメ、マンガ、音楽、風俗…。文化の研究領域は広く存在し、また、その領域はお互いに横断しています。「文化を考え」とは世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がありますが、文化を研究することは何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもあります。そして、自分自身が常に変化し更新し続けるものであるとすれば、文化もまた我々の新たな体験として捉え直される続けることとなり、またその意味で、皆さんの発想と感性が試され、生かされることにもなります。つまり、文化とは固定的なものではなく、我々にとっての価値を生み出す現場なのです。				
2. カリキュラム上の位置づけ 「専門演習Ⅰ」で体験したゼミ形式的授業をベースに、「卒業研究Ⅱ」に至る自らの専門研究の本格的なスタートとなります。				
3. 学びの意義と目標 まずは「具体的なテーマの発見」を目指してください。				
評価方法				
(1)出席点:50% (2)発表とレポート:40% (3)授業、質疑等への取組:10%				
教科書				
プリントを配布する				

専門演習Ⅱ（近現代文化②）		秋	週1回	1単位
担当者：熊谷 芳郎				
講義の目標及び概要				
◆内容◆ 学校教育は誰にでも体験のあるものだ。その中で、沢山の教材を読んできた。あの頃は授業についていだけで精一杯だったけれど、今読み返したらどんな世界が見えるのだろう。小学校から高校までの国語教科書に載っている教材を皆で読み、それぞれの価値を再検討していくことを目指す。また、それは「子どもの視線」で日本の文化、アジアの文化を眺めるということにもなるだろう。				
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 演習Ⅰで学んできたことを確認した上で、卒業研究でそれぞれの研究テーマに向けて研究を始めるまでの間に位置づけられる。ここでの学びを、研究の基礎として、それぞれの研究テーマを見つけていって欲しい。				
◆学びの意義と目標◆ この演習では、さまざまな教材文の検討を通して大まかな知識を身につけてもらったうえで、それぞれが自分のテーマを見つけ、課題を設定し、研究を深めていくことを目標にする。				
評価方法				
出席、発表、研究協議への参加が50%、学期末レポートが50%				
教科書				
プリントを配布する				

専門演習Ⅱ(思想③)		春	週1回	1単位
担当者：柳田 洋夫				
講義の目標及び概要 〈内容〉 担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、〈日本人の心の歴史〉に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。とりあえずは共通のテキストを決めて、それを一緒に読み進めながら、各自が探求すべきテーマを考えていきたい。				
〈カリキュラム上の位置づけ〉 専門のテーマに取り組むための準備。				
〈学びの意義と目標〉 テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神をより深く理解することを目指す。				
評価方法 出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。				
教科書 授業の中で指示する				

専門資料論		秋	週1回	2単位
担当者：岡谷 大				
講義の目標及び概要 1. 内容 専門資料の意義や学術コミュニケーションの構造、電子情報などのインフラを説明し、具体的に人文、社会、自然科学の情報や資料について説明する。 2. カリキュラム上の位置づけ 図書館資料論の具体版である。情報検索との関連や学術論、科学社会学との関連もある。 3. 学びの意義と目標 人文、社会、自然科学の学問的・科学社会的な構造の理解のもとに、具体的に各分野の主要な情報・資料が理解できること、電子情報・資料が理解できること。				
評価方法 期末試験50%、出席50%とし、出席を重視する。				
教科書 三浦逸雄、野末俊比古『専門資料論』日本図書館協会				

相関文化		春	週1回	2単位
担当者：村松 晋				
講義の目標及び概要 [授業内容] 「日本文化」とは何だろうか。「日本」にしかない文化」というものは存在するのだろうか。否、そもそも『日本文化』とは何かを問い、それを探り当てようとする試みに、積極的な意義はあるのだろうか。本講義では、私たちの身の回りに息づく諸文化を、世界史的な文脈をも考慮しつつ、多角的かつ重層的な観点から問い質すことにより、上記の問いかけに対する一つの場を提示することを目的としている。				
[カリキュラム上の位置づけ] 入門科目・概説科目に準ずる。1・2年次(なるべく1年次)の受講が望ましい。なお学生の皆さんからの質問等に応じ、授業計画に変更が生じる場合がある。				
[学びの意義と目標] 「日本」「日本文化」「日本人」等々を問い質すための、具体的な場を獲得すること。				
評価方法 ・期末試験の成績によって評価する。 ・出席は毎回取る。 ・全授業数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。				
教科書 プリントを配布する				

総合演習(保①)		通年	週1回	2単位
担当者：小池 茂子				
講義の目標及び概要 本演習では現代的課題である「少子高齢化」に焦点を当て授業を行う。 春学期は各自ないしグループ毎に、提示されたトピックス(少子高齢化の実体とそれを生み出した背景、少子社会の問題、現代女性の結婚と出産に関する意識、なぜ国や自治体を挙げての子育て支援が必要なのか、父親の子育て参加は可能か等)の中から取り組むテーマを設定し、資料収集・調査・分析を行いレポートにまとめる。更にそれをパワーポイントやビデオを用いて発表し、発表について受講者が相互に協議・検討を加えることで、現代的課題について専門職としての理解を深め視野を広げ、適切な指導が出来るようになることを目指す。 秋学期は、フィールドワークの手法について学び、それらの方法論を用いてグループ毎に調査した結果についてレポートを作成・発表し受講生相互に意見交換を行う。 授業は教室内だけではなく、可能な限り実地の見学・参加などフィールドワークもとり入れる。また、グループごと或いはクラス全体でのディスカッションを重視し、意見交換を通じて一つの事象に対して多角的に事象を捉える能力の獲得を目指す。				
評価方法 平常点、発表、レポートにより評価を行う。 グループワークも多くなるので、いかに積極的に参加したかを重視する。 実習による欠席は公欠とみなさない。対面の補講を持って欠席分を補う。				
教科書 授業の中で指示する 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶応大学出版会				

総合演習(保②)		通年	週1回	2単位
担当者：石津 靖大				
講義の目標及び概要				
総合演習は、教員・保育士の資質向上を目指すところの教職・保育士養成課程の専門演習科目にて、学科固有の専門演習および卒業研究とは異なる点に留意。 人類に共通する現代的課題である「環境」「国際」「人権」「情報」および日本社会における緊急問題である「少子高齢化」、という5つのテーマに関する領域より、各自ないしグループとして取り組むテーマを設定する。次いで、資料収集・調査・分析・検討した結果をレポートし、問題提起およびその解決策などについて討論する。これらの課題について、教員・保育士志願者が理解を深め視野を広げ、適切な指導が出来ることをめざす。 ディスカッションを中心に演習形式の授業を行い、授業は教室内だけではなく、可能な限り実地の見学・参加などフィールドワークもとり入れる。また、他の教員（学外者を含む）等の参加を求め、指導および助言を得る機会を設ける。				
評価方法				
出席（30%）、平常点（50%）、発表・レポート（20%）				
教科書				
授業の中で指示する				

相談援助の基盤と専門職		秋	週2回	4単位
担当者：大野 和男				
講義の目標及び概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。 ・ 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 ・ 相談援助の概念と範囲について理解する。 ・ 相談援助の理念について理解する。 ・ 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 ・ 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。 ・ 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。 				
評価方法				
期末試験および授業毎のコメントカードの内容および授業への出席状況により評価する。 （期末試験による評価を60%、出席状況とコメントカードの内容による評価を40%として、全体評価の基準とする）				
教科書				
柳澤孝主・坂野憲司『相談援助の基盤と専門職』（弘文堂）				

ソーシャルワーク論		春	週2回	4単位
担当者：助川 征雄				
講義の目標及び概要				
この授業は、将来、精神保健福祉士として、精神障がい者やその家族を援助することを目指す学生向けのもので、国家資格取得のための指定科目です。 内容的には、精神保健福祉援助技術の総論です。具体的には、援助の基礎知識、実践理論と実際、精神保健福祉士の機能と役割、および各先進国の社会福祉と精神障がい者援助の実際などを紹介し、総合的に学びます。 なお、「ソーシャルワーク論」という授業名のねらいは、精神保健福祉援助がソーシャルワーク（社会福祉）の一応用分野であることを常に忘れてはならないという考えがこめられています。				
評価方法				
出席率、小レポート、試験などで総合的に評価します。				
教科書				
精神保健福祉士養成講座編集委員会『精神保健福祉援助技術総論』中央法規出版				

卒業演習(カウンセリング論)		秋	週1回	1単位
担当者：長谷川 恵美子				
講義の目標及び概要				
1. 目的 「ひと」に関する卒業研究テーマを多面的にとらえ、調査、実験、ディスカッションを通して理解を深めることを目的とする。さらに近年の研究成果などを踏まえながら、自らの研究をさらに完成度の高いものへと目指す。受講者は、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。（専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ 履修後に履修する選択必修科目である。） 3. 学びの意義と目標 心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。				
評価方法				
授業への参加状況 報告発表				
教科書				
授業の中で指示する				

卒業演習(高齢者福祉論)		秋	週1回	1単位
担当者：古谷野 亘				
講義の目標及び概要 高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について、個人もしくはグループで卒業研究を行った者から、研究の成果と反省点について報告してもらい、個別に指導する。また、卒業研究の成果を論文にまとめようとしている者に対し個別に指導する。				
評価方法 研究成果をレポートもしくは卒業論文として提出させる。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業演習(子ども家庭論)		秋	週1回	1単位
担当者：中谷 茂一				
講義の目標及び概要 目標：「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポートとして4年間の総仕上げを目標とする。 概要：自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。 卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。				
評価方法 (1) 卒業演習レポート内容 (2) ディスカッション参加状況 上記の総合評価による。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業演習(児童福祉論)		秋	週1回	1単位
担当者：池 弘子				
講義の目標及び概要 1. 内容 卒業研究Ⅱで提出・報告した卒業研究レポートの資料不足の部分や十分検討できていない部分等について取り上げ、よりよい卒業研究レポートとし、余裕があればさらに発展させる。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰ、Ⅱに続く最後のゼミであり、ゼミの総仕上げとなる。 3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを、形式、内容ともによりよいものとし、さらに発展させることで、卒業研究レポートのテーマに関する知識をより確かなものとするとともに、達成感をもってほしい。				
評価方法 (1) 出席状況60% (2) レポート40%				
教科書 授業の中で指示する				

卒業演習(障害者福祉論)		秋	週1回	1単位
担当者：野口 祐子				
講義の目標及び概要 1. 内容 専門演習Ⅰから卒業研究Ⅱで取り組んできた研究でやり残したことや、あるいは、これまでとは異なる角度から研究をとらえ直すなど、各自の関心に沿って研究を行います。教室内にとどまらず、これまで取り組んできた研究の応用として、関連施設の見学や体験を取り入れ、研究を深めます。 2. カリキュラム上の位置づけ これまで取り組んできた研究活動を振り返り、整理を行うとともに、それにとどまらない広い視野で探求します。 3. 学びの意義と目標 社会に出て行く直前の段階であるため、この卒業演習を通して、社会人として必要とされる、コミュニケーション能力、課題発見力、創造力、実行力、積極性、責任感などをあわせて身につけることができるように授業を進めます。				
評価方法 出席状況・参加姿勢50%、レポート50%で評価します。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業演習(精神保健福祉論)	秋	週1回	1単位
担当者：相川 章子			
講義の目標及び概要 自らの研究テーマについてさらに探求する。			
評価方法 出席、受講態度、グループへの参加等を総合的に評価。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業演習(ソーシャルワーク論)	秋	週1回	1単位
担当者：助川 征雄			
講義の目標及び概要 主に、卒業研究のさらなる深化や進路選択の役に立つの授業を行う。テキストを用い、あわせて、学会出席や社会見学等も取り入れる。			
評価方法 出席率、小レポート、平常点などで総合的に評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業演習(地域福祉論)	秋	週1回	1単位
担当者：牛津 信忠			
講義の目標及び概要 地域福祉の実際について、ここの研究報告書をベースに自由な討論を行う。その討論の中から、今後の就職した社会福祉領域、それに留まらず地域生活や一般企業の業務においても、地域福祉的発想が、役立ち、かつ重要であることを学んでいく。 さらに、各自のテーマを越えて、他の学友のテーマに接し視野を広げて行くとともに、関連領域に関する広い視野を養うことも重視する。			
評価方法 自己のテーマについて明確な問題意識のもとに人に伝えるとともに、人の語る内容を確実に理解する。その能力を地域福祉という具体の中で養っていく。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業演習(人間関係論)	秋	週1回	1単位
担当者：小山 義徳			
講義の目標及び概要 1. 〈目的〉 卒業研究で行ったことを踏まえ、さらに質の高い研究を目指す。 2. 〈カリキュラム上の位置づけ〉 卒業研究Ⅱ 履修後に履修する選択必修科目である。 3. 〈学びの意義と目標〉 論文執筆を通して、問題設定スキル、問題解決スキル、自分が発見したことをプレゼンテーションするスキルを身につけることを目標とする。自分の興味があることに思いっきり取り組めるチャンスです。楽しみましょう。			
評価方法 出席(50%)、ディスカッションへの参加度(10%)、プレゼンテーションの技能(10%)、研究内容(30%)。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業演習(福祉環境論)	秋	週1回	1単位
担当者：野口 祐子			
講義の目標及び概要 1. 内容 専門演習Ⅰから卒業研究Ⅱで取り組んできた研究でやり残したことや、あるいは、これまでとは異なる角度から研究をとらえ直すなど、各自の関心に沿って研究を行います。教室内にとどまらず、これまで取り組んできた研究の応用として、関連施設の見学や体験を取り入れ、研究を深めます。 2. カリキュラム上の位置づけ これまで取り組んできた研究活動を振り返り、整理を行うとともに、それにとどまらない広い視野で探求します。 3. 学びの意義と目標 社会に出て行く直前の段階であるため、この卒業演習を通して、社会人として必要とされる、コミュニケーション能力、課題発見力、創造力、実行力、積極性、責任感などをあわせて身につけることができるように授業を進めます。			
評価方法 出席状況・参加姿勢50%、レポート50%で評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業演習(福祉倫理)	秋	週1回	1単位
担当者：左近 豊			
講義の目標及び概要 福祉倫理に関するテーマを各自で探求し、卒業論文、卒業研究の完成に向けて発表、討論を行う。			
評価方法 卒業論文、または卒業研究100%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業演習(レクリエーション論)	秋	週1回	1単位
担当者：梅津 迪子			
講義の目標及び概要 <内容> 「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ」で学習したことを踏まえて、宮本常一『民俗学への旅』、松岡正剛『花鳥風月の科学』を読み合い、各自のQOL(生活の質=生活文化)を高める。一方、制作活動や芸術鑑賞も行う。 <カリキュラム上の位置づけ> 「レクリエーションの本質」は生活文化を享受し豊かな充実した人生を送ることである。そのためには自由時間をどう使うかでその人の人生が決まってくる。物の見方(価値観)を養い、行動し、自己教育力を養う。 <学びの意義と目標> 学生にとって4年間の「自由時間をどのように使ったか」は今後の人生を大きく変えることになるであろう。宮本常一が旅立ちの時、父から贈られた十か条は「物の見方」の参考になる。再度、各自でこれからの「生き方」を考えてみよう。			
評価方法 出席率の重視 50点 授業に臨む態度・意欲・行動 20点 研究発表・意見交換 30点 総合的に評価			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(Pop Culture)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：K. O. アンダスン			
講義の目標及び概要 1. 内容：映画『Casablanca』、『The Third Man』についてより深く調査・研究し、オーラル・レポートと小論文の書き方を学ぶことに重きを置く。 2. カリキュラム上の位置づけ：この卒業研究Ⅰは2011年度春学期、専門演習(Pop Culture)Ⅱの継続である。 3. 学びの意義と目標：調査・研究方法と小論文の書き方を学ぶ。			
評価方法 10% 出席 30% 小テスト結果 30% 宿題(レポート)提出結果 30% 期末試験結果			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究 (Pop Culture) II	春	週1回	1単位
担当者：K. O. アンダスン			
講義の目標及び概要 この卒業研究は2010年度秋学期卒業研究 I の継続である。			
評価方法 10% 出席 30% 小テスト結果 30% 宿題（レポート）提出結果 30% 期末試験結果			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究 (アイデンティティの社会学)	秋	週2回	2単位
担当者：横山 寿世理			
講義の目標及び概要 1. 内容 春学期の専門演習の継続で、社会調査のテーマの決定ならびに調査票の設計、実査、集計と分析、報告書の作成を行う。それぞれの段階に応じて課題が出るので、前半はグループワークが重要であり、後半は各自で分析と報告書の作成を進めることになる。 2. カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科3年次秋学期開講の演習科目であり、専門演習（アイデンティティの社会学）を修得していないと履修できない。 3. 学びの意義と目標 春学期に探し当てたテーマとその仮説を検証するという一連の学習であり、春学期に身につけたゼミでの議論の仕方を実践する機会になる。各自グループ内での自分の役目を理解するとともに、自らも段取りよく調査を進めることが求められる。この調査結果を踏まえて卒業論文へ展開することも、大学4年間での学びを総括することもできるだろう。			
評価方法 グループへの貢献と課題への取り組み（60%）、最終的に提出される報告書の内容（40%）によって評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究 (アメリカ文化)	秋	週2回	2単位
担当者：柴田 史子			
講義の目標及び概要 ◆内容 本演習は、専門演習で習得した原書講読と発表の力をさらに磨くとともに、学生一人一人が、自分のテーマを追究してレポートを書く作業をすることによって、卒論執筆への橋渡しをすることを目的とする。 ◆カリキュラム上の位置づけ 3年秋学期の必修科目であり、専門演習（アメリカ文化）の履修者のみに受講が認められている科目である。 ◆学びの意義と目標 アカデミックな論文の書き方の習得を目指す。			
評価方法 出席（30%）、ゼミ発表（10%）、中間報告（4回）の提出（各5%）、最終レポート（4000字以上）（40%）。期末テストは実施しない。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究 (異文化間教育 I)	春	週1回	1単位
担当者：佐藤 千瀬			
講義の目標及び概要 1. 内容 卒業研究は、「専門演習（異文化間教育 I・II）」の延長線上にあり、これまでの学習成果をさらに発展させ、ディスカッションを重ねながら、各自の関心のあるテーマを深めていくことを目標とする。研究計画を立て、先行研究をまとめ、実際に様々な研究方法を使って、自分のテーマに沿った情報収集をし、得られた結果をまとめ、発表する方法を学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科専門科目で、「専門演習（異文化間教育 I・II）」に続く、3年次の選択必修科目である。 3. 学びの意義と目標 ・研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学ぶ。 ・卒業論文（レポート）の書き方を学ぶ。			
評価方法 平常点20% レポート20% 発表60%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(異文化間教育Ⅱ)		秋	週1回	1単位
担当者：佐藤 千瀬				
講義の目標及び概要 1. 内容 これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめることを目標とする。研究計画を立て、先行研究をまとめ、実際に様々な研究方法を使って、自分のテーマに沿った情報収集をし、得られた結果をまとめ、発表する。授業は、それぞれの経過報告とディスカッションで進められる。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科専門科目で、「卒業研究(異文化間教育Ⅰ)」に続く、選択必修科目である。 3. 学びの意義と目標 ・研究計画の立て方、先行研究の整理の方法、研究方法の実際、研究のまとめ方及び発表方法を学ぶ。 ・卒業論文(レポート)の書き方を学ぶ。				
評価方法 平常点 20% 卒業研究レポート 40% 発表 40%				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究(英語学)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：加曾利 実				
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 卒業研究(英語学)Ⅰでは、やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、「インド・ヨーロッパ語族」を巡って、様々な問題について議論を深化させていきたいと思っています。進路指導も行います。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 原則として、テキストの輪読形式で授業を進めていきます。卒業研究は、いわば「学業の仕上げ」と言えます。 ◆学びの意義と目標◆ 英語だけでなく、世界の言語についても考えます。特に、日本語が世界でどのような位置にあるのかについて議論します。				
評価方法 1. 予習・復習の実行度 (10%) 2. レポートの成績 (20%) 3. 定期試験の成績 (70%) 出席については、学生要覧を参照のこと。				
教科書 Sheila Chevallier『First Steps to Linguistics』三修社				

卒業研究(英語学)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：加曾利 実				
講義の目標及び概要 ◆内容◆ ソシュールの構造主義言語学について言語について研究を深化させます。また、意味論の究極的目的と考えられる「比較文化論」についても、英語プリント教材の輪読によって考究します。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 原則として、テキストの輪読形式で授業を進めていきます。卒業研究は、いわば「学業の仕上げ」と言えます。 ◆学びの意義と目標◆ ソシュールの知識を得ることは、人間と言語の本質を考察する上で欠くことのできない、現代人必須の知識と言えます。青春時代は、二度と来ません。頭の柔らかい間に、学問に励んでください。				
評価方法 1. 予習・復習の実行度 (10%) 2. レポートの成績 (20%) 3. 定期試験の成績 (70%) 出席については、学生要覧を参照のこと。				
教科書 丸山圭三郎『言葉とは何か』ちくま学芸文庫				

卒業研究(英米文学)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：氏家 理恵				
講義の目標及び概要 〈内容〉 「専門演習」に引き続き、前半はレポート合評会、後半は発表とディスカッションを行う。発表する際には事前にレジメを作成し、担当部分のまとめ・調べてきたこと・考察を述べてもらう。なお、各自の卒業研究テーマについても発表する機会を持ち、ディスカッションを通してそれぞれの研究テーマ決定への足掛りとする。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 この科目は2年間続くゼミの一環である。 〈学びの意義と目標〉 「専門演習」Ⅰ・Ⅱでは、作品を読みながら作品分析に慣れると共にレジメの作り方や発表の仕方を身につけた。「卒業研究Ⅰ」では、引き続きレジメやレポートの書き方、プレゼンテーションの仕方の指導を行う。また、授業最終時まで各自の卒業研究テーマを決定し、簡単な研究計画とレポート・卒業論文への準備をする期間とする。				
評価方法 1. 平常点 30% 2. 課題 20% 3. 発表(レジメ作成含む) 30% 4. 期末レポート 20%				
教科書 プリントを配布する				

卒業研究(英米文学)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：氏家 理恵			
講義の目標及び概要 (内容) 〈ゼミ〉での学びの集大成として、卒業研究レポートとその論集を作成する。まず、「卒業研究Ⅰ」で作成した各自の卒業研究テーマに関するレポートを題材にして、アウトライン作成・引用の仕方・注の書き方・画像の使い方など、全員に共通する注意事項をお互いに添削しながら確認する。また、数本ずつ合評をしていき、それぞれの課題を明らかにする。最後に、書式や表現なども含め、説得力のある論理的なレポート作成をするためのポイントの最終確認をしながら、卒業研究レポートを完成させる。 (カリキュラム上の位置づけ) 2年間にわたる〈ゼミ〉の最終段階である。 (学びの意義と目標) これまで学んできたさまざまな知識とテクニックを駆使し、各自の研究テーマを深化させ、卒業研究レポートの完成を目指す。ディスカッション中心となるので意欲的な参加を希望する。また、2年間のゼミの集大成としての卒業研究レポートの完成に向けて努めてほしい。			
評価方法 1. 平常点 40% 2. 課題 20% 3. 卒業研究レポート 40%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(音楽創造論Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：村山 順吉			
講義の目標及び概要 「専門演習(音楽創造論Ⅰ・Ⅱ)」での学びのうえに、さらにそれを深め発展させながら各自の研究課題を設定することが、ねらいである。 特に「専門演習(音楽創造論Ⅱ)」で立案したプログラムの実践を行いながら、個別或いはテーマに則したいいくつかのグループごとに経過の報告と発表、検討を重ねながら進める。			
評価方法 研究課題設定に向けての取り組みの姿勢。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(音楽創造論Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：村山 順吉			
講義の目標及び概要 「卒業研究(音楽創造論Ⅰ)」で設定したテーマに則して行ってきた研究をまとめ、それを、小論文・卒業演奏・卒業作品のいずれかで発表する。卒業演奏・卒業作品を選択した場合でも、それに至った過程をレポートにまとめ、提出すること。			
評価方法 テーマに取り組んだ姿勢と発表による。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(外国語教授法)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：長崎 睦子			
講義の目標及び概要 1. 内容 専門演習を通して決めた研究テーマに基づき、各自研究を始めていく。文献を多く読み、ブック・レビューとその発表を行いながら、同じゼミ生とのディスカッションを通して研究の方向性を模索し、着実に研究を進めていく。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。 3. 学びの意義と目標 本講義の目的は(1)自分の研究テーマに関する適切な文献を探し読むこと、(2)具体的な研究計画書を作成すること、(3)卒業研究レポートの書き方を学ぶことである。以上のことを通して、研究の流れを理解する。			
評価方法 平常点(出席や授業への取り組み)25%、卒業レポート・テーマと見出しの発表30%(=15%×2回)文献調査と報告45%(=15%×3回)*評価内容は変更する場合がある。その場合は授業にて説明をするので確認すること。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(外国語教授法)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：長崎 睦子			
講義の目標及び概要 1. 内容 卒業研究Ⅰで提出した研究計画書を基に卒業研究レポートを完成させる。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。 3. 学びの意義と目標 各自が興味、疑問を持ち決定した卒業研究の議題についてさらに調べ、批評し、自分の考えをまとめ、論文を書く。研究議題に対する答えを論理的に述べる。大学での学びの集大成となるよう、卒業研究に真摯に向き合い、納得のいくレポートを完成させることを期待する。			
評価方法 平常点（出席や授業への取り組み）20%、研究の経過発表20%（10%×2回）、卒業研究の発表20%、卒業研究レポート40% ＊評価内容は変更する場合がある。その場合は授業にて説明をするので確認すること。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(カウンセリング論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：長谷川 恵美子			
講義の目標及び概要 1. 目的 どのように人間の心や行動を理解し、どのように検証し、どのように記述するのか。まずは、研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。（専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ 履修後に履修する必修科目である。） 3. 学びの意義と目標 心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。			
評価方法 配布される資料以外に、自らのテーマに関する資料を積極的に集め、知識の幅を広げられるよう積極的に参加すること。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(カウンセリング論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：長谷川 恵美子			
講義の目標及び概要 1. 目的 心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。 特に、自らの研究テーマを、どのようにまとめ、ひとに伝えるのかなど、よりよい報告の仕方や発表方法に関してディスカッションすることにより、発表技術の向上をめざす。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。（専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 履修後に履修する必修科目である。） 3. 学びの意義と目標 心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。			
評価方法 授業への参加状況 報告発表			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(環境保全論)	秋	週2回	2単位
担当者：村上 公久			
講義の目標及び概要 1. 内容 始めに全員で地球環境問題を扱った英文の報告書（以下の授業計画の6つの英文報告書）を学び、その中から各自がテーマを選んで、レポートをまとめる。 次に複数のグループに分かれてグループ毎に地球環境問題に関わる課題を設定し、解決への提言をまとめる。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目「環境保全論」で学んだ内容を基に、グループ演習によって環境問題の解決への方途を提言する演習科目。 3. 学びの意義と目標 専門科目「環境保全論」、「専門演習（環境保全論）」で得た知見を、グループで提言にまとめ発表する能力の獲得。			
評価方法 出席状況、各自のレポートとその発表、討論を通じてのグループへの貢献度、ゼミ全体への貢献度、学期を通じて学んだまとめとしてのパワー・ポイントによる発表、を総合的に評価する。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(教育文化論Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：寺崎 恵子			
講義の目標及び概要 1 内容 各受講生が、研究テーマを設定して研究を深める。テーマ設定の方法、研究方法、研究成果のまとめ方を身につけることをねらいとしている。また、研究仲間とのかかわりあい研究を進めるには不可欠であることを確認する。 2 カリキュラム上の位置づけ 卒業研究の前期プロセスとして考えている。 3 学びの意義と目標 各自、研究テーマを追究する力を身につける。研究は決して独りよがり成り立つものではないことを互いに皆で確認して大切にしたい。			
評価方法 研究進展状況報告(5点×14回＝70点)と中間・期末まとめ(30点)を総合して評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(教育文化論Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：寺崎 恵子			
講義の目標及び概要 1 内容 各受講生の研究をさらに深める。口頭発表や論文発表ができるように研究内容をまとめることをこの演習の主旨とする。 2 カリキュラム上の位置づけ 卒業研究(教育文化論Ⅰ)に引き続いて、児童学科4年生に開講されるものである。 3 学びの意義と目標 自分の世界を構築するには、他者の意見が不可欠である。仲間と共に学ぶことを大切にしたい。			
評価方法 研究進展状況の報告(5点×14回＝70点)と発表(15点×2回＝30点)とをあわせて評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(キリスト教社会倫理)	秋	週2回	2単位
担当者：相澤 一			
講義の目標及び概要 「専門演習(キリスト教社会倫理)」で、各自が興味を持った研究課題に取り組み、さらに研究を進める。 内容は、担当者と学生との話し合いによって流動的に決定する。			
評価方法 出席状況、授業態度、発表の内容や授業参加の積極性などで総合的に判断する。期末レポートは課さないで、毎回真剣に参加して欲しい。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(キリスト教文化)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：菊地 順			
講義の目標及び概要 (1)内容 専門演習で学んだキングを中心に展開された公民権運動からさらに目を広く転じ、それに関連する人物や思想についての学びを深めることにより、キリスト教や他の宗教について、また人間の生き方についての理解を深めることを目的としています。 (2)カリキュラム上の位置づけ 卒業研究Ⅱを修了するときを書く「卒業研究レポート」の準備期間としての位置を持ちます。また可能ならば(自由ですが)、そのレポートを踏まえて卒業論文を書くことが期待されています。授業も読むことから受講者の発表と話し合いに重心を移します。 (3)学びの意義と目標 卒業研究レポートを書くために、各自、自分のテーマを決めなければなりません。一方ではそれを意識しながら、同時に公民権運動後のキングの活動と思想的展開について学びます。そして、最後に、各自の決めたテーマを発表してもらいます。			
評価方法 出席状況とレポートを総合して評価します。割合はそれぞれ50%です。なお、出席というのは、授業に積極的に参加することを意味しています。授業のために課された課題などをしてこない場合は、減点になります。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(キリスト教文化)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：菊地 順			
講義の目標及び概要 (1)内容 この授業は、受講者が卒業研究Ⅰで決めた各自のテーマにそって、そのレポートを作成を目指します。受講者は2回の中間発表と最後の完成されたものの発表とが期待されています。 (2)カリキュラム上の位置づけ 可能ならば(自由ですが)、卒業論文を書くことが期待されていますが、この授業は、それへと至る「卒業レポート」の完成が目指されています。 (3)学びの意義と目標 受講者の発表が主となりますので、扱うテーマは多様になる可能性があります。同時にいくつかの共通したテーマを決め、その2本立てで授業を進めていきます。右に記した「授業計画」はあくまでも参考です。			
評価方法 出席状況とレポートを総合して評価します。割合はそれぞれ50%です。なお、出席というのは、授業に積極的に参加することを意味しています。授業のために課された課題などをしてこない場合は、減点になります。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(キリスト教幼児教育Ⅰ)	春	週1回	1単位
担当者：阿部 洋治			
講義の目標及び概要 (1)専門演習においては、キリスト教人間観を基本として、ジョン・ロック『教育についての考察』、ジャン・ジャック・ルソー『エミール』、ペスタロッチ『隠者の夕暮れ』、フレーベル『人間の教育』を丁寧に読み、教育・保育をめぐる問題を考察して来た。卒業研究においては、こうした考察をベースに、ゼミ生各自が自分の研究テーマを見いだすように指導し、この卒業研究と並行して卒業論文を仕上げるよう目指したい。 (2)児童学科選択必修科目 (3)単なる知識詰め込みの勉強から卒業して、自分のテーマを見いだし、本気でそのテーマを掘り下げて研究し、論文にまで仕上げることを経験してほしい。			
評価方法 ゼミで行う自分のテーマに関係した研究発表ないしは読書レポートを基に行う。テーマとの真摯な取り組み、内容のある報告、また他のゼミ生の発表に対するコメントなどが評価の対象となる。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(キリスト教幼児教育Ⅱ)	秋	週1回	1単位
担当者：阿部 洋治			
講義の目標及び概要 (1)専門演習においては、キリスト教人間観を基本として、ジョン・ロック『教育についての考察』、ジャン・ジャック・ルソー『エミール』、ペスタロッチ『隠者の夕暮れ』、フレーベル『人間の教育』を丁寧に読み、教育・保育をめぐる問題を考察して来た。卒業研究においては、こうした考察をベースに、ゼミ生各自が自分の研究テーマを見いだすように指導し、この卒業研究と並行して卒業論文を仕上げるよう目指したい。 (2)児童学科選択必修科目 (3)単なる知識詰め込みの勉強から卒業して、自分のテーマを見いだし、本気でそのテーマを掘り下げて研究し、論文にまで仕上げることを経験してほしい。			
評価方法 ゼミで行う自分のテーマに関係した研究発表ないしは読書レポートを基に行う。テーマとの真摯な取り組み、内容のある報告、また他のゼミ生の発表に対するコメントなどが評価の対象となる。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(近現代文化①)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：清水 均			
講義の目標及び概要 1、内容 春学期に開講された「専門演習Ⅱ」の継続であるが、ここで一度自らの研究テーマについて再検討してもらおう。その上でテーマの変更があれば十分に検討した上で研究発表に取り組んでもらうことになる。 2、カリキュラム上の位置づけ 「専門演習Ⅱ」での研究発表、レポートを再検討した上で「卒業研究Ⅱ」への継続性を見定める。 3、学びの意義と目標 研究発表レポート(原稿用紙換算15枚以上)を課す。卒業論文執筆に対して、自分がこれに取り組む可能性があるかどうかを見定めてほしい。			
評価方法 (1)出席点:40% (2)発表とレポート:50% (3)授業、質疑等への取組:10%			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(近現代文化①)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：清水 均			
講義の目標及び概要 1、内容 「卒業研究Ⅰ」までの各自の研究の発展。研究の充実度によって「卒業論文」へと向かってもらう。 2、カリキュラム上の位置づけ 「卒業研究Ⅰ」までのステップで展開してきた各自の研究の「仕上げ」となる。 3、学びの意義と目標 大学での専門的な研究の総仕上げとしてレポート30枚（原稿用紙換算）以上を執筆することを目指す。これにより、卒業論文を執筆する者はそのペースを作り上げることになり、それ以外の者にとっては研究の「証」を得ることとなる。いずれにしてもこのゼミで「卒業研究Ⅱ」を履修し終えるということは、卒業後の人生において時代や社会を眼差す力を獲得することになるはずである。			
評価方法 (1)出席状況50% (2)研究発表及び最終レポート50%			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(近現代文化②)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：熊谷 芳郎			
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 各自が関心のあるテーマの先行研究論文を実際に読み解き、その内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べることによって、参加者全体でディスカッションを行う。中には、まだ自分の問題が明確になっていない場合もあるであろうが、ともに実践記録や論文を読み進めることによって、自分の取り組むべき課題を発見していくことを目指す。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 専門演習Ⅱで概説的な文章の読み取りを通して、その分野の概略を理解することを体験した。3年生秋学期のこの講座では、概観的な理解から具体的な課題を発見していくことになる。 ◆学びの意義と目標◆ 目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養ってほしい。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。			
評価方法 出席、発表、討議への参加状況（50%）、学期末レポート（50%）による。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(近現代文学①)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：黒木 章			
講義の目標及び概要 【内容】担当者が始めの3回程度を使って森鷗外研究の例を示す。その後参加者が各自の取り組みを報告し、それをめぐって討議することを繰り返す。参加者は学期中に何度か発表・報告をしなければならぬ。 【カリキュラム上の位置付け】参加者が任意に取組む作品や作家の問題をそれぞれに提示し、それをもとに相互討議を行うことで問題や考察の深化を目差す。これによって参加者が研究方法を身につけて卒業論文が作成できるように実践的な訓練を行う。 【学びの意義】大学生活の集大成としての卒業論文の作成はその後の生き方に重要な意味を持つ。この演習における参加者の発表と相互の討議は自分の課題の発見、自分の長所・短所の確認に役立つ。いわば学問研究という方法による自立のための基礎作りになる。			
評価方法 普段の授業参加態度を30%、報告内容とその後の取組みを30%、学期末のレポートを40%とみる。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(金融市場論)	秋	週2回	2単位
担当者：柴田 武男			
講義の目標及び概要 「卒業研究（金融市場論）」では、金融市場に関する論文作成の指導を行う。まず、関連する論文の読解から初めて、専門論文を読みとる方法を学んで、次に、基本的なテーマの選定、論文の書き方を指導する。原則として、担当教員の金融市場論講義・専門演習を受けた上で選択して欲しい。金融市場というテーマ自体が幅広く、大きいので、銀行とか証券だけがテーマだと選択を狭くするつもりはない。幅広く受講生の関心のあるテーマで自発的に取り組んで欲しい。 ただし、日頃新聞の経済記事を読み、金融問題についてある程度の知識を有していないと、論文作成は困難であることは留意して欲しい。多重債務者問題・貸金業規制法改正問題・株式の新興市場など金融市場を巡る様々な問題に日頃関心を持っている受講者であれば、大歓迎である。			
評価方法 出席点（50%）およびレポート（50%）で評価する。卒業研究レポートの提出は、は単位認定の前提であることを留意すること。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(経営管理)	秋	週2回	2単位
担当者：後藤 兼一			
講義の目標及び概要 演習の目標：経営管理に関する一連の講義及び実習、さらに専門演習で学習した内容をもとに自分で決めた課題に付いて実際に調査し研究することによって経営管理の考え方を自分なりに集大成することが本演習の目的です。最初に研究したい課題(テーマ)を明らかにし、次に何故その研究がしたいのか動機を明らかにし、最後に実際に調査し研究してみることによって、研究することの意味や価値を実感することを演習の目標とします。			
演習の概要：演習で行う内容は大方次の通りです。まず何を研究したいのか(課題)、何故そのことを研究したいのか(動機)を明らかにします。次に、何を調べたのか(文献調査と現地調査)、何がどうなっているのか(実態と実体)、何がどういう仕組みになっているのか(構造と機能)、さらに何を細分化したのか(分析と解析)、そして何が分かったのか(本質と結論)を整理します。以上を詰めることによって、研究することの意味や価値を実感することを演習の目標とします。演習の特徴は、経営管理で使われている、用語を比較する形で行なわれるところにある。			
評価方法 卒論ゼミでは演習を進めると同時に、学生同士及び教員との親睦をはかることをも大切にしている。学期末定期試験はない。従って評価は出席状況40%とレポート60%を総合して決める。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(言語①) I	秋	週1回	1単位
担当者：小林 茂之			
講義の目標及び概要 〈内容〉 チョーサーは、中期英語の代表的作家として有名である。現代英語の直接的源泉であるとみなされている。そこで、日本語対訳付の原文を講読することを通して、歴史言語学の基本的な方法と英語史の基礎を具体的に学ぶことにする。 また、14Cの英語の発音がCDで聞くことができるので、韻文の美しさを内容と併せて味わいたい。 また、現代英文法を実際に学び、現代英文法と初期英語の文法の違いに気づく。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 卒業研究のテーマを文献講読を通して探る。 〈学びの意義と目標〉 歴史言語学と現代英文法を学び、大学生としての言語文化に関する人文学的教養と実際の英語力を向上させる。			
評価方法 出席(30/100)、担当箇所の報告(発表)(30/100)、ゼミへの参加度(20/100)、期末レポート(20/100)			
教科書 荻部恒徳・他『原文対訳「カンタベリー物語・総序歌」』松柏社 Raymond Murphy『English Grammar in Use 3rd Ed.』Cambridge University Press			

卒業研究(言語①) II	春	週1回	1単位
担当者：小林 茂之			
講義の目標及び概要 〈内容〉 生成文法に基づいた比較統語論と通時統語論の入門書を講読する。 通時統語論は、共時的な言語学である比較統語論で行われる「原理とパラメータのアプローチ」を通時的な言語研究に適用したものである。個別言語間の違いを決定するパラメータについて、比較統語論・通時統語論の事例を解説する。また、「再分析」、「文法化」、「言語獲得」などの重要な言語変化のメカニズムについて取り上げる。 また、現代英語の実際的な文法についてもふれることにする。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 卒業研究を進展させ、卒業論文作成の準備をする。 〈学びの意義と目標〉 現代言語学における生成文法研究の一分野の研究をやや詳しく学び、言語研究・言語教育系への就職・進学するための準備をする。			
評価方法 出席(30/100)、ゼミでの発表・報告(30/100)、ゼミへの参加度(質疑応答)(20/100)・単位レポート(20/100)。			
教科書 Ian Roberts『Diachronic Syntax』Oxford University Press Raymond Murphy『English Grammar in Use 3rd Ed., Intermediate』Cambridge University Press			

卒業研究(言語②) I	秋	週1回	1単位
担当者：川口 さち子			
講義の目標及び概要 〈内容〉敬語・文法・アクセントなどを含む現代語のゆれ、日本語と外国語との比較対照などを扱う。テーマを各自決めて、実例を採取し、発表・質疑応答を行う。分析する資料は、テレビ番組、雑誌、新聞、小説、アンケート調査、インタビューなど自由に選ぶこととする。 〈カリキュラム上の位置づけ〉卒業研究Ⅱに結びつくように自分のテーマをみつけ、更に深めていくこと。 〈学びの意義と目標〉課題を与えられてレポートを書くという形式ではなく、自分のテーマをみつけて、地道に研究していくという姿勢を身につけること。			
評価方法 調査発表・レポートの内容(60%)、討論への参加度(20%)、出席状況(20%)を総合して判定する。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(言語②) II	春 週1回 1単位
担当者：川口 さち子	
講義の目標及び概要 1. 内容 「卒業研究Ⅰ」に引き続き、敬語・文法・アクセントなどを含む現代語のゆれ、日本語と外国語との比較対照などを扱う。テーマを各自決めて、実例を採取し、発表・質疑応答を行う。分析する資料は、テレビ番組、雑誌、新聞、小説、アンケート調査、インタビューなど自由に選ぶこととする。 2. カリキュラム上の位置づけ 「卒業研究Ⅰ」で扱ったテーマを各自深め、ある程度まとまった論文を書き、卒業論文へのステップとなるようにしたい。 3. 学びの目標 ゼミとしては、最後の課程となるので、各自まとまった論文と言えるレベルのものを書くこと。	
評価方法 調査発表・レポートの内容（60%）、討論への参加度（20%）、出席状況（20%）を総合して判定する。	
教科書 プリントを配布する	

卒業研究(言語と社会) I	秋 週1回 1単位
担当者：D. バーガー	
講義の目標及び概要 1. 内容：このゼミでは言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語と社会」と並行するが、専門演習Ⅰ、Ⅱと同様に、より深く追求することができる。卒業研究Ⅰの主要課題は「危機言語と言語復興」である。主に、アイヌ語、琉球語、ハワイ語、アメリカインディアンなどの諸言語を始め、それぞれの社会において英語と日本語がその言語の危機状態に貢献する役割を果たすことを研究する。受講生は各課題について研究し、書面でも口頭でも発表する。学期末にその課題の中から1つ選び、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められている。 2. カリキュラム上の位置づけ：卒業研究Ⅰは専門演習Ⅰ、Ⅱの続きで、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。 3. 学びの目標：このゼミの目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、このゼミは受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。	
評価方法 15% 授業への出席； 15% 授業での参加態度； 20% それぞれの課題についてのレポート； 10% その口頭発表； 25% 卒業研究Ⅰ最終研究レポート； 15% その口頭発表	
教科書 プリントを配布する	

卒業研究(言語と社会) II	春 週1回 1単位
担当者：D. バーガー	
講義の目標及び概要 1. 内容：卒業研究Ⅱの主要課題は「差別語」である。主に、日本とアメリカ社会における人種・民族差別語、性差別語、包括語（男女包括用語）について研究する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生は今までのゼミと同様に、各課題について研究し、書面でも口頭でも発表する。学期末にその課題の中から1つ選び、研究レポートを書き、その結果を口頭で発表することが求められている。卒業論文を書きたい学生はテーマを選び、研究を今学期中に始めるべきである。 2. カリキュラム上の位置づけ：卒業研究Ⅱは専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰの続きで、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。 3. 学びの目標：このゼミの目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、このゼミは受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。	
評価方法 15% 授業への出席； 15% 授業での参加態度； 20% それぞれの課題についてのレポート； 10% その口頭発表； 25% 卒業研究Ⅱ最終研究レポート； 15% その口頭発表	
教科書 プリントを配布する	

卒業研究(現代ヨーロッパ事情) II	春 週1回 1単位
担当者：佐藤 啓介	
講義の目標及び概要 1) 内容 専門演習で身につけた知識と技術を用いて、実際に自分で関心のあるテーマを選び、卒業研究Ⅰで準備してきた研究の完成を目指します。卒業研究Ⅱでは、大きなテーマを一つの文章にまとめる文章技法、人に伝わる表現技法など、文章指導を重視します。 2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目としての選択必修科目であり、2年間にわたるゼミの最後の段階にあたります。 3) 学びの意義と目標 これまで体験することのなかった「まとまった分量の研究」を遂行できる力と技術を習得し、それによって、社会人として求められる調査力・考察力・発表力・文章力と、国際人として求められるグローバルな視点を養うことを目指します。	
評価方法 発表点（30%）、研究レポート（50%）、討論への参加度（20%）	
教科書 授業の中で指示する	

卒業研究(現代ヨーロッパ事情)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：佐藤 啓介			
講義の目標及び概要 1) 内容 専門演習で身につけた知識と技術を用いて、実際に自分で関心のあるテーマを選び、卒業研究Ⅱで仕上げを目指し、また卒業論文につながるような研究を進めていきます。同時に、卒業研究Ⅰでは、研究を具体的に進めるのに必要な情報検索技術、研究を他人に発表するのに必要なパワーポイントなどの活用法についても、指導をおこないます。 2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目としての選択必修科目であり、2年間にわたるゼミの後半段階にあたります。 3) 学びの意義と目標 これまで体験することのなかった「まとまった分量の研究」を遂行できる力と技術を習得し、それによって、社会人として求められる調査力・考察力・発表力と、国際人として求められるグローバルな視点を養うことを目指します。			
評価方法 発表点（60％）、討論への参加度（40％）			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(高齢者福祉論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：古谷野 亘			
講義の目標及び概要 高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について、個人もしくはグループで卒業研究を行う者に、個別に指導する。また、卒業研究の成果を論文にまとめようとする者については、選考のうえ、必要に応じて個別に指導する。			
評価方法 研究成果をレポートにまとめて提出させる。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(高齢者福祉論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：古谷野 亘			
講義の目標及び概要 高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について、個人もしくはグループで卒業研究を行う者に、個別に指導する。また、卒業研究の成果を論文にまとめようとする者については、選考のうえ、必要に応じて個別に指導する。			
評価方法 研究成果をレポートにまとめて提出させる。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(国際政治論)	秋	週2回	2単位
担当者：秋吉 祐子			
講義の目標及び概要 〈内容〉地球上の人間の存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観において日本を基点として国際政治の諸局面を分析・考察する。授業の主項目は、各受講生のプレゼンテーション(プレゼン)、それに基づく質疑・応答、討論を行う。同世界観に基づいたディベートを行う。レポート類作成(論文、フロアー評価レポート等)を行う。適時に講義・VTR利用授業を行う。体験学習の意義に鑑み、農業体験：米作り・稲刈りを授業メニューに入れる。体験学習メニューに大学行事参加もあり得る。各授業のメニューや課題等はウェブサイトNet Commonsにても通知・相互通信する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉本科目は政治学科の選択必修専門演習の上級科目。 〈学びの意義と目標〉1. 上記テーマへの学習により人間社会の在り方を模索する。2. 受講生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 実社会でも有効な様々な能力・スキルを育成する。(AO機器を活用した様々な形態の発表・発言能力と技術の育成等。)			
評価方法 評価項目 プレゼン・レジュメ・司会・質疑/応答・討論・ディベート・レポート等50％、体験学習40％および授業態度10％。但し担当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。			
教科書 授業の中で指示する 篠原孝『農的循環社会の道』創森社			

卒業研究(古典文学②)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：渡辺 正人			
講義の目標及び概要 本演習では、春学期に引き続き各自のテーマを深めてゆくこととする。 春学期は研究史を学ぶことを重視したが、今学期はそれに加えて研究史を批判的に読めるような姿勢を目指したい。			
評価方法 出席40%、発表40%、質問等授業参加の姿勢など20%で評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(古典文学②)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：上野 麻美			
講義の目標及び概要 【内容】本講座では卒業研究Ⅰで、各自が取り組んだテーマをより、多角的な視点から研究し、研究発表を行うことを授業の中心とする。 【カリキュラム上の位置づけ】 本講座は卒業研究Ⅰで取り組んだ各自のテーマを発展させ、大学での学びの集大成である「卒業論文」を作成する、基礎研究に位置づけられる。 【学びの意義と目標】 本講座では、取り組む作品を精査し、自ら問題を発見し、自力で探求することを目標とする。			
評価方法 出席（参加態度）30%、研究発表（内容・レジュメ）50%、提出課題20%。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(子ども家庭論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：中谷 茂一			
講義の目標及び概要 目標：「専門演習Ⅰ・Ⅱ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポート・卒業論文作成を目標とする。 概要：自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。 卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。			
評価方法 (1) 卒業研究レポート内容 (2) ディスカッション参加状況 上記の総合評価による。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(子ども家庭論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：中谷 茂一			
講義の目標及び概要 目標：「卒業研究Ⅰ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポートを目標とする。 概要：自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。 テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。			
評価方法 (1) 卒業研究レポート内容 (2) ディスカッション参加状況 上記の総合評価による。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(コミュニティ政策)	春	週2回	2単位
担当者：大高 研道			
講義の目標及び概要 1. 内容 現代的課題克服主体としてのコミュニティ研究が中心テーマとなる。本演習では、「専門演習」での学びを通して醸成された各自の問題関心にもとづいて、文献購読や調査活動を実施する。その上で、卒業レポートのテーマを確定し、調査方法論および論文執筆の基本的技法について学ぶ。			
2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の必修科目である。専門知識の応用を学ぶと同時に、卒業研究レポートの作成に向けた理論検討および調査を実施する。			
3. 学びの意義と目標 最終的には、コミュニティにかかわる諸政策・行政・市民活動等の方向性について、各自の問題関心のある領域で一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。			
評価方法 ・ゼミへの参加状況（報告内容、討論時の積極性:70%）およびレポート(30%)。 ・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は大幅な減点の対象となる。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(算数Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：佐藤 逸子			
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 数学的背景を理解し、数学的に見通しをもって算数を指導し、子どもたちの考える力・態度を育成し、子どもたちの豊かな発想をいかに引き出すかが教員としての力量となる。 培ってきた算数力をさらに深めて、具現化を目指していく。			
評価方法 研究への態度及びレポートの内容を総合して評価する。毎回の出席が前提となる。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(算数Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：佐藤 逸子			
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 卒業研究(算数Ⅰ)をさらに発展させて、調査や文献検索を行い、各学生が理解を深めていきたい事柄、例えば個々の児童に望ましい算数教育指導方法や教材開発に関して研究を完成させることを目標とし、研究成果を互いに共有していく。			
評価方法 研究への態度・研究発表やレポートの内容を総合して評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(思想①)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：清水 正之			
講義の目標及び概要 各自が、卒業研究にむけて、テーマを設定できるよう、発表と討論を中心にすすめます。 またテーマに沿った参考資料の探し方、その扱い方を、学んでいきます。			
評価方法 出席状況、課題発表、期末レポートを総合的に評価する。課題発表へのとりくみを50%、出席30%、レポート20%とし、特に課題発表を重視する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(思想①)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：清水 正之			
講義の目標及び概要 1. 内容 思想をテーマに卒業研究をまとめる学生のための演習形式の授業です。各自の問題関心に沿った発表と討論を中心にすすめます。 2. カリキュラム上の位置づけ 卒業研究を仕上げるための準備的な位置づけの授業です。 3. 学びの意義と目標 卒業研究を仕上げ、自己表現を完全にちかづけるための目標設定、方法、態度、論理構成などを学びます。			
評価方法 出席(50%)と成果発表(50%)とによって総合的に評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(思想②)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：村松 晋			
講義の目標及び概要 参加者各自が、専門演習Ⅱ(思想②)で取り組んだテーマを発展させることを目的とする。対象領域も専門演習Ⅱのそれに準ずる。			
評価方法 発表と期末レポートが全てである。 全授業数の三分の一以上を欠席した者には発表資格を与えない。 多忙な時期であることは理解するが、無断欠席した場合には、極めて大きく減点する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(思想②)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：村松 晋			
講義の目標及び概要 最終学年の最後のゼミとして、名実ともに大学生活を総括する学びの場である。一人でも多くの人に、卒業論文を書いてほしいと希っている。			
評価方法 発表と期末レポートが全てである。 全授業数の三分の一以上を欠席した者には発表資格を与えない。 多忙な時期であることは理解するが、無断欠席した場合には、極めて大きく減点する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(思想③)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：柳田 洋夫			
講義の目標及び概要 〈内容〉 担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、〈日本人の心の歴史〉に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 専門演習での学びを踏まえつつ、それぞれのテーマのまとめに取りかかるための準備。 〈学びの意義と目標〉 テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神をより深く理解する。さらに、これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。			
評価方法 出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(思想③)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：柳田 洋夫				
講義の目標及び概要 (内容) 担当者の主たる研究対象は明治期以降の日本のキリスト教であるが、そもそもは日本人の生き方あり方をテキストに即して探求する「日本倫理思想史」の学びを志してきた。よって、〈日本人の心の歴史〉に関わることならば、時代・ジャンルを問わず、受講者の希望も鑑みて一緒に勉強していきたい。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 卒業研究Ⅰでの学びを踏まえつつ、それぞれのテーマの最終的なまとめに向けて準備する。 〈学びの意義と目標〉 テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通して日本の思想や精神をより深く理解する。さらに、これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。				
評価方法 出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究(児童英語教育)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：東 仁美				
講義の目標及び概要				
1. 内容 専門演習で勉強してきた英語教育の分野から、自分の関心のあ る分野を探し出し、その先行研究を始める。学期末課題としてそ れらをレポートにまとめ、研究課題を見つけ、文献研究を始める。				
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。				
3. 学びの意義と目標 演習を通して、各自の卒業研究テーマを決定し、卒業論文の内 容を明確にしていく。				
評価方法				
授業への出席、参加		20%		
プレゼンテーション		30%		
レポート		30%		
学期末課題		20%		
教科書				
プリントを配布する				

卒業研究(児童英語教育)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：東 仁美				
講義の目標及び概要				
1. 内容 原書講読をしながら、卒業論文のテーマ選び、研究方法の指導、論文作成にとりかかる。英語教育学の分野の中から、自分が興味を持てるテーマを選び、資料検索、データ集めを個別指導を交えながら行っていく。				
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。				
3. 学びの意義と目標 専門演習、卒業研究のまとめとして、自分のテーマを深めるとともに卒論執筆に向けての準備をする。				
評価方法				
授業への出席、参加	20%			
資料購読、レポート	20%			
プレゼンテーション	30%			
卒業研究レポート	30%			
教科書				
プリントを配布する				

卒業研究(児童学Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：田澤 薫				
講義の目標及び概要 1. 内容 専門演習(児童学Ⅱ)の学習内容と踏まえ、さらに受講者各々の問題意識に沿って子どもをめぐる様々な主題に取り組むことで、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。 2. 学びの意義と目標 子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。自分の問題関心を深める方法論を選んで子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しさを味わう。				
評価方法 出席した上での積極的な参加(発言) 20% 課題報告 30% レポート50%				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究(児童学Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：田澤 薫			
講義の目標及び概要 1. 内容 卒業研究(児童学Ⅰ)で取り組んだ受講生各々の卒業研究を発展させ、子どもを研究の対象と捉えた活動の成果を「卒業研究レポート」としてまとめ、発表する。 2. 学びの意義と目標 子どもを軸とした自らの関心に沿って、調べたり実践したりすることを通して考えることの具体的な方法を実践的に習得する。子ども研究の面白さ、奥深さ、難しさを体験的に学ぶ。自ら取り組んだ成果を大切に扱い、まとめ、人に伝える手法を実践しながら身につける。受講生同士の成果に関心をもって尊重しあい、学びあう経験をする。			
評価方法 出席した上で積極的な参加(発言)20% 課題報告30% レポート50%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(児童教育学Ⅰ)	春	秋	週1回	1単位
担当者：永井 理恵子				
講義の目標及び概要 専門演習で学習した基礎と、各自が考えた主題を更に煮詰め、各自の研究課題を決定して、その研究を進める。 前半は、学生の課題決定に役立つような話題提供を、教師側よりおこなう。課題提供においては現代のもののみならず、明治・大正期の話も織り込む予定である。それぞれの課題提供に応じて、その教育的意義や機能について分析していく。 後半は、各自の課題に沿って指導する。 研究課題は各自との相談によって決めるが、子どもを取り巻く様々な環境を主題にしていれば、各自の自由に選んでよい。 研究方法も課題に応じて異なるため、その週ごとに指示をする。 講義内容や順序など、状況に応じて変化する可能性もあるが、履修学生と相談して決定していく。				
評価方法 平素の学習態度。学習意欲。レジュメの内容。出席率。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究(児童教育学Ⅱ)	秋	週1回	1単位
担当者：永井 理恵子			
講義の目標及び概要 卒業研究Ⅰで進めてきた各自の基礎的学修をもとに、更にそれを深めて行く。先行研究の結果を学ぶだけでなく、各自なりの結論を述べられるようにする。特に卒業研究Ⅱでは、アンケートや調査、さらなる文献購読などを通してオリジナルな結果の確証を求め、最終的に1月末にゼミ報告を作成する。 学生は、課題内容によって偶数班と奇数班とに分かれ、隔週ごとに発表とコメンテーターを交替でおこなう。			
評価方法 平素の学習態度と意欲、研究の途中経過、およびゼミ終了期の報告書の成果などを総合して評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(児童福祉実践論Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：金谷 京子			
講義の目標及び概要 今までの演習で情報集した結果を論文にまとめていながら、実践研究の意義を学び、論文を発表しながら、研究の妥当性について検討していく。 研究成果の発表も課題となる。 カリキュラムの位置づけ：卒業必修科目である。			
評価方法 出席状況と論文の執筆内容を評価			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(児童福祉論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：池 弘子			
講義の目標及び概要 1. 内容 各自が選択したテーマについて、専門演習Ⅱで調べてきたことを検討し、テーマをしばって卒業研究レポートにまとめる方向づけをする。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰ、Ⅱが基礎となる。 3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを書く準備をする。			
評価方法 (1)出席状況 40% (2)演習への参加度 30% (3)レポート 30%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(児童福祉論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：池 弘子			
講義の目標及び概要 1. 内容 各自が選択したテーマについて、専門演習Ⅰ、Ⅱで学び、卒業研究Ⅰで準備してきたことに基づいて、卒業研究にまとめる。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰが基礎となる。 3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを執筆する。			
評価方法 (1)出席状況 20% (2)演習への参加度 20% (3)レポート 60%			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(児童文学Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：松本 祐子			
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉このゼミは、毎回のテーマに合った作品を各自が持ち寄り、ディスカッションを行う形で授業を進める。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習ⅠとⅡで身につけた国語力をさらに向上させ、卒業研究としてまとめる準備をするためのゼミである。 (3)〈学びの意義と目標〉様々な児童文学を通して、日本語の豊かな語彙・運用力を身につけ、教員を目指す社会人として、自分の考えを自分の言葉で発表できるようになることを目標とする。			
評価方法 毎回の発表40%、レポート40%、卒業研究レジュメ20%で評価する。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(児童文学Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：松本 祐子			
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめる。授業は、それぞれの論文作成の経過報告とディスカッションで進められる。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習ⅠとⅡ、卒業研究Ⅰで身につけた国語力を卒業研究レポートとして形にするためのゼミ。また、卒業論文作成の準備となるゼミ。 (3)〈学びの意義と目標〉教員を目指す社会人として、自分自身の考えを的確な表現力で文章化する力を身につけることを目標とする。			
評価方法 口頭発表30%、卒業研究レポート50%、平常点20%で評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(児童臨床心理学Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：山田 麻有美			
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉 専門演習(児童臨床心理学)で習得した心理学的ないし科学的なものの見方をもとに、受講生各自は、興味関心のある研究分野を絞り、掘り下げていく。具体的には、各受講生が興味関心のあるテーマを決定し、そのテーマに関する文献や情報の収集、或いは観察を行い、その内容をレポートする。この一連のレポートを相互に紹介し合い、討論を重ね、各自の研究計画を作成する。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉 児童学科専門科目で、専門演習Ⅱ(児童臨床心理学)を履修した者が受講する卒業必修科目である。 (3)〈学びの意義と目標〉 受講生は、専門演習Ⅰ及びⅡで習得した心理学的なものの見方を用いて、自らの研究テーマを決定し、研究計画を立てていくのであるが、その過程で、将来社会人として要請される、課題解決の手順や方法の基礎などを身につけることが期待される。			
評価方法 各自で選んだ研究テーマの文献や情報の収集などの状況(60%)と、討論への参加度(30%)、出席(10%)の合計により評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(児童臨床心理学Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：山田 麻有美			
講義の目標及び概要 (1)〈内容〉 受講生は、専門演習(児童臨床心理学)及び卒業研究Ⅰ(児童臨床心理学)において学習してきたことを集大成し、卒業論文作成の準備を行う。これまでに収集した文献や情報をもとに卒業研究Ⅰで立てた研究計画を再検討し、研究計画を実施していく。また受講生は、各自の研究の進捗状況を報告し、相互に意見を交換しあうことにより、各自の研究を更に深め、卒業論文の基礎となる自らの考え方や資料を整理し、まとめる。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉 児童学科専門科目で、卒業研究Ⅰ(児童臨床心理学)を履修した者が受講する卒業必修科目である。 (3)〈学びの意義と目標〉 大学4年間の学びの集大成としての卒業論文作成のための準備を行うことが目標である。この過程で、受講生相互の知見がより深まり、卒業後、社会人として要請される課題解決の手順や方法を身につけることが期待される。			
評価方法 具体的な研究計画の内容および研究の進捗状況(60%)と、討論への参加度(30%)、出席(15%)の合計により評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(社会科Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：深澤 悠紀雄			
講義の目標及び概要 地理的分野、歴史的分野、公民的分野など広く社会科教育に関係する事象の中から、自分の研究したい題材項目を1つ選び、調査研究し、卒業研究としてまとめる準備をする。 現地研修を取り入れて調査研究のあり方を考える。			
評価方法 参加状況と調査活動、レポートの内容などにより総合的に評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(社会科Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：深澤 悠紀雄			
講義の目標及び概要 卒業研究(社会1)の続きとして、調査研究を継続し、卒業研究(卒業論文)として仕上げることを目指す。 現地学習(1)(2)は、土曜か日曜に振り替えで実施予定です。 後半に、教員採用試験対策として、社会科全体について取り上げる予定です。			
評価方法 参加状況、調査研究の結果に基づいて総合的に評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(生涯学習Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：小池 茂子			
講義の目標及び概要 1 内容 各受講生が、研究テーマを設定して研究を深める。テーマ設定の方法、研究方法、研究成果のまとめ方を身につけることをねらいとしている。また、研究仲間とのかかわりあい研究を進めるには不可欠であることを確認する。 2 カリキュラム上の位置づけ 卒業研究の前期プロセスとして考えている。 3 学びの意義と目標 各自、研究テーマを追及する力を身につける。研究は決して独りよがり成り立つものではないことを互いに皆で確認して大切にしてゆきたい。			
評価方法 通常点で評価を行う。			
教科書 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会			

卒業研究(障害児心理Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：石川 由美子			
講義の目標及び概要 専門演習Ⅱ（障害児心理Ⅱ）を終了した方の受講となります。専門演習Ⅱで関心のあるテーマを見つけ出した方たちが、実際に研究デザインについて学び、自らのデザインを作成、発表、修正する過程を学んでいきます。これまでの専門演習の学びから実践での研究手法を学びたい方には、フィールドでのシングルケースデザインなどについて、実践を踏まえながらの学びを提供していきます。 なお、ゼミでは障害児支援に理解のある幼稚園・保育園での観察学習、大学の発達相談での個別援助などを通しての学びにも力を入れたいと考えています。			
評価方法 デザインの作成、発表、修正を評価の対象とします。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(障害児心理Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：石川 由美子			
講義の目標及び概要 障害児あるいは気になる子どもへの支援に関わるテーマで、各自が立てた研究デザインに基づき、具体的に実践を試みる。文献研究、調査研究、観察研究、個別支援研究など、各自の計画に基づいた助言を行なっていく。 データの整理、分析、結果、考察など、各自の研究デザインに沿って研究報告書の書き方を学ぶ。 なお、ゼミでは、障害児支援に理解のある幼稚園・保育園での観察学習や大学の発達相談などでの個別援助での学びにも力を入れたいと考えています。			
評価方法 個人作業が多くなります。そのつど積極的に取り組んでいるか、報告書の内容などを評価の対象とします。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(声楽Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：藤田 明			
講義の目標及び概要 1) 内容 専門演習で学んだことにも関する事柄と音楽によるより良い環境とは何かを研究し、それを踏まえながらこの演習では、学生自身が課題を見つけて研究する。 2) カリキュラム上の位置づけ 歌唱表現や詩の朗読、語りのために必要なテクニックを更に深めていく。 3) 学びの意義と目標 この演習では、学生一人一人が自ら選んだ課題を教師の助言を受けながら研究していくので、今まで学んだ表現方法の応用がいかに生かせるかが問われる。			
評価方法 試験・発表50% 積極性30% 出席20%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(声楽Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：藤田 明			
講義の目標及び概要 1) 内容 卒業研究(声楽Ⅰ)で行った内容を更に進め、学生一人一人がさらに高度な表現が出来るように進めていきたい。 2) カリキュラム上の位置づけ 卒業研究(声楽Ⅰ)で研究してきた音楽表現の集大成として学生自身が選んだ課題のまとめを行う。 3) 学びの意義と目標 今まで学んできた音楽表現を更に深め、学生自身が自信を持って小学校や幼稚園、保育所に行けるようになって欲しい。			
評価方法 試験・発表50% 積極性30% 出席20%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(政治過程論)	秋	週2回	2単位
担当者：高橋 愛子			
講義の目標及び概要 〈内容〉本来は春学期開講の「専門演習(政治過程論)」の延長線上に位置づけられた演習であるが、本年に限り、春学期の履修の演習とは関係なく、履修可能であるため、受講者と意見交換の上で進めてゆく。基本的に、学期の前半は共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の研究課題についての進捗状況を報告、議論する。報告と議論を重ねて次年度に取り組む「卒業論文」の土台・骨格の形成を図る。学期末に「小論文」の提出が求められる。 〈カリキュラム上の位置づけ〉3年次秋学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。 〈学びの意義と目標〉基本的なテキストの読解力を得ること(要点を把握し、レジュメを作成し、プレゼンする)、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、独自の研究テーマへの理解を深めること。			
評価方法 第1に「出席」(20%)、第2に授業への「コミットメント」(発言頻度：毎回1回以上の発言を求める)(30%)、第3に学期終了時に提出する「小論文」(50%)。以上3点を総合して評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(政治経済学)	春	週2回	2単位
担当者：土方 透/田中 圭			
講義の目標及び概要 本科目は、政治経済学科で春学期に開講される唯一の「再履修用」ゼミである。履修は、原則として、9月卒業を目指す107P以上の学生に限られる。政治経済学科の専門演習を履修済みのこと(ただし科目は問わない)。 本卒業研究で扱う具体的なテーマは、受講生との相談の上で決定する。受講生には一定の読書課題や調査課題が与えられる。専門書の講読、報告、討議という一連の作業を経て、既存の社会システムを相対的・批判的に再検討するきっかけを提供することを目的とする。			
評価方法 ゼミへの参加度、課題への取り組み、研究発表の内容を総合的に評価する			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(精神保健福祉論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：相川 章子			
講義の目標及び概要 1. 内容 専門演習Ⅱで深めた学びをもとに、各受講者の関心あるテーマにおいて、研究レポートおよび研究活動それぞれ選択したことについてまとめる。 2. カリキュラム上の位置づけ 自らの感心ごとを具体化させ、まとめる応用的な位置づけである。 3. 学びの意義と目標 自分自身の関心のあるテーマに真剣に取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスの中で、豊かな発想力、想像力、調査力、実行力、実践力を身につけ、知識を獲得し、自らの視点を身につける。 ＊卒業研究レポートを選択した学生は、研究レポートの提出をする。 卒業研究活動の実践を選択した学生は、卒業研究活動の実践とその振り返りレポートを提出する。 ＊暫時、個別指導を行う。			
評価方法 (1)出席状況(30%) (2)ディスカッション等への参加や発表(30%) (3)レポート(40%)			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(精神保健福祉論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：相川 章子			
講義の目標及び概要 1. 内容 卒業研究Ⅰでしぼりこんだ各受講者の研究テーマについて、研究レポートおよび研究活動のそれぞれ選択した内容について主体的に調べ、作業をすすめ、まとめ、発表をする。 2. カリキュラム上の位置づけ 卒業研究の総仕上げ。 3. 学びの意義と目標 自分自身の関心のあるテーマに真剣に取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスの中で、論理的な考え方や思考の組み立てについて学ぶ。これまでに培った想像力や調査力、実行力に磨きをかけ、それらを整理し、表現することを学ぶ。 ＊卒業研究レポートを選択した学生は、研究レポートの提出をする。 卒業研究活動の実践を選択した学生は、卒業研究活動の実践とその振り返りレポートを 提出する。 ＊暫時、個別指導を行う。			
評価方法 (1)出席状況 (30%) (2)ディスカッション等への参加や発表 (30%) (3)レポート (40%)			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(造形教育論Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：喜田 敬			
講義の目標及び概要 1) 内容 卒業制作と卒業研究レポート執筆に向けた個人制作、個人研究を進める。「卒業研究Ⅱ」において作品制作を行う場合には、図画工作が児童教育の現場においてどのような意味を持ち得るか、教育的な効果等を踏まえ説明できるようにする。卒業研究レポートの執筆を考えている場合は、児童教育における図画工作の役割や可能性について、諸資料を収集、検討する。いずれの場合においても、本「卒業研究Ⅰ」において個人の制作準備調査、資料収集の経過報告を個人発表のかたちで行う。 2) カリキュラム上の位置づけ 児童学科3年生の必修科目である。 3) 学びの意義と目標 卒業研究レポート執筆ないしは卒業制作に向けた資料収集、調査（試作品制作等を含む）を進め、「卒業研究Ⅱ」の準備を行うことを目標とする。			
評価方法 出席状況・個人発表40% 研究経過報告レポート60%			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(造形教育論Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：喜田 敬			
講義の目標及び概要 1) 内容 本授業では、卒業制作と卒業研究レポートのうちの一つを選んで完成させる。定期的に研究、制作の経過報告を行う。また、制作を選択した受講者は、作品の教育的効果等に関する説明文書を作品に添付することが期待される。 2) カリキュラム上の位置づけ 児童学科4年生の必修科目である。 3) 学びの意義と目標 卒業研究ないしは卒業制作の完成させることで、独自の視点から児童教育に造形教育が果たす役割について考えることを目標としている。			
評価方法 出席状況 20% 個人発表 20% 卒業制作作品ないしは卒業研究レポート 60%			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(ソーシャルワーク論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：助川 征雄			
講義の目標及び概要 1 卒業研究テーマの設定指導（個別、集団） 2 卒業研究の個別指導			
評価方法 論文（レポート）の成果、平常点などで評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(ソーシャルワーク論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：助川 征雄			
講義の目標及び概要 専門演習Ⅱ、卒業研究Ⅰを踏まえ、個別研究テーマにそった個別指導をさらに進化させる。また全体報告会なども行う。さらに、外部研究会への参加なども盛り込む。			
評価方法 研究成果を論文（レポート）にまとめて提出させる。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(地域圏研究ロシア)	秋	週2回	2単位
担当者：飯島 康夫			
講義の目標及び概要 1. 概要 476年、西ローマ帝国が滅んだ後、ローマ教会は800年頃から、東の教会から離れ始める。この結果、1054年、東と西の教会は分裂。さて、東ローマ帝国は1453年まで存続。ローマ・カトリック教会を柱とする西欧とギリシア正教会を擁するロシアという対立図式が出来上がる。ルネサンス以降、西欧は目覚しく発展し、やがてロシアは西欧に習い、近代化を進めようとするが、その一方で、もう一つのキリスト教をいただく国としての自負、西欧に劣るはずがないという自信も保ち続ける。西欧より後れているという意識と西欧に優るという意識——これら矛盾した二つの意識がロシア思想史の全体を貫いている。これらを紹介すること。 2. 目標 ドストエフスキーを通じて隣国ロシアの宗教・文化・思想に深く解れて理解すること。 3. 期待する理解度 原典ドストエフスキーを日本語で輪読し、ロシアの文化・宗教・習慣について、卒業研究論文の基礎となる論文を提出、加筆、修正の後、一定の推準の理解に深めること。			
評価方法 出席率(50%)と卒業研究論文の完成度(50%)による。			
教科書 授業の中で指示する ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟上、中、下巻』新潮文庫			

卒業研究(地域福祉論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：牛津 信忠			
講義の目標及び概要 〈内容〉専門演習Ⅱでテーマ設定して書き上げたレポートをもとに、それをさらに掘り下げて、専門的な研究領域を持つことを示す卒業レポートを作成して行くための準備を行う。 〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習で研究した内容をさらに質量ともに高度化させて、自分の見解をまとめて行く。 〈学びの意義と目標〉専門演習で研究した地域福祉の課題を体系的に学び進め、章立て、節立てを明確にし、それぞれについて個別指導を受けながら全体のレポート構成を固めていく。そのプロセスで他の受講者からの批判検討を自ら咀嚼して行く努力をし、それによる自己研鑽を図る。			
評価方法 テーマに即した発表とその発表時における質疑応答、さらに学期末最終レポートによって評価する。授業の折の発表及び質疑応答を30%、最終レポートを70%として総合評価を行う。			
教科書 牛津信忠他編著『地域福祉支援論』久美出版 牛津信忠著『社会福祉における相互的人格主義Ⅱ』久美出版			

卒業研究(地域福祉論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：牛津 信忠			
講義の目標及び概要 〈内容〉卒業研究Ⅰで各自が設定したテーマの内容をさらに深く掘り下げて、地域福祉の独自の専門的な研究領域を持つことを目指し、それについての卒業レポートを作成して行く。 〈カリキュラム上の位置づけ〉卒研Ⅰで研究した内容をさらに質量ともに高度化させて、卒業にあたり、独自の（地域福祉）研究を卒業レポートにまとめる。この成果をもって卒業研究とする。 〈学びの意義と目標〉地域福祉の課題を体系的に学び進め、個別指導を受けながらテーマに応じたレポート構成を固め、当該課題の解明と論理的な纏めを行う。また研究が一応纏まった段階で、各自にそのつど発表を求める。このなかで他のメンバーとの討論を経て、内容のさらなる充実をはかる。それにより相互の意見交換の中で創造的な行為が出来る人材を養うことをも目的とする。成果は、研究室に保存し、後輩の閲覧に供する。			
評価方法 テーマに即した発表とその発表時における質疑応答、さらに学期末最終レポートによって評価する。授業の折の発表及び質疑応答を30%、最終レポートを70%として総合評価を行う。			
教科書 牛津信忠他編著『地域福祉支援論』久美出版 牛津信忠著『社会福祉における相互的人格主義』久美出版			

卒業研究(日本教育史Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：石津 靖大			
講義の目標及び概要 1. 内容 本年度の演習は、履修生全員が小学校での教育実習を実施するので、それと有機的に関連する内容に取り組む。これまでに取り組んできた演習と諸々の専門学習を点検し、共同研究を重ねながら各々の実習課題を把握する。平行して必要な資料や教材を準備し、課題へ向っての対策を実践的に立てる。実習終了後は従来の専門演習の研究を継続してゆく。したがってその主たる内容は、小学校教員採用試験における教職教養と専門教養の傾向対策の研究となる。 2. カリキュラム上の位置づけ 教育実習ならびに教職研究との関連に留意するところの学科の専門科目としての演習である。 3. 学びの意義と目標 主たる目標は、小学校教諭に成るための基礎的な知識の傾向と対策を研究して、教師としての肝どころをより明確に把握することにある。			
評価方法 平常点（出席、発表ならびに討議、態度に基づき総合的に判断）にて評価する。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(日本教育史Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：石津 靖大			
講義の目標及び概要 1. 内容 本年度の演習は、これまでに取り組んできた演習と諸々の専門学習を点検し、共同研究を重ねながら各々の実習課題を把握する。平行して必要な資料や教材を準備し、課題へ向っての対策を実践的に立てる。実習終了後は従来の専門演習の研究を継続してゆく。したがってその主たる内容は、小学校教員採用試験における教職教養と専門教養の傾向対策の研究となる。 2. カリキュラム上の位置づけ 教育実習ならびに教職研究との関連に留意するところの学科の専門科目としての演習である。 3. 学びの意義と目標 主たる目標は、小学校教諭に成るための基礎的な知識の傾向と対策を研究して、教師としての肝どころをより			
評価方法 平常点（出席、発表ならびに討議、態度に基づき総合的に判断）にて評価する。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(日本政治思想史)	秋	週2回	2単位
担当者：吉田 博司			
講義の目標及び概要 1. 内容 近代日本の政治家及び思想家の研究指導をします。学生のテーマ設定、報告、討論の時間です。 2. カリキュラム上の位置 卒業研究は学生の主体的な勉強の深化を目指す専門科目です。 3. 学びの意義と目標 歴史に興味をもち、人間への深い洞察を養って下さい。			
評価方法 論文報告と討論評価による。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(日本文化)Ⅱ	秋	週1回	1単位
担当者：川崎 司			
講義の目標及び概要 1. 内容 それぞれの関心をもって続けてきた研究の成果を、自身の紙碑として遺してほしい。 2. カリキュラム上の位置づけ 3月卒業のためには、絶対落とせない1単位。納得のいく学習態度を切に望む。 3. 学びの意義と目標 これからの人生が実りの多いものとなるよう、誇りをもって最善を尽くしてもらいたい。			
評価方法 発表の内容と出席状況を重視する。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(人間関係論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：小山 義徳			
講義の目標及び概要 【内容】 本演習では、卒業研究において、自分が検討したいトピックを絞り込む。また、それまでの先行研究において何が行われておらず、自分の研究はそこに何を新たに提案できるのかについて、プレゼンテーションを行う。さらに、予備的に調査・実験を行い、本格的に研究を行う前の準備を行う。 【カリキュラム上の位置づけ】 人間福祉学科専門科目の2年間のゼミの後半部分に位置づけられます。 【学びの意義と目標】 自分の中の疑問を明確化し、その疑問について取り組み、その結果明らかになったことを他者に伝えることを学ぶ。他者と議論をすることで自分の考えが広まることや、他者と協働して学ぶことで理解が深まることを学ぶ。			
評価方法 出席を重視します。またプレゼンテーション、ゼミの中で行われる討論への参加度が成績に大きく影響します。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(人間関係論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：牟田 隆郎			
講義の目標及び概要 1 内容 本演習では「卒業研究」作成提出に取り組む。 各自興味あるテーマを選択し、集団討議のかたちで、方法をお互いに練り上げ、結果をお互いに検討し、考察を導く。 テーマは「人間関係」に関することであれば、原則なんでも構わない。 大学生としてこの際究明したいこと、証明したいこと、まとめたことなどに取り組むことになる。 2 カリキュラム上の位置付け これまでの演習の総仕上げの意味を持ち、研究者としての基本的態度を獲得する。 3 学びの意義と目標 自らが興味を抱いたテーマの解明に努めるとともに、他者との共同作業的側面も合わせて経験し、社会人となるうえでの基本的人間関係能力をも獲得する。			
評価方法 平常点			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(比較憲法)	秋	週2回	2単位
担当者：松村 芳明			
講義の目標及び概要 春期の専門演習（比較憲法＝石川裕一郎先生）を踏まえ、受講者それぞれが各自のテーマを設定し、調査・研究・発表・討論を重ねつつ、さらに完成度の高い論文に仕上げることを目標とします。			
評価方法 論文報告・作成に加え、毎回の授業における討論への参加状況等を中心とした授業への貢献度を総合的に勘案して評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(比較政治学)	秋	週2回	2単位
担当者：松尾 秀哉			
講義の目標及び概要 内容 本演習では、1) 共通テーマによる協同の事例研究を通して研究の具体的手法を学んだ後、2) 受講者個々のテーマを設定し、その報告と参加者の議論、指導を行なう。共通テーマは受講者と相談するが、「新しい社会運動」「政党システムの変容」などを考えている。 カリキュラム上の位置づけ 専門演習の履修を前提に、履修者の研究を指導する。白紙の段階から研究計画を立て、調査を進め報告することを通じて、社会科学的発想を身につける。 学びの意義と目標 先行研究の批判、さらに他者との討論を通じて、批判的思考力を高める。また、資料収集とその整理を通じて、客観的な分析力を身につける。			
評価方法 出席と討論への参加（50％）、必要な回数の報告（50％）を必須とする。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(比較文化①)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：渡辺 正人				
講義の目標及び概要 (内容) アジアという地域は、昔から文化の流通・交流が盛んであった。その状況を、古代・現代などに限らず、広く探ってゆくことを目指したい。たとえば漢字はアジアの共有言語であったし、仏教などの宗教もアニミズムもそうである。また、現代ではアニメやマンガなど交流する文化も目立つ。本ゼミでは考古学・民俗学・文化学などさまざまな手法で迫ってみたい (カリキュラム上の位置づけ) 専門のテーマを掘り下げ、理解を深める。 (学びの意義と目標) (1)文化への深い理解をすすめる。 (2)論文を読み込む力をつける。 (3)方法論にそって、自分の考えを深める。 の3項目は研究する態度の基本である。				
評価方法 評価は(1)発表(資料・レジュメ作成を含)40%、(2)最終レポート(オンライン提出)40%、(3)出席20%によって算出する。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究(比較文化①)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：渡辺 正人				
講義の目標及び概要 (内容) アジアという地域は、昔から文化の流通・交流が盛んであった。その状況を、古代・現代などに限らず、広く探ってゆくことを目指したい。たとえば漢字はアジアの共有言語であったし、仏教などの宗教もアニミズムもそうである。また、現代ではアニメやマンガなど交流する文化も目立つ。本ゼミでは考古学・民俗学・文化学などさまざまな手法で迫ってみたい。 (カリキュラム上の位置づけ) 専門のテーマを掘り下げ、理解を深め、自分の見解を示したい。 (学びの意義と目標) (1)文化への深い理解をすすめる。 (2)論文を批判的に読み込む力をつける。 (3)方法論にそって、自分の考えを深め、まとめる。 の3項目は研究する態度である。できれば卒業論文執筆を志して欲しい。				
評価方法 評価は(1)発表(資料・レジュメ作成を含)40%、(2)最終レポート(オンライン提出)40%、(3)出席20%によって算出する。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究(比較文化②)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：濱田 寛				
講義の目標及び概要 (内容) 日本と中国に関わる「比較文化」「比較文学」を対象とした演習である。また、広く「東アジア」における文化現象の考察も対象とする。上記の条件において、受講生の自由なテーマによる調査・研究発表を行う。演習発表後には成果としてのレポート報告を行う。 (カリキュラム上の位置づけ) 本演習での学習を通して、テーマ設定・問題提起・問題解決の具体的な方法を習得し、将来の「卒業論文」執筆に向けての準備のための演習科目である。 (学びの意義と目標) 必要な情報をどのようにして習得すべきか。またその情報をいかに活かすか。そしてそれをいかに提示すべきか。研究発表に不可欠な事項を、各自のテーマを考察する過程を通して学ぶ。				
評価方法 出席点:20% 演習発表:50% レポート:30%				
教科書 プリントを配布する				

卒業研究(比較文化②)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：濱田 寛				
講義の目標及び概要 卒業論文執筆に向けた実践的な指導を行う。授業の形態は「演習発表(個人発表)」が中心となる。問題の所在、調査の方法、結論に到る考察の在り方、等々について詳細な検討を行うため、発表担当者には十全な準備を求めることになる。90分の授業運営については、60分程度の発表、30分程度の質疑応答で構成する。30分に満たない、あるいは準備不足の発表については再度の発表を設定することになろう。各自2回の発表担当を目指したい。				
評価方法 演習発表…20% 演習参加度…40% 学期末レポート…40%				
教科書 プリントを配布する				

卒業研究(比較文化)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：稲田 敦子			
講義の目標及び概要 【1. 内容】 比較文化の専門演習をふまえて、それぞれに異なった文化による相違の問題を、目に見える表層的なものだけではなく、その背景にある目に見えない深層の部分にも踏み込んで考えながら、視野を広げ、柔軟に考えていく姿勢を育成する。 エドワード・ホールのテキストを中心に、授業計画に示した主題をめぐる文献を読み、テーマ発表を行い、ゼミ・レポート集作成にむけて準備を進めて生きたい。 【2. カリキュラム上の位置づけ】 欧米文化学科の演習科目の選択必修科目である。 【3. 学びの意義と目標】 本卒業研究の目標は、本学科での演習の集大成として、専門演習で学んだ資料および自分の主題テーマをふまえて、異なった文化への深い理解と異文化への橋わたしをする姿勢を養成することである。			
評価方法 1) 資料講読 (25%) 2) テーマ別発表 (25%) 3) ゼミレポート (25%) 4) 参加度 (25%) これらを総合計100点として算出する。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(比較文化)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：稲田 敦子			
講義の目標及び概要 【1. 内容】 比較文化論を問題関心の領域とし、「専門演習」および「卒業研究Ⅰ」でとりあげた文献を終身にして、論文の主題を決定し、章立ての内容をつめる。 これまでの演習の集大成として、ゼミ論文集を作成するため、各履修者の主題に関しての個別指導、中間発表、草稿の執筆を経て、論文を完成する研究態度が身につくようにしたい。 【2. カリキュラム上の位置づけ】 欧米文化学科の演習科目の選択必修科目である。 【3. 学びの意義と目標】 比較文化の専門演習および卒業研究の集大成として、各自の問題意識の醸成を促進するとともに、論文を作成する基本作業としての資料検索および草稿段階の論理構成を学び、論文を完成させることを目標とする。			
評価方法 (1)資料講読 (25%) (2)テーマ別発表 (25%) (3)ゼミレポート (25%) (4)参加度 (25%) を総合して算出する。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(福祉環境論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：野口 祐子			
講義の目標及び概要 1. 内容 障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。レポート作成、発表、ディスカッションを繰り返し、研究の進め方についての理解をいっそう深めながら、各自の研究を充実させ、卒業研究レポートや卒業論文に向けた基礎固めを行います。 2. カリキュラム上の位置づけ これまで専門演習で学んできたことを基礎として、個人で自立して研究を行い、4年生の卒業研究Ⅱや卒業論文まで継続します。 3. 学びの意義と目標 研究の中身を充実させ、着実に研究を進めていきます。そして、学生同士で主体的にディスカッションを行い、自分の言葉で成果をまとめていくことを目標にします。			
評価方法 出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(福祉環境論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：野口 祐子			
講義の目標及び概要 1. 内容 障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。卒業研究Ⅰに引き続き、レポート作成、発表、ディスカッションを繰り返し、研究の進め方についての理解をいっそう深めながら、各自の研究を充実させ、卒業研究レポートの完成または卒業論文の基礎固めを行います。 また、各自の研究とは別に、数回グループ研究を行い、学生主体でディスカッションや見学会などの企画を行います。 2. カリキュラム上の位置づけ 卒業研究Ⅰで取り組んだ研究をより充実させ、卒業研究、卒業論文としてまとめます。 3. 学びの意義と目標 これまで学んできたことを基礎として、スパイラルアップしながら、いっそう研究を充実させて行きます。そして、研究の意義や面白さ、充実感を体験していただきたいと思います。			
評価方法 出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(福祉倫理)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：左近 豊			
講義の目標及び概要 福祉倫理に関するテーマを各自が探求し、卒業論文、卒業研究の作成のために研究発表、討論をおこなう。			
評価方法 研究レポート 100%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(福祉倫理)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：左近 豊			
講義の目標及び概要 福祉倫理に関するテーマを各自で探求し、卒業論文、卒業研究の作成のために発表と討論を行う。			
評価方法 研究レポート100%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(フランス文学)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：鹿瀬 颯枝			
講義の目標及び概要 この授業は、講義科目ではなく専門演習後の総仕上げとなる卒業研究ですから、引き続き、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思っています。 既に「専門演習(フランス文学)」の終了前に各人の卒業研究テーマが提出されているので、変更のない限り、それに沿って指導していきます。それぞれが関心を持ったテーマについて十分に研究が成されるよう、参考文献などの紹介、レポート添削、中間発表などを充実させていきます。全員が満足のいくような研究レポートを仕上げられるように願っています。			
評価方法 授業への積極的な参加度50%、研究発表+研究レポート50%			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(フランス文学)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：鹿瀬 颯枝			
講義の目標及び概要 この授業は、講義科目ではなく専門演習後の総仕上げとなる卒業研究ですから、引き続き、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思っています。 既に「専門演習(フランス文学)」の終了前に各人の卒業研究テーマが提出されているので、変更のない限り、それに沿って指導していきます。それぞれが関心を持ったテーマについて十分に研究が成されるよう、参考文献などの紹介、レポート添削、中間発表などを充実させていきます。全員が満足のいくような研究レポートを仕上げられるように願っています。			
評価方法 授業への積極的な参加度50%、研究発表+研究レポート50%			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(保育実践論Ⅰ)	秋	週1回	1単位
担当者：相川 徳孝			
講義の目標及び概要 1. 目的 「卒業研究」は「専門演習（保育実践論Ⅰ、Ⅱ）」の延長線上にあり、いままで学んできたことを基に各自が研究テーマを決め、集大成することを目指すものである。そのために演習を通して提出されたレポートをそれぞれが個別に検討するとともに、全員での討論材料として提供し、互いに討論し合いながら授業を進めていく。			
2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科必修科目である。			
3. 学びの意義と目標 各自の子どもや保育に対する興味から自己課題、研究方法について見出すことを目標とする。			
評価方法 演習への参加（30％）とレポート（70％）			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(保育実践論Ⅱ)	春	週1回	1単位
担当者：相川 徳孝			
講義の目標及び概要 1. 目的 いままで行ってきたことを基に各自が研究テーマを決め、集大成することを目指すものである。そのために演習を通して提出されたレポートをそれぞれが個別に検討するとともに、全員での討論材料として提供し、互いに討論し合いながら授業を進めていく。			
2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科必修の課目である。			
3. 学びの意義と目標 多角的な角度から子どもを見つめ、保育者として必要な実践力を養うことを目標とする。			
評価方法 レポート課題提出（80％）と討論への取り組み（20％）			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(法思想史)	秋	週2回	2単位
担当者：加藤 恵司			
講義の目標及び概要 各自与えられたテーマに従って、進級論文を作成し、提出する。卒業論に向けて訓練し、指導する。			
評価方法 専門演習履習と同じ。			
教科書 授業の中で指示する 加藤恵司『法・思想・歴史』ジーオー企画出版			

卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：和田 光司			
講義の目標及び概要 (内容) 本講義では、専門演習で養成したプレゼンテーション能力を基礎として、これの実践的発展を志す。従来と同様細かい評価表により学生相互に批評を行う。また実社会での基礎スキルと見なされているパワーポイントの習得に努める。テーマとしては、各学生が欧米文化の中から自らの関心に合うものを自由に選択し、各自の知的関心を高める。 (カリキュラム上の位置) 自由研究の入門 (学びの意義と目標) パワーポイント技術の習得、歴史研究方法の理解。			
評価方法 出席・授業参加への積極性（50％）、発表内容（50％）			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：和田 光司				
講義の目標及び概要 (内容) 本講義では、卒業研究Ⅰに続いてプレゼンテーション能力の一層の実践的發展を志す。従来と同様細かい評価表により学生相互に批評を行う。また実社会での基礎スキルと見なされているパワーポイントの習得に努める。テーマとしては、各学生が欧米文化の中から自らの関心に合うものを自由に選択し、各自の知的関心を高める。状況が許せば記念論集を製作する。 (カリキュラム上の位置) 卒業研究Ⅰの発展 (学びの意義と目標) パワーポイント技術の向上、自由研究による知的関心の育成。				
評価方法 自分の発表の準備を行う。構想を立て、資料を集め、読解し、分析し、パワーポイントを準備する。発表前にはリハーサルを行う。日ごろからコンピューターに親しみ、スキルアップを目指す。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究(ヨーロッパ思想)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：原 一子				
講義の目標及び概要 (1) 〈内容〉 「専門演習」で学んだ思想家の生涯や思想を手掛かりに、各自が自分のテーマを見つけ、それを一層掘り下げ、論文に纏められるように訓練する。まずは、1時間に2人ずつの学生が発表を担当し、ゼミ仲間や教員から受けた質問やコメントをもとに、次の発表に向けてより完成度の高い原稿を準備する。これを繰り返しながら卒業論文を完成させる。併せて、文献検索の仕方、引用・脚注のつけ方なども学ぶ。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 「卒業研究」は「専門演習」に引き続き、欧米文化学科の学生全員を選択必修科目である。 (3) 〈学びの意義と目標〉 自分で見つけたテーマについて、思索し、読書し、討論して、卒業論文に纏め上げることは、学力の向上のためには勿論、自己の精神を鍛える上でも極めて実り多い作業である。この精神的充実は一生涯の宝となるはずである。卒業論文の完成を目標とする。				
評価方法 発表内容(30%)・レポート(20%)・討論への参加度(20%)・出席率(30%)などから総合的に評価する。演習の性格からして欠席は許されない。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究(ヨーロッパ思想)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：原 一子				
講義の目標及び概要 (1) 〈内容〉 「卒業研究Ⅰ」に引き続き、各自が自己のテーマを掘り下げ、論文に纏められるように訓練する。1時間に1人の学生が発表を担当し、ゼミ仲間や教員から受けた質問やコメントをもとに、次の発表に向けてより完成度の高い原稿を準備する。これを繰り返しながら論文を完成させる。併せて、文献検索の仕方、引用・脚注のつけ方、プレゼンテーションの仕方なども学ぶ。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 「卒業研究」は「専門演習」に引き続き、欧米文化学科の学生全員を選択必修科目である。 (3) 〈学びの意義と目標〉 自分で見つけたテーマについて、思索し、読書し、討論して、卒業論文に纏め上げることは、学力の向上のためには勿論、自己の精神を鍛える上でも極めて実り多い作業である。この精神的充実は一生涯の宝となるはずである。卒業論文の完成を目標とする。				
評価方法 発表内容(30%)・レポート(20%)・討論への参加度(20%)・出席率(30%)などから総合的に評価する。演習の性格からして欠席は許されない。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究(理科Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：中村 啓男				
講義の目標及び概要 (1) 内容 各自、テーマを設定して、実験・観察・見学および文献調査を行い、その成果をレポートにまとめるとともに、発表・討論を行って発展させる。テーマの設定にあたっては小学校学習指導要領や小学校教科書を参考にし、問題練習も継続したい。 (2) カリキュラム上の位置づけ 小学校教職課程履修者の教科ゼミ「理科」であるとともに、学科の卒業研究でもある。 (3) 学びの意義と目標 卒業研究Ⅱでは、得意分野を、関連分野も含めて、さらに深めることを目標としたい。得意分野を持つことは、将来、教職に就いた場合の自信にもなる。卒業研究をレポートにまとめられればよいと思う。				
評価方法 出席状況・受講態度50%、レポートおよびプレゼンテーション50%				
教科書 プリントを配布する				

卒業研究(理論社会学)		秋	週2回	2単位
担当者：土方 透				
講義の目標及び概要 専門演習（理論社会学）の成果をふまえ、卒論の完成へ向けて指導を行う。				
評価方法 日々の準備、毎回の参加内容。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究(歴史①) I		春	秋	週1回	1単位
担当者：東島 誠					
講義の目標及び概要 ◆講義内容◆ 各自が関心のあるテーマの先行研究論文を、複数読み比べることが、一つの基本文献に取り組んできた「専門演習」と、最も異なる点である。複数の論者の〈差異〉を追究することで、必ずや第三の新しい論が立ち現れてくるであろう。それが卒業論文への第一歩である。まだ自分のなかで問題が明確になってない場合でも、ともに図書館を渉猟することによって、ぜひとも自分の取り組むべきテーマを発見してほしい。 ◆カリキュラム上の位置と目標◆ 専門演習Ⅱで、実際に「史料」をもとに歴史を考える端緒に付いたわけだが、つづく卒業研究Ⅰでは、これまでの歴史家がどのように「史料」から歴史を考えてきたか、数多くの論文に触れてほしい。 ◆学びの意義◆ 取り組むべきテーマを発見したとき、先人たちはその問題をどのように考えようとしたのか、に学んでほしい。そして、その作業を追体験することを通じて、よりよい問題解決の方法を自ら模索してほしい。					
評価方法 出席、発表、議論への参加（以上50）、および学期末レポート（50）による。					
教科書 授業の中で指示する					

卒業研究(歴史①)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：東島 誠				
講義の目標及び概要 ◆講義内容◆ 各自の関心に基づく自由発表の指導を通じて、卒業論文を完成させるために必要な調査力・分析力の鍛錬を行なう。議論に参加すること、議論を組み立てていくことの、難しさと楽しさを味わってほしい。 ◆カリキュラム上の位置と目標◆ 4年生はいよいよ卒業論文を書き上げる年次であるが、春学期の段階では、まだテーマを絞り過ぎないほうがよい。幅広い研究文献や史料に触れる豊かな時間としてほしい。 ◆学びの意義◆ 自分の研究を論文にまとめるという作業は、自分の中だけで完結する営みでは決してない。研究論文は、それを読む人があってはじめて研究論文たりうるといってよい。つまり論文とは、パブリックなものなのである。卒業研究Ⅱの演習の場は、自分の主張が、自分とは異なる価値観を持つ他の参加者に届くかどうかを試す、絶好のチャンスである。同じ趣味や関心を持つものにしか通じない、〈隠語〉の世界に閉じこもってはいならない。そのような意味で、この訓練は卒業後、社会に出ても役立ててほしい。				
評価方法 出席、発表、議論への参加（以上50）、および学期末レポート（50）による。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究(歴史②)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：川崎 司				
講義の目標及び概要 1. 内容 「専門演習」で身につけた実力を発揮する時がいよいよ来た。たとえテーマを決めかねていても、迷いの歳月は決してむだにはならない。一生懸命求めれば、必ず自分の道が見えてくる。 2. カリキュラム上の位置づけ 「卒業論文」の作成が当面の目標となる。就職など諸活動との調和を計りたい。 3. 学びの意義と目標 「卒業論文」には相当の時間と集中力とを要する。一時も早いスタートを望む。				
評価方法 発表の内容と出席状況を重視する。				
教科書 プリントを配布する				

卒業研究(歴史②)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：川崎 司			
講義の目標及び概要 1. 内容 大学における学びの総仕上げとして、できれば全員が「卒業論文」に挑んでもらいたい。就職活動とは決して行き違うことはない。〈社会〉もあなたが「大学」という恵まれた天地で何を学んできたのか注目している。 2. カリキュラム上の位置づけ 「卒論論文」の作成とは、自分を徹底して見つめる作業だ。その切実な体験があるかどうか。あなたは人生の分岐点にさしかかっている。今こそ未知の世界へと進み出ようではないか。			
評価方法 発表内容と出席状況を重視する。			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究(レクリエーション論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：梅津 迪子			
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 (内容) 「専門演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容を踏まえ、卒業研究テーマを絞る。先行研究、文献、資料の収集を順次行い、順番に発表する。意見交換を行う。同時にレクリエーションの本質=自分の「生き方(ものの見方、価値観、優先順位)」を学習する。 (カリキュラム上の位置づけ) 具体的なレク活動の見学や合宿体験から、人とのコミュニケーションや接遇方法を身につける。同時にその成果を報告書にまとめる。 (学びの意義と目標) さまざまな体験や実践を通して、個々の「生き方」や「価値観」を検討し、自由時間のあり方に反映させる。紹介する文化的なものにふれて欲しい。			
評価方法 出席率の重視 50点 授業に臨む態度・意欲・行動力 20点 発表・意見交換・研究課題提出 30点			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究(レクリエーション論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：梅津 迪子			
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 (内容) 「卒業研究Ⅰ」で蓄積した研究を論文として完成できるようにする。これまで発表した研究範囲を絞り、さらに深く掘り下げる。一方、豊かな生活文化を享受するために制作活動も体験する。 (カリキュラム上の位置づけ) 論文作成ばかりでなく、自己のQOLを追求すること、豊かな感性と他者への配慮、幅広い教養やコミュニケーション力を体験活動(経験)を通して身につける。 (学びの意義と目標) さまざまな体験を通して、自分の生き方の方向を定め「何に価値をもつか」を考える。また、豊かな人間性と生活の質を高める能力を身につける。			
評価方法 出席率の重視 50点 授業に臨む態度・意欲・行動力 20点 発表・意見交換・課題提出 30点 総合で評価する			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅰ(管理学)	春	週1回	1単位
担当者：清澤 達夫			
講義の目標及び概要 1. 内容 卒業研究Ⅰの目的は、前年度「専門演習」で養ってきたドラッカー経営思想のより一層の深化である。その結果が、卒業研究レポートとしてまとめられ、大学在学中のメモリアルにしておくことを願っております。 2. カリキュラム上の位置づけ 上記レポートにまとめるための基礎準備と経営管理に関する輪読を、新たなテキストを通じて行なっていきます。 3. 学びの意義と目標 この過程において自ら計画したものを調査し、論理的にまとめる能力を身につけていきます。			
評価方法 配点は、ゼミの出席(60%)とゼミでの参加・討議(40%)をもって、総合的に評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅰ（キリスト教社会倫理）	春	週1回	1単位
担当者：佐野 正子			
講義の目標及び概要 内容：「人権」をキーワードに、コミュニティにおける倫理的諸問題を取り上げる。具体的にはさまざまな社会倫理の問題（いじめ、高齢者問題、企業倫理、部落差別、野宿労働者、外国人労働者、派遣切り、無縁社会と無縁死）を取り上げる。各学生がテーマを決め、研究をまとめて発表し、そのテーマのもとに討論をおこなう。 カリキュラム上の位置づけ： 3年生必修科目 学びの意義と目標： コミュニティにおける社会倫理的諸問題を具体的に探求することにより、問題点を把握し、よりよいコミュニティのあり方についての理解を深めることを学びの目標とする。			
評価方法 出席を重視し、各学生の発表内容や討論の参加度、学期末レポートなどを総合的に判定し評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅰ（金融論）	春	週1回	1単位
担当者：鈴木 真実哉			
講義の目標及び概要 専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて学んだことを基礎として、さらに応用的・発展的な学習を進めてゆく。最終的には卒業論文の作成につながるようにする。			
評価方法 演習での発表・レポート・出席等を総合的に考慮して評価する。無断欠席は単位の放棄とみなすことがある。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅰ（経済学）	春	週1回	1単位
担当者：石部 公男			
講義の目標及び概要 1. 目的 経済学に関連する内容について、各自が研究対象とするテーマを選び、毎回の授業でそれを発表する形式をとります。これにより卒業論文の科目ではないが、これに近い学習成果を期待するもので、論文作成に準ずる能力の養成を目的としている。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目はいわゆる講義科目ではありません。経済学または経済事象に関係のある事柄について、講義科目としての経済学や関連領域の各科目を学習し、さらに経済学の演習を履修したものが、原則として履修できる科目です。したがって3年次生の履修を前提としている。また更なる研究を目指すものが卒業論文を書く基礎として位置づけている。 3. 学びの意義と目標 研究対象について、概ね1万字以上の文章を書かせ、科学的客観的に物事を判断できる能力と文章作成能力の養成を目的とする。			
評価方法 日常の研究発表内容と態度および出席率50% 卒業研究としての論文内容50%の合計で評価。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅰ（コミュニティ・ビジネス論）	春	週1回	1単位
担当者：瀬名 浩一			
講義の目標及び概要 〈内容〉 2009年度ゼミでまとめたテキスト『コミュニティ・ビジネスが社会を救う』を輪読することにより、保育園の建設、生協組織による在宅介護ネットワーク、病児保育のネットワーク化など福祉ビジネスのほか、環境ビジネス、街づくり会社など民間企業、NPO、住民と公共がいかに連携してコミュニティが直面している問題を解決してきたか10件の具体的ケースについて研究する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 卒業研究Ⅱへの準備段階 〈学びの意義と目標〉 参加する住民のスピリット、組織の作り方、資金調達の方法などを学ぶことによりPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）の有効性を理解できる。			
評価方法 レジュメの作成 30%、プレゼンテーション 40%、小論文30%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅰ（情報倫理）	春	週1回	1単位
担当者：竹井 潔			
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれた。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 卒業研究Ⅰでは、専門演習で行ってきたことをさらに発展させていく。 ◆学びの意義◆ 情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく			
評価方法 平常点40%、レポート60%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅰ（政治学）	春	週1回	1単位
担当者：川添 美央子			
講義の目標及び概要 各自の関心に従って、現代日本の政治に関する問題を選び、調査のうえ発表し、最終的にはレポートを書いてもらう。			
評価方法 平常点（出席状況、質問や討論の積極性、発表の完成度等）と、学期末提出のレポートを1：1の比率で評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅰ（地域福祉）	春	週1回	1単位
担当者：大塚 健司			
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 1、目的 介護保険の創設、社会福祉基礎構造改革（措置から契約へ）等福祉の大きな流れの中で、社会福祉法に地域福祉の推進が位置づけられました。 この授業では、専門演習（地域福祉）で学んだ地域福祉の考え方や各自がテーマに沿って自分で調べた市町村の地域福祉推進計画等を基礎に、さらに、計画の進捗状況やモデル的な地域福祉の取り組みについて調べ、論議をしていきます。その中から課題や問題点を見つけ、研究を深めて、論文にまとめあげるようにしていきます。 2、カリキュラム上の位置づけ 演習科目である。専門演習Ⅰ、Ⅱ（地域福祉）に引き続いた科目である。 3、学びの意義と目標 課題や問題点の発見、論点整理、まとめを身につける。			
評価方法 レポート提出内容、発表、論議参加状況80%、出席20%により評価			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究Ⅰ（日本経済論）	春	週1回	1単位
担当者：大森 達也			
講義の目標及び概要 卒業研究Ⅰの目的は、専門演習Ⅱで選んだ各自の課題についての卒業研究レポートを作成する準備を進めることである。			
評価方法 (1) 研究計画書の作成（20%） (2) 文献リストの作成（20%） (3) 各中間発表（20%、合計40%） (4) 発表とディスカッションへの参加（20%）			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅰ（法学）	春	週1回	1単位
担当者：渡辺 英人			
講義の目標及び概要 「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければならない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2011年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。このゼミを通して、大学三年生に相応しい卒業研究を指導する。これを基に四年生になったら「卒業論文」を執筆して欲しい。			
評価方法 1. 授業への参加と理解度（50%） 2. 発表およびレポート提出（50%）			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅰ（まちづくり学）	春	週1回	1単位
担当者：平 修久			
講義の目標及び概要 1. 内容 大学周辺地域を対象にして、活性化計画もしくはまちの改善計画を検討する。具体的内容を取上げ、詳細な計画を作成する。これらの作業を通して、計画作成の流れを学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ 共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。 3. 学びの意義と目標 専門演習で修得した知識、作業経験を活かし、さらに、まちづくりに関する知識を深める。まちに対する観察力を深め、計画づくりを行うことにより、考える力を身につけること。			
評価方法 出席（30%）及び授業への参加度合い（発表、グループ作業など、40%）、レポート（30%）により評価する。			
教科書 大江正章『地域の力ー食・農・まちづくり』岩波新書			

卒業研究Ⅰ（リスク対策論）	春	週1回	1単位
担当者：標 宣男			
講義の目標及び概要 1. 内容 新聞紙上に現れた様々なリスク事象、例えば科学技術システムの事故、医療事故あるいは健康リスクをもたらすハザードなどについて調査し、その原因及び防止対策を検討する。その際、そのリスク事象を組織事故としてとらえることを試みる。 2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、コミュニティ政策学科の専門科目における、選択必修科目である。 3. 学びの意義と目標 自分で問題を考え、答えを探ることを学ぶ。			
評価方法 レポートの内容およびレポートを聞いている時には質問の有無により総合的に評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅱ（管理学）	秋	週1回	1単位
担当者：清澤 達夫			
講義の目標及び概要 1. 目的 卒業研究Ⅱの目的は、自ら関心のある営利・非営利組織に関わるテーマを経営管理学の視点から研究・調査して論文にまとめて、最後のゼミで各自発表できる能力を身につけていくことです。 2. カリキュラム上の位置づけ 論文にまとめるための基礎準備と経営管理に関する輪読を、行なっていきます。 3. 学びの意義と目標 この過程を通じて、自ら計画したものを調査し、論理的にまとめ上げる能力を身につけていきます。			
評価方法 配点は、提出された論文（60%）とゼミでの参加・討議（40%）をもって、総合的に評価します。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅱ (キリスト教社会倫理)	秋	週1回	1単位
担当者：佐野 正子			
講義の目標及び概要 内容： 卒業研究Ⅰに引き続いて、コミュニティにおける社会倫理的諸問題を取り上げる。卒業研究Ⅰにおいて各自が選んだテーマについて具体的調査をおこない事例をもちこんで、研究を深めて発表をおこない、1万字のレポートにまとめる。 カリキュラム上の位置づけ： 3年生の必修科目 学びの意義と目標： よりよいコミュニティを形成するためには、どこに問題があり、どのように解決していったらよいかを考察することによって、コミュニティのあり方についての理解を深めることを学びの目標とする。各自のテーマを研究し、発表し、討論をおこない、レポートにまとめるという作業を通して、問題を分析する力、発表する力、まとめる力など、社会に出てから必要とされる能力をも養うことも目標としている。			
評価方法 出席を重視し、各学生の発表内容や、討論への参加度、学期末レポートを総合的に判定し、評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅱ (金融論)	秋	週1回	1単位
担当者：鈴木 真実哉			
講義の目標及び概要 専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて学んだことを基礎として、さらに応用的・発展的な学習を進めてゆく。最終的には卒業論文の作成につながるようにする。			
評価方法 演習での発表・レポート・出席等を総合的に考慮して評価する。無断欠席は単位の放棄とみなすことがある。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅱ (経済学)	秋	週1回	1単位
担当者：石部 公男			
講義の目標及び概要 卒業研究Ⅰに継続し同様の内容。 1. 目的 経済学に関連する内容について、各自が研究対象とするテーマを選び、毎回の授業でそれを発表する形式をとります。これにより卒業論文の科目ではないが、これに近い学習成果を期待するもので、論文作成に準ずる能力の養成を目的としている。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目はいわゆる講義科目ではありません。経済学または経済事象に関係のある事柄について、講義科目としての経済学や関連領域の各科目を学習し、さらに経済学の演習を履修したものが、原則として履修できる科目です。したがって3年次生の履修を前提としている。また更なる研究を目指すものが卒業論文を書く基礎として位置づけている。 3. 学びの意義と目標 研究対象について、概ね1万字以上の文章を書かせ、科学的客観的に物事を判断できる能力と文章作成能力の養成を目的とする。			
評価方法 日常の研究発表内容と態度50% 卒業研究としての論文内容50%の合計で評価。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅱ (コミュニティ・ビジネス論)	秋	週1回	1単位
担当者：瀬名 浩一			
講義の目標及び概要 〈内容〉 「コミュニティ・ビジネスの現場」を履修し、まちづくり、福祉、環境、などコミュニティ・ビジネスの現場を支える経営者、利害関係者の講演から、コミュニティ・ビジネスの現場では「誰を助けるのか?」、「何をしているのか?」など地域経営の実情を知る。また、将来「社会起業家」として独り立ちするために必要な起業家精神・組織づくり・資金調達などについて知りえた内容を手がかりとして、自分の住んでいる地域についてコミュニティ・ビジネスの起業可能性を1万字以上のレポートに纏める。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 卒業論文への準備過程 〈学びの意義と目標〉 1年生の予備演習、2年生の専門演習で学んできたテーマを、3年生で卒業研究の集大成しし、4年生で卒業論文に取り組むベースとなる。			
評価方法 レジュメの作成 30%、プレゼンテーション 40%、小論文30%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅱ（情報倫理）	秋	週1回	1単位
担当者：竹井 潔			
講義の目標及び概要 ◆内容◆ 工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれてきた。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分の認識し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで行ってきたことを継続し、さらに発展させていく。 ◆学びの意義と目標◆ 情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく。			
評価方法 平常点40%、レポート60%			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅱ（政治学）	秋	週1回	1単位
担当者：川添 美央子			
講義の目標及び概要 各自の関心に従って、現代日本の政治に関する問題を選び、調査のうえ発表し、最終的にはレポートを書いてもらう。			
評価方法 平常点（出席状況、質問や討論の積極性、発表の完成度等）と、学期末提出のレポートを1：1の比率で評価する。			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅱ（地域福祉）	秋	週1回	1単位
担当者：大塚 健司			
講義の目標及び概要 講義の目標及び概要 1、目的 介護保険の創設、社会福祉基礎構造改革（措置から契約）等福祉の大きな流れの中で、社会福祉法に地域福祉が位置づけられました。この授業では、専門演習（地域福祉）で学んだ地域福祉の考え方や各自がテーマに沿って自分で調べた市町村の地域福祉推進計画等を基礎に、さらに、計画の進捗状況やモデル的な地域福祉の取り組みについて調べ、論議し、「卒業研究Ⅰ（地域福祉）」に引き続き、討論し、論文作成能力の向上を目指す。 2、カリキュラム上の位置づけ 演習科目である。「卒業研究Ⅰ」に引き続き、調査、研究する。 3、学びの意義と目標 課題問題点の発見、論点整理、まとめを身につける。			
評価方法 討論への参加、論文の発表、提出された論文の内容80%、出席20%により評価			
教科書 プリントを配布する			

卒業研究Ⅱ（日本経済論）	秋	週1回	1単位
担当者：大森 達也			
講義の目標及び概要 卒業研究Ⅱの目的は、卒業研究Ⅰで進めてきた卒業研究レポート準備をさらに進め、卒業研究レポートを完成することである。			
評価方法 (1) 12,000字程度のレポート提出（30%） (2) 中間発表（20%） (3) 最終発表（30%） (4) 発表とディスカッションへの参加（20%）			
教科書 授業の中で指示する			

卒業研究Ⅱ (法学)		秋	週1回	1単位
担当者：渡辺 英人				
講義の目標及び概要 「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければならない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2011年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。このゼミを通して、大学三年生に相応しい卒業研究を指導する。これを基に四年生になったら「卒業論文」を執筆して欲しい。				
評価方法 1. 授業への参加と理解度 (50%) 2. 発表およびレポート提出 (50%)				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究Ⅱ (まちづくり学)		秋	週1回	1単位
担当者：平 修久				
講義の目標及び概要 1. 内容 一人ひとりの受講生の興味のあるまちづくり、あるいはまちの問題について各自研究を行う。テーマとしては、(1)都市開発関連、(2)都市問題、(3)地域コミュニティの活性化・維持、(4)安全なまちづくり、(5)福祉のまちづくり、(6)まちの環境保全・再生・創造、(7)まちのイベント、(8)都市行政などを想定している。 2. カリキュラム上の位置づけ 共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。また、まちづくりに関する総まとめの授業である。 3. 学びの意義と目標 自ら課題を設定し、調査し、レポートを作成できるようにすること。				
評価方法 出席 (20%)、授業への参加度合い (発表や討議など30%)、レポート (50%) により評価する。				
教科書 授業の中で指示する				

卒業研究Ⅱ (リスク対策論)		秋	週1回	1単位
担当者：標 宣男				
講義の目標及び概要 1. 内容 卒業研究Ⅰと基本的には同じ内容。 ただし調査の対象を新聞以外の雑誌、インターネット情報に広げる。 2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、コミュニティー政策学科の専門科目における、選択必修科目である。 3. 学びの意義と目標 自分で問題を考え、答えを探ることを学ぶ。				
評価方法 レポートの内容およびレポートを聞いている時には質問の有無により総合的に評価する。				
教科書 授業の中で指示する				